

高塚ノート 2006年

★1月 2006年

1月1日、6日、15日、25日、26日、2月9日、6月28日、12月28日、30日 2006年、
8月15日、26日、31日 2010年

●書き初め

小さい頃は年初に書き初めをしていた。54歳の書き初めは筆を使ってではなく、ワープロでの書き初めである。

気功治療

一心同体

身体の発現と使用

成ることの成長でなく、為すこと of 成長

自己想起

自己観察

まあ、いろいろ出てくる。

気功治療に関しては、やっていなかったというわけではないが、ここ十年その気はまったく失せてしまっていた。しかし、去年6月にある方からのメールを読んで目が覚め、それ以来、気功治療に精を出している。今年もそのような年になりそうである。わたし自身、本心としては気功治療にそれほど気がひかれるわけではない。その件に関しては、まあ、どちらかという、ひっこんでいたい方である。だが、縁というものが、成り行きというものが、わたしにとっては今とても必要なことではないかという直感のもとに今年も気功治療に力を注ぐつもりである。ただし、十年前にやっていた方法とは当然違ったところも出てくる。それはひとつには、こころと関係した治療であることを意識していること。

ひとつには、手をかざしているときだけではなく、離れていても常住坐臥の気を送ることができるようにすること。

さらに願わくは、その人の人生の中で病気というしるしがどのような意味合いを持っているのかが分かること。そして、不遜に聞こえるかもしれないが、治る、治らない、の次元

でなく、治す、治さない、の段階にまでいけること。

皆さまもよろしければ、この掲示板に書き初めをしてみませんか。

(以下、つづく)

(1月1日掲示板)

■注

わたしが自宅から最寄りの稲毛駅まで行くとき、「行ったのはわたしである」とはっきりいえる部分と、「行くことができたのは実はわたしではない」といえる部分とがある。

ヒーリングに関してはこの「それをしたのはわたしである」といえる部分が全くない。この意味での「治す、治さない」ということである。

(以下、つづく)

(1月3日掲示板)

■書き初め～一心同体

「神との対話」で出てくるキーワードのひとつに「一体」という考え方がある。これは、わたしには最も実感のとぼしい概念であり、この言葉には石ころにふれるような通り一遍の意味合いしか感じ取れない。要するに、まったく分かっていないということである。「人類は皆兄弟」なのかもしれないが、実際にそうなのであろうが、その実感はまるでない。また、そのような実感がなくをいま取り立てて問題にしようとも思わない。わたしがこの人生で取り組むにはあまりに大きい問題だからである。ただし、この「一体」と関連すると思われる<同化>する力の問題、<同化>する対象の問題には大いに関心を寄せている。

わたしが何であるかはおくとして、わたしとは、肉体だけに同化されているわたしではなく、わたしとは様々な世界に入り込む存在である。

わたしは電車に座っていて、隣の男が太ももをくっつけてくると、腹が立つ。しかし、隣の男の太ももが座席にくっついていることには腹を立てない。これは、わたしがわたしを座席でなく肉体であると考えているからである。この時、わたしは肉体と同化している。腹が立っていても、読んでいる小説がおもしろければ、わたしは再び小説の話の中に入っていく。この時、わたしは小説のストーリーを同化する(ストーリーに同化される)。また、次の停車駅で元気そうな老人が乗り込んできて、わたしの目の前に立つ。疲労困憊して座っているわたしよりもはるかに元気そうな老人である。わたしは他人にどう思われるかどうかと思案する。この時、わたしは他人のころと同化している。

左様に、わたしは様々な世界と同化して生きている。この同化する力は不可思議な力で、この力のおかげでこの世界の多様性を楽しむことができる。昔、飛び出す漫画や映画というのがあった。飛び出す映像を見るためには、片目が赤、片目が青のメガネをかけていなければ見ることはできない。猿には小説の世界に同化するメガネがついていないので、小説を楽しむことはできないが、幸いにもわれわれ人間は様々なメガネをかけていて、いろいろな世界に同化することができる。

(以下続く)

(1月25日掲示板)

このようなメガネのことを能力と呼んでいて、当然のごとくあるものとして、そのメガネのことに関心を持つものは少ない。だが、このメガネは能力として別に存在するのではなく、映像、メガネ、わたしと三点セットで存在して初めて意味を持つものなのである。この三つが別々にあるのではなく、もともと三点セットとして存在しているものなのである。小説を作ったのは小説家であるといえるのであるが、文字を通してこころの内に世界を現出させることができるメガネがあり、その世界を楽しむ人間がいるというのは、あらかじめ組み込まれていた話なのである。そして、この小説の世界でさえ、作家が作り出したというよりも、化石をさぐりあてたというのが、スティーブン・キングのみならず、少なからぬ作家が持っている創作の実感なのである。(すなわち、小説は作家が作り出したものではなく、もともと存在していたものであるということである。)

なぜこのような回りくどい話しを延々とするのかというと、この世界が創られた世界であるということを感じてもらいたいということと、世界とわたしとの隔離を縮めるためである。

以前にも書いたことであるが…

スプーン曲げをする人がテレビに出たとき、スプーン曲げを信じない人が「南京錠」を曲げたら信じてあげると言ったとき(…まあ、これこれをしてくれたら、僕は勉強してあげるよ、これこれをしてくれたら、僕は賢くなってあげるよ、というわがままな子どものような、信じがたい論理であるが…新しい世界観を得られたらこれは感謝すべきことであり、信じてあげるなどと言うとは、、、)、その出演者が何と言ったかというと、

「スプーン曲げはわたしの前にそれをやった人がたくさんいるからできるのです。南京錠を曲げるのは見たことがないので、わたしにはできません。」

これはなかなか意味深い発言である。スプーン曲げができる人はまだまだ少数とはいえ、少なからぬ人がやったことであり、その道筋ができていいることには人はたやすく乗っついてい

きやすいのである。わたしの言葉でいえば、＜同化＞しやすいのである。

では、道筋ができていないことがら、たとえば、南京錠を曲げることは不可能かという、そうではなく、困難であるということだけで、不可能とは異なる。では、南京錠を曲げる以外にどんな同化する力、メガネが人には備わっているのだろうか。

(以下、つづく…だいたい先になるかもしれませんが…)

(6月28日掲示板)

■できない

わたしという存在は、どのような世界でも入りこむことができるのである。

おおむね、できないことというのは、必ずできることができることなのである。

本当にできないことは、できないという感覚さえ生じえないことである。

想像できることは、その気になれば、必ず現実化される。

(個人的には、では、分からないこととは何か、想像できないこととは何か、あるいは、分からないこと、想像できないことというのが存在しないのか、ということに興味があるが、今は立ち入らない。)

世界というのは、わたしにある意味で非常に密着しているのである。だが、現実にはそのように感じられない。これはどういうことなのか。

世界は創造力を発揮できて、自分自身の意図通りに現実化できて、別様の仕方で、世界(映像)に関る。創られた映像を見せられる側でなく、映像を創る側にまわるということである。

(加筆して掲示板記入予定)

■同化の深度～バクチ、ゲーム、恋愛、芸術

■同化の例

- 1 アーサー・ケストラーの月探査戦
- 2 ラヒリ・マハサヤの読書(シュタイナーの読書)
- 3 「手の妙用」の観無量寿経

■視点により同化世界が異なる(風景の違い)

羽生の風景

イエスの死んだ犬の歯の話(蛆虫の世界・回虫博物館)

ハトホルの「人間がエネルギー一体に見えるという話し」



猿は小説に同化されることはない。これは同化することができないからである。同じではないからである。

他方、＜一体＞の問題。

テレパシーの問題。



同化されることの限界～自分で指す将棋は羽生の将棋を鑑賞するよりものめりこめる。

(ただし、昔は違った)

■知られていない力（メガネ）～神と同化すること

メガネの問題（掲示板の最初の答え～世界を知ることというのはわたしを知ることである～視点の変換の問題）

その入り込んだ世界を虚と呼ぶか実と呼ぶかは、その入り込む力の強さによるのである。われに返るといふが、それは胡蝶の夢のごとく、実は夢に帰ったのかもしれないのである。わたしがわたしの肉体を故郷のように思うのは、実体のように思うのは、わたしであると思ふのは、この世界に生きている限り、そこに戻ってくるころだからである。ほとんどの人にとってはそこに戻されてくるころだからである。わたしはこの肉体に同化くされる>、このことがこの世界で生きているということだからである。

もともと慣れ親しんで同化しているからである。

■知識という同化

└＜望み⇒信仰⇒知識＞（「神との対話」）

伝えられない知識～ひとつのことを上手にする人は多くのことを上手にすることができる。

何に同化するか

同化する対象の大きさ

同化されるか、同化するか

知ることと同化の問題

スペースの考慮

霊能者

コミュニケーションの問題～犬とのコミュニケーション

小説・映画・

大井町で見た廃屋

「ラヒリ・マハサヤの読書」(＝シュタイナー)の著者への同化

■創造

すべての時間をヒーリングという創造と意識に費やすこと。

実感があること

楽しめるところがあること

■適食

■2007年元旦の書き込み～謹賀新年～今年の抱負

皆さま、明けましておめでとうございます。

いつも掲示板ご覧くださり、ありがとうございます。

本年もよろしく願いいたします。

昨年の元旦の抱負は以下のように書きました。

気功治療

一心同体

身体の発現と使用

成ることの成長でなく、為すことの成長

自己想起

自己観察

今年もおおむね同じですが、やはり一年後ということで、若干異なります。

- 1 自己観察し、自己を発現する（自己をコントロールし、表現する）。
- 2 教室に注ぐエネルギーを質的に高める。
- 2 気功治療
- 2 原稿の完成

自己観察という考えを知ったのは20年前ですが、その重要性に気づいて、自己を観察することを本格的にやり始めたのは4年半前です。その間、進歩はまったくありません。グルジェフは「自己観察については、当初はできないということを知るだけでいい」と言って

いますが、もちろん、4年間それでいいというわけではないでしょう。今年はこれを第一番目の達成目標とします。

自己を想起し、自己を観察することにより、自己発現が初めて可能となります。すなわち、自己を意識的に表現することが可能となります。わたしは<人間とは自己を意識的に表現する存在である>と考えているので、殺人にしろ、人助けにしろ、兵器の製造にしろ、宇宙船の製造にしろ、無意識になされたものであれば、それは<わたしにとっては、たいした意味をもちません>。わたしにとっては、優秀なロボットもポンコツロボットも同じロボットです。逆に、ポンコツであっても、意識的に自己を発現しようとするならば、その時にどれほどうまく機能しなくとも、それはブラボー、バンザイ！と呼ぶべき行為です。

では、意識的に何を発現するかというと、

- 1 しなやかな身体の動き（最小の身体の動き）
- 2 やわらかな呼吸（最小の呼吸）
- 3 それにとまなう気の実感（最小単位の霧のような気）

です。耳は遠くなる、古傷の足はぼろぼろ、シミ、シワ、シラガの増加と、わたくしにどこまで身体について語る資格があるのかは疑問ですが、いつか「身体操縦マニュアル」について書いてみたいと思っています。これはそのための実践篇でもあります。バックミンスター・フラウは「人間は宇宙船地球号の操縦マニュアルを持っていない」と語っていますが、このことは身体についてもいえることだと考えています。身体はよくできていて、それなりの訓練も小さな頃からされているので、とてもよく機能します。しかし、それでも無駄な動きがあまりに多いのではないかと考えています。

さらに、意識的に発現することとして、

- 0 すべてを知るために（～これは、わたしの人生の達成目標です）
- 1 自分の立場に立つようにして、相手の立場に立つこと
- 2 相手を見て自分を知ること
- 3 そして、エネルギーをきれいに使いきること

です。その結果として、

心身ともに成長できる気功教室
わたしがしているといえる気功治療
原稿の完成

が成し遂げられるよう、精進したいと決意を固めています。

まあ、硬い話はおいとして、皆さまも今年の抱負を当掲示板に書かれてみませんか。

(1月1日 2007年掲示板)

抱負に関して、外的事柄と内的事柄があり、その関連。

教室は一回一回真剣勝負であるが、毎日行なう気功治療はそうでなくなることも多々ある。

(参考)「掛谷の問題」

このことはまた、昨年の抱負である「一心同体」の「同化」ということにもつながります。

1月3日、7日 2006年、8月15日、26日、31日、9月1日 2010年

●鳥と虫

人生は鳥のように俯瞰して生きた方がよい。何をしているかがはっきりと分かると、エネルギーがわいてくるからであり、不要なことは行わないからである。

他方、虫のように地べたをはいつくまわり、作り上げていくこともまた必要である。この世はこの「はう」ことをせずには何もできないようになっているからである。

だが、わが身をふり返ると鳥でもないし、虫でもない。もちろん人でもない。まあ、さまよえる亡霊のようである。

(1月3日掲示板)

●ヒーリング～同化

死にそんな不安に同化するのではなく、したいことに同化する。

死にそんな不安をなくそうとするのではなく、したいことに同化する。

「明日の神」の教育～新たなビジョンを提供するということ。

●身体化

一生懸命にやること。

気功治療、遠隔治療、

その身体化



粘土のような肌ざわり

羽生の将棋論

■集中力

ゲームで発揮されるような集中力を気功治療でも発揮する。



気を送る長さでなく、質の問題

長さにかまけて質をおろそかにしていないか。

このことは人生に関してもいえる。

●質問～金銭

お金で買えないものは何だろうか。

(8月15日2010年掲示板記入予定)

よくいわれるように、それはここらであるとわたしも思う。

では、お金で買えないところとはどのようなところであろうか。

また、そのようなところをわたしは持っているであろうか。

お金で買えるようなところにはしていないだろうか。

(1月4日掲示板)(7月10日2007年掲示板)(加筆して要再掲)(教室質問)

その他の答え

- 1 プロセス (因果)
- 2 成長 (自己伝授しかないこと)
- 3 その人の大きさ (能力～2億円のヒーリング能力)
- 4 選択 (グルジェフの愛の定義)

■他方、お金で買っているものは何であろうか。

必要性を問うこと。

●質問56～意識のある人生

奇跡的に死なずにすんだという体験を二回か三回した。おそらくは誰もがそのような体験をしているはずである。

九死に一生を得たような体験を思い出し、人生を大切に生きることである。

あるいは、信じがたいかも知れないが、こちらが正しいか。

この人生で死んだという体験を二回か三回した。おそらくは誰もがそのような体験をしているはずである。

死んでしまった体験を思い出し、人生を大切に生きることである。

では、あなたにとって、この「大切に生きる」とはいかなることであろうか。

今日は「大切に生きる」ことができるだろうか。

(1月7日 2006年掲示板) (加筆して9月1日 2010年掲示板)

1月5日、8日、9日 2006年、8月15日、26日、31日、9月2日、6日、8日、11日、13日、14日 2010年

●質問57～祈り

初詣で御祈願をしても、なぜその願いは叶えられないのであろうか。

やはり、神様はいないのであろうか。

(1月5日 2006年掲示板) (9月2日 2010年掲示板)

■なみこさんへの返信

>

> 初詣で御祈願をしても、なぜその願いは叶えられないのであろうか。

>

> やはり、神様はいないのであろうか。

>

初詣は御祈願の人があまりに多いので神様も対応しきれないのではないかと(^_^)・・・
御祈願は神様の閑散期(ちょうど今時)にしたほうがいいのではないかと思います(^_^.)。

閑散期は昼寝しているという話もあります(^o^;

(9月3日 2010年掲示板)

■祈り～人という「神」

>初詣で御祈願をしても、なぜその願いは叶えられないのであろうか。

>やはり、神様はいないのであろうか。

神様の気にさわる願いだからであろうか。
お賽銭が少ないからであろうか。

いや、たぶん、
自分自身の気にさわる願いだからであろう。
自分自身への報酬が少ないからであろう。

(9月7日 2010年掲示板) (教室資料要転記)

■贈り物

神様は願い事を叶えることができる「火の鳥の羽」をくださっている。
というか、その人自身が実は「火の鳥」である。

だから、神様は、

<あなたがたは、贈り物である>

と言う。
これ以上の贈り物は考えられない。

(9月8日 2010年掲示板)

▲「神との対話」

「神との対話」でこういう話しがある。

「それでは、祈っても、すべてがかなうわけではないのはどうしてですか？」

「求めるものをつねに得られるとは限らないが、自分が創造するものはつねに得られる。
創造は思考に従い、思考は見方に従う。」

(「神との対話」3巻 150 ページ・文庫本版 194 ページ)

(9月9日 2010年掲示板)

■信心

昔読んだ童話の話のように、神様が三つの願いをあなたのために叶えてくれるとしたら、
あなたは狂喜乱舞するであろう。

だが、神様が三つでなく、いくつでも、願う数だけの願いを叶えてくれるとしたら、
あなたはこの話しを信じられるであろうか。

(9月11日 2011年掲示板)

信じる心とは、存在である。この存在は知識である。

存在——行為——所有

■永遠の願い

この世界の果てまで、この世界の最後まで、持っていくことのできる願い事は必ずかなえられる。

その願い事をイメージしてみよう。

■願いという贈り物

願い事が叶えられないことに不満をいだくかもしれないが、

願い事があること自体が不可思議なことであり、そのことが一種の贈り物なのである。

そして、もちろん、願い事は叶えられる。

(9月13日 2010年掲示板)

願い事があるということは、叶えられるということであり、願い事がある、質問があるということ自体、また偉大な贈り物である。

(掲示板記入予定)

■わたし

希望はかなわないことがあるかもしれない。

しかし、望まない幸運もまた訪れること。

こちらについては人はどう思うのであろうか。

よい方角のせいかな、勧められた宗教のせいかな、あるいは、自分にあった宝石のせいだろうか。。。

いろいろ思うかもしれないが、自分自身に思い至る人は少ない。

なぜなら、自分自身のことは何も知らないからである。

(9月14日 2010年掲示板)

■意識

今年はすてきな恋人にめぐりあえますようにと祈願しても、自分は他人から好かれないような魅力のない人間であるといつも考えていたら——そのように意識していたら、それも願いであり、相反するふたつの願いの中で神は願いの実現に右往左往することとなる。神様は神社の中だけいるのではなく、鏡の中にも、立ち止まった道端にも、どこにでもいてあなたの願いを聞いているからである。

だから、

もしあなたに<本当に望むことがあるのなら>、

<その望みを変えない>必要がある。

本当に望むことが何もなく、行き当たりばったりの望みをいつも変えていけば、人生はどのように進んでいく。

(1月8日 2006年掲示板)

■思考のコントロール

いつも正反対の祈りをする自分がいる。

いつも正反対のことを考えている自分がいる。

いつも正反対で在る自分がいる。

だから、祈りが叶えられるには思考のコントロールが必要になる。

これが本当のわたしであるのかどうかを見る必要がある。

「本当のわたし」の「正反対のわたし」でないかどうかを見る必要がある。

「神との対話」の神が

<思考のコントロールとは、最高のかたちの祈りだ>

というのは、まさにこのことである。

(1月9日 2006年掲示板)

■矛盾

このことを意識をして、常に気づくことは大切である。

わたしのこころの中に矛盾するこころの発現があることに気づくこと。

(掲示板記入予定)

●梵字

マンハッタンの「おりじん」の庭には松明のような趣向がこらしてあり、炎がいろいろな形に変わる。その姿を見ていると、まるで梵字のようである。二度と同じ形にならない炎からあるパターンを見てとれるように、梵字も作られたのであろうか。

1月8日、21日、25日、2月9日 2006年、5月18日 2007年、2月1日 2009年、8月

15日2010年

●意識のある人生～ふたつの自分

この世界で生きていくにはふたつの自分を持っていることが肝要である。

ひとつは世界と同化できる自分で、感情豊かな自分であり、情を同じくすることができる自分である。他者の悲哀に同化できる自分であり、世界の真や美に同化できる自分である。

この自分の力が豊かであること、大きくあることは生きていく上での成否を分ける。

さらにもうひとつの自分を持っていることが大切で、この自分は前者の自分を客観的に見ることができる自分である。この自分は前者のころのありようを客観的に吟味するだけでなく、遠い過去から永遠の未来への自分の歩む道を俯瞰している自分である。

前者は今という時を生き、その時に生命を付与する。

後者は永遠の道しるべとして生き、今を意味あるものとする。

(2月9日2006年掲示板)

■世界1、2、3

■黒住宗忠の場合

■河合隼雄の場合

個人としてのクライアント、個人としてのカウンセラー、さらに、客観としてのカウンセラー

■「ハトホルの書」での<証人>

■印象を受けるわたしと印象を創造するわたし

●会話

犬との対話～言葉ではなく、多くを伝えるコミュニケーション方法を考える。

テレパシー、その実体

偶然のテレパシーでなく意識的なテレパシー

送り手の問題、受け手の問題

身体化した言葉。

(意識表裏面要転記)

●錬金術

錬金術とは身体化のことをいっているのかもしれない。

身体化には、どこかそのような感触イメージがある。

また、科学的知識としての金の由来を思い起こしてみること（NHK「宇宙」）。

●ヒーリング～自他

相手を救うなら自分が救われるかもしれない。

相手を救わなければ自分が救われないかもしれない。

もしかしたら、相手のこととは自分のことかもしれない。

もしかしたら、できないことがあるのではなく、しないことだけがあるのかもしれない。知らないことだけがあるのかもしれない。

（5月18日 2007年掲示板）

●自他・無知

目の前にいるあなたが取るに足りないように思える人、

その人が実は過去にあなた命を救ってくれた人かもしれない、

あるいは、未来にあなたの命を救ってくれる人かもしれない、

あるいはまた、今現在あなたの命を生かしてくれている人かもしれない。

よく見ることができるようになることである。

よく感じるようになることである。

（2月1日 2009年掲示板）

あるいはまた、意識して無知に徹しきっている人であり、そのことにより、あなたの無知を知らしめてくれる人かもしれない。

（掲示板記入予定）

●自動性

為すこと、為されること、その違いと意味

1月10日、11日、12日、13日、14日、16日 2006年

●超能力の番組

昨日超能力の番組をやっていた。見られた方もいらっしゃると思うが、簡単な感想を書いてみたい。途中から見たので詳しくは分からないが、ロシアの少女で、遠隔でどこが悪いかを見たり、治したりするとのことである。

まずは世に出てくる治癒能力を持つ自称超能力者というのは、千差万別であり、また、治療を受ける側もまた千差万別である。両者が会おうと、千×千、万×万で、そのヒーリン

グ現場というものを簡単にひとくくりして説明などできるものではない。その中で、昨日の放映を見ての感想。

まずは、通常よくあるパターンとして、見ることができる人は治す方は苦手であるということがいえる。この少女もどちらかという、どこが悪いか見る方が得意で治す方は見る方から比べるとさほど得意でないように思える。この程度のヒーリング能力を持たれた方は他にたくさんいる。ただ、見る能力がすぐれているので、番組として成り立つということであろう。

この少女は超能力治療をすると疲れるので、一日に何人もみることができないということであるが、この話しはわたしにとっては微妙なところである。わたしも疲れないということはないが、それほどでもない。ただし、疲れるほど一生懸命にやっていないのではないのか、ともいえるわけで…、では、疲れるほど一生懸命にやった方が効果があるのか、ということも疑問なわけで…、まあ、そういう次第で微妙な話しなのである。

もうひとつ、微妙な点は、この少女の共感能力である。この番組によく出てくる霊能者ガブリエルという女性の方も人並みはずれた共感するところをもたれているが、これまた、わたしにとっては何とも言いがたいところなのである。実は「書き初め」に書いたひとつの「一心同体」に関して下書きをしている最中であるが、話しが大きくなりそうでまとめきれないでいる。この共感能力というのもその一心同体に関わることであり、わたし個人にとっては、あのような共感はできないし、それはちょっと違うのではないかという気がする（あくまでも、わたしの超個人的レベルでの話し）。まあ、共感する対象は異なっても、共感する力の大きさには感服する。

(12月10日掲示板)

■なみこさんへの返事

14歳の超能力少女が病気を透視して治療するという番組、私も見ていました。偶然にも同居人と私がおんなじ事を考えながら見ていました。「高塚さんの気の治療もこんな感じなのかな～」と。この掲示板で聞いてみようか・・・などと話していたのですがやはり見ていたんですね。「微妙な点」とか「微妙な話」とはたとえばどんな点なのでしょう？

なみこさん、ご質問いただき、ありがとうございます。ちょっと分かりにくい説明であったかもしれません。

>この少女は超能力治療をすると疲れるので、一日に何人もみることができないということであるが、この話しはわたしにとっては微妙なところである。

「気を出すというのは理想的に行えば、疲れにくいものである」というのが基本的にわたしの根っこにあります。たとえば、両手をかざす行為も気を出さずに筋肉の力だけでその姿勢を何十分も続けられれば疲れるが、気を出していると同じ姿勢を続けていても疲れにくいからです。よほど不自然なかつこうでなければ、気を出して体が疲れるということはあまりありません。ただしわたしの場合、集中力の持続は1時間が限度であり、その意味での疲れはあります。だから、番組でいっていたような疲れ方は解せないというのが正直な感想です。

簡単な病気であれば手をかざした瞬間に治るということもありますが、わたしのところにもえられる方は医者から見離されたようなご病気の方ばかりであり、やはりある時間と回数が必要になってきます。しかし、基本的には単に手をかざすことの延長であり、その意味ではそれほど疲れるということはないのであり、逆に元気になるということもしばしばあることなのです（自分自身のなかにも気がめぐるので）。

ただ、イエス・キリストのような方はどのような病気であれ、瞬時に治されたはずで、そのような奇跡からみれば、わたしの気功治療など見事に等しいといえます。その意味で、わたしのいまの治療法は理想からは遠く離れたものです。何が欠けているのか、もしかしたら、この少女の、一回やると疲労困憊するような集中力が欠けているのかもしれない、という思いが一方にはあり、いや、イエスが奇跡を行って疲れたなどということはありません。では、死人をよみがえらせたババジなどはぶっ倒れてしまわないとおかしいではないか、という思いがもう一方にあり、いやいや、そこまで達するまでにはやはり倒れこんでしまうほどの熱意が必要である、という思いももたげてくるのであります。

というような具合で、ホント微妙な話しなのです。

>もうひとつ、微妙な点は、この少女の共感能力である。

以前書き込んだことかもしれませんが、十年ほど前のあるところで、最近腹が立ったことは何かという話しになり、ある若い男性が

「年賀状に生まれたばかりの子どもの写真をのせたところ、父親（子どもの実の祖父である）から「なぜ、あの子の写真をのせたんだ」と怒られ、怪訝そうな顔をすると、「何を考えているんだ。臭いものにふただろ」といわれた。」

と語り、話しながら本当に怒っていました。その赤ちゃんは障害児だったのです。

まあ、わたしはその話しを聞いたとき思わず涙が出るほど悲しくなったのですが、同じ話しを聞いても怒る場合もあり、悲しむ場合もある。わたしがその障害児の実の父親であれ

ば、やはり怒るのかもしれない、あるいは、やはり、悲しむのかもしれない。

ともあれ、感情の表し方は立場というか、＜その人のいるところ＞によりとても異なってくるのです。患者さんに共感することに関しても同じです。わたしはどちらかというと病人に対して冷淡な方かもしれません。まあ、よくいえば冷静です。目が見えなくなるといっても、患者さんに対してあの少女のような共感はできません。ただし、気を送る限りはもちろん全力を尽くします。もしかしたら、少女よりも全力を発揮しているかもしれません。共感しないがゆえにです。共感しすぎると、力が入りすぎたバッターのようになるからです。

ただ、他方、こういうこともいえます。兄が癌で余命いくばくもないということを宣言されたときには、高揚した精神状態になり、やったことのないような気の出し方ができたという体験（防御用の気を遠隔で送ったが、この気が人をふっとばすような気であった。まあ、よかったのかどうか分からないが、一回だけの特殊な体験である）もあり、もしかすると、そのような深い共感もまた、未知の気のエネルギー庫に働きかける力になるのかもしれないという思いもまたあるのです。

実は、この共感する力に関してはいまいろいろ考え、また、試みているところではあるのですが、わたしの場合は番組のような情を同じくするような共感ではありません。ただし、この話しに関してはいろいろ語らなければいけないことがあるのですが、まだ整理がついていないので、この話しもまた分かりづらい話しとなっているかもしれません。

(1月11日掲示板)

■「在る」ことと「為す」こと（なみこさんへの返事）

>そうすると、超能力少女と高塚さんでは、「気」の出し方というか「力」の入り方が違うという事なんではいなかね、どちらが正しいとか間違っているとかではなくて・・・。

そういうことです。かなりやり方は違うと思います。

わたしの場合、やる気 100 分の 1 でも、手をかざせば 90 点ぐらいの気は出ます。ただし、90 点の上をめざすためにやる気を高めたりして、手をかざしますが、やる気 100 分の 100 でもどれだけの気が出ているのかは微妙で（←こんな表現ばかりで恐縮ですが）、100 分の 1 でやっていた方がいい気が出ているような場合も多々あります。過去の経験では、気を出すのに最悪の精神状態は緊張していることで、その意味では 100 分の 1 ぐらいのやる気がちょうどよいのかもしれませんが。ただし、この 100 分の 1 というのはあくまでも表面上のことで、こころの奥の方ではもしかしたら、やる気 100 分の 100 であるのかもしれないのです。

ある本で「超能力は念力ではない」と書かれていたように記憶していますが、これはわたしの実感とも符合することで、出せるものしか出せない、できることしかできない、それ以上はありえない、というのが正直なところです。ですから、教室でも気の出し方の指導などはほとんどしません。その人の背丈のことしかできないのであり、その意味での背丈を伸ばすような指導にエネルギーを注ぐこととなります。

では、標準より多くの気を出せる高塚は標準より背丈が高いかということ、まあ、それこそ「どんぐりの背比べ」とでもいうべきことで、笑止千万の話です。日常の高塚とおつき合いいただいている方には無用な心配だとは思いますが。

わたしの能力は直接的には高塚光さんにお会いしたことで得た能力です。間接的には、おそらく前世で培ったことか、先祖の関係とかで、少なくともこの現世でわたし自身が作りあげたものとは違います。この現世で何を作り上げるのかは定かでないにしろ、超能力少女のような熱意を使用せずには何かを為すということはとてもできないように思えます。

(1月12日掲示板)

■二つのわたし（なみこさんへの返事）

>私が雇っているクリニックのドクターも患者に対してとても冷淡です（良くいえば冷静）。ただしカウンセラーは共感してくれます。そして間に立った私自身は混乱してしまう事も結構あります。冷淡すぎも共感しすぎも良くないのかもしれないね。

>共感と同情と冷淡（冷静？）のバランスは私も常に直面している問題です。整理がついたらまた書き込んで頂きたいと思います。

カウンセラーには二つのわたしを持っていることが必要であり、ひとつはこの世界に生まれてきて、考えたこと、感じたこと、怒ったこと、笑ったこと、泣いたこと、話したこと、聞いたこと、行動したこと、それらの中で形成されたわたしです。もうひとつのわたしは、ユング心理学であれば、自己、セルフと呼んでいるもの、シュタイナーであれば、霊と呼んでいるもの、神との対話の神であれば魂と呼んでいるものであり、このふたつのわたしがカウンセリングする場にいることがカウンセリングを行うための重要な条件と考えています。前者は共感できるわたしであり、このわたしと患者さんとはできるだけ深く交流できることがよいことなのですが、同時にこの交流が患者さんのカウンセラーへの依存とならないために（あるいは、カウンセラーの患者さんへの依存とならないために）、そして、カウンセラーと患者さんの交流を有意義な方向に導くために、自己・セルフ・霊・魂と呼ばれるわたしがカウンセラーの場をいわば客観的な眼で見ていることが必要となるのです。このわたしが何をしているかというのは、とても難しいことです。通常はこのわたしを意

識化することはできないからです。

前者のわたしは誰もが持っています。このわたしの相性により人生の出会い、別れ、喜びと悲しみがあります。人生は万華鏡のように変化していくように思えます。カウンセリングの場だけでなく、人生という「るつぼ」で金を作り出そうとすると、どうしてももうひとつのわたしを登場させることが必要となるのです。

(1月13日掲示板)

自己というのは
夢、

■超能力の開発

あと番組とは関係ないが、超能力は誰もが開発できる能力であり、では、どのようにしたら開発できるかということがある。よくいわれることは、能力を求めると、ということである。なぜであろうか？

(1月14日掲示板)

ひとつの理由は、すでに述べたように背丈以上のことを求めてもできないからである。もうひとつの大きな理由がある。

同時代に生きたグルジェフとクローリーとは前者が白魔術の旗手であり、後者が黒魔術の旗手であるようにいわれる。ほんとうにそうであったかどうかは分からないが、クローリーに関して次のような逸話が残っている。ある人のあとをずっとつけていき、あるところでクローリーがわざと前に倒れると、つけられていた人も前に倒れて、その様子を見て楽しんでたということである。

この掲示板を見られていて超能力を求める人の中にはそのクローリーのような能力を求めるところを本意としている人はいないと信じるが、グルジェフの名言

「修道院の中では善人であることはできても、修道院の外で善人であることは難しい」

にあるように、いま善意であるからといって、次の瞬間に悪意でないと言い切れる人は少ない。超能力を求めるとの危うさは、自分自身の中にある危うさである。人とは、超能力がなくとも悪意で人を傷つけることができるのであり、さらに、このような悪意を持つ人が思いによりただちに物質界にも影響を与えることができるようになったとしたら、毎日のように他人を（そして、自分をも）傷つけていることになる。

また、このような能力を求めるうちにあるものは何か、ということをも自分自身に問うてみることである。

善意としてのヒーラーだろうか。

善意を発揮したい。

では、今日は善意をどれだけ発揮したであろうか。

今日一日、善意を表す機会はいくらでもあったはずである。

悪意としてのクローリーはいなかったであろうか、今日、昨日、悪意としてのクローリーを発揮しなかったであろうか。能力を求めることは善意であろうか、よこしまな心はないであろうか。慢心を満たすために能力を求めているのではないだろうか。(実際、人は善意であるという、他人をなぐったり、しばり首にしたり、何万人、何十万人も殺したりする。)

求めることは悪いことではない。どのようなことであれ、求めなければ何も得ることはできない。この世界は求めて、実現するようにできている。しかし、もし超能力を求めるころのうちを吟味するならば、超能力を求める前にしなければならぬことがきっと多くあるはずである。

(1月16日掲示板)

■刃物

子どもが欲しがるといって、よく切れる包丁を買い与えるであろうか。よく切れる包丁は自分を切ったり、他人を切ったりするためにあるのではない。

1月12日、14日 2006年

●意識のある人生～善悪

あらゆる悪は善因となる。

これが悪さえも愛である、ということである。

だから、いかなる悪をも恐れぬことである。

だから、何事にも愛を注ぐことである。

愛を注げば、悪といわれるものの内にある愛もまた働き始めるからである。

(1月14日掲示板)

●スプーン曲げ

東洋医学では喜と驚とはワンセットである。

発見という驚きは喜びに変わるからかもしれない。

1月14日、20日 2006年

●気功治療～治癒の難易度

どのような病気であれ、絶対に治るということは保障できない。このことは当たり前のことであるが、よくよく感じ取っておくことが肝要である。治る力というのは実に神秘的であり、このことは治らずに進行していく力とともに根本は同じ力なのである。

風邪が治ることと先天性の疾患が治ることとはもともとは同じことなのである。

ただ、後者には前者と異なる別の要素が介在し、これが後者の治療を困難なものとしている。

●ヒーリング

気を深く入れる。気が相手にふれている実感。

魂に入り込むこと。

1月15日、16日 2006年

●補助輪としての意識表

●自由

相手の義務があるのではなく、わたしの権利がある。

相手を変えなければならぬ義務があるのではなく、わたしが変えることができる自由という権利がある。

(1月17日掲示板)

1月16日 2006年

●神への献身

以前も取り上げたが、ババジがあげている「人が成長していくための修養」がある。以下の六つである（ちなみに、自己研究は頓挫しているが、忘れていたわけではない）。

- 1 継続的实践（特に無執着を養うこと）
- 2 自己研究
- 3 神への献身
- 4 呼吸法
- 5 マントラ
- 6 献身的实践

このうちの「3神への献身」とはいかなることであろうか。神社、仏閣、教会で奉仕する

ことだろうか。他人のための奉仕をすることだろうか。

(1月19日掲示板)

もちろん、これらも神への献身にあたるであろう。しかし、ここではまるで異なる観点から考えてみたい。

神への献身とは神にわが身を献上する、捧げることである。では、いけにえのようにわが身を捧げることであろうか。私を滅して神に奉公することであろうか。どうも多くの人はそのように理解しているようであるが、これはおそらく違うのではないかと思っている。神性というのはひとりひとりの内にあり、その神性を用いることが神への献身ということではないだろうか。身を捧げるとは、小さいわたしを滅することであり、このことを通じて、大きいわたし、すなわち、神を出現させること、神と通じること、このことが神への献身ということではないだろうか。

パラマンハサ・ヨガナンダは次のように語っている。

歩いているときは、神が自分の足を通して歩いていると思いなさい。

働いているときは、神が自分の手を通して働いていると思いなさい。

何かを成し遂げようとしているときは、神が自分の意志を通して成し遂げようとしているのだと思いなさい。

(「人間の永遠の探求」4ページ)

(1月20日掲示板)

「神との対話」の神は次のように言っている。

～神を使うという話

ヨガナンダの丸い石の話し

1月17日、20日2006年

●情報

この宇宙に存在する情報とはどのようなものがあるだろうか。

数学に変換できるような情報。

音楽。

絵画。

感情。

映画。

時間を超えて見ること、感じること。

気功治療の情報。

身体化の問題。

伝えられない情報。

1月18日、19日 2006年

●リンチ

昔見た西部劇には、よくリンチでしばり首にする（あるいは、されそうになる）場面がよく出てきた。リンチとは私的制裁のことだと思うが、現代の日本の裁判にリンチの要素は皆無なのであろうか。

（1月18日掲示板）

■イエスの言葉

わたしはクリスチャンではないが、今日読んだ聖書に次のようなことが書かれていた。

「ちょうどそのとき、何人かの人に来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた。イエスはお答えになった。『そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、＜他のどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだ＞と思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、＜エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だった＞と思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。』」（ルカによる福音書 13-1）

さらに少し前には、

「イエスはまた群集に言われた。『あなたがたは、雲が西に出るのを見るとすぐに、「にわか雨になる」と言う。実際そのとおりになる。また、南風が吹いているのを見ると、「暑くなる」と言う。事実そのようになる。偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時を見分けることを知らないのか。』

（1月20日掲示板）

リンチ、私的制裁

私的とはどういうことか

公的とはどういうことか

●護符

不安のないこと

自分で自分を守ること

自分を守るとは、自分の何を守ることなのだろうか。

1月20日2006年、7月26日、8月11日、13日2010年

●意識のある人生

この世界の仮想性と可変性を常に意識していること。

言葉とその身体化ということを常に意識していること。

身体化の具体性に関しては、いまは、身体の治療に専念すること。

(8月12日2010年掲示板)(意識表裏面要転記)

■言葉

>言葉とその身体化ということを常に意識していること。

創造の三種の神器は

<思考・言葉・行為>

であるが、このうち創造力としての言葉については、自分の場合は、

- 1 HPの書き込み・草稿・NOTE
- 2 日常の会話
- 3 読書(シュタイナーの読書、ラヒリ・マハサヤの読書)

を大切にすることである。そして、これら三つが自分自身の可変性、可塑性に関っている
ということ意識していることが肝要であると思っている。

(8月13日2010年掲示板)

▲ラヒリ・マハサヤ

■ヒーリング・自他

>身体化の具体性に関しては、いまは、身体の治療。

以前鍼灸学校で、「本当のマッサージ師は患者さんを治しながら自分の病気も直してしまうものだよ」とおっしゃっていたが、

他者ヒーリングが自己ヒーリングとなるようなヒーリングを行う。

(掲示板記入予定)

1月21日2006年、8月11日2010年

●テクニック

気功治療～手をかざすだけ

こどもの絵～絵を描くだけ

ヨガのテクニックも同様ではないだろうか。

では、その場合の同様とはどういうことか。

～神との対話の瞑想の仕方、ヨガナンダの瞑想の仕方

■もうひとつの問題

以下の八段階を経ることの第一の「ヤマ」に専念すること。

皆、自分を“まともな人”と思っているが、この第一のヤマさえ満たしていないというのは、考えてみれば愕然とする話である。

古代の聖哲パタンジャリは、ヨガを、

“意識の中に生ずる動揺を静止させること”

と定義している。

パタンジャリのヨガ体系

- 1 ヤマ（倫理的戒律）（害意をいだかぬこと、他人をも自分をも偽らぬこと、他人の所有物を見て欲心をいだかぬこと、節制を失わぬこと、必要以上のものを求めぬこと）
- 2 ニヤマ（身心の清浄を保つこと、いかなる境遇にあっても満足を知ること、身心の修練を怠らぬこと、自己の探求に励むこと、たえず神と聖師（グル）を思いこれに献身すること）
- 3 アサナ（正しい姿勢、すなわち、瞑想中を通じて脊柱をまっすぐに保ち、からだ全体がくつろいでしかも安定を失わぬこと）
- 4 プラーナヤマ（霊妙な生命エネルギーの統御）
- 5 プラティヤハーラ（外界に向かって働く感覚を引き揚げること）
- 6 ダラナ（精神集中、すなわち、心を一つの目標に固定すること）
- 7 ディアーナ（瞑想）
- 8 サマディ（超意識状態）

これら八段階を経て、ヨギは、最後の目標カイヴァリヤ（絶対的存在との合一）に達する。
ここにおいてヨギは、真理を、あらゆる分別的理解を超越して直接体験するのである。

（パラマンハサ・ヨガナンダ著「あるヨギの自叙伝」233 ページ）

（掲示板記入予定）

●ヒーリング

気功治療をさせていただいていた方が本日 9 時 10 分に亡くなられた。
先ほどお父様からお電話をいただいたが、無力感と後悔で一杯である。

（1 月 21 日掲示板）

1 月 22 日 2006 年

●イエスの言葉

生命より××、身体より△△を大切にしているのかもしれない。
永遠なる生命、わたしの行為の担い手であるはずの生命、そして、その生命の館としての
身体、神殿としての身体をいつも大切に生きていくこと。

死ぬときに何を大切にするか。

●死期

今日一日ですべてが完結するように。
そのように、一日の始まりを迎える。
今日一日ですべてが完結しているように。
そのように、一日の終わりを結ぶ。

●ヒーリング

困難な患者さんを遣わされていること。

- 1 謙虚さの欠如が問われているのか。
- 2 別のヒーリングが求められているのか（魂への接触、意識の持続の気）。

●人生

人生にはあらかじめ決められている部分と決められていない部分があるという。
決められていない部分を大いに楽しむこと。
人生はアドリブがあるからおもしろいといえる部分を楽しむこと。

■予定表

人生にはあらかじめ決められている部分と決められていない部分があるという。

今日の何が決められていた部分であろうか。

今日の何が決められていなかった部分であろうか。

(1月24日掲示板)

●天命と人命

夜瞑想中に訃報の連絡が入る。「人の命は天命である」とよくいうが、わたし自身に関しては、何とか「人の命は人命である」といえるようになりたい。

(1月21日日記より)

1月25日、27日2006年

●草稿

自己紹介～ババジの自己研究

●師弟

ひとつひとつの教えを実践できたときにさらに師に対する感謝の心は増すであろうが、ただ単に盲目的に師を崇拝するのであれば、袋小路に陥るであろう。

何も実践できないのであれば、師とは会わずにいた方がよいかもしれない。普通の人と出会っている方が幸福かもしれない。

1月26日、27日、28日、2月5日、6日、14日2006年、8月31日2010年

●瞑想～エネルギー

瞑想でさえ、だらだらやると、いやいややると疲れてしまう。

いつも、今日の瞑想でその奥義に達しようと思うことである。

そうすれば、どれほど長く瞑想しようとも疲れないばかりでなく、むしろ、その逆の結果が生じることとなる。

(予定表<瞑想>2月1日記入)

■意識のある人生～エネルギー

何事も全身全霊で行なう方が疲れない。

1分間の全身全霊

10分間の全身全霊

1時間の全身全霊

このことを試みる。

時間とは過ぎ去っていくものではなく、自分のすべてを注ぎ込む場所である。

時間とは今の時間が一番大切な時間であり、その時間を汽車に乗っているようにすごさない。

楽しむときは楽しみ、休むときは休み、働くときは働き、身体を動かすときには身体を動かす。

このことを不完全燃焼なしに行なう。

(2月6日 2006年掲示板)

■時間と初期条件

時間とは、エントロピー減少へと向かう場、新たな初期条件へと向かう場である。

■エネルギー

あらゆる瞬間、異なる行為に全精力を費やすこと。

そして、休むときには全精力を費やして休むこと。

この休むとはどういうことか。

全精力を尽くしてエネルギーを使わない、この精力とは？

■方法

修道院の外で、どのようにすれば、全身全霊でできるか。

自己観察をすること。

身体3を用いること。

身体1に関してはどうか。身体2に関しては。

少食

どうしても元気が出ないときにはどうするか。

～外に出る。寝る。本を読む。

●多重存在の要点

ひとつでしかないと感じることによる真剣さ

いくつでもあることを知ることによる客観性

■客観である方が真剣に生きることができるということもいえる。

●感情

怒るところで怒り、悲しむところで悲しみ、笑うところで笑う。

これが人生である。

だが、もしかしたら、そうではないところで、怒ったり、悲しんだり、笑ったりしてはいないだろうか。

機械のように反応してはいないだろうか。

これは人生ではない。

こんなのは生きていないことと等しい。

心の底から、怒ったり、悲しんだり、笑ったりしていたい。

(2月5日掲示板)

喜怒哀楽で、

小さい頃と変わったこと、

小さい頃と変わらぬこと、

それは何であろうか。

(加筆して掲示板) (質問)

■「神との対話」3巻1章56ページ(文庫本版)

愛のある怒り、愛のある悲しみ、愛のある笑い

●倫理

相手の立場に立ったときに自分が嫌であることは行なわない。

では、自分がその立場に立ったとき嫌ではないから行なうかということ、それはまた別問題である。

●困難

目の前の困難に思えることは自分のためであることをよく知っていること。

その困難は解決することであることをよく知っていること。

祈り。

■ふさぎ

真剣な祈り。

●教室

部屋を10分間で片付けることはできない。ものを片付けるのに必要な時間というものがある。このことと同じように、人が成長していくために必要な時間というものがある。教室の参加者をいつもそのような目で見ること。

●ヒューマンケミストリー

錬金術のことといえるのではないだろうか。

■わたし～錬金術

昔、筋肉隆々の黒人の彫像がゆっくり回転し、ひと回りすると金色の仏像となる夢を見たが、人間とはこのような金に象徴されるような存在に変わっていく存在ではないだろうか。この夢のひと回りが現実の人間にとってどのくらいの期間にあたるのかは想像もつかないが、とてつもなく長い時間をかけて自己を金とすることが人間存在なのではないだろうか。この錬金術に何が必要であるか、自分のまわりをよく見回してみるとよいかもしれない。

そういえば、現実の金もこの太陽系由来の存在ではなく、中性子星が崩壊するときの莫大なエネルギーによって作り出されたものであるということである。自己を金に変容させるのにも、莫大な時間だけでなく、莫大なエネルギーが必要となるのかもしれない。

(1月27日掲示板)

1月27日、28日2006年

●瞑想

瞑想とは本来、こころをコントロールすることをいうのではないだろうか。

通常の瞑想はひとり静かに行なうが、これはその方がコントロールしやすいからであり、このコントロールが自由自在にできるようになれば、そのような特殊な時間を設けなくともよいのではないだろうか。

(1月28日掲示板)

■等式

<瞑想≒意識を保つ≒こころの中の動かぬ水を作り出す>

ではないだろうか。

上記の錬金術参照。

■湖面

およそこころが動かなければ、この世界の人ではないし、この世界に生きている意味もない。こころは動くが、その動き方である。小さな子どもはちょっとしたはずみでころんでしまう。他人にぶつかったり、石につまづいたりするだけでころんでしまう。そして、体全体がその影響を受ける。だが、大人はそうではない。よろけながらもなかなかころぶまでには至らない。体全体は大きな影響を受けずに、泣かずにいることができる。

こころの問題も同じである。こころの湖面は様々な出来事に揺れ動いても、こころの奥深くは動かないということは可能なのである。

だが、その動かないこころも動くことはある。それは、それに値する出来事に対してである。だから、悟りを開いたような人であってもいついつまでもこころが動かないということとはありえない。

(加筆して掲示板記入予定)

●病気

病気の最大の原因は不安という病かもしれない。
不安に属するところのはたらきを列挙すると、隠すこと、

●幸福の手紙

この世界にはあなただけの幸福がある。
それは、あなたが考えたこともない幸福である。
考えたこともないので、あなたはなかなかその幸福を受け取ろうとしない。
そのあなただけの幸福はあまりに大きすぎて、見ることができないからである。
だが、いつか必ず、その幸福を手にする時が訪れる。
あなただけの幸福、
雪の結晶のような幸福である。

(1月28日掲示板) (草稿要転記)

1月28日、31日、2月1日、3日 2006年

●意識のある人生

人生はそれほど長くはない。通り抜けよ。

●ヒーリング～お礼

ご主人には何度となく、駅までお送りいただき、奥様には毎回深々と頭を下げてくださいました。さらには、身に余る金銭のお礼と数々の品物をいただいた。わたくしは、それらをそしゃくし、栄養としなければ、脂肪太りになるだけである。

(2月1日掲示板)

■ヒーリング～鎮魂

亡くなられたことを生き残った者が活かす人生。
亡くなられた方が生きていたとしたら、わたしが歩むことができなかった人生を歩むこと。
不幸と呼ばれている出来事がなかったら、わたしが歩むことができなかった人生を歩むこと。

そのことが亡くなられた方への最大の供養ではないだろうか。

(1月30日掲示板)

■亡くなったことを自業自得といわない人生。

●読書

「聖書のことがよくわかる本」を再読したが、一度目に何も理解していなかったことに気づく（アンダーラインの箇所を見て）。自分の場合の読書は反芻しなければ、読まなかったことと同じである。

●健康～三つの身体（教室資料予定）

出席予定者 秋元さん・曾根さん・時任さん・秦さん・
片岡さん・須藤さん・高山さん

昔読んだ本の中に「小医は病を治し、中医は人を治し、大医は国を治す」ということが書かれてあった。出典の書籍は見当たらず詳細は不明であるが、「国を治す」と書かれてあったので、この言葉自体は戦前に語られた言葉であろう。現代であれば、「世界を治す」とも言いかえられるかもしれない。この言葉は医師を志す者、医療に従事する者への心構えを語ったものであるが、同時に医師以外のひとりひとりの健康の心構えともすることができる。

「小人は病を治し、中人は人を治し、大人は世界を治す」

この小人、中人、大人はすべての人の内にある人である。わが身をふり返ってみて、人を治すとはどういうことであろうか

世界を治すとはどういうことであろうか

時に考えてみるのもよいかもしれない。

（1月31日掲示板）

この<世界>は三つの世界からできている。

- 1 物質世界
- 2 個人のこころの世界
- 3 真善美に代表される人類共有の知的財産

「100匹目の猿現象」のサルに代表される身体化された知識（シンクロシティ）

「神との対話」神と人とのコミュニケーション

このことは<世界>だけの話しではなく、ひとりひとりの<人間>もまた三つの世界、すなわち三つの身体をもって生きている。

- 1 いわゆる肉体
- 2 個人に固有のこころ

3 空間的な交わりとしての自他、時間的な延長としての自他、わたしの最奥にある自己
(それはまた自他である)

1だけの病気、2と関わる病気、3と関わる病気

「小人は病を治し、中人は人を治し、大人は世界を治す」

という言葉は次のように変換することもできる。

■身体1、2、3の関係性

未成熟な存在の場合、身体2が身体1を損なう、ということもある。

成長している存在の場合は、身体3が身体1を損なう、ということもある。

三つの身体のエネルギーの流れは当初は「1→2→3」という方向性をとるが、成長していくと、「3→2→1」の仕方でエネルギーが流れていく。

■外的考慮・行為への愛（スペース、シュタイナー、神との対話の神）

どの身体であれ、行為への愛として用いることが本来の使用である。

■意識のある人生

意識のある人生、すなわち日々の生活の中で、日常生活の一瞬一瞬で、三つの身体の話しをどのように活用するのか。

今、どの身体を使用しているのか

■WHOの健康の定義

1月29日、30日2006年、7月10日、25日2007年

●愛の大小

14歳の少年に命を奪われたのは、淳君だけでなく、その二ヶ月前に彩花ちゃんという10歳の少女もハンマーで殴打され、亡くなっています。以前、彩花ちゃんのお母様が書かれた本を読んだことがあります。その一節に、ふだんは甘えることなどない彩花ちゃんが事件にあう日に母親に甘えてきたという記述があります。これが最後の一日であることを無意識のうちに知っていたのではないかというようなお話でした。

彩花ちゃんを助ける愛と助けない愛とがある。

人間の愛は彩花ちゃんを助けようとする愛であり、

神様の愛は彩花ちゃんを助けようとしなない愛である。

人間の愛はこの世の彩花ちゃんだけを見る愛であり、
神様の愛はあの世からこの世の彩花ちゃんを見る愛である。

人間の愛は彩花ちゃんの心と体を見る愛であり、
神様の愛は彩花ちゃんの魂を見る愛である。

どちらも尊い。

淳君のお父様の書かれた本も読みました。両書の基底に流れるものはかなり違うのですが、共通点もあります。淳君と彩花ちゃんの透明感のある存在を感じ取れることです。この不思議な感覚は読み終えて何年もたったいまでもはっきりと残っている感覚です。

(7月25日 2007年掲示版)

1月30日 2006年

●言葉

(昨日のAさんが分かってはいるんだけど、言葉にできないという話に関して)
なんとなく分かっていることを言葉化するのではなく、言葉にすることによって新たに生まれてくるものがあること、このことを知っておくこと。

●気の強弱

(わたしの気を西野流の気が通り抜けられない話しをしたくなったときに…)
わたしの話しはある側面で気の盾と矛のような話しである。
わたしの気の盾を打ち破る気の矛が出てくることとなろう。
それはまた、この世界の現実の話でもある。

★2月 2006年

2月1日、3日 2006年

●意識のある人生～自己観察

自分が演技者であることを意識することができれば、
自分が演技者であることを俯瞰することができれば、

どのような演技であれ、その演技は容易に変えることができる。

だが、自分が演技者になりきっていれば、

簡単な習慣でさえ、変えることはとてつもなく困難である、というか、変えることはできない。

(2月3日掲示板)

2月3日 2006年

●気功

気～感じる～初めて、病気→異なる気を感じる？

●意識のある人生

行為の身体化

わたしを注ぎ込むこと

創造すること

一日の終わりに満足すること

体をわたしであると思わないこと

自己観察

自己コントロール

2月4日 2006年

●教室

自己顕示欲を満足させるためではなく、参加者の自己実現を導くための話し。

2月6日 2006年

行為への愛＝創造 すなわちそこにいること

2月8日、3月16日 2006年

●ヒーリング～火の鳥

手塚治虫のライフワーク「火の鳥」のシリーズのひとつに次のような話しがある。

女性剣士が山寺にひとり暮らしの尼僧を殺しに行く。尼僧はすべてをこころえているがごとく、何も抵抗しないで殺される。女性剣士は目的を遂げ、山を降りようとするが、霊力にはばまれて降りることができない。山寺に戻ると、多くの農民やこの世界の生き物でない魑魅魍魎（ちみもうりょう）が治療を受けに来る。寺にある火の鳥の羽でなでてもらいと言われ、その通りにするとどんな病気も治ってしまう。結局、女性剣士の毎日はこの

果てしない患者の治療に費やされる。この女性剣士は殺した尼僧に変装し、老婆になるまで治療を続けるが、夢で火の鳥からお前はまた「お前自身である女性剣士」に殺されて、またその女性剣士がまた尼僧となり、また殺されるのだと告げられる。そして、この因縁は自身の悪行が償われるまで永遠に続くこととなるという。

能力が出始めた頃は、正直なところ今よりよい気が出ていたのではないかと思う（もちろん、本当のところは分からない）。しかも、見えられる方は比較的軽症な方が多く、ほとんどが治っていた。ところが、今やっているヒーリングはそんな甘さは全くない。自分のもっている能力と病状の重さを鑑みると、砂漠の砂に水をまいているような気持ちになることもある。

この世界に意味のないことはない、というのがわたしの人生観である。だから、かならず治ると思って気を送るのであるが、それでも気がなえることがある。そのときには、いつもこの「火の鳥」の話しを思い出す。

（2月8日掲示板）

■道具

和歌山の木下さん～徒手空拳

高塚～一部治るヒーリング能力

「火の鳥」の尼僧侶～火の鳥の羽

（参考）乙武くん

2月11日、14日 2006年

●三つの身体

身体1、2、3のどこに自分自身を注ぎこむか

■三つの身体の食べ物

グルジェフの印象は受けるだけでなく、与えることもある。

与えることにより身体の食料となることもある。（※）

身体2と身体3の自分を注ぎこむこと、このこと自体が食料となる。

身体1を与えること～飢えた虎の子と仏陀の前身（アジャータ物語）

線路に落ちた人を助けた韓国人

食べたものは注ぎこむこと

(※)

■同化・類は友を呼ぶ

つきあうなら一流の人間とつきあうのがよい、と言った人がいて、とても嫌な感じがしたが、話しはうそではない。

わたしというものがあると、
世界はわたしに同化してくる。

だが、わたしというものがないと、
わたしは世界に同化してくる。

だから、世界がわたしを引き上げてくれる人のいる世界か、わたしを引き下げてくれる人のいる世界かは、とても大切なことである。

(11月9日掲示板)

ただし、では、ブッダやイエスはどうかであったか。ブッダやイエスは彼らにとって三流の人間と付き合いっていたのではないか、ということもある。だが、彼らにはわたしというものがあるので、彼らに世界は同化してくるということである。

だから、あらゆることに優先することは、
いつも、いつも、わたしがある、
ということである。

(11月11日掲示板)

この同化している自分に気づくこと。

これは簡単なようでいて難しい。

(加筆して掲示板記入予定)

(参考) ゴータマ・シッダールタが仏陀となる前には彼を導く指導者がいたはずであり、このことは、イエスがキリストとなるときにも同様である。指導者がいなければ、導いてくれる人がいなければどのようになるか、ということがいえる。

魂の世界での同化。

わたしというものが無い間には、
わたしはまわりによって作られるのだから。

そしてまた、何にふれているか知っていること、これも同様に大切なことである。

その意味で自然にふれているのは、常に過たない。

■「犠牲」（～ブッダの夢（97 ページ））

河合「この作品は、さっきの、あさとルビーの話の続きになります。海の中をルビーとあさは船に乗っていくんですが、そのときに犬のシロを連れて乗ってるんです。三つの果物を持っていますが、非常に大事な食べ物なんですね、彼らにとっては。そこに嵐が起こっておさまった頃、たしかネズミが、木切れにつかまってやってきます。助けてやろうと思うんだけど、ネズミを乗せると重すぎて帽子が沈むわけです。そこで決心して、三つの果物を捨てます。捨てて、ネズミを乗せたら、ネズミが島へ行ける道を案内してくれて、この島へ着きます。そうすると、素晴らしいところで、ここへあさとルビーは一緒に上陸する。たしか、捨てた三つの赤い果物が、ひとつは金魚になって、ひとつはこの赤い実に、ひとつはこの屋根の赤になるのかな。そういうふうになるわけです。またここに教会がありますが、とうとうこういう素晴らしいところに着きました。めでたし、めでたしというんです。

ここで非常に大事なテーマは、何かを達成するためには大事なものを犠牲にすることが要請される。これも慢性のデプレッションの症例が治癒されるときによく出てくるテーマで。」

中沢「要するにゴミを捨てられるようになるわけですか。」

河合「そうです。全部キープしていた人ですから。」

（参考）マリー・ルイス・フォン・フランス「人間と象徴」108 ページ

「もちろん、これは常に愉快的な仕事とはかぎらない。たとえば、あなたは次の日曜日に友人と旅行に出かけようとしている。そのとき、夢がそれを禁じ、そのかわりに何か創造的な仕事をするように要求することもあろう。もし、あなたが無意識のいうことを聞き入れ、それにしたがうならば、あなたは意識の成した計画に常に介入されることを覚悟しなければならない。あなたの意志は他の意志——あなたがしたがわなければならない、あるいは少なくとも慎重に考慮しなければならない意図——によって妨げられる。このことは、個性化の過程に付随する義務がしばしば、即時の祝福としてよりは重荷として感じられる理由のひとつである。」

■身体

この大事なものが身体ということがあるのだろうか。

身体を捨てるということがあるのだろうか。

■禁酒（11月2日2004年）

飲酒によって手に入るもの。

飲酒によって手に入らないもの。

選択の一瞬一瞬にそうすることにより手に入るもの、手に入らなくなるもの、をここに描いてみる。

そして、そのように人生は進み、描かれる。

(掲示板記入予定)

●瞑想における<内と外>

「まず、静かにすることだ。外の世界を静かにさせて、内側の世界が見えてくるようにしなさい。この内側を見る力、洞察力こそあなたが求めるものだが、外部の現実 이곳を問わずらせては決して得られない。だから、できるだけ内側へと入っていきなさい。

内側へ入らないときには、内側から外の世界と向かいあいなさい。

」

(「神との対話」第1巻 65 ページ)

何が内側であるか。

体が動くのではなく、体を動かすことができるのが内側から外に働きかけることである。

わたしが変わるのではなく、わたしを変えることができるのが内側から外に働きかけることである。

内側から見るとは<わたしが見る>ということである。

(加筆して掲示板記入予定)

●ヒーリング

<本気>があるか否か

2月12日、14日 2006年、4月18日、19日 2007年、7月26日、9月20日、26日、10月1日、4日 2010年、2月17日 2011年

●意味

小さい頃、「意味」という言葉が何をいっているのか分からなかったが、今も分からないのは「この世界の意味は何か」と問うたときの「意味」である。この語法はそもそも適切なものであろうか？

●お布施～所有 (加筆して再掲)

お布施はする方もされる方も得ようと思っしてしているが、実は何も得ることはできない。

この世界は

ただわたしを注ぎこむためだけにあるからである。

ただわたしを表現するためだけにあるからである。

そして、そのことを通じてわたしが変わる。

もし、得ることがあるとするならば、
このわたしの変わる、このわたしの錬金、これだけである。
そして、このわたしの変わる、このわたしの錬金はわたしと離れた金銭として存在するものではない。

<これはわたしである>

という、そのような行為、選択、思いによってのみ成し遂げられるものである。
だから、「自分自身のお布施」を省みってみることである。

(2月18日 2006年掲示板) (掲示板記入予定～要改変)

●親切

親切にされた人はその親切を忘れないが、この世界もまたその親切を忘れない。
もし親切にされた人がその親切に気づかないことがあっても、この世界はその親切に気づかないということはないし、忘れることもない。

なぜなら、親切こそがこの世界を成り立たせているものだからである。

(9月28日 2010年掲示板)

■世界

得たものが失われることはあっても、与えたものが失われることはない。

(9月29日 2010年掲示板)

▲ギブ

これまで取っていたものを取らなくなるということはあるが、
これまで与えていたものを与えなくなるということはない。

与えるということは永遠に続いていくものである。

(9月27日 2010年掲示板)

■ギブ

「わたしはあなたにあげることができなかった」
と相手に謝るのでなく、

「わたしはあなたに与える機会を失った」

と自身を悔やむことである。

(10月1日 2010年掲示板)

■ギブの得失 (加筆再掲)

「損をしなかった、とか、わたしは得をした」

と喜ぶのではなく、

そのような時は、

「わたしは与える機会を失った」

と悔やむことである。

得をしたと思う時というのは、往々にして与える機会でもある。

良心の痛みを知った時には、わたしを裏切らないことである。

私は取るが、わたしは与える。

私は喜ぶが、わたしは悲しむ。

(3月1日 2006年掲示板) (2月17日 2011年掲示板)

■アカシックレコード～見えざるわたし (加筆して再掲)

わたしはこの宇宙はアカシックレコードであると考えている。宇宙人のすべての行為がこの宇宙に記録されている。アクセスの仕方さえ分かれば、過去の記録すべてを見ることができる。だが、この記録は目に見えることの記録だけではない。目に見えない記録もある。

あなたが今日他人にもった好意は、他人が忘れないだけでなく、この世界もまた忘れないのである。

あなたが今日他人にもった好意は、他人が忘れても、この世界は忘れないのである。

あなたが今日もった好意は、誰ひとり気づかなくとも、この世界は忘れないのである。

そして、それらは記録されるだけでなく、永遠にこの世界に働きかけるのである。

(4月18日 2007年掲示板) (10月4日 2010年掲示板)

▲動詞～リアル

あなたがいるのではなく、好意という働きかけがいるのである。

あなたは、あなたをリアルに思っているかもしれないが、あなたより好意の方がリアルなのである。

(10月15日 2010年掲示板)

■アカシックレコード～ひとりの<わたし><行為への愛>

この世界は「私が他人にどのように受け取られ、どのように評価されるのか」というためにあるのではなく、<わたしがこの世界で何を表現し、何を刻むのか、すなわち、何を思い、何を話し、何をするのか、すなわち、これがわたしである、ということ>のためにある。この世界では、わたしのことはわたししか知ることはいできない。わたしだけが知ったことを刻みこむためにある。それはひとりの刻印であり、ひとりひとりの道である。ただその人だけしか歩くことができない道である。他人が知ることができることはたいしたことではない。

(加筆して掲示板記入予定)

■言葉

汚い言葉をはけば、汚くなる。

やってみることである。

やっているかもしれないが。

きれいな言葉を発すれば、きれいになる。

やってみることである。

やったことはあるはずである。

(10月27日 2010年掲示板)

■アカシックレコード

未来は可変的である。いくつもの未来が<ある>。だから、ひとつの未来へ行くことはかなわない。未来について可能であるのは、未来を変えることができる、未来を生きることができる、というそのことだけである。

書き換え可能なレコードでもある。

■名詞と動詞～アカシックレコード

この世界は動詞が名詞を通じてつづる、いわば映像フィルムである。

■グリーンマイル

2月13日2006年、1月4日2011年

●草稿・教室

将棋の自己表現の多様性

仕事の自己表現の多様性

小さい自分=身体2

大きい自分=身体3

小さい自分のよさ～大きくなれること

大きい自分のよさ～新しい身体化を指導すること

身体2～植物の種子からの開花のよう

植物との違いは生まれ変わりで、同じ植物とならないところ

似ているところは、種子から出発しなければならないこと

善因と悪因を忘れないこと 特に善因

身体3～

神との対話創造4つのわたし?参照のこと

1の表現としてなりたいもの、なったもの

2の表現としてなりたいもの、なったもの

3の表現としてなりたいもの、なったもの

北原白秋～あなたが白秋になること、そばにいて気持ちのよい人になることである

劇は登場人物になりきった方がおもしろい

見ているほうも演じている方も

この人生も同じである

では、完全になりきったときのデメリットとは

必要以上になりきるることか

小学生のときの教科書の読み方

●なみこさんへの返事

> 質問1

> 「あなたは何者であるか? そして、あなたは何者になりたいか?」

>

私は未だに自分に問い続けています。いえ、正確に言えば10代の頃自分に問いかけ、一応の結論を出し（たつもりでいた）、そしてこの年齢になり、再び問いかけるようになりました。

この問いを自らに問いかけ、答えを出すというのは、とても人間的であり、そして、その答えがどのような答えであれ、すばらしい体験であると思っています。

グルジェフは次のように言っています。

「だが、自分自身についていかに誠実であるべきかを知っているならば、そしてこの言葉が普通に理解されるような誠実ではなく、容赦ない誠実さであるならば、「あなたは何であるか？」という質問に対して、心休まる回答は期待できない。そこで、私が話していることをあなた方自身が経験するようになるのを待たずに、私の意味することをもっとよく理解するために、あなた方一人一人が、「私は何であるか？」と、今自分自身に質問することを提案する。あなた方の95パーセントがこの質問に当惑し、「どういう意味ですか？」というもう一つの質問をもって応えるに違いない。

これは、人が自分自身にこの問いを発しないで一生を過ごしてきたこと、自分が「何か」であり、非常に大切な何かでさえあり、一度も問いただすことさえしなかった何かであることは、全く当然のことであるとしてきたことを証明する。それでいながら、他人に、この何かは何であるかを説明できないし、それについてどんな考えも伝えることができないのは、彼自身それが何であるかを知らないからである。彼が知らないという理由は、実はこの「何か」は存在せず、単に存在すると仮定しているからであろうか？ <人びとが、自己を知るという意味において、自分自身についてほんの少ししか注意を払わないのは、奇妙なことではなからうか？> 愚かな自己満足につかり、真の自己に目をつぶり、自分が何か大切なものを表わしていると快く確信して一生を過ごすということは、奇妙なことではなからうか？ 人々は、自己欺瞞によって分厚く塗られた表面の背後に、いまいまい空虚が隠されていることを見落とし、表面の価値がまったく月並みであることを認識しない。」

（「グルジェフ弟子たちに語る」71ページ めるくまーる社）

<人びとが、自己を知るという意味において、自分自身についてほんの少ししか注意を払わないのは、奇妙なことではなからうか？>

多くの人は他人に多大の注意をはらい、自分自身について注意をはりません。グルジェフは彼流の厳しくもシニカルな表現で<奇妙なことではないだろうか？>と問いかけています。このことは、以前にも書いたババジの「人が成長していくための方法」のひとつに

もあげられています。それは、

- 1 継続的实践（特に無執着を養うこと）
- 2 自己研究
- 3 神への献身
- 4 呼吸法
- 5 マントラ
- 6 献身的实践

であり、「自己研究」がふくまれています。あらゆるメディアから少数の井戸端会議でなされる「他人研究」は含まれていません。

自分自身が何であるか

自分自身が何者になりたいか

このことは、本当はもっと関心を持つことであり、もっとお互いに話し合われてもよいことです。

「あなたは、何者ですか。あなたは何者になりたいですか」

この質問をすると、時々怒られる方がいらっしゃいます。侮辱されたように感じられるのでしょうか。わたしは侮辱して聞いているわけではないですが、侮辱されたように感じるの
は正しいかもしれません。なぜなら、これまで自分自身のことに関心をもたずに生きてきた
からです。これは自分自身に対する最大の侮辱かもしれません。そして、そのことを無
意識に感じ取っているのかもしれません。

わたし自身のこの問いへの答えは、

いま、わたしは何者でもない。

そして、わたしはすべてを知るものになりたい。

すべてを知るものになりたいというのは、十代からつづいている願いです。ただし、ずっと願っていたかという、否、としか答えざるをえませんが。

ちなみに、この掲示板の最初の書き込みは

「あなたは何者になりたいか？」

ということで、この HP を作っていただいた「祐@千葉」さんに書き込んでいただいたものです。「祐@千葉」さんは先日お亡くなりになりましたが、不思議なご縁をいただいた方です。

なみこさんは何者になりたいのでしょうか。もし見つかりましたら、答えを書いていただければと思います。そのうちに、教室で答えていただいたいろいろな答えについてコメン

トする予定でいます。

(2月13日掲示板) (草稿要転記)

■自己の大きさ

自己は知ることができない。

それは、自己はあまりに大きいからである。

小さな自己について知る人は、

「これはわたし（自己）のものだ」

「これはあなた（自己）のものではない」

と互いに大声でののしりあう。

だが、このように言った後のあと味の悪さから自己を知り、自己の何たるかを垣間見ることが出来るかもしれない。

勝ち負けの後の負けの虚しさではなく、勝ち負けの後の勝ちの虚しさから自己の大きさを知ることが出来るかもしれない。

(2月17日2011年掲示板)

●UFOの話

わたしは人並みに UFO の話に興味はあり、いままでにいろいろな体験談をうかがったことがあります。

父は非科学的なものが大嫌いでしたが、UFO の存在だけは信じていました。なぜかという
と、見たことがあるからです。でも、UFO が存在すれば、これは「科学中の科学」の話
かも知れません。

また、知人は北海道に旅行中、目の前で海上に「猛烈大きな葉巻型の円盤」を見たと言っ
ていました。

代々木で気功治療院をしていたときにみえられたある方は、UFO の団体である GAP に所
属されていて、GAP 支部の集まりによくおさそいいただきました。といっても、行ったの
は2回だけでしたが。

妻も UFO は見ている、人生観が変わってしまったといいます。

高塚はというと、結構空を見上げる方ですが、UFO 殿はおかくれあそばされて、お目にかかったことはありません。

UFO 目撃談はともすると興味本位の話しに終わってしまいがちですが、最近ある方からいただいたメールは、簡潔で秀逸な内容なので、ご本人にご承諾をいただき、掲載させていただきます。

文中△△はメールいただいた方の夫のお名前です。

また、アダムスキーというのは、アダムスキー型円盤で有名ですが、岩波文庫にも収録されていたことがある（現在は絶版）アダムスキー哲学としても知られていて、わたくしが参加していた GAP の支部ではその哲学にひかれていた方が多かったようです。

以下は、わたしが UFO に話題をふったときにいただいたご返事です。

「△△は実はかぐや姫なんじゃないかと思われるほど、UFO がくっついてくる人で、一緒に歩いていて何度も遭遇しました。もっとも本人は「あれは UFO じゃない。USO だ」などと信じないのですが。

私の方は中学生くらいからアダムスキー全集を読み、初めて UFO を見たのが18歳の時です。ある工場まで夜までバイトしていたのですが、当時、強烈に奉仕する、奉仕すると唱えつつ働いておりました。ある日、仕事が終わって(冬で寒いので)いつものようにバックルームでバスの時間までのんびりしていたのですが、強烈に外に出ようという感じがしました。寒いので打ち消そうとしたのですが、それが夜空からぐあおーと引っ張られるような強烈な感覚で無視できず、ノソノソと外に出ました。と、ツーと白い光を放ち、真左に飛ぶ UFO を見たのです。

なぜ UFO とわかったかと言えば、(これはその後も UFO かそうでないか見分けるポイントとしていますが)みぞおちあたりに、あたたかいものを感じたのですね。「わー、今日は私の人生で最高の日だ！」と感激して眠りにつきました。

そしてまた1週間後。またバイト後、バイト仲間のおばさんとともにバス停に歩く時、今度は頭上に編隊の UFO が出現したのです。編隊一とは、こんなふうな形です。

○

○○

○○○

○○○○

○○○○○○

○○○○

○○○

○○

○

おばさんも気付いて、「アッ？！星が大群？？」と言った瞬間、この編隊は姿を消しました。(飛んだのではなくまさにその場から一瞬で消えたのです)これに味をしめた？私は、今度は UFO を自分で呼んでみることにしました。

テレパシーで呼んでみたところ、ホイッと UFO は出てくれました。そして必ずみぞおちに温かい印象がありました。20歳(1984年)位の頃、米ソの緊迫が高まって戦争しかないとのムードが濃厚になってきました。厚木基地から飛び立つ米軍機の下で暮らしてきた私にとっては心痛であり憂慮であり怒りであり悲しみでもありました。米ソの問題を苦しんで考え夕陽を見ながら自転車を走らせていたら、UFO がフッと現れました。そして、「早く地球が平和的になるといいね」と伝えてきました。それは絶望から来る慰めではなく、「希望」の感じでした。みぞおちは強く温かかった。いつも温かい感じだけ、パワーだけを受け取ってきましたが、その時初めてメッセージを受け取ったのです。

以後も、私は何くれとなくテレパシーで UFO を呼んでは、ホイサッサと彼らも出てきてくれたのですが、そのうち、たぶん彼らにも地球にわざわざ来ているからには重要な役目(仕事)があるはずで、私が意味もなく呼んでわざわざこんなところ(大学が埼玉だったので埼玉ですが)まで来てもらうなんて忙しい中、申し訳ないなと思い、彼らもそれがわかったのか、以降は現れなくなりました。まあ、正しくは、以後も見ているのですが、見つけるやピャッと消えたり、△△は見たものの私は見逃したりですね。△△は UFO ではない！と言い張るのですが、しかしピンクやオレンジ色の光体がポッと現れてサッと消えたりするのは、どう考えても…(。)

UFO や超能力や不思議な話しというのは精神世界と結びついていないかぎり (正しくは、その関係が読み取れていないかぎり)、わたしにとっては存在しようが存在しまいがどちらでもよい話しです。このことは UFO の出現のみならず、日常生活のすべての出来事についてもいえることです。

(2月14日掲示板)

●ヒーリング～△△さんへのメール

UFO 体験掲載の件、気持ちよくご了解いただき、ありがとうございます。

ヒーリングの件は、真面目な話し、わたしだけのためにやっていることではないだろうか、という意味もあるのです。気を送るときはもちろんできるだけ相手のためにするのであり、疲れた体でとんでもない遠くに行くときにも相手のために行くのですが、これはやはり自分のためではないかと思うのであります。かといって、自分のためにすると自分のために

ならないということもあるのです。

ですから、自分のためにやらないという方法で、自分のためにやるのです。

<掲示板用>

ヒーリングはわたしだけのためにやっていることではないだろうか、という思いがあります。気を送るときはもちろんできるだけ相手のためにするのであり、疲れた体でとんでもない遠くに行くときにも相手のために行くのですが、これはやはり自分のためではないかと思うのであります。かといって、自分のためにすると自分のためにならないということもあるのです。

ですから、自分のためにやらないという方法で、自分のためにやるのです。

(11月24日 2007年掲示板)

2月14日 2006年

●変容

人は変わるが、人を変えることはできない。

だから、相手の立場に立って、変えてあげたいと思うなら、変わってもらいたいと思うなら、人が変わるように援助することである。(もちろん、自分の立場に立って、変えてあげたいと思うことは論外である。この論外の関係は限りなくあるが。)

そのための援助の方法は、

まず、変わってもらいたいことを自分が試してみることであり、

次に、相手も自分と同じ人間であると見ることであり、

(掲示板記入予定)

2月15日 2006年

●意識のある人生

時々、深い呼吸を試してみる。

そして、目を閉じてわたしと世界を試してみる。

おそらく、このことが内側から外の世界と向かい合う、ということではないかと思っている。

(「HP 予定表」2月16日記入予定)

2月16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日 2006年、10月7日 2010年、
1月4日 2011年

●なみこさんへの返事～「サークル」

> 「あなたは何者であるか？ そして、あなたは何者になりたいか？」

私は今「籠の中に閉じ込められた鳥である、しかも大空を飛ぶ事はおろか、囀りさえも封じ込められてしまった」今後私は大空を自由に舞い、囀り、又、大地を自由に駆け回れる存在でありたい。

グルジェフが旅していたときに見世物に出会い、「ある人のまわりの地面にサークルを描くと、その人はそのサークルの線を越えて出られなくなってしまう」というのを見たという体験談があります。そのあと何が書いてあったのかおぼえてはいないのですが、わたくしが思うに、誰もがこのようなサークルを描いて人生を生きていきます。

そのサークルは実は他人が描いたサークルなのに、自分が描いたサークルであると思ひこんでいる人もいます。

そのサークルを出ないことを自慢する人もいます。

サークルから出られない他人を見て笑ったり、怒ったり、攻撃したりする人もいます。またその見世物のように、出ようと思うのだが、なぜか出られないという人もいます。

人生ではこのサークルは目に見えるものではないし、この魔術をかけた他人も魔術をかけられた当人もかけっぱなし、かけられっぱなしで、互いに自覚がないので術がほどかれるまでには多くの時間と労力が費やされます。

わたしもかごの中の鳥です。

(以下、つづく)

(2月16日掲示板)(以下、草稿要転記)

この項は元気になるための方法の項か？

■「鍵」～金網の前で

サークルには鍵があるわけではありません。

「かごの中の鳥」のかごにも鍵があるわけではありません。

鍵などかけるのは人間だけです。

世界は扉に鍵をかけたりはしません。

問題はどこが出口であり、どうすれば鍵のかかっている扉を開けることができるのかということ。

わたしは開いた扉を見たことはありますが、自分で扉を開けたことはないのです、その試みの現在進行形のお話しとして聞いてください。

扉を開ける前にサークルを前にして、あるいはかごの金網を前にして絶望的な気持ちになっているこの気持ちを取り除く必要があります。この気持ちは地獄の底まで落ちようかというものでありますが、通常は知らないうちに治ってしまいます。まあ、知らないうちに生きているのですから、病気も知らないうちに治ったとしても不思議ではありません。だが、この絶望を自らが希望に変えるにはどうすればよいか。以下は、わたしの体験談です。

ひとつは、「クリア」にするという方法です。身近なところでは、部屋の模様替えとか引越しです。この程度で元気になれば軽症かもしれません。わたしがやったのは、本を全部古本屋に売っぱらったことです。こういう捨てる行いというのは相当効果があります。坊主にしたこともあります。これは髪を捨て去ったということです。お酒もやめたことはあります。まあ、ただこういうのはやれば元気になるというよりも、元気回復とシンクロしている行為なので、自分にフィットしたものでないと何の意味もありません。

わたしはやったことないですが、これまでの履歴を消して生きるというのもあるように思います。昔でいくと出家ということであり、少し前なら蒸発ということでしょうか。

どのようなやり方にしろ、外的にクリアにすることは内的なクリアと同時に生じることであり、まあ、内も外も垢を落とすということかもしれません。

なお、辻村ジュサブローは創作に行き詰まったときに刃物で目をついてしまおうかと思ったことがあったとのことですが、己の慢心に気づいて思いとどまったとのこと。この「クリア」と呼ぶ行為というのは左程微妙なところもあります。クリアにするつもりで傷つけたり、発心が慢心であったりするからよくよく己を観察する必要があるわけです。

話しが長くなってしまいましたが、クリアでなく最近試みていることは二つあります。

ひとつはよい言葉にふれることです。

わたしの場合は、「神との対話」シリーズ、「シュタイナー」の著作（ただし、高橋巖師の訳）、「グルジェフ」の著作、「パラマンハサ・ヨガナンダ」の著作にふれることです。これらの本は一部写本してパソコンの中に入っていますし、A6版のミニ本にして持ち歩いています。手前味噌で恐縮ですが、自分が書いた言葉も抜き書きしてこれまたミニ本にして持ち歩き、時々目を通しています。よい言葉にはエネルギーがあり、しぼんだところをふくませてもらえます。

あるノーベル賞作家がパーティで小林秀雄と一緒にあったとき、その作家の師である方がちょうど亡くなられたばかりであったのですが、小林秀雄がその師のことをケチョンケチョンにいて、作家はうまく反論できず、泣き出してしまったとのことで、小林秀雄も言

い過ぎたと思ったのか、後日、そのノーベル賞作家に「ユング自伝」を送ったとのことでした。その自伝を気に入った作家は半年間、ユング関係の書籍ばかりを読んでいたとのことでした。

以前書き込みましたが、わたしも「ユング自伝」からは大いなるエネルギーをもらいました。ユングの思想がどうこうというよりもそういうエネルギーを送り込む本というのがあるものです。ただし、今ではその本からエネルギーをもらうということはないです。ですから、どういう本がよいかは一概にはいえません。

もうひとつの方法は、神に救いを求めることです。これは相当効果がありますが、問題は本気になれないことです。不思議なことですが、どれほど困っても、死ぬ間際でさえなかなか神に救いを求められないのが現代人です。これが末法の世である、ということだと思っていますし、また、「善人往生す、いわんや、悪人をや」の意味であると思っています。

(以下、つづく)

(2月17日掲示板) (草稿要転記～所有・クリア)

■「鍵」～とびら

金網を前にして絶望せずに扉を探すことができるようになったとして、どのようにしたら扉を見つけ、開けることができるか、という問題があります。まあ、ある意味でこの掲示板のわたしの書き込みはすべて、そのことをめぐっての書き込みともいえますし、また、いま書いている草稿もそのための方法をしるしたものです。

ここでは、いま現在わたしが試みていることをいくつかあげてみます。

「神との対話」の神、シュタイナー、グルジェフ、ヨガナンダ、自分自身の言葉を<実践>すること。

その一環として、

瞑想すること、

意識のある生活を送ること、

気・人間・宇宙の啓蒙活動を行なうこと、

ヒーリングを行なうこと。

当然ながら具体的な活動はひとりひとり異なってくると思いますが、その基底にあるものは共通しています。それは、

<神とのコミュニケーション>であり、

<わたしによる神の実現>です。

神という言葉に抵抗があるなら、

<本当のわたしとのコミュニケーション>であり、
<わたしによる本当のわたしの実現>です。

<神><内なるキリスト><ブッダ><本当のわたし>というのは、
自らが始まりとなる存在であり、
自らが原因となる存在であり、
それゆえ、自由である存在です。

そのような存在といつも通じていること、
すなわち、コミュニケーションをとっていること、
すなわち、そのことを通じてわたしが本当のわたしとなり（このことは「元のわたし」とも「元の本当のわたし」とも異なるわたしであり、それが<わたしによる神の実現>と言っていることです。このことはこの記述だけでは理解し難い話しとは思いますが）、自由である存在を実現するということなのです。

人がときに感じる原因不明の不全感は、<わたしと神とのコミュニケーション>の欠如、
<わたしと神による神の実現行為>の欠如から生じるものです。

初老哲学者の妄想のような話しで、分かりづらいとは思いますが、適切な表現が思いうかばず、とりあえずはこのようなしるしておきます。

(以下、つづく)

(2月19日掲示板)

■神との交流

神との交流というと、通常、神主や巫女さんや教祖の専売特許のように思われるか、あるいは、神との交流などいうことはありえないと思われるかのどちらかですが、実は全く違うことです。誰でもがある意味ではやっていることです。ただ、それを神との交流と思わないだけです。

「神との対話」(14 ページ ニール・ドナルド・ウォルシュ著 サンマーク出版) の冒頭でこのような対話があります。

そこで、まずわたしが長いあいだいだきつづけてきた問いから対話を始めることにしよう。神はどんなふうに、誰に語りかけるのか。そう聞いたときの、神の答えはこうだった。

「わたしはすべての者に語りかけている。問題は、誰に語りかけるかではなく、誰が聞こうとするか、ではないか？」

神の問いかけなど聞いたことはないと多くの方は言いますが、それは日常茶飯事として行なわれていることです。たとえば、こういうことです。

わたしはこの文章を 19 日（日曜日）の夜勤明けの朝に車中で書き始めます。この日はお墓参りと誕生日祝いでつぶれますが、翌朝 20 日に二日酔いで目覚め、あたまがぼーっとしているので普段見ない前日の新聞を何気なく目を通します。書評に目をやると、「空間の謎・時間の謎」（中公新書）「はじめての〈超ひも理論〉」（講談社現代新書）というのにひきつけられ、買おうと決めます。本屋に立ち寄りますが、どうしても見つかりません。仕方なく、ひょっとして「神との対話」シリーズの新刊が出ているかと思い、精神世界のコーナーに行くと、「明日の神」という 2 月 20 日初版発行の本が出ているではないか。しかも、この本はまさしくわたしが書いている神との交流について書かれている本です。

「…あなたがたはその体験を「神」と呼ぶか、あるいはべつの呼び方で——偶然、共時性、「ランダムな出来事」——などと呼ぶ。だが、どんな呼び方をしても、その体験自体は変わらない——どんな呼び方をするかで、それに対するあなた方の信念のシステムがどんなものかがわかるだけだ。」（「明日の神」43 ページ ニール・ドナルド・ウォルシュ著 サンマーク出版）

このわたしの体験をわたしは〈神との交流〉と呼ぶ。他の人は偶然と呼ぶかもしれない。わたしは神という言葉を使ってシンクロニシティ（共時性）という言葉をよく使うので、そう呼ぶかもしれない。あるいは、偶然以下の無意味な出来事という人もいるであろう。

だが、2 月 20 日午後 3 時半の本屋での出来事は〈神との交流〉であるとわたしは呼ぶ。このような神観は〈新しい神〉の見方であり、昨日の神の見方とは異なる〈明日の神〉の見方である。

わたしは神主でも巫女さんでも教祖でもないが、神はわたしと交流する。これはもちろんわたしだけのことではない。ただ、その交流を何と呼ぶかはあなた次第であるということだ。

（以下、つづく）

(2月21日掲示板)

■神との交流②

かくいうわたしも神との交流を年中感じながら生きているわけではない。
神からの問いかけ、神との交流が感じられない原因は何であろうか。

神がつねにひとりひとりに語りかけているとしたら、
シンクロシティが常に生じているとしたら、
意味のある偶然の一致が常に生じているとしたら、
わたしの思いが世界と照応することが常に生じているとしたら、

なぜ、わたしに生じる出来事はこんなにもわたしをふさぎこめてしまうのであろうか。

(2月22日掲示板)

■神との交流③

黒住教の教祖黒住宗忠は黒住教が次第に広がっていったときに、あらぬ非難中傷を受ける。
そのときの話しである（ちょっと読みづらいが）。

そのような外部からの相次ぐ中傷の中にあって宗忠は、
「その本(もと)は小子(しょうし)心の内に御座候。只今までとても、皆人見られ候ところは余透も御座なく候えども、今考え見候えば執行甚だたるくお座候。」

と、きびしくおのれをかえりみ、決然として

「毎朝七ツ過ぎ(四時過ぎ)には起き、水を浴び、それより中仙道の宮(白鬚宮のこと)・今村宮へ参詣仕り、それより罷り帰り、小子神前にて執行仕り、日の出待ち、御拝仕り候。」

というような、暁の修業を開始するのである。そして、

「これも先達でも申上げ候通りの悪人出で、色々の噂仕り候間、これ天の我に執行仕るべしともうすこと御教えと存じ奉り候ゆえ、かように相始め候。かの流言もそのままに消え候やと相聞え候。たとえ人は何と申し候とも、我をすてて本をよくつとめ候えば、心いよいよすずしく御座候。」(書簡33

6)

と覚悟のほどを示している。

(原敬著「黒住宗忠」18 ページ吉川弘文館)

「他人による非難中傷は、わたしのこころの内にその原因がある。これまでの修行が何とかったるいものであったか。」

そして、その原因を清めるべく、毎朝四時過ぎに起き、水垢離をしたのち、参詣し、そのあとわが宮にて修行をし、日の出を待つという生活を送る。

「悪人があらぬ噂を言い立てるのは、天がわたしに修行をすすめるためである。だから、わたしが修行を改めたのちはその流言も立ち消えになったと伝え聞いている。このように噂を波立たせる我（が）をすてて、神の本（もと）につとめれば、ころはすずしくさわやかであるものだ」

世に因果応報という。悪因悪果、善因善果である。自業自得ともいう。最近では自己責任とも言う。いずれも自分に関してはなかなかそうはいわないところが、おもしろくも悲しいところであるが、それはさておき、悪果というのは、人が下す刑罰とは異なる。また、人が他人事としてせせら笑う困った出来事でもない。それは立ち上がるための仏心であり、身を改めるための神の教えである。

問題は、黒住宗忠のように仏心、教えとして感じることができるか否かということである。

このような叱咤に耐えられぬ凡夫には次のようなタナボタもある。

昔「医者になりたい」と願ったところ、神の答えは「ヒーリング能力を授けてくれた」ことであった。

最近「お金が欲しい」と願ったところ、神は「ここに金のなる木がある」と教えてくれた。また、「80歳まで仕事をして最後の10年間は世界をじっくり見て90歳まで生きたい」と願ったところ、神の答えは「永遠に生きればよいではないか」ということであった。

「いろいろなところを旅行しながら暮らしてみたい」と願ったところ、「テレポーションすればいいではないか」と答え、

更に、わたしの究極の願い「すべてを知りたい」という願いに対しては、「あなたは神の子であるのだから、神になればよいではないか」という答えであった。

神の贈り物はつねに奇想天外である。

（12月25日2004年掲示板「星に願いを」）

誰もがこのような贈り物の方がよいと思うかもしれない。だが、補助輪付きの自転車に乗るようなものであることを忘れてはならない。

ちなみに、この掲示板の引用箇所が出てきた体験は、

偶然であり、

シンクロニシティ（共時性）であり、

アトランダムであり、

「神」である。

（以下、つづく）

(2月23日掲示板)

自由であるというのは、人間存在の根幹にある特質です。
また自由は別の表現で、自己表出ともいえることです。

■意識のある人生

身体3として生きていくこと、
印象も、表現も、
得るだけでなく、注ぎこむこと。

■神との交流

瞑想すること
意識のある生活を送ること
気・人間・宇宙の啓蒙活動を行なうこと
ヒーリングを行なうこと
「神との対話」の神、シュタイナー、グルジェフ、ヨガナンダ、自分自身の言葉を実践すること

コミュニケーション～体験～シンクロした体験
あなた自身を注ぎこむこと
言葉の実践

■神の実現

身体3を生きる

2月18日2006年、3月9日2007年、10月7日2010年、1月4日、5日、6日、9日2011年

●質問70～わたし

家具を作った職人がいる。
それを買い叩いて高く売りつけた家具屋がいる。
それを安い値で買ったと思っているお金持ちがいる。

だれが得をしたのであろうか。

私はどの人であらうか。

誠心誠意問いかけてみて、私はどの人であり、どの人であるだろうか。

そして、私はどの人になりたいのであろうか。

現実にはいろいろな人であったのではないか。家具職人であったこと、家具屋であったこと、お金持ちであったことを具体的にあげて下さい。

外的にも、人間関係でも、内的にも。

(3月9日 2007年掲示板) (1月5日 2011年掲示板)

■

三人はそれぞれ何を得たのであろうか。

作る行為とわずかのお金

買い叩いた行為と仲買いの多額のお金

多額のお金と引き換えの家具

どの人がまともであらうか、どの人がまともではないだろうか。

1 > 3 > 2

■気功

製造直売である。

これが人生での理想である。

2月20日 2006年、1月22日 2012年

●

現代は加点の時代かもしれない。テイクの時代かもしれない。

もし、そうだとすると、その対語である<行為>がいかに大切かということになる。

●

夢が言葉以上に情報を与えてくれるように、舞踏もまた言葉を超えた情報を与えてくれる。

そして、日常生活もまた同様である。

それを生かすべく、

よく見ること、よく感じることである。

■

思考≒イメージとしての舞踏



神の言葉を脳でとらえるのではなく、身体でとらえること。

2月22日、23日 2006年、3月9日 2007年

●意識のある人生～ギブ

この世界にどれほどあなたを注ぎこんだとしても、
あなたがすり切れてしまうということはない。
あなたに与えられたものを超えてあなたは与えることができないからである。

(2月24日掲示板)

■意識のある人生～存在・所有

この世界にどれほどあなたを注ぎこんだとしても、
あなたがすり切れてしまうということはない。
あなたを超えてあなたは与えることができないからである。
あなたのものはあなたである。

この世界からどれほど多くを得ようとしても、
あなたより多く得ることはできない。
あなたをを超えてあなたは得ることはできない。
あなたのものはあなたである。

あなたとは何であろうか。

与えることができるものとは何であろうか。

得ることができるものとは何であろうか。

あなたは今日何であったか。
あなたは今日何を与えたか。
あなたは今日何を得たか。

(3月10日 2007年掲示板)

2月23日2006年

●教室

瞑想の途中に呼吸法を入れる。

2月24日、25、26日2006年、4月19日2007年

●荒川静香

わたしはフィギュアスケートには全く興味を持たない人間である。なのに、なぜ今回は見たのか、なぜあの演技に感動したのか、あとになってくるといろいろ分かってくることがある。以下はわたしにとっての感動であり、これはひとりひとり異なってくるのは当然である。

2月23日、彼女のフリーの演技の日はわたしの誕生日であり、これは神からのプレゼントと思っている。まあ、すごい思い込みと思う人も多いであろう。だが、わたしは本気である。この世界の完璧さを少しでも垣間見れば、創造者がこの程度のシンクロをわたしにプレゼントするなどというのはお茶の子さいさいであろう。

彼女は今回のオリンピックでスケートを楽しむことができたという。文字にすると何の変哲もない言葉だが、彼女の口から出ると多くのものが伝わってくる。わたしにとってはヒーリングについて大いに考えさせられた。出てくる気のコントロール、実感に関してとても参考になった。わたし自身が楽しめるような気を出さなくてはならないということである。まあ、このニュアンスは表現が難しいのであるが。

また、勝ち負けの最大の舞台オリンピックで点数にならないイナバウアーを取り入れた。自己を犠牲にしなければ成り立たないことは数々あるが、そこでイナバウアーという自己表現をあえてしたということ。そして、その瞬間だけ観客の応援を聞くことができたというのは、まさしく彼女の勇気、踏み込みに対する世界の歓声であろう。しかし、それ以外の演技はすべてカウントを数えながらで、歓声は聞こえなかったというのは、世界一を争う究極の勝負の世界の恐ろしさを感じる。このことは他の一流選手も同様であろう。だからまた、そのような場でイナバウアーを入れたというのが信じがたい決断である。

このような意志の強さはもちろん天性のものでもあるが、やはり多くの試練、つまりきがあつてこそ磨かれたものであろう。浅田真央選手にはうらみも何もないが、若い選手が出て、そのまま金メダルを取ったとしても今回のような感動はない。

そのことを読売新聞の「編集手帳」では、歌人の塚本邦雄さんの言葉を引用している。

「負の数10と負の数10を掛けると正の100になる。その100と、正の10を10個集めた100とは違う。正を積み重ねたものには陰翳がないのだ」

10歳で3回転ジャンプを、しかも骨折してギブスをしていて跳んだという天才少女荒川静香がさらに才能を10個獲得したとてこれほどの感動の舞台は用意されないであろう。

直前になって変えた曲「トゥーランドット」が開幕で歌われたというのはもちろん偶然ではないし、アトラダムな出来事でもない。このことは神の業であり、シンクロであり、生命の声の共鳴である。

これらはすべて様々な報道であとになって知ったことである。まだまだこれから多くのことが明かされるのであろう。しかしそれらを、あの4分間でそれらをすべて表現してしまった。これほど不思議なことがあるだろうか。グルジェフは「大昔、舞踏は言葉であった。舞踏で正確にその意図が伝えられた」と言っているが、荒川静香のスケート、これはまさしくその古代の舞踏ではないだろうか。

(2月26日掲示板)

まさしく人が不幸と呼ぶものが最後にどのような結末を迎えるかが

■賞味期限

コーヒーの香り

彼女の演技のフィルムの香り

絵の賞味期限

■祖父の援助～必要性

●身体3の食べ物

人間は三つの身体を持っている。

身体1はいわゆる肉体である。身体2は個人のこころである。身体3は世界である。

夜が遅くなったのでやることをやらずに早く寝れば身体1は元気かもしれないが、やることやらずに寝ると身体3が損なわれる。このことはより多くの衝撃を身体3のみならず、身体1と身体2にも与える。

身体3に食べ物を与えてあげることである。

●将棋研究会

K氏とJ氏の和解となれば、最高である。

少なくともその準備となれば最高である。

すべてはそのために行なうこと。

■意識のある人生

棋理を求める。

愛を求める。

気を通じて。

棋を通じて。

■将棋

強い人と指して、楽しむこと。

2月26日、27日、3月1日 2006年、3月22日、23日 2007年、9月29日 2010年

●一体～自他

どのような他人の表現も自分が感じ取ることができる。

感じ取ることができれば、どのような他人の表現も自分の表現とすることが<できる>。

崇高な表現であれ、唾棄すべき表現であれ、それはわたしである、ということが出来る。

これは、小説の中や、映画の中や、想像の中ではなく、この世界にいる他人といわれる人を通じてわたしが体験できることであり、していることである。

ただし、できることと実際にすることとは別ではある。

(3月23日 2007年掲示板) (草稿要転記)

●テープレコーダーの神

ふと思ったことがある。神がテープレコーダーであったとしたら…。

2月27日、3月1日 2006年

●意識のある人生～自由

わたしを「あなたを表現する」ために使わないことである。

もしもそうせざるを得ないときには、その中で<わたしを表現できるだけ表現する>ことである。

(加筆して掲示板記入予定)

●身体3～意識のある人生

精神を自己のコントロール下におく前に、

身体を自己のコントロール下においてみる。

これはいわゆる A 型人間といわれるような方法ではなく、しなやかさを持ったやわらかさを持った方法である。

2月28日、3月1日 2006年

●意識のある人生～一体

困っている人、怒っている人、傲慢な人に対して、一体であるように対する。

■意識のある人生～一体

人が使わないところを使う。

人がきれいにしないところをきれいにする。

すべてのものと一体になる。

★3月 2006年

3月1日、4日、14日 2006年

●ヒーリング～私と全体（利己と奉仕）

病気が治ったらしたいことを今する。

不治の病の家族の病気が奇跡的に治ったら、お礼にしたいことを今する。

シンクロの原理

一体の原理

3月4日、12日、14日 2006年、3月22日、4月19日 2007年

●呼吸～善悪

小さな私でいること、大きなわたしでいること、

この両者の間を行き来する。

それはまるで呼吸のようだ。

息を吸うことが卑小であるあるわけではなく、息を吐くことがえらいわけでもないように、

小さな私、大きなわたし、

どちらもがこの世界の呼吸である。

このような呼吸は、一日の中でもあるし、一生の中でもある。

そして、生まれ変わりの変遷の中でもある。

この呼吸という錬金術を通じて新しいものが生まれる。

（3月12日掲示板）（4月19日 2007年掲示板）

具体例

3月7日、8日、12日 2006年、3月22日 2007年、9月29日 2010年

●自由

この世界には不思議なことがたくさんある。たとえば、

自由でいられること、
喜びを感じることができること、
知ることができること、
全てであること、

どれも不思議なことである。

まあ、最後の四番目は理想であるが、自由も喜びも知識も本当の自由、喜び、知識を己のものとするならそれもまた理想である。

現実には、
自由でない、
喜びを感じられない、
知ることができない、
全てでない、

これまた、本当に不思議である。

(加筆して掲示板記入予定)

■自由の元

内側から生きるようにすること。

人生を過ぎ去るように生きること。

■意識のある人生～わたし

今日、これまで考えたことのないことに気づく、

今日、これまでしたことのないことをする、

今日、これまで感じたことのないことを感じる、

今日、新しいことがある、

そのことを期待する、

そのことを作る、
そのことが訪れる、

いつも、そのような毎日であること、
一週間が同じ、鉛色の人生でなく、
毎日、毎日がこころ動く人生であること、

そのためには、
大きなわたしであること、
小さいときには大きくなってみること、

大きくなってみようとすれば、
一回の深い呼吸がわたしを大きくする、
本屋で手に取った本がわたしを大きくする、
目の前にある見慣れた風景がわたしを大きくする、

大きくなってしまえば、
いやな仕事も小さくなる、
できなかった片づけもできる、
睡眠不足も小さくなる、
貧乏も小さくなる、

大きくなってしまえば、
相手の立場に立てる、
テーブルの立場にさえ立てる、
702年、「千葉寺」が建立されたときも感じるができる、

だから、今日大きくなって、新しいことを体験してみようと思う。
(3月8日掲示板) (草稿要転記)

●意識のある人生～モノとの一体

昭和30年代はモノと一体感をもって共存していた時代ではなかったのか。もしかして、そこに安心感、充足感があったのではなかったのだろうか。

現代はモノが沈黙している時代である。

あるいは、モノの声が聞こえない時代である。

沈黙であれば、どのような沈黙かを聞いてみよう。

まわりがざわざわして聞こえないなら、耳をすましてモノの声を聞いてみよう。
30年代のようにモノと接することはこの時代でもまだ可能であるはずだ。

3月9日、14日 2006年

●「ウェブ進化論」～量から質へ

午後からは病院へ出張治療。早く着きすぎたので、待合室で「ウェブ進化論」（梅田望夫著ちくま新書）を読むが、これがおもしろかった。

まあ、ざっと読んだだけであるが、「隠さずに、オープンにしていくことで人類共通の利益を産み出す」、「少数の人間への大きな利益でなく、大多数の人間への利益の分配の機会を与える」、「大多数の人間を信頼する」等々は理想の話しと想っていたが、ネット上で実際にこれらの新しい試みが進行している、という話しである。

こんなことを書くと、高塚は UFO オタクのイカレポンチではないかと思われそうであるが、まあ、いいか。…インターネットの仕組みは実は宇宙人からのアイデアであり、全地球的に情報を共有するために教えられたものであるということを読んだことがあるが、そのときはピンとこなかった。まあ今の地球は危機的なところがあり、そのような情報発信、情報受信が必要であることは分からぬでもないが、ネットがそこまで威力を発揮するなどとはまるで思わなかった。しかし、実際に＜質的变化＞がすでに始まっているとは驚きである。どうもこの世界はある量を蓄積すると、自然に（現実には意図的であるが）質的变化へ移行していく仕組みがあるようだ。

「隠さない」

「共有する」

「信頼する」

これらは、この地球上の現実世界では、達成にどれだけかかるのか気が遠くなるような理念であるが、ネット上ですでに現在進行形で存在している、というのはまさしく驚きであった。

気功治療は寝不足にもかかわらず、うまくいく。

量の蓄積でよくいわれるのは、パーセントの話しである。10パーセント変われば、全体があっという間に変わるというのが有名であるが（2、3パーセントでよいという話しもある）、このこととは別に、

（3月8日 HP 日記より）

●三つの身体

三つの身体、いずれも使用することが栄養となる。

使用過多による弊害は稀である。（参考：シュタイナーの人生）

よくあることだが、身体2と3を大切に、
身体1をないがしろにしたともいえる。
ただし、そこに人は感動する。

(加筆して掲示板記入予定)

3月10日、14日2006年

●意識のある人生

世界を感じてみること。

世界に触れてみること。

いま、どのように感じるだろうか。

いま、どのような触感があるだろうか。

(要加筆)

3月11日、19日2006年、3月22日、27日、4月17日2007年、9月29日、10月4日、
14日、15日、12月20日2010年

●意識のある人生～ヒーリング・シンクロシティ・気づき

癌になった。

医師は余命一ヶ月であるという。

その宣告は<正しかった>のか、その通りであるのか。

このような「言葉」の使い方、このような「考え」の使い方はつねにあり、それが当たり前だと思っている。

だが、そうではなく、

「癌の本当の言葉をとらえること」

「癌の本当の考えをとらえること」

「癌の本当のしるしをとらえること」

このように世界に働きかけてみることである。

このように世界にふれてみることである。

たとえば、

「あなたのこれまでの食生活をあらためてみませんか」

「あなたのこれまでの考え方をあらためて、新たな人生を生きてみませんか」

あるいは、

患者さんの家族の生き方を問いかけている、

あるいはまた、
余命を宣告した医師自身の生き方を問いかけている、

そういった「言葉」であるのかもしれないからである。

このことは癌だけでなく、世界から発せられるあらゆる現象に対していえることである。
(4月17日2007年掲示板) (加筆して再掲10月14日2010年掲示板)

▲言葉

谷川浩司が名人になった時に本当に祝ってくれた電話をしたのは、内藤国雄九段だけであつたという、盲人の祖母の話し。

盲人になって、世界からの声を聞くこと。人からの声でなく。

神は全ての人に対して問いかけている。

シンクロシティ

言葉であるのではなく、動詞になること (成長へのシュタイナーの第一条件 (謙虚))

日華氏の「わたしは言葉に命をかけています」という言。

●身体～ウォーキング

意識を身体だけに向けることによって身心にまとわっている所有というオリが洗い流されていくのではないだろうか。

ただ、ただ、歩くこと。

黙々と歩くこと。

グルジェフの言う肉体を主人としないことの超努力でなく、身体をとことん使うことにより行き着くところに行くこと。

■身体

ノートに書いていることがすべてになること。

為し、存在となること。

3月12日2006年、12月20日2010年

●意識のある人生

今日元気で過ごすこと。
今日生き生きと過ごすこと。
今しぼんでいても、今大きくしようとするのはできる。
すぐには大きくできなくとも、大きくしようとすれば、
世界はあなたに応え、
あなたが大きくなるようにその姿を変える。

(3月12日 2006年掲示板)

●気功教室

ひとりひとりの教室にすること。
呼吸法。
したいことを実現させてあげること。

3月13日、14日、16日、19日、20日 2006年、3月27日 2007年、9月29日、10月4日 2010年

●意識のある人生～聖徳太子のヒーリング

聖徳太子のようにいくつものことを同時にやるというのは至難の業である。凡夫高塚はひとつのことに集中して行うことさえできないのであるから、いきなり聖徳太子を目指すというのはおこがましい。

だが、と思う。いっそうのこと、困難なことから始めるほうがよいということもある。とりあえず、人生をふたつ生きてみようと思う。

ひとつは今までのようにたどられる人生。

もうひとつは「常住坐臥のヒーリング（遠隔治療）」人生である。

要するに、何をしてもそのこととは別に常に気を送っていること。

この意識だけは常に持ち続けること、このことに挑戦してみようと思う。

(3月27日 2007年掲示板)

■グルジェフの指の運動の訓練

■升田幸三の修行時代

●シンクロ～車のデザイン

時代にシンクロして車をデザインしたのか。
デザイナーに時代がシンクロして車ができたのか。
この問い自体が間違いなのか。
全体、ヒト、神

シンクロとは一体のしるしなのだろうか。

布置の問題

第三のものの存在との関係

●ヒーリング

昨年からわたしの能力を超えているのではないかと思われる困難なヒーリングがこうも訪れるわけとは何であろうか。

そのわけの全容は不明であるが、いろいろ考えてみた。

まずは、手をかざしてすぐ治る簡単なヒーリングをしてもわたしにとっては意味はないということである。

(3月16日 2006年掲示板)

わたしにとって意味のないことはわたしには生じない（もちろん、このことはあらゆる人に対していえることである）。

では、わたしにとってどういう意味があるのだろうか。

これまでのわたしにはできないヒーリングをするためには、同じことをしてはだめだということだ。同じわたしでいてはだめだということだ。

これはわたしが変わることへの<世界>からの働きかけである。

手をかざして病気が治るということはすばらしいことである。過去には瞬間的に治ったことも数々ある。もしわたしが手をかざして即座に治す能力を持ち、即座に治る病人の方ばかりに専心していたとしたら、そのようなわたしの人生はいかなる人生かということになる。

とても治らないのではないかと思ってしまう機会は、臆すべき機会ではなく、進むべき機会である。わたしの能力を超えた機会は与えられない。このことを肝に銘じることである。ただし、この機会の達成は今のわたしを超えることによってなされる。

(3月21日 2006年掲示板)

■ヒーリング

掃除でいくと電気掃除機を使って掃除をするようなもので、きれいにする事自体を問題にすればほうきで掃くよりも掃除機を使ったほうが早くきれいになる。ただし、行為者にとって行為そのものはどちらの行為がその人にとってよいかは別問題である。

(掲示板記入予定)

掃除は掃除そのものだけが問題であれば、ほうきを使ってでなく、電気掃除機を使って早く掃除をした方が合理的である。だが、人生では行為そのものだけが問題であるというの
はまれなことである。人生全体のなかでは、掃除機による 10 分の掃除よりもほうきよる 30
分の掃除の方が<有意義である>ということがあるのである。成功と呼ばれることをして
大金持ちになるよりも失敗と呼ばれる貧乏人になることの方が<有意義である>というこ
とがあるのである。

健康でなく、病気になることもそうである。治るヒーリングをするのでなく、治らないヒー
リングをすることもそうである。

もちろん、掃除機の人生もあり、大金持ちの人生もあり、健康の人生、必ず治る人生はず
ばらしい人生であり、否定するようなものではない。だが、掃除機だけを求め、大金だけ
を求め、健康だけを、治ることだけを求めるのであれば、きっと大きな喪失があるであろ
う。

(3月27日2006年掲示板)



行為への愛(動詞) ⇔ 結果への愛(名詞)

└常に道にいること

なぜであろうか。

失敗によって変わることができるからである。

■ヒーリング

10分で治る

100時間で治る

100時間を

ひとつには、意識的な気の送り方をしないと治らないということ、つまり、意識のある人
生を送ることへの手助けである。

今の条件～最小の条件で最大の効果をあげる。そのためには、グルジェフ流の身体の使用
が条件となる。その使用はまた、意識のあるヒーリングへと通じることとなる。

■ヒーリング～一体

この世界の創造主が与えてくれたこと、それは、患者さんとその家族と親戚と病院と点滴とである。そして、わたしを含めて、それらすべてが全体であること、創造主であること、ひとつひとつに神性と創造が宿っていること、このことを知っていて用いること。

3月14日、21日2006年、3月22日2007年

●ヒーリング（和歌山）

二日間で治るように行なう。

いつも、今日完治するように行なう。

他の人の営みには長期戦略というものがあるが、気功治療の場合はそうなのであろうか。一瞬にして治るといふことがあるので、やはり、今日のこの治療で治るように行なうべきではないだろうか。

●三つの身体

第一の身体～運動・食事（欲をかかない・菌の種類）

第二の身体～個人の心（～独自性・小児性）

神との対話を三つの身体の側面からみしてみる。

●怖れ～もの

与えるものがないと思うと人は怖れる。

奪われるものがあるのではないかと思うと人は怖れる。

だが、どのような人も与えることができるものを持っている。

そして、あなたのもので奪われるものは何もない。

奪われるとしたら、それはあなたの手元にあるということだけであり、それはあなたのものではない。

（加筆して掲示板記入予定）（草稿要転記）

まず、与えること。七倍になって返ってくる。

あなた自身に与えている。

3月15日、19日、20日2006年、3月27日2007年、9月30日、10月6日2010年

●質問～競争（ゴール）

100メートル競走では、スタートから100メートル先にあるテープがゴールである。

だが、ひょっとしたら、ゴールはスタート地点にいるわたし自身かもしれない。

争うためには走らないというわたしがゴールかもしれない。

100メートル競走以外で、日常生活、あるいはこの世の出来事で、競争のゴールが自分自身であるものがあつたら、あげてみてください。

(加筆して掲示板記入予定)

100メートル競争

ゴールを逆に

5メートルの走者～純粹さ

囲碁でわざと負ける知的障害者

イエスのすべての人のあとから歩む話し

フランスの柔道家で試合に出ない柔道家

戦わないこと

ガンジーの無抵抗主義（非戦と不戦（無抵抗という抵抗ではなく、ただ抵抗しないということ）～「ガンディーからの問い」

神との対話での進化した星でのゲームは勝ち負けを争わない

詰め将棋は本来出題者と解答者の勝ち負けを争うものではない

(教室資料要転記)

●ヒーリング

ひとつひとつのモノに神性が宿っている。

とするなら、

点滴の中にも神性があるはずだ。

病院のベッドにも、病院の部屋の壁にも神性はあるはずだ。

そのような神性にも働きかけてみること。

すべての神性を同じ方向にしてみること。

(3月20日掲示板)

3月16日、18日、30日2006年、7月18日2007年、9月30日、10月5日、6日2010年

●ヒーリング～三つの気

体の鍛錬により生じてくる気

奇蹟と呼ばれるようなタナボタの気

そして、意識を持つことにより作られる気（1 思いで 2 集中力で 3 創造力で）

■ヒーリング

この世界の創造主が与えてくれたことである。

そして、患者さんも家族も点滴もわたしも全体（創造主）の一部であり、全体でもあることを知っていること。

■身体

グルジェフ流の身体使用

最小で最大の効果を及ぼすように～最終的には、静寂。。こころがぶれないこと。

ヒーリング中も無駄なことにエネルギーを費やさないように

■ヒーリング～能力

条件は今で必要にして十分なはずである。

世界はそのようなものをわたしに与えてある。

このことはヒーリングのみならず、あらゆることにいえることである。

■持ち物

Kさんの熱意～持ち物なし

高塚 ～気功治療

尼僧 ～火の鳥の羽

少ないものを持っているものが多くを与える。

▲ドストエフスキーの本～貧者の物語

●意識のある人生

これまではしたことのないことをした、そのような一日であったこと。

これまではできなかったことをした、そのような一日であったこと。

これまではしなかったことをした、そのような一日であったこと。

毎日、そのような一日であったこと。

（3月18日掲示板）

昔、疲れてもやめなかった、受験勉強。

■意識のある人生

何十年前であろうか、島倉千代子が歌っている時に、大きな地震があつてみなあわてふた

めいたが、島倉千代子は全く気づかずに歌い続けていたという話を聞いたことがある。

どのようなことがあっても決してやめないことを自分自身の中に構築すること。

地震があっても、リストラがあっても、世界が終わりになっても、決してやめないことを自分自身の内に構築すること、そして、それを外に表現すること。

(10月15日 2010年掲示板)

●わたし

子どもに対しては大人になることを知っているので、怒り方にも限度がある。
だが、大人に対しては<より大きな大人>になることを知らないの、しかもなおかつ自分自身が<より大きな大人>でないの、限度を越えて怒る。お前はわたしと違う、どうしようもない奴だという。

イエスは確かこのようにいった。

あなたがたもわたしと同じである。
あなたがたがあなた自身を知れば、わたしが行ったこと以上のことができる。

これは

イエスが見たものを相手の中にもまた見たのである。
イエスが達成したものを相手の中にもまた見たのである。

だから、どのような時にも忘れないこと。
相手の中に見たものは私自身であるということ。
(加筆して掲示板記入予定)

3月17日 2006年、9月30日、10月6日 2010年

●禍福

病人がいると、親切になる。
貧乏であると、親切になる。

病気になると、怒り始め、そして、親切になる。
貧乏になると、怒り始め、そして、親切になる。

病気も貧乏もわたしのものではない。

●意識のある人生

全てにわたしを注ぎこむこと

すべてに全身全霊であること

いままでできたことを繰り返しても意味はない

たとえ他者にとってどれほど有意義であっても、いままでしたことの繰り返しの行為はわたしにとって意味はない。

あとでくじけないよう、今全力を尽くす。

今であれば治りやすい。

ちんたらやらないこと。

3月18日2006年、10月5日、6日2010年

●成長

子ども→おとな

おとな→

おとなでも変化、成長はある。

●ヒーリング

一回一回がタイトル戦の一局の将棋のようである。

一局、一局全力を尽くすことと、七番勝負全体を見通すこと。

ヒーリングについても一喜一憂するところと全体をみるところと。

●質問6 1～<時空>

一日を48時間にするためには二人分生きる。

二人の自分、そのひとは常にヒーリングをしている自分である。

<時間は何をするかによって、長短が変わってくる>。

だから、時間は時間だけでなく、時空なのである。

このように時間を変える要素は他にもある。

その他には、どのようなことがあるだろうか。

(10月6日2010年掲示板)

3月19日、21日 2006年、10月6日 2010年

●ヒーリング

ここに太陽を宿す。

身体に太陽を宿す。

患部に太陽を宿す。

まず自分自身がハトホルのいう太陽にあたり、太陽のことを知ること。

●チャクラの開発

シュタイナーによる開発にしたがう。

●意識のある人生～主人

一体、誰が主人であるのか。

一瞬一瞬、ふり返ってみる。

3月20日、25日 2006年、7月18日 2007年、9月30日、10月5日、6日、15日 2010年

●草稿

所有とクリア

■質問60～<わたし>

病気を治すのは神であり、病院まで歩くのも神である。

だが、疲れていても病院までヒーリングに行く選択をするのはわたしである。

この意味で、

<今日のあなたの行動の何があなたであったか>

書き出してみてください。

(10月5日 2010年掲示板) (「草稿」選択に要転記)

▲動詞

無意識に歩けば、名詞であるが、意識して歩けば、動詞になる。

歩きがベクトルになるからである。

神からわたしになるからである。

●自己研究

何をするかでなく、何であるか。

何であるか、がわたしである。

何であるかのあとに何をするかがくる。

行為にわたしはない。

あるとしたら、行為についているわたしの気、わたしのエネルギーである。

きれいに掃除をしても、いやいやでしたのか、喜んできたのかによって、きれいさから受ける感覚が異なるような、そのような気、エネルギーの行為がわたしである。

何をするかは第二であり、何であるかが第一である。

●悪人正機説

間違えても、間違えても、よい道が用意されている。

とすると、

間違えて、間違えて、間違えて、間違えての人間、

悪人で、悪人で、悪人で、悪人で人間、

そのような人間には善人とは異なるすばらしい道が用意されているのではないだろうか。

この道こそ、親鸞が見た悪人正機の道ではないだろうか。

もしかして、わたしは間違え以下の人間、悪人以下人間ではないだろうか。

救いがたいとは、このわたしのことではないだろうか。

どのようなことでもよい、<為す>ことである。間違えても、悪でも、為さないことよりはるかにましである。

(3月25日掲示板) (7月18日2007年掲示板)

3月21日2006年、7月19日2007年、9月30日2010年

●望み

望みは実現する。

問題は、何を望んでいるかということである。

本当は何を望んでいるのか、ということである。

3月22日、23日、25日2006年、9月30日、10月6日、7日2010年

●エネルギー～時空

時間にエネルギーを注ぎこんでみること

世界にエネルギーを注ぎ込んでみること

どのようになるかをよく見てみること

■遠隔の気

●ヒーリング～意識の色合い

一方において、ヒーリングにおいて初めて送るときの純粋な意識を次第に保てなくなるといふことがある。

他方において、過去をふりかえると、単なるノスタルジーを越えて、過去の意味が見えてくることもある。今、過去に生きることができるなら、異なった人生を感じながら生きることができるのではないかと思えることがある。

このような仕方でヒーリングを継続してできないだろうか。

意識が下がるのではなく、その色合いが変じることにより、よりよい気が送れるということはないだろうか。

バックミンスター・フラワーのいう<包括的にみる>ということを顧慮する。

●身体1

イチローの身体の使い方のように、
玉三郎の身体の使い方のように、
空中浮揚の身体の使い方のように、
いくら走っても疲れなかった身体の使い方のように、
そのように歩いてみる。

気功治療のときも同様である。

寝るとき、身体を休めるとき同様である。

そして、病気の時も同様である。

(加筆して掲示板記入予定)

●職業

<すべてを知りたい>ということと「今の職業に就いている」ことを考えて、今の職業を活かしてみる。

治療と教室だけの人生には困難なワークがともなう難行かもしれない、
いまの二重生活が実は自分になった易行なのかもしれない。

●質問6 2～＜偶然・必然＞（加筆して再掲）

この世界には偶然はなく、すべては必然であると思っている。だが偶然か必然かはここでは争わない。

ただ、偶然であるにしろ必然であるにしろ、この世界には偶然でも必然でもないものがひとつある。

それは一体何であろうか？

（7月19日2007年掲示板）（10月7日2010年掲示板）

わたしもこの世界には偶然はなく、すべてが必然であると思っています（感じるができることは稀ですが）。ただ、偶然でも必然でもないことがひとつあります。それは何だと思えますか？

（3月22日メール）（教室資料）（草稿要転記）

自らが然りということ（自然）

自らが原因であること

└過程における自由行為だけが原因である

└行為への愛？

わたし

選択

偶然必然、未来にとらわれないことである。それらを統括する自分自身を知り、自分自身から世界に発信することである。

●神と人間

神と人間の関係についていろいろな見方ができますが、わたしがいま関心をもっていることは、神の身体としての人間ということです。これはどのようなことかという、あるとき、わたしが手をかざしたときに病気が瞬時に治った。これは神です。正確には、神の精神です。

ただし、すべての病気が治るというわけではなく、諸般の事情でわたしは気功治療に関心をなくす。わたしの関心は人間の生き方に向かい、気功教室（といっても、自己啓発セミナー）にエネルギーを費やすこととなります。だが、またあるきっかけで気功治療を再開

することになります。今度は最初の手かざしとは全く異なる道筋をたどることになります。

当初行っていた気功治療は、「一回で治らなければ治らない」というスタンスでした。実際に限りなく一回で治りましたし、また、「一回で治らなければ治らなかった」という事実があります。だが、今回は「一回で治らなければ、治らない」と言うことができない患者さんと家族、わたしがいます。今度は一回手をかざして治らなければ、何度も何度も何十回も何十回も手をかざすことになります。

わたしが思うに、これが神の身体であり、これが神の身体としての人間であるということです。

(3月23日掲示板)

神がどのように見えるか、感じれるか、信じれるか、知っているか、というのはひとりひとり違うものです。

■カウンセリング

>ということで、そういう周囲の人に何か良いきっかけが作れた
>らなあと思いつつ、しかし彼らの思い込みは強靱ですので、専
>門家にお任せした方がいいのかなとも思いつつ…。私は大学で
>臨床心理学を学んだので、カウンセラーを紹介する役割が与え
>られているのかな?とも思いつつ。

本来、この世界全体がカウンセリングのような場であるのですが、ほとんどの人が病気であれば、医師も看護婦もない病院のようなもので…(T_T)
ただし、これからはもっとこの世界は変わっていくでしょう。わたしが神様から教えていただいたカウンセリングの方法は次のようなものです。

まず、わたしが変わってほしい相手の姿のように生きること

(自分を棚に上げて、相手だけに変わってもらいたいと押しつける人がいかに多いことか～)

次に、相手もわたしと同じ人であること

(変わってほしいと思いつつ、あいつはしょうがない奴だと見下す人がいかに多いことか～)

まあ、これが押しつけがましくなく、自然にできるカウンセリングだと思っています。

では、また～。

高塚恒夫

■ 神聖なる矛盾～自他

これは自他の関係において、他者の自由意志を認めながらも、〈わたし〉が原因となるということ。

鏡

3月23日、25日、27日、31日、4月1日、7日、8日 2006年、10月6日 2010年

● 師

ヨガナンダでさえ師を見誤った。ユクテスワのような師がいてさえ師と思えないのが人間である。ひとりになれる屋根裏部屋があってもヒマラヤの洞窟を求めるのが人間である。ヨガナンダならぬ凡夫の身には日常生活における他者、日常生活における出来事を師とすることこそ成長への近道に思えてならないのだが。

瞑想の大事（だいじ）に神を見て、日常の些事（さじ）に怒りを出す。

行の大事に神を作り、日常の些事に小人を作る。

そのような乖離にこころと体は耐えうることができようか。

わたしをよく見るこそ肝要ではないか。

慢心の身には些事こそ大事である。

（2チャンネル書き込み）（加筆して掲示板記入予定）～出会いと出奔

まったくその通りだと思います

しかしなぜでしょうか？

最後の最後の選択

自分か神か

そこで神に向かうには

運命・時が大きく干渉してきます

一歩手前で

歩みを止めてしまいます

「待っている」のです

>31 さま

今日神であろうとすることはできます。
この瞬間神であろうとすることができます。
運命も時も今日であり、この瞬間です。

求めれば今日のこの瞬間が神への道になり、
どのような人にも神への道の<しるし>は示されます。
ただし、ヨガナンダでさえ見誤ったように、その<しるし>をしるしとして見ることはなかなか困難かもしれません。

われわれとしては「師を示してもらえるまで瞑想をやめないと決意し、求めつづけた」ヨガナンダの熱意を学ぶことではないでしょうか。
ただし、多くの人にとっては師のように思えない人、師のように思えない出来事が師として現われるかもしれません。
(3月25日2チャンネル)

ヨガナンダはババジと何度か会っているようですが、「あるヨギの自叙伝」に出てくるある出会いでは、ヨガナンダがババジを追うことをババジは許さなかったようです。
なぜなのでしょう。
(2チャンネル書き込み予定)

大きな夢、大きな出来事には賢い解説など不毛にしてしまう生命力がありますが、あえてふれると、ひとつ考えられるのは、
ババジを追うことによるヨガナンダの執着を取り除くため
その出会いでババジのメッセージのすべてを与えた
ヨガナンダの使命はババジの元で学ぶことではなく、西洋への伝道

■真偽

>43

前スレ読んだけど、要約すると

ゴーヴィンダンというカルト教祖に、ころっと騙されてたサンジェルマンさんという人が、

「Guru Param Para」という正統クリヤヨガ？を学んでいる方に諭されて目を覚ましたと。で、その方を勝手に「指南の師」さんとか呼んで崇拜しはじめました、という感じかな。

ひとつだけ気になるのは、ヨガナンダに対する批判が実に巧妙に展開されている点。前スレ読んだ人は、ヨガナンダのクリヤヨガが亜流かインチキのような印象を受けると思う。

ヨガナンダが不完全なヨガ教師か、類まれな偉大なヨガ教師なのかは、皆さんが彼の著書を読んで、自分で判断をして欲しいですね。

ババジに足を洗ってもらった似非修行僧がいます。彼は洗ってくれた人がババジのような立派な人物だとは気づかなかったようです。洗ってもらう自分が立派であるときえ思ったでしょう。

わたしの前にいる人物が本当はどのような人であるか、これを知ることが自分を知ることと通じることです。

ヨガナンダの著作「あるヨギの自叙伝」「人間の永遠の真理の探究」が似非であるか、真理であるか、このことも自分を知ることと通じることです。

つまらないと思えば「つまらない」と言えばよいし、おもしろいと思えば「おもしろい」と言えばよい。少々高いが、つまらなければ、途中でやめて古本屋に売り払えばよいだけだと思います。

前スレがどのようなものであったかはおくとして、43さんがおっしゃるように他人がどうしているかではなく、縁を感じたなら自分で読まれて判断することが自分を生きることへの第一歩であると思います。

「あるヨギの自叙伝」がうそっぱちであっても、わたしとしては役に立つことが多くあるので、利用させていただきだけです。だまされてもたいした問題ではありません。もちろん、読んでつまらないという人がいたとしても、それはそうなのだろうと思うだけです。

(3月27日2ちゃんねる)

>SRFでは自分の霊的な体験をみだりに他人に話してはいけないということになっているから、わざわざ2ちゃんにやって来て、自分はサマディを経験したと報告する人はいないかも。

>霊的な体験を話すとエゴが強まるから？

> 靈的な経験は個人的なものであり、他人に話すことでその靈的体験のエッセンスが失われるのだそうです。実際自分の宝物のような体験をペラペラと人に話すことは、なんだか勿体ないと思いませんか。

あとおそらく伝えることができないことを話しても仕方がないということがあるのではないのでしょうか。

グルジェフは

「人から奪うことのできない、その人自身の属性となるいかなるものも、仕事しない者に伝授することは不可能である。そのような伝授は存在し得ないのだが、不幸にして人々は、往々にしてそういう伝授が存在すると考える。あるのは“自己伝授”だけである。」

（「グルジェフ弟子たち語る」54 ページ めるくまー出版）

と語っています。

ヨガナンダも靈的な喚起をもよおさない奇跡的な話しは「自叙伝」には書かなかったと言っていたはずです。

また、54 さんがおっしゃられるようなこともあると思います。沈黙は金といますが、沈黙は錬金術と通じているのかもしれませんが。沈黙により生成されるものもあるのかもしれませんが。

（4月1日2ちゃんねる書き込み）



> 最後と言いながらこのように再度書き込まねばならない自分を滑稽と思いがらも

これで終わりと言いながら、終わらないのが人生だとは思いますが、「最後」という言葉の繰り返しがあまりにも多いように思われます（1の書き込みからして）。もしかして、これが最後ということで「何らかの効果」を無意識のうちにされているのではないのでしょうか。言葉は重みがないところと重みのあるところがあります。

重みがあるところで、「自叙伝」でババジは弟子のラヒリマハサヤの理不尽と思える願いに出現されたのではないのでしょうか。

言いすぎであるかもしれませんが、記憶するかぎりでは、何も語らないということが初心ではないのでしょうか。

まあ、そう言いつつも、こうやって語り合えることがおもしろいとも言えるんですがね。
(^o^)/

■

>ある一定の霊的準備が出来た人以外は、単にテクニックを学んでも無意味なものになります。

Fさんのおっしゃることはごもっともだと思います。

●約束

ラヒリ・マハサヤのババジの出現

グルジェフの借りた指輪の約束

グルジェフがピーターズにせまった約束

求めれば得られますし、たたけば門は開きます。

「手のひら療法」の日華氏の「わたしは言葉に命をかけています」という言。

「10月1日2010年NOTE」参照

3月24日、28日、29日2006年

●ヒーリング

病室全体に入れてみる。

瞑想の紫色のエネルギーと患者さんとを同化してみる。

3月26日、30日、31日2006年、10月1日、4日、8日2010年

●ヒーリング～病気

知らないうちに病気になった。

知らないうちに病気は治るかもしれない。

それを何と呼ぶか。

知らないうちに病気になった。

決して治らないという。

それを何と呼ぶか。

知らないうちに病気になった。

治し方を知っていれば病気は治るかもしれない。

もしそうだとしたら、

それを何と呼ぶか。

(加筆して掲示板記入予定)



>知らないうちに病気になった。

>知らないうちに病気は治るかもしれない。

>それをなんと呼ぶか。

私はそれを神と呼び、また、人にとっては闇と呼ぶ。

闇ではあるが、救いのある闇である。

>知らないうちに病気になった。

>決して治らないという。

>それをなんと呼ぶか。

人は「神も仏もない」と呼ぶかもしれない。

だが、「ない」ということにしても、初めて神と仏が登場する。

>知らないうちに病気になった。

>治し方を知っていれば病気は治るかもしれない。

>もしそうだとしたら、

>それをなんと呼ぶか。

私はそれを人と呼ぶ。

(加筆して掲示板記入予定)

●意識のある人生～偏見

Iさんの某宗教への傾倒ぶり、某教祖への傾倒ぶり、それは傍から見ていてこっけいさえあるのだが、その傾倒ぶりにあたるものを自分の場合に当てはめてみる。

そして、それを未来の自分から見てみる。

(3月31日掲示板)

3月27日、30日2006年

●内と外

高橋巖の内から外へ

大小

所有

(草稿要転記)

●意識のある人生

今から20年前のある一日をふりかえると、その一日はまったく違ったように生きていくことができたことに気づく。

同じようにして、20年後から今日一日をふりかえりながら、今日一日を昨日とはまったく違うように生きてみる。

(3月30日2006年掲示板)

●動

動かすこと、動くこと

(浅草の収支、金銭と行動)

●ヒーリング

意識もなく、動くこともできず、やせほそってしまった人。

神はなぜわたしをその人にひきあわせたのだろうか。

無意味なものを見ているわけではない。

その意味とは何であろうか。

●意識のある人生～30年後のばら色

「明日の神」では、30年後に人類の意識の大変化が起こるように書かれている(もちろん、それより早いこともあるし、変化が起こらずに悲惨なことになる可能性もある、と書かれている)。その変化は2、3パーセントの人の意識の変革がなだれをうって他の人にも影響を及ぼすように書かれている。

よくなることは結構であるが、わたしにとって問題は変化する側でなく、変化される側にまわるのであれば、それはたまらないことであると思っている。

3月28日2006年

●魔法

ノートの魔法とは創造のことである（草稿要転記）

● 正統

すべてが正統である。

何に対して正統であるか。

神に対してである。

神への道を志すものは正統である。

だから、ババジは似非修行者の足も洗う。

すべてが正統である。

誰に対してか。

わたしに対してである。

わたしへの正統の機会が与えられる。

神を知っているか。

あなたのように知らないが、わたしのように知っている。

（要加筆）

3月29日2006年

● ヒーリング

患者さんを神様からの使者であると思うこと。

3月30日2006年

● 意識のある人生～レンジ・関連

トータルで人生を見る。

人生を短く切り取らないこと。

レンジをどのように取るかで意味は異なってくる。

今この瞬間として切り取れば悪いことも、百年のレンジで切り取ればよくなることは数多くある。

人生を関連で見る。関係性に目を向ける。

（具体性を記述）

● 意識のある人生

まず、仮想を見ることができるようになる。



世界一に金持ちは世界一の貧乏人かもしれないし、
世界一の貧乏人は世界一の金持ちかもしれない。

この世界に生まれてきて何を手に入れたのか。見えるお金と見えないお金がある。

3月31日 2006年

●ヒーリング

自分に気を送る。

目の前のカップに気を送る。

遠く離れた病人に気を送る。

過去の不幸な出来事に気を送る。

一体となって気を送る。



自由⇨行為への愛

★4月 2006年

4月1日、2日、4日、16日、17日 2006年、10月1日、2日 2010年

●質問59～<ヒーリング>

知人に重病人の人がいる。今にも亡くなりそうとのことである。その人の話をあなたは人づてに聞いた。驚きはしたが、知人という関係でしかないので、深い感情がわきあがってきたわけではない。。。

だが、そこで、奇跡が起こり、神様があなたに問いかけてきた。

「次の三つのうちのひとつをあげるが、どれが欲しい。

どうしても治してあげたいと思う「こころ」

1時間手をかざすと治ることがある「手」

瞬時にあらゆる病気を治すことができる「火の鳥の羽」

どれでもあなたにあげるよ。」

道徳の時間なら、1 番目が正解であろう。体育の時間なら 2 番目、技術家庭の時間なら 3 番目であろうか。

だが、この掲示板は道徳の掲示板ではない。

あなたは何が欲しいというだろうか。

(4月3日 2006年掲示板) (10月2日 2010年掲示板)

世界中の 99 パーセントの人は 3 を取るであろう。

宗教家は 1 を取るであろうか。いや、宗教家も多くは 3 を取るであろう。

2 を取ったのは、わたしである。現世に生きてないわたしである。では、なぜ 2 を取ったのであろうか。1 時間で治らない人には私は何をできるのであろうか。

1 を取った人には、亡くなられる人はわたしもそうであると思う。

あるいは、わたしは死にたかったのだから、そう思われるのは心外だという。

3 を取った人には、

わたしは死にたいのだから、お願いだからその羽を使わないでくれと言う。

誰もが<思うことができる>気持ちを持っていると思いきこんでいるので、第一の人になりたいとは思わないかもしれない。

だが、今日<思うことができる>人にお会いし、こころ温まるおこころづかいをいただき、今のわたしにできることはせめて手を少しでも多くかざすことだけである。

なぜなら、今のわたしには思うことはできないからである。

治れと思わなくとも治る羽である。

どの人の道も黄金の道である。

■みつつのうちのどれかを日常の出来事、モノでふり返ってみる。

4月2日、3日、13日、14日 2006年、10月8日 2010年

●願い

ある神社で何時間も手をあわせている人がいた。

どうも毎日のようである。

絶対になえられない願いを願ってなければよいのだが…。

そう、この世界には絶対になえられない願いというものがある。

それは何であるか。

(4月2日 2006年掲示板)

神様にいくらお願いしても他者の自由に関することは決してかなえられない。

彼氏がわたしを好きになるようにしてください。

このような願いはかなえられない。

それは不可能だからでなく、<自由>は人間存在の究極の宝であり、それ自体が<神>とも呼べるようなものであるからだ。彼氏の自由は神とても侵さない。

ただし、彼氏にお願いをすれば、彼氏の魂にお願いをすれば、この人生の予定と狂いが生じて、もしかしたら聞き入れてくれるかもしれない。

(4月15日 2006年掲示板)

●ヒーリング

精魂尽き果てるまで入れること。

尽き果てるまで行なって生まれるものがある。

それが一枚皮がむけるということである。

さらにまた、フラワーの言う<包括的視点>を忘れずにいること。

■技術

意識を入れること。

神を入れること。

佐川幸義の合気は気ではなく、技術であるという言。

■治療者自身の清め、これを常に意識する。

■「絶対に治す、絶対に治る」～これを強くする～→「治った」という完了形の意識へ

同時にハトホルのいう「予定表をヒーリングに持ち込まないこと」

■

K下氏の熱意のエネルギー

その作り出すもの、足りないもの。

■今回のヒーリングの縁

瞑想

意識のある人生の矢印の長さ
完了形への挑戦

■完了形は一寸の疑問も不可である。

このことはせつな的な無意味な創造がなされぬための条件でもある。
完了形、意識のある人生の実現によってこそ意味ある創造がなされる。

●グランドキャニオンを渡る夢のもうひとつの意味

わたり始めたこと

怖れていたが、わたり始めたこと

遠い向こうのがけまで渡りきるということ。

●善意（加筆して再掲）

善意にはつねに「つまずきの石」が用意されている。

わたしはその石につまずき、これ以上はできないという。

その石は語る。

お前の善意はここまでである。

そのような石につまずき倒れても、起き上がることができる言葉がある。

あなたのこれまでの善意を超えて、さらなる善意を続けていくことができる言葉がある。

それは、

<これが本当のわたしだろうか>

<今愛なら、何をするだろうか>

と自分自身に問いかける言葉である。

（4月13日2006年掲示板）（4月14日2006年掲示板）（7月10日2007年掲示板）

「神との対話」の神の善意を思い起こすこと。

「もし、わたしがそうであるならば、あなたがたはどうなってしまうであろう。」

逆に、「自業自得」とか「あなたは間違っている」と言って、見放して、世界を今のよう
にしてしまったのが、私である。もしかして、我々でもあるかもしれない。

だから、この世界を変えるためには、ひとりひとりの小さなことから無限の善意を実践
することである。

4月3日2006年、12月24日2010年

●悪意

悪意が患者自身の場合もあり、
悪意が自分自身の場合もある。

●仮想世界

出来の悪い小学生の日記のようであるが…

3日（月曜日）は朝から晩まで気功治療をしていました。

疲れたと言いたいが、シュタイナーであれば決してそんなことは思いもしないし、口にもしなかつたろうとふと想像する。

コンビニで新刊のマージャン漫画「アカギ 17」を買う。主人公のアカギは同じ作者の「天」という漫画ですでに死んでいる。すでに死んでしまっている主人公を別の漫画で今もせっせこ描き続けている。スゴ〜イ、と思う。死んじゃったけど、生きている、ということである。この現実世界と呼ばれている仮想世界の秘密を垣間見ているようである。

（4月3日の日記より）

●つまずきの石

気が理解されないということもわたしにとっては重要なある意味を秘めているのではないだろうか。

●ヒーリング

K下氏がヒーリングをしたらどのようなヒーリングをするであろうか。

初心のヒーリングを忘れぬこと。

4月4日、9日 2006年、12月24日、25日、26日 2010年、2月18日、21日、22日 2011年

●イエスの瞑想・所有

30万円はらって瞑想を教えてもらった人がいるが、その人は自分が教えるときにいくらが適切であると思うか。

10人に教えるなら、ひとり3万円であろうか。

やはり30万円の価値があるので、10人でもひとり30万円であろうか。

あなたはただで与えてもらったのだから、ただで与えなさい。

こう弟子に言ったのはイエスである。

あなたは 30 万円はらったが、ただで与えなさい。

こう言うのはへば塚である。

今日、この日は取るためにあるのではなく、与えるためにある。

今日この日というのは、クリスマスイブだけでなく、永遠に続く毎日である。

(12 月 24 日 2010 年掲示板)

●所有・能力・動詞

手塚治虫の「火の鳥」に火の鳥の羽を使って永遠と思われる月日を魔界、霊界、人界の病人の治療に当たる尼僧の話がある。彼女は父親殺しの応報として、この無限地獄とも思われる治療を続ける。

ある側面からは彼女は地上最高の治療家である。どのような病気も火の鳥の羽をかざすことで治してしまう。多くの人、多くの魍魎魍魎から感謝される。

だが、ある側面からは彼女は地上最悪の極悪人であり、無限大の回数火の鳥の羽をかざすことにより彼女は救われる。

羽は彼女のものではない。彼女を救うものである。

他の能力というものも大同小異ではなかろうか。

能力というものはその人の成長の助けとなるものであり、その人自身が所有しているものではないのではないだろうか。

所有とは、身につけ、存在となったそのものであり、その所有は永遠の所有である。

それは、100 メートルを 10 秒で走る足ではない。それは生まれ変われば走ることができなくなる可能性があるからである。

永遠の所有となるのは、10 秒で走れるようにした練習である。

あるいは、10 秒で走り、金メダルを取れなかった時に獲得した新たなる自分自身の思いである。

その人自身の永遠の所有となるものは、金メダルでも国民栄誉賞でもなく、歯を食いしばって鍛錬したことであり、新たなるこころの到達点である。

「火の鳥」の尼僧であれば、無限大の回数羽をかざした行為である。

これは未来永劫その人のものである。

そして、何度生まれ変わっても、何にでも使えるようになる、その人自身の属性である。

(2月18日 2011年掲示板) (草稿要転記)

■「名前はちょっと」さんへの返信

名前はちょっとさん、書き込みいただき、ありがとうございます。

> 神様/火の鳥はむごいですね。

> 病気や怪我で人民が苦しんでいるのを見下しています。

> それを癒す行為を好ましく思っていないような気がします。

> 負のカルマは自分自身で解消しろ、ということなのですね。

> こんなことを思うから私は疎まれるのでしょうか。

> 私も羽根を使って、カルマの法則に逆らって、治療をしたいものです。

> 今のところ、そんな能力はないのですが。

わたしは負のカルマと呼ばれるものに働いている力もそれを解消する力も同じものであると思っています。

ただし、結果として現われるものには大きな違いがあります。

その違いを生むのはわたし（私）であると思っていますが、わたし（私）の行為、言葉、考えをよくよく注意してみなければわたし（私）が原因とはなかなか思えないかもしれません。私自身、不愉快な出来事はいつも他人のせいにしていきます。

> 蛇足：私が左馬之介・八百比丘尼を気に入っているのは、患者を選ぶことです。怪我が直ったら又敵を切ると言う武士の治療を拒否しています。現代の医療従事者としてはありえないことです（どうですかね）。

これは大きな問題ですね。

教室でも何度か話題にしたことがあります。

創造主は殺人者を存在させたということは、殺人者の存在を許容しているのでしょうか。

あるいは、負のカルマを課すという形で否定しているのでしょうか。

そのケースでわたしがどうするかにはふれませんが、ただ、いまだに忸怩たる思いでいることは、治ったかどうかは別として、手をかざしに行かなかったことが何回かあることで

す。

>私もそのように思います。

>でも、次の生へ持ち越せるのは数分の1かもしれません。

確かにそうですね。わたしの場合は永遠の所有となる属性（＝存在）は、自身の全人生の数分の一というより数万分の一か。。。もしかしたら、数百兆分の一かもしれません。

これは謙遜でなく、与えられた能力というか、選択というか、不可思議さというか、、その与えられたもののほんのほんのわずかしか使っていない（達成していない）という感じですか。

このことは私の行為の稚拙さを語っているだけでなく、わたしの存在そのものに与えられたものがあまりに大きいということを物語っています。

私は毎日、「昨日までにはできなかったことを今日行なった場合に、どのような大きなことも小さなことも、一回行えば1円貯金した」と考えて日記につけていますが、これは貯金というよりも預金の使用すべきかもしれません。

わたしは莫大な財産をいただいています。もちろん、他の人も同じだと思っています。ただこの財産を人生でないがしろにしているのです。

>失敗経験、それは思いのしこりであり、負のカルマに近いものと思います。

その時だけでみればおっしゃるとおりですね。

将棋の話ですが、あるアマチュア五段の方が「人生のトータルではまだ負け越しているよ」とおっしゃっていました。累々たる負けの体験が10年、20年というレンジの中で五段（相当強い方です）という力量に押し上げているということです。負けて悔しくない人はいません。落ちこまない人もいません。ただそこで負けてやめてしまう人もいれば、負けて精進する人もいるということです。精進すれば違う世界が開けてくるということです。

個人的な話しですが、私は足が悪く、小学校の体育の時間は6年間見学でした。中学に入り、運動がゆるされて走り始め、陸上部に入りますが、出る大会すべてビリです。ビリ

でみじめな思いをするわけですが、走ることは好きなので毎日毎日走るわけです。そんなわたしを見て後輩がしたってきて一緒に走りたがるわけです。彼の方がダントツに速いのですが、彼はわたしの別のところをみて一緒に走りたがるわけです。その時には後輩の気持ちが分かりませんでした、今はもちろん分かります。一緒に走っていただければいいのです。それだけです。

当時私個人は遅いことに劣等感を持っていましたが、その劣等感を越えて走ることが人をひきつけたということなのでしょう。私個人は負の気持ちをかかえていましたが、トータルなわたしの生き方が人をひきつけたということで、その意味で、負の気持ちを越えた生き方をもしているということです。私がダントツに早ければそのような関係もなかったということで、この体験は後輩にとっても私にとってもこの人生での財産だと思っています。

分かりにくい話しで申し訳ないですが、

<わたしの動詞（行為そのもの）が私と後輩をすくあげている>

ということです。わたしは私という名詞（個人）でなく、勝ち負けの結果でもなく、行為そのものを通じて世界のプロセスに貢献したいと思っています。

>従って、私は今生限りで再生は無いですよ。

>何度も生まれ変わる人は少数のようです。

生まれ変わりの有無について争うつもりはありませんが、

前世でなく、わたしが存在する前に大きなものが自分自身に与えられているという確固たる確信が——もう 30 年前の話しですが——生じたことがあります、

ありがたいという大きな喜びにつつまれました。ただ、この感覚は半年間しか続かず、その感覚を求めてその後生きてきたというのが正直なところです。

あと、もし生まれ変わる幸運な人が少数であれば、わたしは

「生まれ変わらない多数派になって今生かぎりの人生にしよう」

と思える人に好かれます。その生き方に好かれるということは、現実の私は少数派になら

うとする人間だということです。
普通で、愚鈍で、でもやさしい、そんな人がいいですね。
(2月20日 2011年掲示板)

異形編は何度も読みました。
神様/火の鳥はむごいですね。
病気や怪我で人民が苦しんでいるのを見下しています。
それを癒す行為を好ましく思っていないような気がします。
負のカルマは自分自身で解消しろ、ということなのですね。
こんなことを思うから私は疎まれるのでしょうか。
私も羽根を使って、カルマの法則に逆らって、治療をしたいものです。
今のところ、そんな能力はないのですが。

蛇足：私が左馬之介・八百比丘尼を気に入っているのは、患者を選ぶことです。怪我が直ったら又敵を切ると言う武士の治療を拒否しています。現代の医療従事者としてはありえないことです（どうですかね）。

- > 所有とは、身につけ、存在となったそのものであり、その所有は永遠の所有である。
- > それは、100メートルを10秒で走る足ではない。それは生まれ変われば走ることができなくなる可能性があるからである。
- > 永遠の所有となるのは、10秒で走れるようにした練習である。

私もそのように思います。
でも、次の生へ持ち越せるのは数分の1かもしれません。

- > あるいは、10秒で走り、金メダルを取れなかった時に獲得した新たなる自分自身の思いである。

失敗経験、それは思いのしこりであり、負のカルマに近いものと思います。

- > そして、何度生まれ変わっても、何にでも使えるようになる、その人自身の属性である。

従って、私は今生限りで再生は無いでしょう。
何度も生まれ変われる人は少数のようです。



><わたしの動詞（行為そのもの）が私と後輩をすくあげている>

1巻189～「自分も相手も、同じ目的をもっていることを確認しなさい。

お互いが、人間関係の目的は義務ではなく機会を創り出すことだと考えれば、成長し、自分を十分に表現し、人生をできるだけ高い位置に引き上げ、自分自身にいだく間違っただけの考えや卑小な考えを癒し、最後には二人の魂の合体を通じて、神とひとつになるための機会を創り出すことだと確信すれば——そしてあなたが、これまでのような誓いではなく、そういうことを誓えば——人間関係はとて良くなる。正しい一步を踏み出すことができる。非常にすばらしい出発点になる。」

●技術

無邪気というのは、あるレベルまでは評価されるが、それ以降は、意識のある技術が必要となる。

4月5日、9日、10日 2006年、12月24日 2010年

●ヒーリング～プラシーボとしての薬（人・モノ・気）

薬というモノは信じると効くし、信じないと効きにくい。

気は信じても効かないことがあるし、信じなくとも効くときには効く。

人はモノに働きかけることはできるが、気に働きかけることはできないということだろうか。もしかして、気は人そのものである、といえるところがあるのかもしれない。

（加筆して掲示板記入予定）

●グルジェフのやけどのヒーリング（04052006）

意味1～信念のみが問題

意味2～現実に存在する真理、ただし、信念が必要となる？

確かなことは火というモノだけでは不可能な話しである。

グルジェフが使った火であるからか。

●意識のある人生

今していることをしていること。

体はほぼ完璧にそのことをしているが、

心もまたそのことをしていること。

意識もまたそのことをしていること。

●ヒーリング

超努力を推奨するグルジェフには笑われてしまうかもしれないが、気を出すときには、精根使い果たすまで出し続けている。

使い果たすといっても、少し休むとまたきれいな気が出てくる。

この「少し休む」を無限小に小さくして、

休まずに気を出し続ける方法というのではないのだろうか。

(4月12日掲示板)

呼吸法に注意する

4月6日、7日2006年、12月24日2010年

●わたし

下記の書き込みとそのサイトの記事をいくつか読んでのこと（記事が事実として）。

「言葉がない」とはこのことか。

しかし、日常とは言葉がある出来事ばかりにしているが、もしかして、日常でも「言葉がない」、そのような出来事ばかりがあるのかもしれない。

病気がない世界であれば、このような出来事はありえない。

肉体的な死がない世界であれば、このような出来事はありえない。

老、病、死がこのような出来事を生じさせる。

老、病、死は何によって生じるのであろうか。

もしかしたら、この出来事と同じ原因に生じるのではないだろうか。

わたしのものにすることができるものがある。

それは何であらうか。

移植した臓器はわたしのものになったのであらうか。

この行為に加担した医師の立場になったとき、わたしの身を挺して拒否する、告発するということはわたしにできるのだろうか。

現場でこの惨劇に参加している者と現場にいないがその利益といわれるものをこうむっている者とがいる。後者はわたしでないといえることなのであらうか。この卑劣さをわたしと無関係といえるのであらうか。

そして、わたしは何をするのか。

(4月7日掲示板) (草稿所有要転記)

■あなたが与えた善意だけがわたしのものとなる。

●所有

「ウェブ進化論」で情報をネットの世界においておく。それが一番安全だという話があった。ネットの世界であれば盗まれることはないからである。

ただ、ネットの世界でも無くなるということは絶対にありえないということではない。その意味では、この世界にあるものを永遠に保存しておく場所はない。

ここで、問題は、本当になくて困るものは何かということである。

。。。それは、おそらく自由であろう。

その自由をもしかして、「今あるモノ」が阻害してはいないだろうか。

私の今がわたしの自由を阻害してはいないだろうか。

4月7日、8日、9日、13日 2006年、3月29日 2007年

●NOTE

道端で神様に会った。

神様があなたに貴重なアドバイスをしてくださるが、その声は小さく、その姿は透明であるので、あなたは神様を無視して、きっと歩き出すであろう。

この話しは逸話であろうか、どうなのだろうか、あなたが教えられた神とはきっと違うので通り過ぎてもしかたがないのであるが。

(掲示板記入予定)

■神の声

道端で神様に会おう。

神様は貴重なアドバイスをしてくださるが、そのアドバイスはあなたが嫌いな人の話しを借りて送られたり、目の前にひらひらと舞い降りた一枚の木の葉の動きを使ったり、次の瞬間には忘れてしまうふと浮かんだイメージを使って送られるので、あなたは神様に会ったことに気づかずに今日一日を過ごすかもしれない。

神社だけでなく、道端にも、台所にも、仕事場にも、いかなるところでも神の声が送られていることを知ることである。

(3月29日 2007年掲示板)

■今～夢

信じられないかもしれないが、神は二日酔いをも使う。

不摂生をしてひいてしまった風邪をも使う。
ごろごろして読んでいた漫画をも使う。
メッセージを送るためには何でも使う。
おそらくは、わたしが吐き捨てたつばさえも使う。

今日寝転んで読んでいた漫画。
数日前、偶然開いたように思えるネットの二ヶ所のサイト。
今日届いたぜんぜん知らない人に関するメール。
たまたま開いた一年前のノート。
それらすべてから何を言っているのかが分かる。

今、神はわたしに何を言ったのか、わたしにははっきり聞き取れる。

夢を持ち、それを実現するように、と言っている。

わたしは誰が何と思おうと、この掲示板に書いていることのほとんど全てが神の声である
と思っている（ただ、誤解なきように申し添えると、わたしはわたしが神の使者といた
いのでなく、すべての人が神の使者といたいし、そのことを伝えるべく、気功教室とこ
のホームページを開いているのである。神の声はいろいろな形でひとりひとりのこころの
内に入り、また、ひとりひとりがその声を固有の仕方で表現するのである）。わたしは毎日
のように神の声を聞いているが、これほど明確に聞いたのは久しぶりである。

（掲示板記入予定）

■意識のある人生

昨日は神様の用意してくれた道を通っただろうか。
今日は神様の用意してくれた道を通るのだろうか。
道草をくうのだろうか。
横道の袋小路に入り込むのであろうか。
今歩いている道は本当の道なのだろうか。
この道はこれまでの私が好んだ道でしかないのではないだろうか。
本当のわたしの道はどの道なのであろうか。

（掲示板記入予定）

■意識のある人生

もしも「神との対話」の神がいうように、次の一瞬一瞬に最善の道が用意されているとし
たら、

創造主はいつもあなたに語りかけている。
創造主はいつもあなたに道を用意している。
最善のアドバイスと最善の道をである。
このことをまざまざと想起できること。
(加筆して掲示板記入予定)

●ヒーリング

八十年の生涯の最後の日を変えるのではなく、
八十年の生涯の十年、二十年の日々を変えるヒーリングをしたいと願っている。

先日の気功治療は八十歳のお父さんの最後の日を変えるために行ったのではなく、五十歳の子息さんのこれからの人生のヒーリングを行なったのかもしれない。お父様の病気をご縁として。

この世界のことは本当に分からなすぎる。
(4月10日 2006年掲示板)

●意識のある人生～因縁

わたしのものは来世も引き継がれる。
良いものも悪いものもである。
それが因縁である。
だから、この世で悪しきものを手放し、良きものを手にすることである。
(加筆して掲示板記入予定)

■しるし

前世の善因として今生の様々なしるしがあったが、
現世の善因をどれだけ積み上げたかははなはだこころもとないものがある。

4月10日 2006年

●ヒーリング

今戸神社の葉が枯れたのをみて…、
重い病の人には相当気をかけてあげなくてはならないのかもしれない。

●ヒーリング

患者さんの中にある神に働きかけてみることに。

瞑想しながらヒーリングを行ってみること。

4月12日 2006年

●ヒーリング

将棋を指すときのような集中力、一心不乱、と盤面を見ること

4月13日、14日 2006年、10月6日 2010年

●ヒーリング

早朝に起こされて、今日は和歌山に出張治療。

体を使って気を出そうと思わないこと。

別の出し方があるはずである。

今は本気になることしか思い浮かばぬが…。

ところで、この本気になるというのなかなか難しい。

本気の80パーセントは簡単である、90パーセントもまあ何とか、99パーセントまではできたような気がする。

だが、本気100パーセントというのはなかなか達成できない。

だから、ショック療法としての生老病死があるのかもしれない。

99パーセントと100パーセントとは質的に異なる。

●瞑想

霊眼に意識を集中する。

身体の客観化による<わたし>の出現

やわらかい呼吸の実感

姿勢、身体の微細な動き

4月14日、15日 2006年、12月26日 2010年

●ヒーリング

子どもの病気の意味合い

淳くん、彩華ちゃんの死

紙一重の願い

絶対に治ると思えること

それはスプーンを曲げることができたときの思いか、できないときの思いか

それは本当に紙一重である

その一重を「神との対話」の神であれば、
治ったと感謝すること
とされている。

ウルトラ C の治療法である

紙一重の信心

- 1 希望する
- 2 信じる
- 3 知っている

わたしのヒーリングは

「あなたは何者になりたいか」

「あなたは何でありたいか」

を手伝うヒーリングである。

その意味ではこの十年間のブランクは決してむだではなかった（というか、神はブランクをブランクにしない）。

この「なりたい」人で「病気になって人を助けたい」人もいるのである。

（もちろん、それだけの意味だけを背負っていない場合もある。～世界の多様性）

■紙一重

パラマンハサ・ヨガナンダは何回か「神が願いを聞き入れてくれるまで瞑想する」ということを実践している。確か、仏陀が悟りを開いたときも「悟りを開くまでこの菩提樹のもとから立ち上がるまい」と決心したという。

これは、おそろしく簡単そうでいて、おそろしく難しそうである。

逆に、おそろしく難しそうでいて、おそろしく簡単そうである。

信仰ととてもよく似ている。

スプーン曲げともとてもよく似ている。

実行は紙一重であり、その紙一重は鋼鉄のような紙一重である。

（4月17日掲示板）

●ヒーリング～遠隔治療

和歌山は千葉から遠いところなのだろうか、近いところなのだろうか。

和歌山は千葉とは違うところなのだろうか、同じところなのだろうか。

（4月14日掲示板）

●瞑想

神への祈りとする。

プロセスへの祈りとする。

●自他

神様の使者としての今日の前にいる人

●昭和の写真を見ていて思ったこと

昭和という 30 年前と

××という 30 年後と

両者とともにイメージする

両者とともに色付けする

●ヒーリング

病気のおかげで病人は親切を受けることができる。

病気のおかげで家族は親切にすることができる。

(3月8日 2007年掲示板)

●ヒーリング

実際にやるときにも

遠隔と同じ呼吸をして手から出す。

■知識

遠隔と同じ呼吸～やわらかい粘着力のある呼吸

それはどのような呼吸か？

わたしのものはあなたに与えることはできない。

わたしのものでないものだけがあなたに与えることができる。

(草稿所有要転記)

考えもその人のものであるから「変えること伝えること」はできないのである。

その人自らが変えるしかないのである。

変え方～相手をそのように見る

自由の問題。

●ヒーリング～遠隔治療

Oさんの遠隔は、奥さんを中心にして送るか？
それが意味あることか。

●おいしさ

おいしいご飯がある、
おいしい言葉がある、
おいしい心づかいがある、
わたしは今日おいしい気を送ったであろうか。
コンビニ弁当のような気を送ってはいなかったらうか。
(掲示板記入予定)

4月15日、30日 2006年

●意識のある人生～雲

同じ雲の形が二度と生じないように、
今日のわたしの人生と同じ人生は二度とない。
今日、どのような形になるかはわたしの自由であり、その形がわたしであり、
そして、その形は今日だけしか作れない形である。

今日には、今日だけのわたしがいる。

(4月30日掲示板)

4月16日、17日、30日、5月8日 2006年、4月24日、7月21日、25日 2007年、10月7日、8日、11月5日 2010年

●自由～ヒーリング

ヒーリングが終わって、これで自由だと思ったが、でも、どちらの時間が本当の自由時間なのだろうか。

ヒーリングの時間が自由でなければ、ヒーリングをしているのはロボットである。
ヒーリングが終わって自由な時間があると思ったならば、自由の本当の意味を知らない。
自由というのは常なる自己決定、常なる自己選択、常なる自己規定であり、「自由時間があること」ではない。

(10月8日 2010年掲示板)

楽な時間が自由で、つらい時間が不自由というわけではないはずだ。

(加筆して掲示板記入予定)

■意識のある人生

人間の営みには、印象の享受と自己表出（表現・創造）がある。

どのような状況であれ、印象の享受——世界からの語りかけと自己表出——創造的行為は常に可能である。

享受と表出を常に意識的に行うこと。

（掲示板裏面記入）

●ヒーリング～食事

食後すぐに最善の気を出せる量の食事をする。

この日はトースト一枚。

最近の便の状態～不食への暗示か（多様性の一面ではあるが、もしかして）

今日の「人間の永遠の探求」での断食の話し。

お土産の「柿の葉寿司」をひとつ少なく買ってしまったこと。

少しの痛み～腹八分

●ヒーリング～キリストの意識

こころを尽くして、魂を尽くして、…

■ヒーリング～道理

最悪の状況になってから必死になってやるのではなく、今のよい状態で必死になって気を送ること。

なぜなら、身体の維持の今のよい状態というのは、わたしにとっては必死になってやっても追いつかないものだからである。

（掲示板記入予定）

■身体1・身体2

病気も人間も元気なときに治す。。

治すというか、成長させる。秩序化させる。

身体1に私はあまりにも無関心であった。

●ヒーリング

気功治療をしていてかならず聞かれることは「疲れませんか」という質問である。どう答えるかは微妙である。

母はわたしがヒーリングをすることを嫌がっているわけではないが、時々「命を削ってやっているのだから」と気の毒がる。まあ、出している本人はそんなことはなく、仮に命を削ったとしても、削って磨いている、というような感じである。

(4月17日掲示板)

●意識のある人生～貯金

小さなわたしにとって嫌いなこと、
だが、
大きなわたしにとって好きなこと、

このことを少しだけ達成する。

この達成は小さなわたしにとっては少しだけ痛い、痛くなければ、わたしは何も変わらない。

(4月18日 2006年掲示板)

■タクシーの順番待ち

イエスの精神

百人の後ろに回ることは困難であるが、ひとりの後ろに回ることはできる。
これを繰り返す。

▲思い出

中学時代の長距離走の練習で「次の電信柱まで走ろう」と思いつづけ、走り続けたこと。

●神との同居

お酒を飲むとわたしのなかの神様がいなくなり、怒りっぽく、短気になる。

日常をこの逆にする。

●ヒーリング

朝10時半から4時半まで、昼食をはさんでしっかりと気を送る。この日は快調で、手をかざすだけで90パーセント以上のきれいな気が出ているのが分かる。それでも、さらに工夫してきれいに出そうとするが、ここからあげるのはなかなか至難の試みとなる。わたしのよような「へぼ意識」を駆使してもあがるのは1パーセントか2パーセント、その意味では

無意識の気力はすごいものがある。

(4月16日の日記より)

1パーセント、2パーセントが人間である。

囲碁将棋の才能も同じである。努力だけで伸びるのびしろは一体どれだけあるのだろうか。

と同時に努力だけがすべてであるということ。

4月17日、5月8日 2006年、7月21日 2007年、11月5日 2010年

●慢心～ヒーリング

奇跡の体験、気功治療の奇跡の治癒例は慢心とともに決して語らないこと。

■全て

あらゆることを慢心とともに語らぬこと。

●質問65～＜仮想空間＞＜感動＞

映画、小説、漫画、…

これらはみなフィクションである。

だが、映画、小説、漫画の話しが事実であるか否かは＜感動＞には無関係である。

わたしは事実にはこだわらない。感動にだけこだわる。

事実であっても感動がなければわたしにとっての意味はない。

だから、ノンフィクションが実はフィクションであって、だまされてもよい。

だまされても、だまされなくても、＜感動＞がわたしの身体を揺さぶることによってわたしは変わるからである。

わたしが変わり、一歩前に進めることであれば、どのような虚構であってもよい。

そして、この世界全体はもしかしたらそういう世界なのかもしれないのだ。

感動があるかないか、それだけが問題の世界であるのかもしれないのだ。

はたしてそういう世界かどうかは別として、最近最も感動したことを書いてみてください。

＜わたし＞が変わってしまったといえるような出来事を書いてみてください。

(7月21日 2007年掲示板) (加筆済み 11月5日 2010年掲示板)

受信としての変化

発信としての変化（貯金）

■「神との対話」

「神との対話」であの世でこちらの世界で経験したすべてを相手の立場で振り返る時に痛みは一切感じないというのは、もししたらあの世は感情のない世界なのかもしれない。そうだとしたら、**この世界で最も大切にすべきは感動である。**

もうひとつは、意識のある人生。この二頭立てが今のわたしの理想の人生である。

■黒住宗忠

052～<心をいためぬこと><人情深くその情に迷わぬが道なり>

しかし、心をいためぬ事が大切だと言っても、宗忠の意味するところは、世の俗事に超絶としているとか、人情の自然に逆らうとかいうことによって、そういう状態を実現することではなかった。或る時、親を失って悲嘆にたえぬ旨を訴えた人があったが、宗忠はその人にまじない（霊的治療）を授けたのち、

「長々の御看病ゆえ、御疲労と御愁傷にてさぞ御腹がこわばりてあらんと思いの外、御腹中何のおさわりもなく、下腹の力平生に異なることなし。感心致せり。」

と言い、且つ次のように述べた。

「親子の情にて悲しみは深けれども、これにつけ後や先を苦にして心を傷めざる故、身体のさわりにならぬなり。人情深くその情に迷わぬが道なり。草のよく生える田地には米麦も出来、草も生えぬほどの瘦田（やせた）では米麦も出来ぬものなり。人情知らぬは人間に生まれし甲斐なし。」（逸話32）

要するに宗忠の考えでは、心をいためぬということは、心をいためそうな事柄を眼を瞑（つむ）って避けることではなかった。「人情深くその情に迷わぬ」ことこそがその要訣であったのである。しかもかつて一度は宗忠自身にとって、親を失った悲しみは自身を死に瀕せしめるほどの痛嘆であったのだ。そのドン底から「天命直授」によって立直ることのできた宗忠が、ここに「人情深くその情に迷わぬが道なり。」と喝破するに至るまでには、その内心にどれほどの苦闘が秘められていたことであろうか。

▲神の身体としての人間

▲一に人情が深いこと。二にその情に迷わぬこと。

すなわち、一に人であること、二に神仏であること。

どちらをも生きること。

4月18日、5月8日 2006年、11月5日、6日 2010年

●沈黙

ブッダが悟ったときに、ただちにこの世界から離れていこうとしたこと。

グスタフ・グレザーの沈黙

看護婦さんへの話し

●意識のある人生

死んだ自分から世界を見してみる。

火葬場の自分から自分の身体を見してみる。

■仏陀の瞑想

もしかしたら、死体をイメージする瞑想とはこのことかもしれない。

もともとはこの意味があったのかもしれない。

●ヒーリング

患者さんの私（小さな自分）の自由がある。

患者さんのわたし（大きな自分）の自由がある。

患者さんの生命（プロセス全体）の自由がある。

└機能・適応・持続

患者さんの自由がある

イエスのヒーリング

魂の希望がある

4月19日、25日2006年、11月5日、6日2010年

●意識のある人生～不可能という頸木

できないと思っていることを全て変える。

たとえば、

・食事をしないと生きていけない

・呼吸をしないと生きていけない

・死を避けることは不可能である

以上には異論があるかもしれないが、

・右足の治療は不可能である

・遠隔の治療には限界がある

・これはできないことである

(4月22日掲示板)

これはできないことであると思うこと。

これはできないことであると言うこと。

「神との対話」の「祈りとは思考のコントロールである」という話し。

日華氏の言葉を大切にすること。

■ヒーリング～遠隔治療

遠隔によるヒーリングもいわば想念による物質化である。

(掲示板記入予定)

●ヒーリング～約束

初めてお会いしたときに必ず何とかするところの底から湧きあがってくる気持ちは次第に薄れていく。

しかし、それにころげ落ちることなく、

必ず何とかするという

大きな言葉の約束を守ること。

グルジェフのもとに当時まだ子どもであったピーターズが入所してくる。グルジェフが命じた最初の仕事は芝刈りであった。まあ、それは半端な量の芝刈りではなかったのだが、その芝刈りには実はグルジェフの生命がかかっていたのである。というか、その子どもの芝刈りにグルジェフは自らの生命をかけたのである。自らの生命をかけてピーターズに約束を守ることを教えたのである。

ピーターズは芝刈りをやめざるをえない状況に追い込まれるが、自分の芝刈りがグルジェフの生命に関わるのではないかという予感がしてその芝刈りをやり遂げる。この世的には芝刈りとグルジェフの生命とは無関係に思われるが、あの世的にはしっかりと関係していたことなのである。

以下は、グルジェフが芝刈りを命じたときの話しである。

グルジェフは拳で卓上をもう一度叩いた。

「自分の神に約束しなければならない。」

厳粛そのものの声であった。

「何が起ころうとも、このことをすると約束しなければならない。」

……

「ただ約束するだけではない。」

グルジェフは繰り返して言った。

「何が起ころうとも、だれかが止めるようにと言おうとも、これをすると約束しなければならない。人生では多くのことが起こり得る。」

(フリッツ・ピーターズ著「魁偉の残像」13 ページ めるくまー社)

そうだ、人生では多くのことが起こり得る。だが、やり遂げなければならないことがある。

(5月2日掲示板)

4月20日、25日、29日 2006年、11月5日、6日、12月24日 2010年

●自殺・時空

自殺は、これまでの自分による行為であり、

<明日のわたし>による行為ではない。

もし明日もそうであると言うなら、

百年後、千年後、万年後の自分による行為ではない。

百年後、千年後、万年後の自分へと通じる<明日のわたし>を行為の主人公として壇上にあげることである。

どのようなことをしても、これまでのことは明日へと通じ、百年後、千年後、万年後へと通じるものである。

しかし、過去から未来へと向かうのではなく、未来から明日へと、そして、明日から今へと向かうこともまた可能なことなのである。

(4月29日 2006年掲示板) (11月6日 2010年掲示板)

明日の自分とはどのような自分であるのだろうか。

そして、

明日の自分とは明日の自分であろうか。

十年後の自分であろうか。

あるいは、百年後の自分であろうか。

どのような自分であれ、その自分が自殺しないのは確かである。

以前、ある方が「中年の自殺がふえたので、ひとりでも救いたいといって本を書いたのだ」と自慢げにおっしゃられて、困ったことがあった。自殺のような自由を束縛する権利は誰にでもないと思うからであり、それこそ余計なおせっかいと思うからである。

●自由～一

自由と乱雑とは異なる。

自由とは秩序であり、一である。

それがわたしであるという一である。

それがわたしであるという行為である。

(11月7日 2010年掲示板)

■親鸞の弟子

自由と乱雑とは全く異なるものであるが、自由であるからといって、自由にふるまって、他人と自分自身を乱雑に陥れてしまうことは多々ある。

有名な話しでは、「悪人正機説」(善人なほもて往生す。いはんや、悪人をや)を聞いた親鸞の弟子達が「悪人ほど救われる」のだからと、悪事を働いたことである。

親鸞が「悪人正機説」で言っているのは、己の自由の行き着いた果てでの「悪人でしかなかった」者への救いの話しである。これは自由という一本の線の果てにある救いであり、善悪の選択が多岐に揺れ動く身に対しての話しではない。

(11月11日 2010年掲示板)

■賭け事

賭け事にもセオリーはある。

●気功教室

空手の教授と同様に、気功教室の教授、ヒーリング能力の教授もまた身体の鍛えである。

そしてまた、心の鍛えである。

身心の体得である。

●行為への愛

見返りを求めない

食べ方

1 何を食べるか。どのようにして食べるか。

2

3

こころの1 2 3に及ぼす作用

「神との対話」の愛のある缶詰料理

病気治療の気のエネルギー
同じものを食べ続けること

4月21日2006年

●わたし

昨日までは、すべての人、すべての出来事を好ましいと思ってはいなかった。

明日からは、

明日出会うすべての人を、

明日出会うすべての出来事を、

神からの贈り物であると受け取ろう。

ただし、それが贈り物となるためには、受け取ることができる<わたし>がいなければならぬ。

そのような<わたし>とは一体何であろうか。

(加筆して掲示板記入予定)

●ヒーリング

家全体に入れてみる。

(掲示板記入予定)

4月22日、28日2006年

●行為への愛

立派な人間であると思っている相手できえ、立派な行為に導くことはなかなかできるものではない。

「あなたがたもわたしと同じである」と言ったイエスできえできなかったように。

ましてや、つまらない人間であると思っている相手を、立派な行為に導くことは不可能である。

まず、自分自身が相手をどのように見ているかをよく知っておくことである。

(加筆して掲示板記入予定)

4月23日、28日、5月1日、11日2006年、11月5日、6日、7日2010年

●意識のある人生～道・小さな声・貯金

凡夫の身には異なる生き方が常に求められている。

この道を歩くようにという道が常に示されている。

ただ、この道しるべの声は小さいし、この道はまだ踏みならされていない。

目をこらして、この道を見、こころをこらして、この道を踏み固めることである。

(5月11日掲示板)(11月7日2010年掲示板)

■道～ヒーリング

気功治療は正直まるっきりやる気はなかったが、昨年8月以降は毎日のように行なった。神の用意してくれる道とはわたしができなかったことをできるようにしてくれるために道である。

お酒をやめられないわたしに神は
お前は、お酒と友人の命とどちらをとるのか
と聞く。

まあ、この問いはろくでなし高塚への究極の問いである。もちろん、あなたへの問いも神は用意してある。わたくしのようにろくでなしでなければ、その問いにはなかなか気づきにくいかもしれない。その問いであなたは知らないうちに変わっていくのであるから。

(掲示板記入予定)

(参考) グルジェフ

4月24日、25日、26日、29日、30日、5月1日2006年、11月7日2010年

●プチ断食

今日からプチ断食を始めた。昨日教室で勧めたからである。

どこで断つか、何を断つか。

わたしは、今日という場所で、食事を断つ。

死ぬときには多くのものを断つが、生きているうちに断つことの方がよいものもある。

それは何であるのか。

それはいつであるのか。

そして、そのことで、

<わたしが何であるのか>

ということを表現している。

(4月25日掲示板)

■岡本先生

もう亡くなられてしまったが、とてもお世話になった家庭医の岡本先生がよくおっしゃっていたのは、

「高塚君、どんな病気でもおかゆと梅干で1ヵ月過ごしたら、治っちゃうよ」

ということであった。当時は右から左に聞き流していたが、今はおっしゃっていたことが痛いほど分かる。わたしの体は暴飲暴食で落書きだらけの体になってしまっている。

(4月29日掲示板)

■失神

このところ体重は一定しているが、一年前からすると、7、8キロやせてしまった。妻はプチ断食で倒れはしないかと心配しているが、正直なところ、飽食で倒れたときの方がおっかないと思っている。

ただし、プチでない断食は注意が必要のようである。

(4月30日掲示板)

■食欲

スープをひと口飲んだ。

それでは少ないと感じるか、それで十分と感じるか。

一度、十分と感じてみようとしてみると、別の感覚が得られるかもしれない。

(4月28日掲示板)

■プチ断食～行為するこの世界

プチ断食の本が出ている。何万部売れたのか分からないが、健康な人で実際に行なってみた人は何人いるのだろうか…。

■エネルギー

断食中は少量食べただけで満足感があるが、もしかしたら、この少量で食料からエネルギーを得ているのではないだろうか。

そして、断食中だけでなく、普段でもごく少量の食物からエネルギーを得ることができるのではないだろうか。

参考～豊島氏のアルコールを飲まなくとも酔う話し。

■クリア

人生でクリアにするものが多くある。

睡眠

食事

カバンの中

パソコンのファイル

▲本「ガラクタ捨てれば自分が見える」

●印象～二面性

悟りとは、天空を見上げて、この世界が仮想世界であると知ることであろうか。

あるいは、一枚の天空写真の中に実際に宇宙を感じてみることであろうか。

(4月28日掲示板)

後者は無意識的に行われるが、前者は意識的にのみ可能である。

■天文写真

銀河と思ったものが一枚の紙にすぎなかった。

火をつければ、ただの灰になった。

それとも、

一枚の紙が銀河となったのか。

食い入るように見て感じた十秒間は銀河のそばにいたのではなかったのか。

一枚の紙を銀河としたのではなかったのか。

(掲示板記入予定)

銀河は一枚の紙であろうか。

それとも、

一枚の紙は銀河であろうか。

あなたは仮想であろうか。

それとも、

仮想はあなたであろうか。

死ぬときにあなたは一枚の紙にすぎなかったことが分かる。

あなたが一枚の紙、ひとにぎりの灰になるのではなく、<モノとしては>もともとそのような存在であったということである。

ひとつの肉体であれば存在し、ひとにぎりの灰であれば存在しない、そのようなあなたではあなたはない。

4月25日、26日2006年、11月6日2010年

●所有

プライバシー、それがわたしであると思うこと。

それを隠したいと思うこと。

■わたし。被害。所有

プライバシーがもれて、被害を受けると思うこと。

その被害をわたしが受けると思うこと。

そのわたしとは何であろうか。

■

それがわたしであると知られたら困るものは何であろうか。

4月26日、28日、29日、30日2006年、7月21日2007年、10月15日、11月6日2010年

●意識のある人生～自己観察

あらゆる瞬間に自分自身を観察していること。

この重要さはいくら繰り返してもむだにならない重要さである。

この難しさはいくら繰り返してもものにならない難しさである。

(5月13日2011年掲示板)

●生物史

神にとって古代生物を存在させていた意味とは何か。

動詞、積分関数としての生命体としてのいのち。

古代生物もまた神であり、プロセスである。

人類は最終のプロセスでないことを自覚すること。

●ヒーリング・貯金

道を歩くこと。

歩いたことのない道であっても、用意された道を歩いてみることに。

(11月15日2010年掲示板)

神の課題をやり遂げること。

神の用意された道を歩き続けること。

わたしの課題をやり遂げること。
わたしの用意された道を歩き続けること。

●意識のある人生

あらゆる瞬間に、
すべてを宝とすること。

(加筆して掲示板記入予定)

●ヒーリング

ヒーリングは念力ではない。
くれぐれも自戒、注意すること。

(4月29日掲示板)

■こころ

しかし、感情があること。
どういう感情かというと、
<心の底から治ると思える>
感情である。

この感情はヒーリングを重ねるうちに薄れていく。

この感情をどのようにして意図的に作り出すかということが現在のわたしの課題である。

(5月1日掲示板)

大乘から小乗へ、そしてまた大乘へ。
子どもの絵から大人の絵へとそしてまた子どもの絵へと。

治そうとやっきにならないこと。

■「神との対話」

<希望～信仰～知識>この順に存在する。

●身体～歩き方

上下動をさせないで、すべるように歩く。
びっこをひかない歩き方を考えてみるのでなく。

4月27日、28日2006年、7月24日2007年

●自己研究

慢心～他者に対して
小心～自己に対して
小さな自分を生きる～慢心

病気～今のところに居続けようとする事～慢心

●ヒーリング

自分の為したことだけがわたしのものである。
わたしはヒーリングを為したのか。
わたしが為したのは、
病人宅に行くこと、

気功治療、スプーン曲げ、百円玉の移動、
(加筆して草稿要転記)

●行為への愛～殺人者へのヒーリング

N氏「こいつが将来殺人者になるとすると、お前はこいつの命を救ってやるのか？」
治すという行為そのものを愛すること。

わたしの大きさが変化するように行為への愛の行為そのものの大きさも変化する。
今の行為、一年後を含んだ行為、百年後を含んだ行為、千年後を含んだ行為、宇宙年齢の
行為。

(厚保人を犯すであろう人の命を救うヒーリング～行為への愛
殺人を犯す人の未来は救済者としての未来かもしれない。

～草稿要転記 UFO

未来の視点をどこにおくか。

未来を知るのではなく、未来を創りだそうとすること。

(加筆して草稿要転記)

4月28日、29日、5月19日2006年、7月21日2007年

●汚物

肥溜めを掃除する細菌がいること。

汚物がどのように処理されるかを知っていること。

細菌のことを知っていること。

他方、汚物と呼ばれる考えがどのようにして再処理されていくかを、リサイクル可能かを考えてみること。

●意識のある人生

この世界で最も大きいもの、そのものと通じていれば、人生は変わる。

あいかわらず病気はよくなるかもしれないが、人生はよくなる。

あいかわらずお金は入ってこないかもしれないが、人生はよくなる。

どのようなつらいことがあっても、人生はよくなる。

よくなるとは、満足できて、肯定できることである。

そして、喜びをもてることである。

あなたが最も大きいものと思うものは何であろうか。

それにふれてみたことはあるだろうか。

それと一緒にいたことはあるだろうか。

(掲示板記入予定) (草稿要転記)

●時空～エベレスト

積み重ねあげられた時間がある。

一方で、そのように働く。

一瞬であることと何億年という時間と

●意識のある人生

他人を見通そうとするように、自分自身を見通すことを、常に意図すること。

レーザー光線のようにである。

仏が見通すようにである。

4月29日、30日、5月20日、21日2006年

所有・選択・自由・あなた

●意識のある人生～所有

所有しないかのように行動すること。

ふりをすることによって、長年のとらわれから抜け出せるかもしれない。
身体でないかのように行動すること。

ふりをすることによって、本当に身体でなくなるかもしれない。

(5月19日掲示板)

■意識のある人生

人生を化石の発掘であると思って行為してみること。

(加筆して掲示板記入予定)

■意識のある人生～所有～モノ・本

<いつも>ふれていたいものだけを持つ。

そして、

<いつも>それにふれている。

そして、同時に、

そこにとどまらないこと。

(5月21日掲示板)

ところで、そのようなくそれ>とは何であろうか？

(掲示板記入予定)

4月30日、5月20日 2006年、11月6日 2010年

●基準

外からでなく、内から自分を律する。

外とは、他人の目である。

小学生の頃、自由奔放であったわたしに両親がこんこんと言い聞かせたことは、他人の目を気にせずに生きていくとどんなにつらいことが待ち受けているかということであった。

だが、そのことはどうしても理解できなかった。

今のこの年齢になると、逆に自由奔放に生きないとどれほどつらいことが待ち受けているかということがしみじみとよく分かる。だが、すでにガチガチに他人の目を意識する人生を送っている自分にとって、自由奔放というのはどうしても生きることができない教えになってしまった。わたしには他人しかいなくなってしまう。

(5月1日掲示板)

●被写体

手元に世界遺産の写真集がある。JTB から出ていて、最近買ったものである。人類の叡智

を注ぎ込んだ建築物が数多く載っている。

また手元に、古い週刊新潮の白黒写真がある。ホームレスの家？の写真である。

世界遺産の写真はこれからも数限りなく見ることができるが、このホームレスの写真はもう二度と眼にすることができない。わたしはもちろんホームレスの写真のほうが好きである。

世界遺産が人間の神性を表現しているとする、ホームレスの家はいわば人間の人間性を表現している。わたしは人間の神様の部分も好きであるが、人間の人間様の部分もそれ以上に好きである。きっと神様もそうなのではなかろうか。

(5月6日掲示板)

●時空～わたし

過去も未来も映像である。

過去も未来も存在したためしがない。

現在もある意味で映像であるが、それを映像と呼ぶときには現在は存在しない。

存在するのはわたしだけである。

正確に言うと、

存在するのはわたしの選択だけである。

果たして、それを存在と呼ぶかどうかは別として。

(加筆して掲示板記入予定)

選択とは、

わたしがどのような人間であるかということであり、

わたしがどのような人間になりたいかということだけである。

(加筆して掲示板記入予定)

●家に住まざる

とどまらず、

過ぎ去り、

多くのものを見、

多くのものに仕える。

●神と人間～自転車

今は補助輪かもしれない。

将来は補助輪なしに自転車をこぐのであろうか。

あるいは、一体になってこぐのであろうか。二輪車が実は四輪車の自転車であつてもちっ

とも不思議ではない。

●ノウハウ

眠いときには、10分か20分眠る。それ以上は眠らない。

●ヒーリング

一回一回みっちりと送ること。
やる気と身体化。

遠隔治療も手を洗う

■ヒーリング

神を通じて行なう。

10年前には考えもしなかった方法である。

神にかぶれた高塚と思う方も多いであろう。

10年前の高塚に同意できても、今の高塚には同意できないと思う方もいらっしゃるであろう。

だが、人のあらゆる営みはやはり神抜きにして語ることはできないし、どのような方法をとるかはいろいろあれろ、神抜きにした行為というものも存在しない。

わたしはひとつのピースであり、全体としてひとつの模様ができること、すなわち意味ができることを忘れずにいること。

★5月2006年

5月1日、6日、10日2006年、3月26日2007年

●鏡

わたしが痛いときには相手も痛い。

わたしが悲しいときには相手も悲しい。

わたしが怒っているときには相手も怒っている。

では、わたしの方から笑ってみようか。

(掲示板記入予定)

■鏡～自他

相手が怒っているときにはわたしも怒ってしまう。
だが、わたしが怒らなければ、相手の怒りはしずまる。

わたしを通じて相手表現するのではなく、
相手を通じてわたし表現してみよう。
このことが真の自由というものであるから。

(3月26日 2007年掲示板)

●ヒーリング

手をかざす。
病気が治る。
これがヒーリングだと思ったら大間違いである。
もっとも、わたしも以前はそうにしか思っていなかったが。
(5月5日掲示板)

■みかけ

人間が体だと思ったら大間違いである。
もっとも、わたしも以前はそうにしか思っていなかったが。
(5月7日掲示板)

■ヒーリング

では、「手をかざす。病気が治る」こと以外のこととは一体何なのだろうか？

では、「体」以外のこととは一体何なのだろうか？

(掲示板記入予定) (教室資料要転記)

■ピース

この世界全体はジグソーパズルのようなものであり、ひとりひとは、ひとつひとつの出来事は、そのパズルのピースのようなものである。
自分というピースから、ひとつの出来事というピースから全体の姿かたちを見ることは至難の技である (そのための方法はないわけではないが…)

今できることは、
自分のピースの形だけでなく、隣人のピースと合わせた形も見てみることである。

ひとつの出来事でなく、前の出来事、次の出来事と合わせた形も見てみることである。
そうすれば、まったく異なる形が見えるようになるかもしれない。
まったく異なった生き方ができるようになるかもしれない。

(5月11日掲示板)(教室資料)

■意識

ピースの形が変わるのでなく、
ピースの形を変えること。

■自然

自然との接点としてのピース

■ ピースの接点～わたし

■
今日、患者さんがわたしのところへ来た。
だが、患者さんがわたしのところへ来たのではなく、
わたしが患者さんのところへ行ったのかもしれない。
患者さんがわたしを必要としたのでなく、
わたしが患者さんを必要としたのかもしれない。

(5月12日掲示板)

●自他～注射の痛み

わたしは総じて他人の痛み鈍感ではある。鈍感ではあるが。
先日病院で患者さんが注射を打たれるのを見ていた。患者さんは注射は平気なようで、腕に針が刺さるのを平気で見ている。わたしもそうであるが、ただし、自分の場合は平気だが、他人が注射されるのを見るのは何とも痛い。

5月4日、5日、7日、8日2006年、4月8日、7月21日、24日2007年

●ヒーリング

気を出し続けて、精根尽き果て、気が出なくなった時間を宝とする。

(5月7日掲示板)

■ヒーリング

できたことではなく、できなかったことをわたしの神とする。
手をかざして治ったことではなく、手をかざして治らなかったことをわたしの神とする。

できなかったことこそ、わたしの新たな道だからである。

(10月9日掲示板)

●行為への愛～自他・自由

自他の関係においては他人の結果を束縛することはできない。

●ピース

悪意を受けたときにも善意を受けたときと同じようにわたしのピースをさしこむ

●意識のある人生～善意・悪意・わたし

わたしは自分を思いやりのある人間であると思うかもしれないが、実は他人にひどいことをしている人なのかもしれない。

なぜそうなるのか。

わたしはわたし知らないからである。

わたしは相手からひどい目にあわされていると思っているかもしれないが、実は相手からいいことをされているのかもしれない。

なぜそうなるのか。

わたしは成長というものを知らないからである。

今という時間、今というわたしには分からないことがあまりに多くある。

二十年、三十年、数百年の時間を経て初めて分かることがある、

成長したわたしになって初めて分かることがある。

だから、ロボットのように反応するのではなく、常識という考えに従うのではなく、

まずは、すべてを受け容れ、よく見ることである。

出来事と、わたしとをよく見ることである。

そして、自分自身に聞いてみることである。

これが本当のわたしだろうか。

今、本当のわたしなら、何をするだろうか。

(10月10日 2010年掲示板)

(「南無阿弥陀仏」柳宗悦著岩波文庫)

● 飲食

砂漠を放浪して、やっとありつけた一杯の水のようにして水にふれる。

(5月19日掲示板)

■ ヒーリング

迷妄を放浪して、やっとありつけた一杯の水のような気を送る。

● ヒーリング

悪魔を消そうとしたときには、うまくいかなかった。

自分に取り入れようとしたときに、成功した。

通常のヒーリングに関してもこのことを範とすること。

● ヒーリング～言葉

「気功治療は、効く場合もありましし、効かない場合もあります。」

これは客観的な話しである。

「かならず、治ります。」

これは主観的な思いである。

どちらもわたしから発する。

前者は本当の話しである。

だから、治らないと後者はうその思いになってしまうのだろうか。

だが、後者は単なる思い込みなどでは断じてない。

前者の話しをするときには、どこか責任を回避しているところがある。

後者にはそのような逃げは微塵もない。

その意味では、後者こそが本当である——もとに当たるという意味で、仏陀に当たるという意味で。

だが、この本当というのはなかなか言えるものではない。

今のわたしにとっては、この言葉が本当であるのは「思いまで」であり、言葉にしてしまうと、うそになってしまう。

言葉はそれほど重いし、また逆に、本当に発したときには力となる。

(5月8日掲示板)

もしかしたら、後者こそが客観的、主観的な言葉なのではないだろうか。

●ひとりひとりの神

新しい霊性の根幹となるものを何と考えるか。

(教室資料)

●所有～ワーク・貯金

人が成長していくための文字はこの世界に読みきれないほどある。

だが、一行とて、実践するとなると多大な努力を要する。

しかもまた、この行いなくして、何事も得ることができない。

向こうの世界に持っていくものができるのは、その実践によってだけである。

わたしがわたしとなるのは、そのことによってだけである。

だから、今日、

100 ページの文字を読むのではなく、

ただ一行の文字を行い、わたしとしてみよう。

(5月12日掲示板) (3月28日2007年掲示板) (11月12日2010年掲示板)

■神聖なる矛盾

ただ、こういうこともまたいえる。

1千ページ、1万ページの本を、とことん読んで読んで読み尽くして、

初めて「一行の文字をわたしとする」準備ができる。

(11月13日2010年掲示板)

■身体

読んだ百万字の文字はあなたの身体ではない。

行なった一行だけがあなたの身体となる。

(5月19日掲示板)

●新しい道

銀座での個展～難しいヒーリング

5月9日、10月9日2006年、3月30日、7月21日2007年、10月13日2010年、1月4日2011年

●5月7日教室資料

身体3の食物～楽しいことは身体2

治癒行為

その結果

結果を受け容れる

治癒をつづける

治癒行為をやめる

どちらにしろ、行為への愛

●遺骨

身体1～墓地に入っているも

身体2～たとえば、日記 たとえば、写真

身体3～この宇宙に残り続けるもので、アストラル体・エーテル体（幸島のサルのイモ洗い）

●火急

わたしにとってよいことは急ぐこと。

一日の中で行うこと。

一時間の中で行うこと。

一生の中で行いつづけること。

（7月21日 2007年掲示板）

●瞑想

外に出て行くのではなく、内に入る。

●知る

「憎まれっ子世にはびこる」というが、憎まれっ子は死後の世界で相手の立つという場合に大変なこととなる。ということは、それだけのこともまた受けることのできる強さがあるということなのだろうか。

●多重世界

舞台稽古の繰り返しのようなものである。

■時空～タイムトラベラー

タイムマシンに乗って過去を見に行くのなら、過去の人物になりきって過去で生活をしてみるということの方がおもしろいというものである。

そして、もしかして、わたしはそのような存在として今いるのかもしれない。
タイムトラベラーとして今存在しているのかもしれない。
客観的自己というものは今のわたしとは別に存在しているのかもしれない。
客観的自己というものは時空の文章を超えて存在しているのかもしれない。
ちょうどわたしがこの文章を書きながら、もうひとりのわたしがこの文章を読んでいるように。

(3月30日 2007年掲示板)

●JOさんへのメール〜ヒーリング

この世界には変えられることと変えられないことがあります。

これは俗人にとってです。

イエスにとっては、

この世界には変えることと変えないことがあります。

俗人が能力がなくて変えられないことであっても（イエスは能力を信心というでしょうが）、イエスであれば、変えることができます。だが、イエスであっても変えないことがあります。その人にとって必要なことは変えませんが、役立つことは変えませんが、もし、変えたとしたら、それは何とばかりは迷惑なことでしょう。

もしかして、JOさんも高塚もはた迷惑なことに挑戦しているかもしれません。いや、病気が完全に治ることは本人が望んでいることであり、それははた迷惑ではないとおっしゃられるかもしれません。だが、悲しいかな、＜本人＞の望んでいることは旦那様も奥様もまだご存知ではありません（もちろん、わたくしも）。もしかしたら、不完全な治癒を望んでいるのかもしれませんが。そんなことがあるのかというと、あるのです。自分の過去をふり返ってみればあまりに明らかな道理であるのですが、今現在の苦楽にいる間は、見えづらい道理であるかもしれません。

ただし、イエスならざる身であれば、治さない、と宣言する根拠は何もありません。治そうと思うのが今の立場での理と情というものでありましょう。ですから、治そうとすることを否定しません。問題は治そうとしているかどうかということです。

旦那様は、治そうとしているのか。

奥様は、治そうとしているのか。

そして、高塚は治そうとしているのか。

こちらの方こそが問われるべきことでしょう。

何も 100 パーセントでなくともよい。人生の 10 パーセントを治すことに費やしているか否かを自らに問うてみればいい。人生に何を費やしているか知れば、「何をしたいのか」「何をしているか」を知ることができる。自分のことをよく知れば、治すためのよい方策も浮かぶというものです。また、もしかしたら、病気を治すことよりも急いで治さなければならないことが他にあるのかもしれない。現実に関病気を治すことよりも優先している多くのことがあるようにです。

さらに申し添えると、もちろん、治そうとしているとしてですが、次の段階の<結果>については問わないということこそナザレのイエスの道というものです。イエス・キリストが治さない病気はナザレのイエス、俗人には治せない病気であるからです。結果を求めずに行為を愛することこそ、ナザレのイエスの道です。凡夫が歩もうとするイエス・キリストの道です。

まずは、自分が何をしているのか、何ができるのかを知ることです。

そして、何をしたいのかを知ることです。

次に、相手が何をしているのか、何ができるのかを知ることです。

そして、何をしたいのかを知ることです。

ただし、後者については J O さんは知ることができないでしょうから、あなたの行為だけを愛することです。

愛することができればですが。

お互いが尊敬しあえる関係は、どのような関係であれ、素晴らしい関係ですね。

特に男女関係において、そのような関係が持続しているというのは素晴らしいことです。

(メール)

(2010 年 10 月 13 日 NOTE 参照)

■ダークマター

>何も 100 パーセントでなくともよい。人生の 10 パーセントを治すことに費やしているか否かを自らに問うてみればいい。人生に何を費やしているか知れば、「何をしたいのか」「何をしているか」を知ることができる。自分のことをよく知れば、治すためのよい方策も浮かぶというものです。

今日の人生に最も多くを費やしたものは何であろうか。
それに、今日のわたしを何パーセント費やしたであろうか。

5月10日、19日 2006年

●ヒーリング～呼吸

呼吸の深淺

Yさんの呼吸の淺さ

ギャラリーのTさんのヒーリング後の呼吸

瞑想時の注意点

■who 瞑想の長さ

5月11日、12日、13日、15日、16日、21日 2006年、3月28日、4月4日、5月20日、
7月21日、24日 2007年、10月12日、13日、19日、21日、22日、25日、11月3日、
16日 2010年、2月19日、21日、26日 2011年

●ヒーリング

Uさんの身体のコントロールが不能であることは、いまの人生で身体のコントロールの意識化を学ぶためかもしれない。～いまは、自律神経訓練法を行なっているが…

●選択

大金持ちの選択～イエスのたとえ

●質問63～空気

空気を吸うこと以上に大切なことが、今この瞬間にある。

なぜなら、それが生きるということであるからだ。

それは一体何であるのだろうか。

我々は、その何よりも大切なことをしないで、日々死んでいるのではないだろうか。

(5月13日 2006年掲示板) (加筆して再掲 10月13日 2010年掲示板) (教室資料)

■忘失

もしかして、何よりも大切なことを落としてはいないだろうか。

(5月14日 2006年掲示板)

■ (加筆して再掲)

空気を吸うこと以上に大切なことが、今この瞬間にある。

今この瞬間、今日一日、もしかして、何よりも大切なことを落としてはいないだろうか。

(2月21日 2011年掲示板)

■ 苦楽

空気を吸うのは楽である。

しかし、

人生は少しだけつらいこと、

これをしなければ何も得られない。

そして、この少しだけつらいことというのは、できないことではなく、<できる>ことである。

(10月25日 2010年掲示板)

しかし、人生は少しつらい道であるかもしれない。

(加筆して掲示板記入予定)

■ ギブ

空気を吸うこと以上に大切なこと。

それは、子どもであれば、知らない人に道を聞かれたときに、ついて行って教えてあげる
ことである。

(10月19日 2010年掲示板)

▲ 空気～印象と表現

>空気を吸うこと以上に大切なことが、今この瞬間にある。

>なぜなら、それが生きるということであるからだ。

>それは一体何であるのだろうか。

>我々は、その何よりも大切なことをしないで、日々死んでいるのではないだろうか。

>空気を吸うこと以上に大切なこと。

>それは、子どもであれば、知らない人に道を聞かれたときに、ついて行って教えてあげることである。

何も恐れずに親切にしてあげること。

そのように表現すること、その表現から得られる印象、それ以上に尊いものはあるだろうか。

これは大人にとっても同じである。

映画「グリーンマイル」で無実の黒人死刑囚が白人の看守官とところを通わせるが、死刑の前日看守は泣きながら、

「わたしはあの世に行ったら、神様に何と言ってよいのか分からない。わたしはあなたに何もしてあげられなかった」

と言う。死刑囚もまた、涙を浮かべながら答える。

「親切にしてあげたと言えばいい」

そう、この世界ですることは、ただそれだけなのかもしれない。

(2月19日 2011年掲示板)

▲親切～行為への愛・自他

私が親切にしてあげられないことから、保険があり、年金があり、略奪があり、暴力がある。

賽の河原の石積みのものであっても、壊されても壊されても、ただただ親切を積み上げること。

(2月21日 2011年掲示板)

▲自他

子どもに大人を怖れることを教えるのではなく、教えようとするときに気づくべきことは、大人自身の内にある恐れというよどみのことである。

このよどみが空気を吸うこと以上に大切なことをすることを阻んでいるのである。

(10月21日 2010年掲示板)

▲自他

怖れないがゆえに、何も準備をせずに困ったことになってしまった人がいたなら、空気を吸えなくなってしまう人がいたなら。。。そう、アーミッシュのように、皆が助けてあげればよい。

ギリギリのような人生を送った人に対してもである。

(2月26日 2011年掲示板)

そんなことをすれば、ひどい目にあう。

こう思うかもしれないが、実はそんなことをしないで、人に道を教えないで、だまって通り過ぎて、ひどい世界をつくってきたのは「これまでの大人の生き方」である。

そんなことをすれば、そんなことを明日からすれば、仮にあなたがひどい目にあっても、相手はひどい目にあわない。

そして、あなたがひどい目にあうということもありえない。

アーミッシュに保険はないが助け合いはある。

名詞を大切にしていしき動詞をだいなしにしている。

「ハトホルの書」199ページ

そんなことをすればひどい目にあうというが、十分にあなたはあなたをひどい目にあわせている。

どれだけ困ることがあったとしても、本当のことだけに人生を費やすことにしよう。保険を払うために働くというのはばかげている。

■自他

空気を吸う以上に大切なこと。

それは、大人であれば、昨日までできなかったことを今日行なうことである。

昨日までできなかったことというのは、ほとんどの場合、親切である。

他者に対する親切であり、
生物に対する親切であり、
ものに対する親切であり、
地球に対する親切であり、
世界に対する親切であり、

そして、自分自身に対する親切である。

自分自身に石ころをあげてはいけない。

(10月24日 2010年掲示板)

■補足～グルジェフ

この質問は実はグルジェフの以下の言葉から取っている。

人々の間——一人ともう一人の人と——の適切な、客観的な道徳に基づいた愛について説明を求められたとき、グルジェフは答えた。

「他の人が、その人自身に必要なことをするのを助けることができるほどに、あなた自身を発展させる必要があり、たとえ、相手の人がその必要性に気づいていないときでも、また、あなたにとって不利なことになっても、助けることができなければならない。この意味においてのみ、道理に適切にかなった愛と言え、真の愛の名に値する。」

彼は、さらにつけ加えた。たとえだれにも劣らぬ心積もりでも、たいていのひとは、積極的に人を愛することにかけてはあまりに臆病であって、相手に対して何かをしようと試みることさえ恐れる——愛が恐るべき一面をもっていることの一つは、相手がある程度助けることはできても、その人のために実際に何かを「する」ことはできないということである。「ある人が歩かなければならないときに、その人が転んだなら、起してあげることはできる。だが、その人にとっては、もう一步踏み出すことが空気以上に必要であっても、その一步は、その人が一人で踏み出さなければならない。その人に替わって、もう一人の人が、その一步を踏み出すことは不可能である。」

(フリッツ・ピーターズ著「魁偉の残像」261ページ めるくまーる社)

何度もこの掲示板に引用した手あかのついた言葉であるが、この言葉を実生活において不要にしてしまっている方はあまりいないであろう。

まずは、

「他の人が、その人自身に必要なことをするのに助けることができるほどに、**あなた自身を発展させる必要がある**」

と言う。

あなた自身に必要なことでなく、他の人自身が必要なことをすることを助けるということである。

「自分はしている」という人はうそつきである。「したことがある」というのが正しい。

したことがあり、している人になりたいというのであれば、「あなた自身を発展させる必要がある」と言う。

注意しなければいけないことは、相手が発展する必要があると知っているのではないということだ。今日、

「相手が発展する必要がある」

と百回思っても、

「私自身が発展する必要がある」

とは一回も思わないのが人間である。

どれだけ発展させるかと言うと、

「たとえ、相手の人がその必要性に気づいていないときでも、」

助けることができるようにと言う。

相手がその必要性に気づいていないときというのは、——誠に失礼であるが——、まさしく、あなた自身のような。すなわち、

<その必要性にまったく気づいていないが、あなたは助けられている>

と言うことである。助けられていることに気づいていないうちは、あなたがどのように存

在しているのか知らないのであるから、あなたを発展させることができないであろう。
助けられていることに気づけば、

「あなたにとって不利なことになっても、助けることができないなければならない。」

という、この不利が不利でないことを知るであろう。不利とは名詞のあなたのことを言っているが、動詞のあなたには不利でも何でもないことである。

そして、本論であるが、以上のことをわきまえていれば、「他者を救うといって自分自身だけを愛する悲しい愛」に陥ることも、「他者に助けられるだけで自分自身を救わない悲惨な愛」に陥ることもないであろう。

「愛が恐るべき一面をもっていることの一つは、相手がある程度助けることはできても、その人のために実際に何かを「する」ことはできないということである。「ある人が歩かなければならないときに、その人が転んだなら、起してあげることはできる。だが、その人にとっては、もう一步踏み出すことが空気以上に必要であっても、その一步は、その人が一人で踏み出さなければならない。その人に替わって、もう一人の人が、その一步を踏み出すことは不可能である。」

悲しい愛とは相手の代わりに歩くことである。

悲惨な愛とは、空気以上に大切であっても、自らがもう一步踏み出さないことである。

これらの愛、これらの自他という人間関係は名詞で人間存在をとらえるのか、動詞としてとらえるのかによって見え方がまるで変わってくるものである。

(11月2日 2010年掲示板) (草稿要転記)

■アーミッシュの少女

2006年10月にキリスト教一派のアーミッシュの学校で銃の発砲があり、4人の子どもが亡くなられた。新聞の記事によると、子どもの中で最年長であった13歳の少女マリアン・フイッシャーさんは小さな子どもを助けた一心で「わたしから撃ってください」と言ったという。

この行為を宗教による洗脳やセンチメンタルな博愛主義に帰することもできよう。そして、もしかしたら、それが事実なのかも知れない（では、そのように言う人がいたら、その人自身はどのような＜事実＞を生きているのか振り返っていただきたいという思いはあるが、、、あなたは洗脳や薄っぺらな主義を越えて生きているのかと問いたい思いはあるが、、、

それはさておき)。

それが事実なのかも知れないが、〈わたしの中〉でのマリアン・フィッシャーさんは——そして、こういう衝撃的な話しは〈わたしの中〉だけでの問題でよい——、数十億通り、数百億通りの生き方をしてきたこれまでの人類のうち、数少ない人が歩んできた、

〈空気よりも大切なもう一歩〉

なのである。名詞としての私は空気を吸いたいと思うが、名詞を越えたわたしはただ歩むことだけを選び、

〈わたしから撃ってください〉

と言う、これは空気を吸うよりも大切なことなのである。だが、少なくとも今の私にはできない。

今の私にはできないので、来世、洗脳され、似非博愛主義に陥り、まずはその道での

「私から撃ってください」

と言うしかないのかもしれない。

(11月3日 2010年掲示板)



ハトホルの言

●ヒーリング

わたしが患者さんにもう来ないでもらいたいと思うこと。

この非はわたしにある。

しかし、それで、来ない非は患者さんにある。

●ヒーリング～変容

終わりであった人生をヒーリングによりもう一度生きることができたなら、

これまでの人生でふとこころに浮かんだが、行なわなかったこと、これらをすべて行なってみることである。

だが、こうもいえる。

そして、これは全ての人に対して言えることである。

前夜で終わりであったはずの人生を今朝もう一度生きることができたなら——寝る前と朝を比べれば、どのような人も生き返ったかのようである——、これまでの人生でふとところに浮かんだが、行なわなかったこと、これらをすべて行なってみることである。

(5月20日2007年掲示板)(11月16日2010年掲示板)

■所有・条件

(以下は、今回の気功治療のご本人の話しではないので、念のため。。)

私の能力では完全に治せないことも多々ある。だが、確実にいえることは、手をかざすことによる延命、つらさの軽減、これは確実にある。それらがたとえわずかであったにせよ、その命と、その健康を自分自身の人生に生かしていただきたいというのがわたしのヒーリングの本当の願いである。

だが、往々にして人は、さらなる延命とさらなるつらさの軽減を求めて人生を費やす。

これは健康な人も、そして私も同じである。

気持ちは分からなくはないが、人生がそれだけになってしまっはあまりに悲しいことである。

よくよく自戒することである。

(11月19日2010年掲示板)

▲条件

「神との対話」にこういう話しがある。

3巻(034)

「よろしい。では、まさかと思うようなことを、もうひとつ教えてあげよう。

わたしはつねに、あなたにとって最善のものを与えている——ただし、あなたは必ずしもそれに気づいていない。わたしが何者であるかを理解すれば、少しは謎が解けるだろう。」

また、こういう話しもある。

与えられている条件は完璧である。

与えられている条件を変えるには。

●ヒーリング

イメージ力～明確なイメージ～物質的な感覚

(参考)「人間の永遠の探求」

272～物質化の訓練

274～

下段

■シュタイナー～「神秘学の黄金律」(真理と善)

075～＜一歩、三歩＞

「このような種類の行を通して、自分の中に見霊の最初の芽生えを体験した人だけに、人間自身の観察に向うことが許される。人生の単純な相をまず選ぶ必要がある。——しかしこの観察に向う前に、自分自身の道徳的性格の純化に努力し、行によって得た認識を自分の個人的な利益のために利用しようなどと決して考えてはならない。その認識が周囲に対して権力となりうるにしても、決してそのような権力を乱用してはならない。換言すれば、人間存在の秘密を直観によって知ろうとする人は、真の神秘学の**黄金律**に従わねばならないのである。その黄金律は以下の言葉で表現される。「**神秘学の真理に向って汝の認識を一歩進めようとするなら、同時に善に向けて汝の性格を三歩進めねばならない**」。——この規律に従う人だけに、以下に記す行の実践が許される。」

(「いかにして超感覚的世界の認識を獲得するか」)

●不可能と思わないこと

●掃除

秘書がする仕事よりも社長がする仕事の方が大切である。

ビルで掃除婦がする仕事よりもビルで働くビジネスマンがする仕事の方が大切である。

社会的にはそうである。

しかし、個人的にそうであるか否かはまったく別問題である。

社会にとって大切なことが<わたしにとって大切であるか否か>は全く別問題である。

(5月14日掲示板) ↓

■掃除

本を読むことの方が掃除をするよりも有益である。

勉強をすることの方が掃除をすることよりも有益である。

今のこの日本ではそうである。

今の日本にいるあなたはそう思う。

しかし、あなた個人にとってそうであるか否かは別問題である。

今のあなたが大切だと思っていることが<あなたにとって本当に大切であるか否か>は全く別問題である。

(5月15日掲示板) ↓

■掃除～死の前日には

あなたが一番目に大切であると思っていることは、本当は百番目に大切なことになっているかもしれない。

(6月2日掲示板) (改変済み・掲示板記入予定)

■変容

あなたが今一番目に大切であると思っていることは、明日の朝には百番目に大切なことになっているかもしれない。

もしそうなったのであれば、それは祝福すべきことである。一日で人生を一新できたということは祝福に値するからである。

■意識のある人生

またこうもいえる。

今日一番大切であったことは、明日も、十年後も、百年後も一番大切なことである。

これもまた祝福に値する。変わることはないわたしを知っていて、そのわたしを実践しているということは祝福に値するからである。

今日したことは、明日であっても、百年後であっても、同じことをすることであるように。

(同一と変容～神聖なる矛盾)

あなたが明日死ぬことが分かっていたら、あなたが今日することはこれまで一番目に大切であると思っていることと違うことをするであろう。

あなたは本を読んだり、仕事をしたり、勉強をしたりするよりも掃除をするかもしれない。

車中、あなたは本を読むために座席を確保するよりも席をゆずるかもしれない。

明日死ぬときに今日すること、それが一番大切なことである。

(ヨガナンダの大切なこと～神と通じること)

捨ててしまったものがある。

掃除をすること。

すり切れるほど使うこと。

自然のものを手でふれてみることに。

ご飯よりおかずの方がおいしいので、おかずの量がふえてきた。

掃除よりビデオを見ることの方がおいしいので、映画を見ることのほうがふえてきた。

昔は、掃除だけであった、洗濯だけであって、家事だけであった。

雑事は秘書、掃除は掃除婦、

■ 選択

今日仕事に行かず、鎌倉に行けば、この一年で最も大切なことをした一日になるかもしれない。

■ シンクロ

部屋のきれいさ、形と

わたしのきれいさ、形と

シンクロしているようにする

● 瞑想の対象

瞑想の対象は「わたしのもっとも大きいもの」

(加筆して草稿要転記)

5月12日、13日、19日 2006年

● 夢と創造力～ヒーリング

昨夜、とんでもない夢を見た。「歯ぐきをぐいぐい押されて歯ぐきの骨が折れてしまいそうになる」夢である。これがなんともリアルで、夢の中でさすがにやばいと思い、目を覚ますことを意図するが、これが結構難しい。まあ、何とか目が覚めたが、あのまま目が覚めなければどんなことになっていたのだろうか(不思議なことにこういう夢は必ず目が覚める)。

昔はこの手の夢は頻繁に見たが、ここ二十年はごぶさたであった。もしかすると、最近遠隔で気を送っていることと関係しているのかもしれない。ご存じない方は遠隔で気を送るというのはピンとこない話しかもしれないが、うまく送れているときには、夢と同様、こ

れまたかなりリアリティのある<現実>なのである。

遠隔でリアリティの開発に目覚めたあげく、不安から生じるリアリティまでもが増幅されてしまったのであろうか。

(5月13日掲示板)

●変化

1 触感としての「気」～変化しないもの？

2 変化しないことの大変さ（神との対話）～同じことを思い続けることの大変さ～トンボの静止飛行

3 自己想起・自己観察による同じ方向のベクトル

●視点

ひとりで → ふたりで

つよく → よわく

常に視点の変換を試みる。

5月13日、15日、18日、19日、21日 2006年

●意識のある人生～死者

皮肉なことであるが、死んだ自分から今の自分を見ることが<生きることができる>こつなかもしれない。

(5月15日掲示板)

■死者

死者の目から見れば、自分は肉体ではなかったことが分かる。

肉体ではなかったことが分かると、

肉体ではなかったことが実感できると、

肉体を生きるのではなく、

<自分を生きることができる>ようになる。

だが、自分を生きるとはどういうことなのであろうか。

(5月18日掲示板)

■鏡

昨日、百円ショップで鏡を買った。携帯電話に貼れる鏡である。こんなものがあると便利というのが百円ショップで売られていたとは！

ただし、この鏡は白髪と顔のシミをチェックするために買ったのではない。

「明日の神」(サンマーク出版)に出てくる「誰だろう (who) 瞑想」をするためである。
4年半やってできなかった<意識の獲得>のためにである。

<グルジェフが「自己観察」と呼んでいるものの獲得>のためにである。

どういうことかという、<自分が何をしているかをいつも知ってられる、いつも意識してられる>ためにである。

そのことがなぜ大切かはさんざん書いてきたので(?)、ここではふれずに、自己観察獲得のための具体的な方法について書いておく。

鏡を見ながら「誰だろう」とゆっくり息をはきながら(10秒くらい)問いかける。一回に3回やり、これを一日に100回、一ヶ月間やると、自己観察ができるようになるという神のアドバイスである。

これを読んだのは数ヶ月前あるが、とてもでないが鏡を100回も見ることにはできない。考えたのはいつも持ち歩いている携帯電話に鏡を貼りつければ、100回も不可能ではなさそうで、また、人前でもさほど違和感なく見ることができる。それで、そのような鏡をさがしていたのだが、ぴったんこ百円ショップで売っていたとはラッキーである。

まあ、そうはいつでも車中でシラガ頭のおっさんが鏡をじっと見ているのは相当異常な光景ではある。

(5月20日掲示板)

●意識のある人生～コントロールする力

知的障害者の話し方は自分のなかにもある。

違うのはどこかそういう話しを表に出さない精神のある力である。

また、現在のわたし自身にある考え方の支離滅裂さ。

それはまた、ある力によって統一されてくる考えである。

(掲示板不可)

5月14日、15日、21日、6月3日 2006年、3月28日、4月4日、4月5日、5月17日
2007年、10月12日、16日 2010年

●意識のある人生

昨日まではできなかったこと、

このことを今日行なう。

昨日まではしなかったこと、

このことを今日行なう。

意識して行なう。

意識して、少しだけ前に進む。

(5月16日掲示板)

■意識のある人生～痛み

少しだけ痛みのある人生を送る、その痛みはもう身に着けておくことができなくなったわたしを捨て去る痛みである。

この痛みは、喜びに変わる痛みである。

この痛みを避ければ、不全にもだえる苦しみを感じて過ごすこととなる。

(加筆して掲示板記入予定)

●自由～教祖

他人を教えの祖とすることなく、

他人の教えの祖となることなく、

おのれ自身の教えの祖となる。

つねにそれだけである。

自分自身は。

そして、人間関係は。

(6月3日掲示板)

■自他

今日誰と出会うか、これはわたしの仕事ではない。

これは神の仕事である、あるいは、縁の仕事である。

今日出会った人から何を受け取るか、何を手渡すか、これはわたしの仕事である。

何を受け取り、何を手渡し、どのように自分自身を解き明かしていくのか、これはわたしの仕事である。

だから、

神の仕事、縁の仕事には難くせをつけないことである。

まさかと思うかもしれないが、神はひとりひとりの最善の道を用意してくれている。

そのことを知れば、難くせはつけられない。

だから、銘記すべきは、

わたしの仕事である<受け取ること、手渡すこと>をさぼらないことである。

私を知れば、さぼっていることに気づく。

(4月5日2007年掲示板)(5月17日2007年掲示板)(10月16日2010年掲示板)

すべてを受け取る必要はない。

だが、昨日までのあなたが受け取らず、明日のあなたが受け取るものがあると知るべきである。

さらにまた、
昨日までのあなたが受け取り、明日のあなたは受け取るものがあるということをするべき
である。
さらにまた、もしそんな幸運にいれば、
永遠に受け取り、永遠に受け取らないものに

5月15日、20日、21日 2006年、3月28日、4月4日、8日 2007年、10月12日、13
日、18日 2010年

●変容

数万年後に初めて分かることがある。
人が月面に到達可能なことは数万年前には想像すらできなかった。
これは数万年後に初めて分かったことである。
では、これから、数万年後にできることとは何であろうか。
科学が関わる事柄だけではない。たとえば、

殺人者に罰は与えられない。

これは数万年後にこの地球上に実現されることであろうか。あるいは、数万年後にもやは
りありえぬ命題であろうか。二千年前にひとりの人が自らの身を挺してこのことを実現し
ようとした。だが、これはやはり小説や映画の中でさえありえぬ絵空事以下のことなので
あろうか。想像すらできないことなのであろうか。

(4月5日 2007年掲示板)

●瞑想

1時間の瞑想で昨日の瞑想と異なるものを得る。
そのように行なってみる。
(予定表記入予定)

■瞑想

身体感覚の除去
心の中で内部から外部へ出て行くことの除去
内へ内へと入っていくこと

■イエス

求めよ、されば与えられん…とは瞑想の対象を求めることではなかったのか。

●意識のある人生～不可能という文字

一日の達成目標を高く持つ。

一日の達成量を膨大にする。

前日の夜に達成目標を作成する。

当日の朝に達成目標を確認する。

(なお、朝、その気になれない時には、予定修正)

(10月18日 2010年掲示板)

(参考) グルジェフの超努力

■神聖なる矛盾

一日の達成目標を低く持つ。

一日の達成量を最小にする。

そして、その目標は必ず行い、しかもとてつもないエネルギーを注ぐ。

(10月20日 2010年掲示板)

■意識のある人生～不可能・普通の人

したくないこととできないことを区別する。

したくないことをできないとは言わない。

できないことを求め、できることをしない愚を省みること。

(11月17日 2010年掲示板)

▲できないこととは何か。

～教室の資料「願い」の項を参照

●願い

願いとは行為への愛そのものではないだろうか。

願いとはわたしの願いである。

相手の願いではない。

そして、わたしの願いとは最高のヒーリングである。

●意識のある人生～神との交わり

一日 24 時間のうちに誰でもが少なくとも 1 時間半は食事に費やすが、1 時間半を神に費やす人は少ない。

人生で一番目に大切なこと、食べることに 1 時間半費やすが、人生で百番目に大切なこと、神との交流には 1 分たりとも費やさない。

存在する食べ物には 1 時間半費やすが、存在しない神には 1 分たりとも費やさない。

このことは理にかなっている。

ただし、今日の理は明日の理ではない。

(4 月 8 日 2007 年掲示板)

人生に五番目に大切なことに 1 時間半を費やすが、一番目に大切なことには時間を一秒たりとも費やさない。



一日、朝昼晩を食事に費やすが、
一日一回も神に費やすことをしない。

●教室

教室の参加者をおおう固い一枚のこだわり、それはわたし自身のこだわりかもしれない。

5 月 16 日、21 日、6 月 3 日、5 日、10 月 9 日 2006 年、4 月 7 日 2007 年、10 月 12 日、
13 日 2010 年、2 月 21 日、24 日 2011 年

●わたし・創造・自他・援助者

おぞましい考え、卑劣な言葉は自分自身を傷つける。

これは心身ともにである。

もし一回一回のおぞましい考え、卑劣な言葉で自分の体と心から血が流れ出ていくのをはつきりと目にすることができれば、そのような言葉、考えを使うことはなくなるであろう。

だが、悲しいことにそのような血を見ることはかなわないのである。

だから、

ある病気、ある事故が血のしるしとなり、

そしてまた、

ある出会いがその血を止めようとするのである。

あらゆる出来事に耳をすませて、あらゆる出会いにこころを開き、気づきを得ることであ

る。

(2月24日 2011年掲示板)

出会い、これはわたしではない。

■闇

だが、血を止めについて、血をさらに流れさせる、ということもある。

あるいは、血が止まらずに、生きている間、頼らざるをえないようにする、ということもある。

無明の世界である。

●意識のある人生～漫画の自由～キャラが立つ

「明日のジョー」の力石徹、

漫画の脇役でさえ、ひとり歩きをする。

漫画家の思惑をこえて生きてしまう。

現実にいるわたし、

このわたしはひとり歩きしているであろうか。

力石徹のように自由に生きているであろうか。

他者の思惑の中に埋没してはいないだろうか。

(4月7日 2007年掲示板)

●JOさんへの返事

他人を変えろというのはある意味では僭越な話しなのですが、人間同士の関わりには必ずついてまわる事柄でもあります。他人を変えろための方法としてわたしが考えているのは二点

まず、自分が変えたい相手を自分が実現していることです。

(相手の病気を治したいのであれば、自分が健康であるということです。)

次に、相手を自分と同じような存在であると見ることです。

(病気の場合は、健康であると見ることです。)

どちらも簡単ではないです。

健康とは何か。

自分は健康であるのか。

簡単ではない話しです。

相手を自分と同じように見ることはもっと大変に思われます。

(メール)

5月19日、20日、21日、31日 2006年、4月4日、5日、5月2日、5日 2007年、10月13日 2010年

●ヒーリング～アプリアリ

まず、治癒がある。

その次に、病気である人と気を出す人がいる。

(5月29日 2006年掲示板) (以下、動詞の項に再掲)

まず、治癒——動詞がある。

その次に、病気である人(名詞)と気を出す人(名詞)がいる。

(10月16日 2010年掲示板)

■ヒーリング～弓と禅

まず、治癒がある。

そのあとに、病人とわたしがいる。

だから、治るのは当たり前である。

問題は、当たる前にきちんと立っていることである。

治癒に当たるとはどういうことであろうか。

その前にいるとはどういうことであろうか。

そして、立っているとはどういうことであろうか。

(6月1日 2006年掲示板)

■くもの糸

この話と符合するたとえ話は弓の達人「阿波研造」師範の話である。ドイツの哲学者オイゲン・ヘリゲル博士は大正13年から昭和4年まで哲学と古典語を教えに東北帝国大学に赴任する。もともと禅に深い関心をいただいていた博士は禅に近づくための芸道として弓道の門をたたく。

師範は来る日も来る日も型の練習ばかりで、どのようにすれば的に当てられるようになるかを全く教えてくれない。しびれを切らして、弟子ヘリゲルは阿波師範にその方法を何度も何度も尋ね、その問答はひとつひとつが興味深い話であるが、ここではそのひとつを紹介する。

「あなたは無用の心配をしています」と彼は私を慰めた。「あなたの念頭から中りを追い

出しなさい！ あなたはたとえ射がことごとくあたらなくとも、弓の師範になれるのです。あの的の中りは、頂点に達したあなたの無心、無我、沈潜状態——その他なんとこの状態を名付けようと——の外面的な証拠、確認に過ぎないのです。名人の地位にも段階があります。そして最後の段階に達した人であって初めて、外面的な目標をも、もはや射損じることがあり得ないのです。」

「それがどうも私には呑み込めないのです」と私は答えた。「私は、射あてられねばならぬ、本当の内面的な標的、と先生がおっしゃるものの意味が分るように思います。しかし外の目標、紙の的が、射手が狙わないのにあてられるということ、したがってまた、中りは内面的に起ったことを外面的に確認するということが、がどうして起るのか——この一致が私には不可解なのです」と。

「あなたは思い違いをしておられます」と師範はしばらくして後、私の再考を求めていった、「もしもあなたが、この玄妙な連関についてのほんの一知半解の理解が、今後ともあなたの役に立ちうるとお考えならば。ここでは理解力の届かぬ過程が問題になっているのです。自然の中にはすでに、不可解ではあるがそれにもかかわらずあまりに現実的なので、我々がその外の仕方では在り得ないかのように慣れてしまっている一致があるということをお話して下さい。今までしばしば私の心を捕えた一つの例をお話ししましょう。蜘蛛はその巣を舞いながら張ります。しかもその中で捕えられる蠅が存在することを知らないのです。蠅は呑気に日向で飛び、舞いながら、蜘蛛の巣に捕えられ、しかも何が自分に迫っているかも知らないのです。しかしこの二つのものを通じて“それ”が舞っているのです。そしてこの舞の中では内と外とがひとつなのです。このように射手は、外面的に狙うことなしに、標的にあてるのです——これ以上うまくあなたに話すことはできませんが。」
(オイゲン・ヘリゲル著「弓と禅」101 ページ 福村出版)

患者さんを蠅にたとえ、治癒を蜘蛛の巣にたとえることは若干の抵抗はあるが、このたとえ話はヒーリングに関する——そして、人生に関する——本質的なことを言い当てている。

わたしは手をかざし、くもの糸を張るが、その糸をどのように張ればよいかはあらかじめ決まっていることなのである。くもであれば、その糸を“それ”が舞って理想どおりに張るが、わたしが張る場合は、“それ”がまるでないわけではないが、同時に「私(我(が))」もあるので、なかなかくものように理想どおり張ることはできない。しかし、ヒーリングの糸、治癒の糸はあらかじめ在るのである。問題はわたしがどのように舞うか、どのように手をかざすかということだけである。

(以下続く～たぶんかなり後に～)

(2007年5月11日掲示板)

では、わたしがくもの糸を理想的に張ることがわたしが主体的にこの世界で行うことであ

るのかというと、必ずしもそうではない。病気の人がいなければ、わたしのくもの糸はただの様でしかない。くもの糸を張るのは、わたしが行くことであるのだが、同時にどこかでくもの糸をく張らされているところがある。

<くもの糸、くも、はえ>

これは時空に置かれているある姿である。

<治癒、手をかざす人、病気の人>

これもまた、時空に置かれているある姿である。

われわれはこの姿に至るためにただいる

治癒、手をかざす人、病気の人、これは布置である。

占いと同一ような布置である。

シンクロシティと呼んでもよい。

ひとつの原因と結果である。

あるいは、動かない布置であろうか。

植芝盛平氏の弾丸をよける話～ヒーリングにおける白い線というのは何だろうか？

武器としての弓が実用的でなくなってしまったこと～的に当てることを競うことを超えること～神との対話における勝敗を争わないゲーム～将棋においてパソコンソフトに人間が勝てなくなること

5月21日、23日2006年、9月20日2008年

●ヒーリング～神の領分・人の領分～<手をかざすこと>

18年前、気功治療のやり始めの頃は、これは自分の能力ではないということで、基本的に無償の精神でいた。だが、長くやっているうちに「自分の能力の部分と自分でない能力の部分とが気功治療にある」ことに気づいてくる。

たとえば、<手をかざすこと>、これは自分の能力である。そんなこと、能力のうちに入らないとおっしゃる方は多いであろうが、長くやっていると分かるが、<人間やりたくない時もあるのである>。それはお前のわがままだという方は自分のことをよくご存知ない方である。

一日中働いて疲れて帰ってきて、あとはシャワーをあびて、好きな番組をビール飲みなが

ら見るだけだ、というとき、電話がかかってきて、気功治療を受けたいという。そのとき、そのすべてを犠牲にして片道 1 時間をかけて出かけ、＜手をかざすこと＞ができるかどうかということである。

1 時間手をかざしているが、一向によくならない。もうへとへとである。これ以上やっても仕方ないのではないかという時、さらに＜手をかざすこと＞ができるかどうかということである。

どちらも簡単ではない。

おまけにここには書かないが、これに「患者さん自身のわがままといわれる問題」がからんでくると、もっと＜手をかざすこと＞は困難となる。

わたしもいつも＜手をかざすこと＞ができるわけではない。でも、もしも、＜手をかざすこと＞ができた時、これはわたしの能力と言ってよいのである。

(6 月 22 日 2006 年掲示板)

■ヒーリング～神の領分・人の領分～ぬり絵

小さい頃、ぬり絵をしたことがある。輪郭が点線で書いてあってその輪郭に沿って線を引き、色を自由にぬっていくというお遊びである。

わたしの今のヒーリング能力はどの程度かということ、卑下するわけでもなんでもなく、点線の輪郭に線を引く作業程度の能力である。色をぬるまではいかないし、線の引き方も点線通りに引くことができないのでなめらかでない。それでも似非気功治療よりもまじな気功治療であるというのは何とか点線をなぞろうとしているからである（正しくは、なぞらされているからである）。

誰が何と言おうと、この点線はわたしのものではない。この点線は神である。

(6 月 23 日 2006 年掲示板)

■ヒーリング～神の領分・人の領分③～あべこべ

一方で、

治したのはわたしであると思う愚、本当は神が治したのに、わたしであると思う愚がある。

他方で、

＜手をかざすこと＞ができないのは××のせいであると思う愚、本当はそれがわたしであるのに、わたしであると思わない愚がある。

わたしでないことを「わたしである」と言い、「わたしである」ことをわたしでないと言う愚がある。

(6 月 24 日 2006 年掲示板)

■ヒーリング～神の領分・人の領分～志

正視することができない病気の方がいると、総毛立つというか、血の気が引くというか、アドレナリン全開になるというか、何と云ったらよいか分からぬが、そういう時に手をかざすとわたしのその時の能力のすべての気が出てくるものである。その出方はわたしのものであるような、わたしのものでないような、微妙な出方である。

だが、この手かざしも二度三度と続けるうちに同じ手かざしができなくなる。

この同じ手かざしをすることが今のわたしの最大の課題である。

この同じ手かざしをすることは<半歩は自分の側にあり、もう半歩は神の側にある>。これを完全に自分の側に引き寄せること、このことが今のわたしの次なるの課題である。

(5月26日 2006年掲示板)

■ヒーリング～テレビを見る患者

昔は患者さんが気功治療を受けているときにテレビを見ていたら、もう二度とは手をかざさなかった。

最近は平気である。

理由ふたつ。

ひとつは、わたしも人間だからである。

わたしもこころの中でテレビを見ているからである（すべての時間に気を出すことに集中しているわけではないからである）。

もうひとつは、神になりたいからである（この言葉を不遜に感じられるとしたら、神を見習いたいからであると置き換えてもいい）。

神様はわたしがテレビを見ても病気を治してくれるからである。

わたしがろくでなしであっても、わたしに常に最善の道を用意してくれるからである。

(<手をかざすこと>への追記) (5月27日 2006年掲示板)

■ヒーリングとテレビ～所有

テレビとヒーリングは相性がよいのか、やはりテレビを見ながらヒーリングを受けられている方がいらっしゃるので別の観点からのコメントである。

テレビを見ながらヒーリングを受けてもわたしは怒らない。

テレビを見ながらヒーリングを受けてもわたしは何も失わないからである。

また、テレビを見ながら受けても治るときには治る。わたしがまたテレビを見ながらヒーリングを行っても治るときには治る。病気が治るか治らないかについてはテレビを見ることは無関係である。

ただ、わたしはテレビを見ない。
なぜか。
わたしのためにならないからである。

患者さんがテレビを見ながらヒーリングを受けてもわたしは何も失わないが、わたしがテレビを見ながらヒーリングを行うと、わたしは多くのものを失うからである。
だから、わたしはテレビを見ない。

そしてまた患者さんにも注意する。
患者さんもテレビを見ながらヒーリングを受けると多くのものを失うからである。
病気が治ってもである。
(9月20日2008年掲示板)

5月22日、23日2006年

●内臓のコントロール

最近の便の出具合は異常である。癌なのか神経性大腸炎なのかは分からないが、どちらにしろ治すにこしたことはない。

5月23日、6月4日、9月8日、9日2006年、4月4日、5月2日、4日、5日、6日、8月13日2007年、10月12日、13日2010年、7月18日2011年

●動詞～自由と名詞

自分のしたいことというのは、他人のためにもなることである。
どのようなこであれ。
この世界はそのようにできている。
だから、よく言われる「他人に迷惑をかけなければ」という条件さえも取りはらってしま
い、ただただ自分のしたいことをすればいい。

そしてまた、不思議なことであるが、自由は大きくすればするほど、小さくは生きられな
いものである。

動詞になると人は大きくなるものである。

(10月13日2010年掲示板)

●ヒーリング

手をかざして病気が治ることは方便である。

(5月30日掲示板)

何のための方便か。人間らしく生きるための方便である。

だから、人間らしく生きることが第一で、病気が治ることは第二、第三である。

とはいえ、とにもかくにも治ってもらいたかったという、忸怩たる思いにおそわれることもある。

(9月8日掲示板)

●神の姿～神聖なる矛盾

神様は白いひげをはやしたおじいさんではないし、若い女性でもない。

だが、神様は白いひげをはやしたおじいさんだし、若い女性である。

(9月9日掲示板)

■私の神様

最初は、神様は白いひげをはやしたおじいさんだと思う。

次に、白いひげをはやしたおじいさんは神様でないと思う。

神様は人間のこころの中にあると言ったりする。

その次には、白いひげをはやしたおじいさんもまた神様であると言う。

どれも神様の姿であるという。

どれもその人にとっての神様の姿である。

(9月12日掲示板)

■わたしが思う姿

イエスは

「あなたがたもわたしと同じことができる。わたし以上の奇跡ができる」

と言ったが、これもまた神様の姿である。どのような神様の姿であるかというと、

「あなたがたもまた神の子であり、

神の子としてわたしイエスが行った以上の奇跡を行うことができる、すなわち創造力を発揮することができる」

とこのように言っている。この神様像を自分自身と多くの人に伝えることがわたしのしたいことのひとつである。

(2007年5月4日掲示板)

知っていることと伝えることとは異なる。

●ヒーリング～条件

一億円あったらできることがある。

一億円ないからできることがある。
健康であったらできることがある。
病気であるからできることがある。

今日、この場でできることがある。
今日、この場でしかできないことがある。
(6月5日掲示板)(意識表裏面要転記)

■ヒーリング～条件

一億円あるからできることがある。
一億円ないからできることがある。
健康であるからできることがある、
健康でないからできることがある。
ブッダがいるからできることがある、
ブッダがいないからできることがある。

今、あなたがどちらであるにしろ、
今、この場でできることがある。
今、この場でしかできないことがある。
わたしを実現するための最大限の条件がある。
(5月6日2007年掲示板)

■<知識><神と人間><質問><Be Here Now>～連れ子を育てた話し

>わたしを実現するための最大限の条件がある。

聞いた話であるが、実話である。ある女性は子どもが二人いる男性と結婚した。彼女は自分の子どもができるとこの子ども二人に対する愛情がそがれると考え、新たに子どもは作らなかった。

子どもが大きく育ってから、その女性がある霊能師にみてもらったとき、その子どもは前世でもその女性の子どもであったという話しである。ほんとうだろうか、とわたしは疑ってしまうのだが、まあそれはいい。問題は、この子どもを育てる前にこの霊能師の話を聞いていたならば、子ども二人を育てる意味合いはまったく違うものになるということである。もちろん、こんな話しは知らないで育てる方がけた違いにすばらしい。自分の子どもでなく、他人の子どもを自分の子どもと思って育てることの方がはるかにすばらしい。このすばらしさは、夫の連れ子を自分の子どもと知らないでいて、初めて可能になることで

ある。すなわち、

<何も知らない方が自分自身を実現し、大きくできるということがある>。

だが、われわれは<今という最大限の条件>を何とか別の条件にしようとむだな努力をしてはいないだろうか。知るならばあとで十分であり、得るならばあとで十分である、ということがある。

(5月7日2007年掲示板) (加筆済み7月18日2011年ブログ)

5月24日2006年、4月4日2007年、10月12日2010年

●寿命

このまま百年生きることができたら多くのことが達成できるのではないだろうか。一年でも長く生きることができるところを模索してみる。

■意識のある人生

常にギリギリの条件を生きること。

江夏のツアーアウト満塁

●神の存在証明

あなたが神の不在を声高に叫ぶことができる。

このことは自由の存在を表明している。

神が存在することはあなたが口汚くののしることができることで明らかである。

自由が存在することはあなたが口汚く〜。

5月25日2006年

●tokyo-boogie-night さんへの返信

こんばんは。掲示板、初参加させて頂きま〜す！

ヒーラーさんってフラストレーション溜まりやすいんですね。

tokyo-boogie-night さん、はじめまして。書き込みいただき、ありがとうございます。

フラストレーション、これは相当ですね。

ヒーラーにあこがれて、奇跡的にその能力を得ながらフラストレーションのためにやめていった人も知っていますし、その過程で変節していった方も知っています。

わたくしも治療はここ十年近くやる気が失せてしばらく現場からは離れ、教室だけに力を

注いでいました。しかし、去年から見えざる力に後押しされ、気功治療を再開しています。再開したということは以前感じたフラストレーションを感じるということはありません。ただし、気功治療にまつわるころの葛藤から完全に開放されるということはないですね。

(補足) 人というのは本当に困ったことに出会わないと変わらないものです。まあ、困ったのはわたしではなく、患者さんとその家族なんですが、その困った人がいて、(神様の目からは困っているように見える) わたしを助ける機縁となるわけです(ころの奥深いところではヒーリングを行なうことを欲しているわたしがいるのです~まあ、今回気づいたことですが)。してみると、患者さんとその家族は神様の使いのような方々です。)

(掲示板記入)

行為への愛の段階

センセイとだけいわれる人間でも、能力でもないし、
ニセモノとだけいわれる人間でも、能力でもないですね。
まあ、両方正しい

■返信

そう言えば、光さんが、「このパワーは、神様のバチかも」と言っていましたね。

でも、そうじゃないと思うのですが。。

神様って、足りない人にちょっとだけ、試練をくれるような気がするんです。

それが、人それぞれにあった試練。

その試練に負けない、あつたかな心を

つねに持ち続けられる人間になってもらいたって

言う神様のメッセージ。僕はそう思うんです。

光さんのいう自虐的なメッセージの感覚も分からないではないですが、それは **tokyo-boogie-night** さんのおっしゃるとおりですね。神様はバチを与えたりはしません。人間はしますけどね。自分自身を通してしか神の姿を見ることができないので、今までの地球人は「神様はバチを与えるものだ」と思っているのでしょう。わたくしは神は機会を与えてくれる存在だと思っています。道を与えてくれる存在です。どのような機会、どのような道かという<わたしののぞむ道>です。そのための機会です。ですから、試練が与えられるというよりも、おそらくは人の方が試練と感じてしまうのかもしれない。自分自身がのぞんでいることをほとんどの人は知りません。ですから、

わたしが望んだ道が用意されてもそれはつらい道であるように感じてしまうのかもしれない。

わたしには信じがたいほどのあったかなころがあります。

また、信じがたいほどの冷たいころがあります。

本当はあったかなんでしょうか？

本当は冷たいのでしょうか？

あるいは、両方ありなのでしょうか？

あるいは、その他があるのでしょうか？

(掲示板記入)

■返信

今の世の中、お金って金のリボンにしばられたりなんかで、
本質って見にくくなって、そこから、だんだんと、
自己と世の中のかかわり方を忘れちゃったりと、
だから、例えばヒーリングを受ける側が、
感謝を金のリボンとの等価交換ですまそうと
したり、だから、ヒーラーさんが、悲しい思いを
してしまうと思うんです。

ありがたい感謝の気持ちは金のリボンと
等価交換なんて。心が一番！だと思うのですが。
世界中のみんなが、あったかな心で入れる世界って
いいなあ〜って思うのです。

確かに、金銭でお礼をいただくのもうれしいですが、
お弁当を作っていただくとか、
実家で作られている野菜や果物を送っていただくとか、
東京に出張に来ているからといって新幹線のプラットフォームまで見送りに来てくれるとか、
携帯電話のメールに検査結果がよくなったと感謝のメールをいただいたりするとか、
よくなって心底喜ばれている表情をしているとか、
ホント、こっちの方がこちらとしてもうれしいです。
(でも、お金も必要なので、よろしく〜(^o^)/

ただし、このこととは別に金銭の問題はついてまわります。

やり始めの頃は、まるっきり無償の精神で、一円たりともほしいとは思ったことはありません。でも、これは相当ズタズタになりましたね。まさしく試練とでも呼んでみたくなり

ますがね（笑）。お金の問題は現在進行形です。相当な現在進行形です。要するに、ムズカシイ。

原則はあります。

「わたしはただでいただいたのだから、ただでしなさい」

この原則です。

ただし、ただでもらうのは簡単だが、ただでするのは難しい。

そして、ただとはどういうことか、ということもあります。

以上、おもいつくまま返信させていただきます。

ありがとうございました。

（掲示板記入）

●JO さんへのメール〜ヒーリング

病気がなかったら、どうであったのか。あるいは、今回の病気でまわりに実際に起こったことは何であったのか、真面目にシミュレーションしてみるのもよいかもしれません。ただし、この＜真面目に＞というのがミソで、なかなか真面目にできるものではありません。

内観法というのをご存知でしょうか？ わたくしのヒーリングを受けられている方で内観法を二度ほど受けられた方がいます。内観法とは「親の恩を＜真面目に＞思い出す」というただそれだけですが、これが一週間朝から晩までひとり座って思い出し続けるのです。この患者さん、「先生もぜひ受けに行ってみてください」と言われましたが、不真面目な先生はびびって行ってません。まあ、＜真面目＞というのは日常生活に埋没していると、なかなか表には出てこないようです。

病気も一種の内観法かもしれません、その意味では病気を受けられたご本人自身が一番＜真面目に＞取り組まれ、多くのことを感じ取られているのかもしれません。

5月26日、6月9日、10月9日 2006年、4月4日、5月5日、5月23日 2007年

●らっきよの皮むき〜行為への愛

らっきよの皮をむいて実が出てこない、猿は怒る。

実を期待して実という結果が得られないからである。

人もまた実を期待して実が出てこない行為、結果を期待して結果が出てこない行為はむだと考える。期待通りの結果が出ないと怒る。

だが、実を求めずに皮をむくことそのものを愛することが実はできるのである。

さるはらっきよが実であることを知らない。

人間もまた行為が実であることを知らない。

もしかしたら、この世界はらっきよの皮のようにになっているのかもしれないのだ。

(5月23日 2007年掲示板) (草稿要転記)

ただし、実が出てこなくとも皮をむいた行為そのものは残るのである。

もし皮をむくことを好んですれば、それは結果とは無関係である。

結果を愛するのでなく行為を愛することである。

行為を愛することができることをすべきである。

もしかすると、この世界はらっきよかもしれないからである。

(加筆して掲示板記入予定)

猿が実を見ることができないように、本当は皮が実であったことに気づかないように、人間もまたこの世界の実を見ることがせずになっているのかもしれない。

5月28日、29日、6月14日、16日、17日、18日、19日、20日、27日、10月29日、
11月7日、12月30日 2006年、4月4日、5月6日、7月21日、8月14日、16日 2007
年、10月13日 2010年

●ヒーリング

神を通じて行なうこと

初心の無心にも注意すること

●ヒーリング～身体1

全体としての身体1

治療効果があることの一体、共通性、わたしが治したということなく。

●禁酒～行為への愛

お酒をやめるのではなく、他に優先することがある。たとえば、ヒーリングであり、たとえば、本を読むことであり、たとえば、健康であることである。

実は、このことは神と人の営みのすべてについていえることではないだろうか。この世界には、

何をわたしはするのか

というこのことだけがある。わたしはしたいことをすることができ、そのことだけを行っている、というただそれだけである。

この点はおそらくは神も同じなのではないだろうか。ただ、したいことがわれわれ人間とはまさしく桁違いに違うということはいえると思うが。

(9月19日 2007年掲示板)

「そんなことはできない」という世界から「できるけれどしない」という世界へ。

(参考)「神との対話」「わたしはいらいらすることもできるが、しない」

●ヒーリング

治療効果のよいしるしは気功治療のエネルギーとなる。

よいしるしとは、喜びであり、喜びは神だからである。

(掲示板記入予定)

●ヒーリング

他人より秀でた自分の能力は自分のために使うためにあるのではなく、その能力を持っていない人のために使うためにある。

●わたし

いい意味でも、悪い意味でも人は自分自身のことを知らない。

いい意味とは自分自身の大きさ——信じがたいほどの大きさ——のことであり、

悪い意味とは自分自身の慢心——信じがたいほどの空っぽさ——のことである。

(6月18日掲示板) (改変済み・7月20日 2011年ブログ)

■神

「わたしは神である」

という人がいる。

正しさと誤りがある。

「わたしは神になるまでの可能性を秘めた存在であるが、

今はまだ神ではない」

と言い直すことが、多くの場合正しい。

この<自分自身の大きさ>と<今現在の自分自身>について正しく見ることができること

こそ、人間らしい人生を送るための要諦である。

どちらを欠かすことも不幸の元となる。

(6月19日掲示板)

■わたし～所有

臨終の際の最後の最後まで人が手放さないものがある。

それは、自身の過大評価、すなわち、慢心と

自身の過小評価、すなわち、無知とである。

(6月1日 2007年掲示板)

■ 大きさ

<自分自身の大きさ>を知っておくことが大切なことは、

<神に似せて人が創られたという現代の日本人には信じがたいこと>を知っておくことが大切なことは、

人は創造者であるがゆえに、自分自身の信念のことしか実現しないからである。

そんなだいそれたことは考えられないとしたら、その通りのことだけが実現するからである。

人の世とははかないものであると考えるとしたら、その通りのことが実現するからである。わたしはあなたとは違うと考えるとしたら、その通りのことが実現するからである。

ヨガナンダは講和で次のように語っている。(「人間の永遠の探求」32ページ 森北出版)

「祈りは魂の要求です。神は人間を、乞食にではなくご自身の似すがたにおつくりになりました。このことは、キリスト教の聖書も、ヒンズー教の聖典もはっきり述べています。金持ちの家に行って施しを求める乞食は乞食の分け前しかもらうことはできませんが、その息子は、父から何でももらうことができます。ですから、われわれも乞食のように振る舞うべきではありません。キリストやクリシュナや仏陀が、人間は神の似すがたにつくられた、と言った言葉は真実です。

.....

祈りには正しい祈り方というものがあります。“猫は九つの命をもつ”と言われていますが、困難には九十九の命があると言ってもよいでしょう。このしぶとい困難に打ち勝つためには、一つの確実な方法——正しい祈り方——を知らなければなりません。祈りを効果あらしめるための秘訣は、あなたの立場を乞食から神の子に変えることです。この神の子の意識で父に祈るとき、あなたの祈りには神の全能の力と英知が流れ込んで来るのです。」

どのような本も向き不向きがあります。本書はキリスト教徒を意識した話し方になっていますが、このようなヨガナンダの語り口に違和感がない方は、「あるヨギの自叙伝」(ヨガナンダ著 森北出版)を読まれてから本書を読まれることをおすすめします。

(6月20日掲示板)

▲

自叙伝と同様に、この世界もまた内的気づき、成長と無関係に存在するものではない。

外A

外B

└内的大きさ

└カニンガムの三原則

└ダークマター・神

■つづら

いつもいうことだが、「舌切り雀」の話のように、大きなつづらを求めると、とんでもないしっぺ返しにあう。

ただし、これは物質の話である。こころとしての大きなつづらを求めることは全く逆に働き、それはただちに実現する。

あなたという豪華客船にいつも亀だけを乗せておくことはあまり意味のないことなのである。

(加筆して掲示板記入予定)

●誰だろう瞑想

誰だろう瞑想とは、いわば死体の瞑想のことである。

この生きているという体を死体のように、モノのように、作られた物質であるように、見ることである。

(6月18日掲示板)

■死病

重い病気にかかるということは、いわば「誰だろう瞑想」をしていることと同じである。

死の世界からこの世界の私を見ることができるからである。

この肉体の私を見て、これがわたしではなかったことに気づくことができるからである。

(6月19日掲示板)

■過去

時間の観点からは、過去の自分を見ることができるようになる。

■自他

鏡をのぞきこむと、シワとシミのついた皮膚とシラガの髪の毛が見える。そういえば、足もびっこをひくようになってきた。この体は「私」のためにはたいして役立ちそうにもない。女性に持てそうもないし、早く走れないし、けんかも弱そうである。

だが、鏡をのぞきこむだけでなく、ゆっくりと息をはき、「誰だろう」と問いかけると、この体は「私」のために役立たなくとも、「私」のため以外にはいくらでも役立つことに気づく。

(6月20日掲示板)

■体

体は着飾るものでなく、使うものであることがはっきりと分かる。

■意識のある人生～棺桶

毎朝起きたときにまざまざとイメージしてみる。

火葬場の釜に入れられる自分の遺体をイメージすること。

一日の始まりとしては、最悪だと思うかもしれないが、多くの人にとっては、最善のイメージであるかもしれない。

それは他人事ではなく、自分が行き着く先であり、遺体が自分自身ではなく、〈わたし〉が自分自身である、このことをしっかりとイメージできるからである。

そうすれば、今日は昨日とは違った一日になるかもしれない。

イメージをしなかった一日とは違った一日を送れるかもしれない。

(11月7日掲示板)

病気などではなく、棺桶に入って火葬場で焼かれる前の自分をイメージする。

動かない状態、その当然な状態、そちらの方が普通の状態をイメージする。

そして、なぜ動いているのかを感じる。ただし、これはイメージする必要はない。前者から導き出されるものだからである。

肉体のコントロールを目指す。ババジのように。

嫌いな人が死ぬときをイメージすれば、その人を好きになれる、という話があるが、わたしの肉体がなくなるときをイメージすれば、わたしの肉体を好きになれるかもしれない。

よく動かない体であっても、みてくれのよくない姿形のからだであっても、その体がなくなる時のことをイメージすれば、わたしを好きになれるかもしれない。

●所有

どのようなものも、なくて困るということはない。

あるのは困るという今の思いだけである。

その思いは明日には幻想となりうる。

ためしに、大切にしているものを何か手放してみることである。

なくなってしまうえば、なくても困らないということに気づくかもしれない。

(草稿要転記)

■捨てることと手放すこととの違い

不要になって捨て去るのでなく、元の姿に戻すということ。

別れ——ではない別れ——に際して、師範は私に彼の最もよい弓を手渡してくれた。「あなたがこの弓で射る時には、名人の精神が現在していることを感じられるでしょう。この弓は決して物好きな人の手に渡さないで下さい。そしてこの弓を引きこなしてしまわれても、それを記念に保存しないで下さい。ひとかたまりの灰の外は何も残らないようにそれを葬って下さい。」

(「弓と禅」115 ページ オイゲン・ヘリゲル著 福村出版)

人間は地球と同じ組成でできている。(明日の啓示)

5月29日、6月4日、5日 2006年、10月13日 2010年

●わたし

鏡にうつった自分を見て、ゆっくり息をはきながら、

「誰だろう」

と問いかけてみる。

自分だと思っているものが自分でないことがよく分かる。

(6月2日掲示板)

■わたし～シミ・シラガ

鏡にうつった顔にあるシミやシラガを見るために行なっているのではない。

「これがわたしであるかどうか」を見るために行なうのである。

(6月5日掲示板)

■眼

鏡を見たとき、

他人にどのように見えるかを見るのではなく、
<わたし>にどのように見えるかを見るのである。

(6月6日掲示板)

●NMさんへのメール

NM様

メールいただき、ありがとうございます。

もしお役に立てるのであれば、できる限りのことはさせていただきますので、こちらこそ
よろしく願いいたします。

自分にとって何がいちばん大切か、その大切なことを今日したのだろうか、と問うてみる
に、毎日を五番目、六番目のことをつぶしてしまい、じくじたる思いで毎日が過ぎてしま
います。

その意味では、立場こそ違え、病気をご縁にしてヒーリングできる時間はとても貴重であ
り、ありがたいことと自分は思っています。

よろしければ、また、いつでもお電話ください。

高塚恒夫

■スティーブン・キング

一日の最初に一番大切なことを行う。

5月30日2006年

●神と人～ワーク～善と悪

神がつくる道はオセロゲームのようである。

相手の駒に囲まれていても、一瞬にしてそれをすべて自分の駒に変えてしまう。

どのような悪行も、一瞬にして善行に変えてしまう。

まあ、それは見事なものである。

だから、

今日ある私の過ち、今日ある私の暗闇、

今日ある相手の過ち、今日ある相手の暗闇、

これらもまた、良きことになることを知ることである。

もし、あなたが知らなければ、この変換は神が行なう。

もし、あなたが知れば、この変換はあなたが行う。

(5月30日掲示板)

●ヒーリング

全力で出すのか、八分の力で出すのか

5月31日、6月1日、8日、11日、13日、14日、15日、16日、20日、25日、26日2006年、5月10日2007年、1月11日2011年

●質問71～大切なこと（加筆して再掲）

人生は自分が好きなことをしてよいのだ、とよくいわれる。わたしもそう思う。だが、自分というものがコロコロ変わるので、人生は万華鏡のように進行していく。まあ、それはそれでおもしろいものであるが、ここではその問題には深入りせずに、別の観点から人生を送ることをすすめる。

＜もっとも大切だと思うことに人生を費やすということである＞。

＜もっともくだらないことでなく、百番目に大切だと思うことでなく、十番目でもなく、三番目でもなく、一番目に大切だと思うことに人生を費やすことである＞。

至極当然の話しである。

では、あなたは一番目に大切だと思うことは何であると考えてるか。

ぜひ考えてみてください。

よろしければ、この掲示板なり、自分のノートなり、自分のところなりに書きとめておいてください。

わたしの答えは平凡です。10日後に書き込みます。

(5月31日2006年掲示板)(1月11日2011年掲示板再掲)(草稿要転記)

■神

わたしが考える人生で最も大切なことは、

＜常に神とともにいる＞

ということである。

(以下、つづく)

(6月11日2006年掲示板)

■＜常に＞ということと＜神＞のイメージ

＜神とともにいる＞とは何とも怪しげな言葉である。そんなものとは一緒にいたくないと思うかもしれない。わたしはわたしだけでいいし、お付き合いは人間だけでよいと思うか

もしれない。十年前のわたしであれば、この手の言葉には見向きもしない。だが、今は違う。わたしも誰かに洗脳されてしまったのだろうか。それとも、世界がよく見えるようになったのだろうか。まあ、どちらかは微妙なところである。

洗脳されたとすれば、ヨガナンダ師の次の言葉による。

「何をするにも、それを始める前も、している最中も、終わったあとも、神のことを考えているようになれば、神はあなたに来られます。この世に生きているかぎり、あなたは働かなければなりません、あなたを通して神に働いてもらいなさい。これが、信仰における最も大切な姿勢です。

<歩いているときは、神が自分の足を通して歩いていると思いなさい。>

<働いているときは、神が自分の手を通して働いていると思いなさい。>

<何かを成し遂げようとしているときは、神が自分の意志を通して成し遂げようとしているのだと思いなさい。>

こうしてたえず神のことを考えていれば、神を知ることができるようになります。」

(パラマンハサ・ヨガナンダ著「人間の永遠の探求」4 ページ 森北出版)

(6月14日 2006年掲示板)

■アラジンの魔法のランプ

わたくしはすばらしい文章だと今では思えるが、十年前であれば、へどが出るような言葉だと言うかもしれない。どこがへどが出るかというと神にへりくだる従属性である。人間が神の召使いのようであるからだ。

だが、実は神が人間の召使いであると神(=宇宙)は言う。

「……あなたが言ったとおりに、宇宙ははたらく。「わたしは何か欲しい」と言えば、宇宙は「そう、そうだろう」と答え、そのとおりの経験をさせる。何か「欲しい」という経験を！ 「わたし」という言葉に続くことは何でも、創造的な命令になる。瓶のなかの魔法使い、つまりわたしは、命令に従うために存在している。

わたしは、あなたが呼び出すものを創り出す！ あなたは考え、感じ、言葉にすることによって何かを呼び出す。単純なことだ。」

(ニール・ドナルド・ウォルシュ著「神との対話」2巻32ページ サンマーク出版)

神は言う。

<わたしは、命令に従うために存在している。>

人間は神に従うのではなく、人間は自分自身に従い、その望むものを神は創造すると言っている。だから、実は神と人間との関係は通常の宗教で言われている話と真反対の話なのである。だからグルジェフは

「意識した信仰は自由である。感情的な信仰は隷属である。機械的な信仰は愚かさである。」
(「グルジェフ・弟子たちに語る」389ページ)

と語っている。「信仰」、すなわち、「神と人間との関係」は感情的にとりいれられ神に隷属するものではなく、神が偉大であるからといって神を機械的に信じるものでもなく、真の信仰はわたしの意識をともなって生ずる関係であり、その本質は自由であると喝破している。

(6月15日2006年掲示板)

この名言は当掲示板で何度も何度も取り上げている。それは自由と意識のある人生がわたしにとって達成すべき大きな課題であるからだ。このことに取り組んでから4年になるが、相変わらず無意識であり、それゆえ不自由であるからだ。「神との対話」の神はたしか次のようにいっている。

「神、自由、愛

これらは同じものである。これらに順番はなく、同じものを表している」。

わたしにとって神とは何かはさっぱり分からない。神の御業を感じたことは何度かあるが、神が何であるかはまるで分からない。その点、愛と自由は分かりやすい。愛や自由を知っているからでなく、その反対の状態をよく知っているからである。

愛の反対とは何か？

自由の反対とは何か？

(6月17日2006年掲示板)

■神・自由・愛

愛の反対は不安である。

自由の反対は<わたし>がないことである。

私はいつも不安で緊張している。

私にはいつも<わたし>いなくて、過去の悔恨と、未来の不安と、他人の目と他人の教え、がいる。

愛は知らないが、不安は知っている。

自由は知らないが、<わたし>がないことは知っている。

この知らないことを通じて、愛と自由とにかすかにふれることができる。

かすかであっても、神よりも分かりやすい。

そして、

愛＝自由＝神

であるのだから、かすかであっても愛と自由を通じて神にふれることができる。

しかし、できうれば、このかすかを<常に>にしたいというのが私の願いである。

(以下、つづく)

(6月24日 2006年掲示板)

■ワグナー・生命

今日読んだ本の引用です。こちらの話の方が多くの日本人にとってはびったりするかもしれない。ちょっと長いですが…

「そのワグナーが『未来の芸術作品』の中で、明らかにフォイエルバッハの影響の下に、おおよそこんなことを言っています。「美を体験しようと思うなら、その美を何らかの意味で普遍的なものと考えて、そこに自分を関わらせていく、という態度をとってはならない」。美を考えるなら、自分という生命存在が先ずあって、その自分の中に美が流れ込み、自分だけの美の形がそこに作られるのでなければならぬ、と言うのです。つまり、普遍的に古典主義とか、ロマン主義とか、そういうものがまずあって、その中に身を置くことで、いわばその自分もロマン主義者のひとりだ、と思うことでは、美は体験できない。ロマン主義であろうと、古典主義であろうと、何であろうと、いったん自分がそれを引き受けて、自分の責任でひとつの形が自分の中から生まれてきたときにはじめて、それを美という、と言っているわけです。このことは美の問題に限りません。キリスト教なり、あるいはシュタイナーの人智学なりが、普遍的なものとして存在していて、そこに自分を関わらせる、という態度では、真実の人生芸術は生じない、と言うのです。

インテンシティという言葉があります。どのくらい集中しているか、どのくらい切実であるか、その度合いをインテンシティと言います。集中度とでも言いますか。ワグナーに

とって重要なのは、ある美的な体験の集中度なのです。美的な内容の理解ではなく、体験の集中度なのです。だから、あなたが見た夢を私も見ました、という次元では、まだ何も始まってなくて、その夢をどのくらい切実に、強く自分で体験したか、という体験の集中度があってはじめて、美と関わってくるのです。ある美的な理念が思い浮かんだときに、それが思い浮かんだというだけでは美的体験ではなく、思い浮かんだ美的理念が自分にとってどれくらい重要なのか、切実なのか、どのくらい深く印象をそこから受けとったのか、という部分が、ワグナーにとっての体験の基本です。

ワグナーは、ある体験がどれくらい強烈な体験になりうるかを、「精神」はまったく教えてくれない、と言っています。精神は無力だ、と言うのです。ある体験が自分の中で強烈な体験となりうるためには、精神ではなく、「生命」が自分の中にどれくらい強く体験できるかにかかっている、と言います。ですから、思考内容が形象化される時、それだけではまだ美的体験ではないのですけれど、その形象が自分の中で生産的な生命となって体験されたとき、はじめて美になるのです。その点で、シュタイナーと共通した考え方をしています。」

(高橋巖著「神秘学入門」170 ページ 筑摩書房)

神は千変万化であり、その実像は「たなぼた」のようなふれあいが数回あったわたくしの人生ではとてもでないが、捕らえることは不可能です。

ここでは、<生命>という言い方をしていますが、これもわたしの神のイメージによれば神です。<生命>は他者の生命(=神)をまねることによって手に入れることはできません。当初は、まねる、なぞる、というような手順を踏んだとしても、やがては自らの生き方(わたしが原因であるという意味での自由)をすることによって<生命>はひとりひとりの内に入り込んでくるものです(あるいは、ひとりひとりの内から湧き出てくるものです)。

<生命>(=神=自由=愛)は生命に従属することで得られるものでなく、ひとりひとりの生き方とともに顕現してくるものです。そのことがヨガナンダのいう

<歩いているときは、神が自分の足を通して歩いていると思いなさい。>

<働いているときは、神が自分の手を通して働いていると思いなさい。>

<何かを成し遂げようとしているときは、神が自分の意志を通して成し遂げようとしているのだと思いなさい。>

ということだと思えます。だから、このように言い換えることもできます。

<歩いているときは、生命が自分の足を通して歩いていると思いなさい。>

<働いているときは、生命が自分の手を通して働いていると思いなさい。>

<何かを成し遂げようとしているときは、生命が自分の意志を通して成し遂げようとしているのだと思いなさい。>

ワーグナーの音楽は聴いたことがあります、本は読んだことがないので分かりませんが、この話しは彼にとって芸術的な場面での話しをしているだけなのでしょう。しかし、この問題は実は日常生活の中でこそ達成されるべきことがらであり、だから、

わたしが考える人生で最も大切なことは、

<常に神とともにいる>

ということである。

そして、このことは可能であると考えているのです。

(6月25日 2006年掲示板)

■ ヨガナンダの丸い石

神はどこにもいないと思うこと。

丸い石だけが神であると思うこと。

丸い石は神ではないと思うこと。

丸い石も神であると思うこと。

■ 喜び

喜びを基準とする。

<常に神といる>

自由

愛

生命

喜び

喜びを行為の結果としない

常に喜びとともにいる

＜常に神といる＞ということは、＜常に神を使う＞ことである。

気功をするのを選ぶのはわたしである。

きれいな気を流してくれるのは神である。そのときに神とともにいるようにする。

指一本動かすことはあなたにはできないが、指を動かそうとすることはできる。

あなたにとってできないことに腐心するのではなく、あなたにとってできることをすることである（行為への愛）。

■神との出会い

神との対話「あなた方の誰が私の問いかけに応ずるかであって…」

ヨガナンダ身体としての神

本当のわたし

病気のとみにだけ神と会える

老化のとみに神と出会う

しわ・しみができたときに神と出会う

困ったときにだけ神と会おうとする

神であること

（加筆して教室資料要転記）

■日記より

最近はずき時間はほとんど遠隔で気を送っている。そのため、本を読む時間がないが、神様はどうもそうしろとすすめているようなので、そして、わたしもその方が残り少ない人生を有益にすごすことができると思っているので、治療をすべてに優先している。一年前には想像もつかなかったことである。

気功治療はわたしにとって一年前までは気功治療は五番目か六番目か、ひょつとすると、十番目か二十番目に大切なことでしかなかった。

だから、もしかして今二十番目に大切であると思っていることが十年後には一番目に大切なことだと思ってもちっとも不思議ではない。

■プロセスとしての神

2011年1月11日の今は、プロセスを意識して生きることであり、全体のプロセスに貢献することである。

●ヒーリング

わたしの手から気が出ているのははっきり分かる。

だが、その気が病気を治しているかどうかはまるで分からない。

だから、わたしのすることは、いかにしてきれいに入れるか、そのことだけである。

(6月16日掲示板)

なぜ指を動かすのであれば、自分が指を動かしていると思い、気功治療であれば、なぜ気を出しているのが自分だと思わないのであろうか。

指を動かすときにも自分でないものを感じてみることに。

■指を動かすこと。

■選択だけが人のできることである

■ヒーリング～自己研究（慢心）

ヒーリングに関して語るとほとんどが自慢となる。

■ヒーリング～卑金術

手をかざして病気がよくなることは金である。錬金術である。

この金はわたしが作ったものではない。

そして、この金のことを語ると、このヒーリングのことに語ると、ほとんどが自慢となる。金は金でなくなる。

わたしは錬金術を知らない。

わたしが知っているのは卑金術でしかない。

(6月17日掲示板)

●夜勤当番

24時間のスパン、48時間のスパンを持っていること。

夜中は通過点であることをしっかりつかむこと。

■スパン

人生を10年間のスパンで飛ばしてみることに。

★6月 2006年

6月1日、9日 2006年

●ヒーリング

疲れているときには、身体を通さないで送ることを試してみる。

●瞑想

こころが落ち着けば身体の緊張はとれる。

逆の方法もある。

究極的には、無呼吸にして緊張をとる、あるいは、緊張をとって無呼吸にする、ということになるかもしれない。

死もまた無呼吸であるが、緊張のある無呼吸である。

(加筆して掲示板記入予定)

6月3日、5日、9日、14日、16日、25日 2006年、10月29日 2010年、1月4日、11日 2011年

●創造力～自由～他人を侵害しないことにより創造力は生まれる

●ヒーリング

病気になりたい～その逆の力

病気はもしかするとエントロピー減少の道ではないだろうか。すなわち、秩序である。～病気の偉大さというものがある。

└腐敗の力にも秩序がある。悪の力にも秩序がある。

先日気功治療のあとに患者さんから

「先生が手を洗われるのは、わたしから出ている邪気を清めるためですか」

と聞かれた。そう、わたしは気を送っているときによく手を洗うのである。それは手が水でぬれているとききれいな気が出て行くからなのであるが、それはさておき、ここでは邪気と呼ばれるものに関してわたしが思うところを書いてみたい。

●リハビリのすすめ

ひとりひとりのリハビリとは何かを考えてみること。

●所有

肉体、車、家、子ども、…、気功教室、パソコン、…

これらは私のものであると思うことによって、ひとつひとつがその様相を変える。

逆にまた、

これらは私のものでないと思うことによって、ひとつひとつがその様相を変える。

私のものであると思う訓練は幼少時から莫大な時間をかけて受けてきた。

今度は、私のものでないと思う訓練を莫大な時間をかけてやってみることである。

(10月29日2010年掲示板)

●自他

最近お会いする依頼者の方は患者さんに対してとても献身的である。わたしには、そのような資質はないので、感じ入ることが多い。

自分の持っていないものを持っているというか、

自分の持っているものを持っていないというか、

これは大きな違いである。

●意識のある人生

少ない睡眠時間しかとれないときには、

4時間で疲れが取れるように意識して寝ること、

このことはがんばらずに、身体力をぬいて行なうこと。

この手の話で最悪のことは、4時間しか眠れないと考えることである。

(6月16日掲示板)

■体の力がぬけるような一日を送ること。

病気もまた、人生というレンジにおいて体の力をぬかせる体の意志なのかもしれない。

■体を主人公にしないこと。

●ヒーリング

気を出しながら元気になる方法を模索する。

6月4日、5日 2006年

●ヒーリング

寝不足で行く気功治療、

行くのが大変だと思う気持ち、

行くことを選ぶ気持ち、

行くことは同じでも、両者はまるで異なる。

強制された行為と自由意志の行為とはまるで異なる。

(加筆して掲示板記入予定)

6月5日、6日、8日、9日 2006年、10月30日 2010年、2月24日 2011年

●ヒーリング～体・心

末期癌を治すことより考え方を变えることの方が簡単であると思っている人が多いが、実は、まるで逆である。

しかも、後者が前者の原因となっていることが多々ある。

つまり、考え方は癌を作る。

そして、不思議なことに、

癌は考え方を变える。

健康であれば变えることができない考えが、癌になることによって变えることが容易になる。

こうなると、もし癌になることに意志があるとしたら、この意志は悪意でなく善意の意志と呼べるかもしれない。

この善意の意志に神を見るかもしれない。

だが、考えよりも体の方が大切だと思っている人は悪意の意志を見るであろう。

そう、この世には神も仏もないと思うかもしれない。

神はいるのか、いないのか。

わたしには神はいる。

わたしには神はいない。

両方真理である。つねにわたしが見るように世界は見える。

このことは、重い病になってもならなくても同じである。
だが、重い病は今までとは違うように世界を見せてくれる。

(6月6日・8日・9日掲示板)

兄が癌になったとき、わたしの気を受けていたことがある。よくなる症状がはっきりと現われ、自覚症状もあった。しかし、途中から気を受けることはやめてしまった。自然の成り行きにまかせるということだったのか…、詳しく聞いたわけではないので、亡くなった今では知る由もない。

もしかすると、こころが体を作るのかもしれない。
もし、そうだとしたら、この体はいま誰が作っているのでしょうか。

■ワーク

末期癌を治すことより考え方を变えることの方が簡単であると思っている人が多いが、実は、両方とも難しい。

考え方は変わることもある。
癌細胞も変わることもある。
だが、両者とも、変えることは難しい。

変わることは神の仕事であり、
変えることは人の仕事である。
そして、神は働くが、人は働かないからである。

(6月10日掲示板)

■為す

変えることは難しい。
道端に落ちているゴミくずを拾い、ゴミ箱まで運んで捨ててみる。
そうすれば、多くの人にとってそのことは今日一日の中でのもっとも人間的な行為といえるであろう。あるいは、この一年の中でのもっとも人間的な行為であろう。
それは、よいことをしたからでなく、これまではできなかったことをしたからである。

このような小さなことであれ、＜変える＞ということはとても難しいことである。
難しいが、変えられるようになれば、それは容易なこととなる。

(6月13日掲示板) (教室資料要転記)

●自他・一体・神聖なる矛盾

他人に関することはわたしの仕事ではない。
わたしは、わたしの仕事をすればよい。

他人に関することはわたしの仕事である。
わたしは、他人の仕事をすればよい。

どちらも真理である。

小さな私でいる時にはふたりのわたしに接点はないが、大きなわたしとして仕事をする時にはふたりのわたしは重なり合う。

(2月24日 2011年掲示板)

前者は人の仕事であり、後者は神の仕事である。できうれば、人であり、神でありうること。

時にではなく、一生に一度でなく、いつもいつも、である。

6月8日 2006年

●NNKさんへの返信～ヒーリング

もし今回のご病気の一因がお父様のころにあるとしたら、今日のようなことこそがまさに病気であり、治すことが非常に困難なことである、とまず考えてみるとよいと思います。あのような態度を変えることは、ある人にとっては、とても困難ことなのです。

よく引用するグルジェフの言葉ですが、分かりやすく語っているので書かせていただきます。

……愛について説明を求められたとき、グルジェフは答えた。

「他の人が、その人自身に必要なことをするのを助けることができるほどに、あなた自身を発展させる必要があり、たとえ、相手の人がその必要性に気づいていないときでも、また、あなたにとって不利なことになっても、助けることができなければならない。この意味においてのみ、道理に適切にかなった愛と言え、真の愛の名に値する。」

彼は、さらにつけ加えた。……愛が恐るべき一面をもっていることの一つは、相手がある程度助けることはできても、その人のために実際に何かを「する」ことはできないということである。「ある人が歩かなければならないときに、その人が転んだなら、起してあげる

ことはできる。だが、その人にとっては、もう一步踏み出すことが空気以上に必要であっても、その一步は、その人が一人で踏み出さなければならない。その人に替わって、もう一人の人が、その一步を踏み出すことは不可能である。」

お父様にとって、目を閉じること、素直になることが空気以上に必要であっても、その一步はお父様自身が踏み出さなければならないことなのです。そのことは SM さま自身には簡単ではあっても、お父様にはおそろしく困難なことであり、そのことを成し遂げられたら、この人生が意味があるものとなるほどの重大事なのです。これは誰も代わってあげて成し遂げることができないことなのです。

もちろん、そのような難事はすべての人、ひとりひとりがかかえているものです。

高塚恒夫

■ではどうすればよいか。

■一マイル

■行為への愛

■そのひとになりきって人生を生きるときに変えることができるか！

●三つの身体のリハビリ

6月9日、14日2006年、8月21日、23日2007年、10月29日、30日2010年

●ヒーリング～気の質と量

自分の作り出す気がどのような影響を与えているか。

自分の作り出す気が、いいも悪いも、いかなるものによって、どのような色合いを帯びているか。

両者のことをかんがみること。

■ヒーリング～遠隔

モノの影響、パソコン画面の影響というものがあるかもしれない。

水晶球の影響（ヨガナンダの師、ユクテスワの金属の指輪をすすめる話）

瞑想中における音楽、暗闇、ろうそく光の影響、何もないことの影響

部屋の影響～部屋を片付けること

クリアの意味

自分自身からの影響（意識のある人生）～最初は環境の影響が大きい

孔子の

人生にどのような影響を与えているか、人生をどのように創り出しているか。

一日

朝起きたときの考え

瞑想

仕事への取り組み

朱に交われば赤くなるという。海外のマスコミの駐在員がテレビに出ると、どこかその土地の人の雰囲気と似たような感じをただよわせているものである。

■意識のある人生～所有

今日は何を与えようとしたか、何を与えたか。

そのような行為、言葉、思いはあっただろうか。

今日は何を得ようとしたか、何を得たか。

6月10日2006年



ホームレスのひとり言

●試験勉強

試験範囲が10倍であったら、できるのかできないのか。

7けたの電話番号、8けたの電話番号

6月13日、14日、17日、20日2006年

●意識のある人生～神と人間

人間の考え、言葉、行為には、神の部分と人の部分とがある。

今のこの行為、

今のこの考え、

今のこの言葉、

この中で、

何が神のされたことであろうか。

何が人のしたことであろうか。

(11月25日掲示板)

6月14日2006年、10月29日2010年

●所有

持つことのできるものだけを持つ。

持つことができないものは持とうとしないことである。

では、

あなたは何を持つことができるであろうか。

(6月26日掲示板) (草稿要転記)

■「神との対話」

何を持っているのであろうか。

私にないものでなく、私にあるものがすべての出発点であり、

それが私の人生の必要十分条件である。

人間関係～1巻170

「これからは自分を中心にしないで。いつでも相手ではなく自分が何者であるか、何をし、
何をもっているかを考えなさい。

あなたがたの救済は相手の行動のなかにではなく、あなたがたの反応のなかにある。」

Be Here Now～今、何の時であるのか。

今、何を持っているのか。

そして、動詞として存在しているのか、今を生きているのか。

└自他との関係・世界との関係

6月15日、17日2006年、10月29日2010年

●霊眼

霊眼を意識的に開発してみようと思うこと。

霊眼の開発は第三の眼から気を送ることにより行なう。

全身全霊を注いで行なう。

しかし、きれいにやわらかく入れる。

入れ続ける意識を持ち続けること。

初心に帰ること、初めての遠隔。

●わたし

「神との対話」(ニール・ドナルド・ウォルシュ著 サンマーク出版)であなたがたは保育園以下であるという話が出てくるが、立派なスーツを着た御仁が国民の前で平気でうそをついているのを見ていると、地球人は本当に保育園以下であるというのがよく分かる。千歩ゆずってその御仁が国民のために役立っているといっても、自分自身にうそについては、保育園児以下のうそについては、そのような人生はその人にとってはとてもやりきれない人生といえないだろうか。

(6月22日掲示板)

■

もっとも、忘却して生まれ、間違った教育を受けてきたのだからしかたがないともいえるのだが。

6月17日、22日、24日2006年、10月30日2010年

●意識のある人生～呼吸

意識のある呼吸と意識のない呼吸とは天地の差がある。

両者は似て非なるものである。

今、意識をして呼吸してみるとよい。

早くとも、遅くともよい。

意識すると、呼吸は変わり、

私の感覚も変わり、

わたしのふれる世界もまた、変わる。

いつもいつも、意識して呼吸をすれば、世界はどうなるのであろうか。

(6月22日掲示板)(加筆して11月1日2010年掲示板)

意識のある労働と意識のない労働も同様である。

たいてい意味がないような行いが意識をもつことによってその意味が一変する。

もし毒をくらすことがあっても、意識をもっていれば毒の効果は薄れる。昂ずれば毒の効果をもまったく消すことさえできる。

(加筆して掲示板記入予定)

眠っている人も、目覚めている人も生きているという。

だが、両者は天地の差がある。

意識のない人生も、意識のある人生もともに人生と呼ばれる。

だが、両者は天地の差がある。

その差は、目が覚めてみないと見えないし、意識がないと見ることができない。

●意識のある人生

すべての瞬間にエネルギーを注ぐ。

意識のあるエネルギーを注ぐ。

神とともにいるエネルギーを注ぐ。

ただし、しなやかなエネルギーを。

(参考) プロ棋士先崎八段の対局のように。

6月19日2006年、5月10日2007年、10月29日2010年

●時空

犬は人より7倍早い人生を送る。

犬が七分の一で、人間は七倍か。

あるいは、犬は人間の七倍生きて、七分の一の人生を送るのだろうか。

ババジは

●身体

毛がはえること

●わたし

人生は自分自身を規定することである。

この意味でどのような人も当初は無規程である。

規定する行為は自分自身で行なうからである。

無規程であるから、理不尽に思えるような他人の行為と

理にかなっていると思ひ込む自分の行為とで世界は作られている。

まずは、他人もわたしも自分自身によって規定されていないということを知る必要がある。

(11月25日掲示板)

●夢(仮想空間)

漫画を読むのに夢中になっている時には、漫画の世界から抜け出ることが不可能であるように、この世界に暮らすのに夢中になっている時には、この世界から抜け出ることが不可能であるように思えるかもしれない。

漫画の作者は漫画の世界から抜け出ることができないように読者を夢中にさせる作品を作るが、この世界の創造者も同様だからである。ただし、漫画の登場人物は時に作者の手を越えて生き始めることがあるように、この世界の人にもまた創造者の手から目覚めて生きることができるのである。

(2月25日 2011年掲示板)

■夢からの脱出

この意味で、苦しみというのは夢中から抜け出ることができる不思議な機会である。

●意識のある人生～ヒーリング

小乗的手法（量）から大乘的手法（質）へ

量を必要とするヒーリングから量を必要としないイエスのヒーリングへ

長くやる

自信がない

どれだけやればよいか分からない

意識の連続性がない

●音楽を聴きながら

わたしと他者と神とが喜べるもの、いろいろあるが、音楽はそうである。

●ヒーリング～遠隔

光が頭上から注いでいる写真を思い出すこと。

6月20日 2006年

●体験と思考

●ヒーリング

遠隔で送る気と同じようにして、物質化ができるのではないだろうか。

6月22日 2006年

●ヒーリング

無条件の気功治療とは？

条件をつけない気功治療とは何か？

6月23日、7月1日、3日、6日 2006年

●ヒーリング

眼球腫瘍に対する兄のヒーリング、それはわたしに何を伝えようとしているのだろうか。

●飲酒～行為への愛・自由

最近お酒を飲んでいない。

嫌いになったわけではないし、

医者に禁止されたわけでもないし、

やめようと思ったわけでもない。

要は、お酒を飲むことよりも優先することがあるからだ。

その優先することがなくなったら？

飲むかもしれないし、飲まないかもしれない。

ただし、この人生ではその優先するものがなくなるということは今のところ考えられない。

まあ、ときに、今日一日何を優先させて生きているのか、よく観察してみるのもよいかもしれない。

(6月23日掲示板)

●ヒーリング～行為への愛・創造力

どれだけ治そうと意志することができるか。

このことだけが「どれだけ神を使うことができるか」ということを決定する。

このことだけが「<わたしが>気功治療をどれだけできるか」ということを決定する。

(7月1日掲示板)

■ヒーリング～意志

「神との対話」で確か、このような話しが出てくる。

「あなたの意志はわたしの意志である。」

どういうことなのであろうか？

…わたしの理解では…

わたしが人を殴るために手をあげる。

これは、神が「わたしが手をあげることをできる」ようにするから、できるのである。

この<できるようにする>ことを神は「あなたの意志はわたしの意志である」という。

わたしが歩くときに手をふる。

これは、神が「わたしが手をふることをできる」ようにするから、できるのである。

この<できるようにする>ことを神は「あなたの意志はわたしの意志である」という。

わたしは人を殴るときの方が手をふるときよりも神の意志を感じる。

なぜか？

神の意志が痛がるからである。

手をふって歩くという日常よりも、人を殴るという非日常の方が神の意志を感じることができる。ここにおそらくは「世の人が悪と呼ぶもの」が存在する理由がある。

悪は善を喚起するのである。

悪があって初めて善が生き生きと感じられるのである。

その生き生きは、

せつない感じであったり、

胸が押される苦しみであったり、

砂をかむような後悔の念であったりする。

われわれが最善の道しか歩けないようには作られなかったこと。それは、この感覚をわたしが味わい、そしてそのことを通じて神がこの感覚を味わい、人間が存在する以前には存在しなかった善の感覚を味わうために、泥の道をも平気で歩いてしまうように作られたのではないだろうか。

そしてまた、この神と人との関係が

「あなたがたはわたしの身体である」

ということではないだろうか。

(7月3日掲示板)

■神の神

なお、興味深いことは、このわれわれを創造した神と呼ばれる存在は、

「わたしもある方の身体である」

といていることである。

■ヒーリング～百万倍

わたしが人を殴るために手をあげる。

これは、神が「わたしが手をあげることをできる」ようにするから、できるのである。

この<できるようにする>ことを神は「あなたの意志はわたしの意志である」という。

わたしが人を助けるために手をかざす。

これは、神が「わたしが手をかざすことができる」ようにするから、できるはずである。

この<できるようにする>ことを神は「あなたの意志はわたしの意志である」という。

してみるに、この手をかざすことを、今の百万倍にすれば、神は百万倍に応じてくれるはずである。

神が「わたしが百万倍の気功治療をすることができる」ようにするから、できる。

では、わたしの今の気功治療の百万倍の気功治療とはわたしが何をするかという問題がある。

それは何なのであろうか。

(7月6日掲示板)

6月24日、27日、7月5日 2006年

●所有

捨てると痛くなりそうなものを手放してみる。

そうすれば、それは実は大切にできなかったものと知ることができるかもしれない。

(6月27日掲示板)

■執着

最も大切だと思っているものは手放すことはできない。

だが、いつかそれを手放す時がきて、その時、それは別のものに見えるようになるかもしれない。

(7月5日掲示板) (草稿要転記)

■変容

それはわたしのものだ。

それはわたしの考えだ。

それはわたしである。

これらは、いつか手放す時がきて、その時、それは別のものにみえるかもしれない。

(7月7日掲示板) (草稿要転記)

■因果

実は、<わたし>が変わったときにだけ手放すことができる。

(加筆して掲示板記入予定)

6月25日 2006年

●意識のある人生

肉体は仮の宿と言いながら、生きているときには本当の宿だと思い、

6月26日、27日、7月7日、11月27日 2006年、5月24日 2007年

●ヒーリング

性格が悪い人の手かざしでも病気が治るといのはなぜだろうか。

(6月27日掲示板)

■ヒーリング

手かざしをしてみたいと思うところと空中浮揚をしてみたいと思うところは同じであるか。

(6月28日掲示板)

■ヒーリング～行為への愛

病気の人がある。あなたは自分の手から病気が治る気が出ているのが分かっている。いつも治るわけではないが、少しでも楽になればと思い、あなたは病気の人に手をかざす。

病気がよくなり、感謝される。

あなたは謝礼を受け取るだろうか。

受け取らないだろうか。

病気はよくならなかったが、感謝される。

あなたは謝礼を受け取るだろうか。

受け取らないだろうか。

病気はよくならなかったが、もしかしたら次にやってもらえばよくなるかもしれないと、病人が言う。

あなたは次もこの病人と会うだろうか。

治ったら謝礼を受け取るだろうか。

受け取らないだろうか。

治らなかったら謝礼を受け取るだろうか。

受け取らないだろうか。

その次はどうだろうか。

そして、その次はどうだろうか。

謝礼をもらって、十回行くだろうか、百回行くだろうか。

あるいは、謝礼をもらわずに、十回行くだろうか、百回行くだろうか。

(6月29日、30日掲示板)

■ヒーリング

効く人と効かない人とがいるのはなぜだろうか。

(7月1日掲示板)

●意識のある人生～わたし

10年前の自分の中に今の私が入りこむことができたなら、全く異なる生き方ができるように、現在の自分の中に<今のわたし>が入りこむことができたなら、全く異なる生き方ができるようになる。

だから、<今のわたし>をこの瞬間に見つけて、いつも表に出しておくことである。

そうすれば、現在というこの瞬間に、自分の内から新たなる生き方が生じてくる。

私が私だと思っていた私は10年後には私ではなかったように、

現在私が私だと思っている私と別の<わたし>がじつはいるのである。

(5月24日2007年掲示板)(教室資料要転記)

■意識のある人生

10年前の自分に戻ったら、異なる生き方ができるように、

今の自分も10年前の自分のように見ることができたら、これまでとは異なった生き方ができるはずである。

●ヒーリング

昔のように、百人中十人の人がふり返ってみてもらうことはないかもしれないが、いまはもう、百人中百人の人をふり返って見ることができるようになっている。

●意識のある人生

出し惜しみをしない。神のふるまいのように。

6月27日、29日2006年

●意識のある人生

まず自分が42キロを走ってみること。

まず自分がエベレストに登ってみること。

●(放火殺人)事件

命よりも大切なものがある。

何だろうか？

もしかして、誰もが、

その大切なものをないがしろにはしていないだろうか？

6月28日、29日2006年、5月11日、22日、25日2007年、11月3日2010年

●意識のある人生～言葉・真偽・行為への愛（加筆して再掲）

この掲示板でいろいろ偉そうなことを書いているが、わたしが興味があるのはいかにして<自分自身が、そして、わたしの書き込みを見られている方が変身の術——新たなる人間となること——を効率的に身につけることができるか>ということだけである。

以下の引用もそのようなことのための助けになるかもしれない。

「この村には平癒の廟というのがあった。建立以来この廟ではただ**生命、愛、平和**という言葉のみが口にされてきて、それが極めて強烈な波動となって蓄積され、廟を通り抜けるだけで殆んどすべての病気がたちどころに癒されるというのである。この廟では生命、愛、平和という言葉だけが、かくも長年月にわたって語られてきているので、それから出る波動は極めて強烈であり、たとえ不調和や不完全を意味する言葉を何時（なんどき）使ってみたとところで、何の影響も及ぼせないそうである。**人間の場合にしてもその通りで、生命、愛、調和、平和、完全を現わす言葉**だけを出すようにすれば、そのうち不調和な言葉など出せなくなるであろう。事実わたしたちは不調和な言葉を使ってみようとしたが、その都度それは言葉にならなかった。」

（「ヒマラヤ聖者の生活探求 1 巻」（96 ページ ベアード・T・スポールディング著 霞ヶ関出版社）

いつもある思いとは何か。

いつもある言葉とは何か。

これら、いつもあるものが平癒の廟だけでなく、わたしの廟、すなわちわたしの身体を創り出している。

なお、これまたいつもいうことだが、この話しが本当かどうかはわたしにとってはどちらでもいい。もしこの実践がわたしの役に立つのであれば、嘘の話しでもわたしにとっては真実になる、ただそれだけである。「真実であっても、わたしにとってフィクションであり、フィクションであっても、わたしにとって真実である」ということはよくあることである。

すなわち、真実であってもわたしがそれを実践しなければ、それはわたしにとってフィクションであり、フィクションであってもわたしがそれを実践すれば、それはわたしにとって真実である。

ちなみに、上述の引用がフィクションであり、わたしが実践した時に「平癒の廟」は存在するのか。この問いへの明快な答えは持っていないが、これは結果を求めない行為への愛

ということであり、おそらくどこかで無限級数の収束と結びついているのではないかと勝手に想像している。

(6月29日 2006年掲示板) (5月25日 2007年掲示板) (加筆済み掲示板記入可)

■水の結晶

書籍引用

6月30日、8月21日、22日 2006年、5月11日、5月22日、6月3日 2007年、11月3日 2010年

●X氏へのメール

不調なときには、小さなことを決め、やり遂げることを続ける、というのがわたしにとってはよいようです。その決め事は自分で決める場合も、天が決める場合もあります。

あと、よい言葉にふれるというのもよいことで、わたしにとっては、

「ユング自伝」(今は読みませんが) 「シュタイナー」 「グルジェフ」 「神との対話」
「あるヨギの自叙伝」 「ヒマラヤ聖者の生活探求」

などです。

どこか一步踏み越えるのは意外と簡単で、やるかやらないか、やる気を出すか出さないか、これはほんの一步のことであるように思えます。

能力はすべての人に同一にあります。能力の発揮はひとえに努力の問題、エネルギーの問題であると思っています。努力、エネルギーの前では(仮に先天的であっても)能力の違いは微々たるものです。

▲気・クリア・片付け

自分の周りの一平米を常にきれいにしておくこと。

いつもきれいな気を出し続けること。

■意識のある人生～自由

人生の不思議なことのひとつは、

常に、どんな時であっても、私が考えている生き方と異なる生き方が<できる>ということである。

これまでとは違う考え方、

これまでとは違う言葉、

これまでとは違う行い、

これができるということである。

できると思えばできるし、やろうとすればできる。

必要なことは、

このことを知っていて、このことを思いおこし、そして、踏み越えてみる、

このことだけである。

(6月30日掲示板) (6月3日2007年掲示板)

■サークル

(参考) グルジェフの見たサークルから出られない人

この催眠術にかかった人のように、

どのような人も自分のまわりにサークルを描いて、このサークルから出られないという。

できないという。

だが、できる、といい、できる行為を愛し、しつづける人、その人だけがこの自分で規定したサークルから出ることが可能となる。

(引用、加筆して掲示板記入予定)

■復元するための方法

毎日、以下のことを意識すること。

1 表現～小さいことをやり遂げること

2 印象～よい言葉にふれること

外に出ること (自然・人間)

3 クリア～睡眠・死

片付け

■元気の元～ミニ遊行 (5月21日2007年NOTE)

家にいないこと、外に出ること、

外とはガイアである

ガイアはあなたをつつみ、あなたが変容する助けとなる。

変容はふさいだ気持ちをとほぐすことだけが変容ではない。

人生は変容が基本なのである。

★7月2006年

7月1日、3日、7日、8月18日 2006年、5月17日 2007年

●おじさんの仕事

前日喫茶店で瞑想していると、後ろの席のおじさん二人が議論している…というか、ひとりが威張ってお説教をたれている。

「おい、働かないで自由でいるか。自由ではないが、働いてお金が入るかのどちらかしかないんだぞ」

という言葉が耳に入ってきて…。どうもお説教の主はしっかり働くしかないということを言いたいようである。お説教されているおじさんはプータローのようなのである。ただ、説教オジサンもあんまししっかり働いているようにはみえなかったが…。おまけに、最後に「この勘定はおまえが払っとくんだぞ！」と言って、ひとりスタスタと帰ってしまった。なんじゃらほい、である。

しかし、この説教おじさんの問いはよく問われる問いである。

働かなくて、自由な時間をとるか。

自由を犠牲にして、お金をとるか。

親友 M は大学時代、アルバイト先で社長にえらく気に入られ、

「おまえ、うちで働かないか。年収 2000 万、マンションも買ってやる。ただし、24 時間自分の時間はないと思ってくれ」

30 年前の話である。貧乏人の M は相当迷ったようであるが、今の人間関係がすべてなくなってしまうということで、断った。

よくある二者択一の問いにはたいてい第三の答えがあるものである。よく言われるのは、

「お金と自由、両方ほしい」

である。だが、別の第三の答えもある。

(7月2日掲示板)

■わたし

それは、好きなことをする、ということである。

好きなことをするとは、自由に生きるということである。

自由とは、わたしが始まりとなる、ということであり、

気まま、とは違うし、

自分勝手、とも違う。

また、自由な時間を必要とするとは限らないし、

自由な時間がなければできないこととも違う。

ただ、好きなことをする。
無条件に好きなことをする。
これだけである。

(7月5日掲示板) (加筆済み掲示板再掲)

■法則・条件

●意識のある人生

意志を持つこと、門をたたくこと、このことから全てが始まる。

●自他

このシュタイナーの師弟関係は、人間関係にも適用できることである。

相手にとって必要なことだけを話す。

相手にとって必要がなく、わたしにとってだけ必要なことは話さない。

相手が必要なことは必ず話す。

わたしにとって話さないことが必要に思えても、相手にとって必要であるなら必ず話す。

相手にとって必要なものを与える。

相手にとって必要がなく、わたしにとってだけ必要なものは与えない。

相手が必要なことは必ず与える。

わたしにとって与えないことが必要に思えても、相手にとって必要であるなら必ず与える。

(掲示板記入可)

■聞く耳

わたしにとって必要なことだけを聞く。

小さな声で語られていることだけを聞く。

■神

神の言葉に乗っているかぎりはそのようなことはない。

自分の慢心に乗ると他者を抜きにした言動が生じる。

(参考) オイゲン・ヘリゲル「くもの糸」～舞うこと

■与えられた機会

アドリブ人生であること。

一回、一回、異なることを考えること、話すこと、行動すること。

●身体

瞑想と気功治療の前に気功体操をする。

●操縦マニュアル

ケストラー、フラワーの人間のマニュアルがないという話し〜創造する力

1月1日の「南京錠」の話にリンクさせる。

●ヒーリング

スプーン曲げを気功治療に生かす。

ガラスの貫通を気功治療に生かす。

●等身大の自分を見ること。

7月2日、3日 2006年

●教室

ベクトルの方向と長さ・人間の操縦マニュアル・地球の操縦マニュアル

方向（三つの身体）長さ（意識のある人生）

言葉の二重性〜言葉に付随する個人の汚濁

子どもの犯罪〜自由への軋轢〜子どものもつ自由

ヨガナンダの鹿・請われない治療

自由の問題〜悲惨な事件

教育〜グルジェフ白い紙を他人の言葉で一杯にすることなく、白い紙を自分の好きなように書かせることができるようにすることである。

■誰だろ う瞑想

棺桶に入っている自分

世界の見え方〜マゼランの船を見ることができない。

中沢新一の光の子

■神の力〜わたし〜自己観察

傷ついた身体を健康に戻す力

健康な身体を病の身体に変える力

殴れば痛いようにわたしが感じるなら、(いつも不安でいて) 身体を殴って病気になるのも当然の理である。

幸福といわれるものになることに神の力が働くなら、
不幸といわれるものになることに神の力もまた働くのである。
神社で幸福になりたいと祈願し、
神社の外で他人を憎んだり、不安な気持ちでいたりして、不幸になりたいと祈願するならば、
そのように神の力は働くのである。
この力の働き方をよく見なければならぬし、この力を働かせる自分自身のところもまたよく見なければならぬ。

(加筆して掲示板記入予定)

■エネルギー

7月3日、6日、24日 2006年、2月11日、12日 2011年

●意識のある人生～自己想起

忘れ物をしてしまったことに気づく人はいても、
自分自身を忘れてしまっていたことに気づく人は少ない。

(7月4日 2006年掲示板)

食事することを忘れるつづけることはないが、
自分自身でいることは忘れつづけられる。
もしかしたら、食事よりも忘れてはいけないことなのかもしれないのである。

(7月7日 2006年掲示板) (草稿要転記)

●瞑想～形

手のひらを合わせた形(離して)で瞑想してみる。集中できないときにはよいかもしれない。

神への祈りの時には手を合わせて行なう。向こうの世界の交信の形という話もあるがはっきりとは分からない。ただ、手を離して合わせた形にすると、気が身体をめぐるというよきは少なくともある。

●誰だろう瞑想

わたしだけに働きかけているようにみえる。

これは真理である。

そして、ニールや他の読者にも働きかけていること。

これも同じように真理である。

■親鸞ひとりだけのための教えである南無阿弥陀仏。

(原文要引用)

■意識のある人生

ホームページも同じようにする。ただ、わたしは阿弥陀仏ではないので、ただ、

<エネルギー、情熱を注ぎ込むことに全力を尽くす>

このことだけをこころがけること。このことがひとりひとりに最適に働く言葉を作り出すことになるであろう。

7月4日、24日、25日 2006年

●ヒーリング

体調を常にベストに保っておくこと。

●忘却

人生の始まりは忘却である。

わたしは全てを忘れて生まれてくる。

だが、忘却できないものもある。

次の人生でも忘れることができないものもある。

小学生の頃、よく悪がきと遊んでいた。

ある時、彼は生きたままのとかげをナイフを使って解剖した。

わたしはやめなよといいながらも、どこか好奇心にかられてじっと見ていた。

その私の目、そのわたしの心というのは火葬場まで持っていくしかないものである。

いや、火葬場まででなく、次の人生まで持っていかざるをえないようなものである。

(7月24日掲示板)

■忘却～善根 (所有)

数年前に幼なじみの女性と35年ぶりにお会いしたとき、

「恒夫さん、わたしが中学生のとき、ふとんを運んでくれて本当にとっても助かった。今でもしっかりおぼえてるわよ」

と言われ、こちらは何のことかさっぱり分からない。思い出そうとしても思い出せない記

憶の片隅にいつてしまっている。親切にされた方は結構覚えているが、親切にした方は忘れてしまうものである。親切にする方はどうということもないからである。善根は尽きることがない湧き水のようなものであり、どこで誰が汲んでいったかなどは忘却のかなたにいつてしまっている。

なお、＜善根＞はどのようにして作られるのであろうか。それは＜善という神＞を行使することによって培われる。行為を通じて＜善＞は＜善根＞となり、根を生やす。＜善根＞は＜存在＞であり、未来永劫失われることはない。＜神＞は人の行為を通じて＜存在＞となるのである。

(7月25日掲示板)

■

ただ、悪い意味だけでなく、よい意味のこともある。

7月5日、7日、22日、23日、25日、27日 2006年

●ヒーリング～内なる秩序

歩けること、食べられること、眠られること、便を出せること、当たり前ことができなくなったときに、その有り難さがしみじみ分かる。

健康な者は、この当たり前のことができなくなったらどのようになるかを、一度イメージしてみるとよいが、現実には病気になってみないとなかなか分からない。

してみると、この＜有り難さが分かる＞ために病気になるという考え方が可能であれば、病気になるというのは、エントロピー減少であり、すなわち、ある秩序に向かう方向であり、まことに不思議な現象であるともいえるのではないだろうか。

(7月22日掲示板)

■錬金術

金は太陽系の産物ではなく、中性子星の衝突によってできたという説がある。爆発はエントロピーの増大であるが、他方で金を産出させる。

■ヒーリング～自由度

病気により、両足の自由を失う。

だが、他人様のお世話になることを通じて、感謝の気持ちが生じ、昔できなかったこと、「ありがとう」と言ったり、他人の立場に立つことができるようになったなら、わたしは多くのことができるようになったということである。

わたしは病気により不自由になったが、自由になれたということである。

(7月27日掲示板)

●ヒーリング

気の出方～幾何級数的に増大する。

～百万倍の話しにリンクさせる

●エネルギー

エネルギーの入れ方、出し方～

- 1 黒住宗忠の太陽
- 2 寝ているときにアタマから気を入れられていた経験
- 3 霊界からの注入
- 4 身体に入れるエネルギーとところに入れるエネルギー

●秘密

死刑囚を助ける国家機密

●ヒーリング

力としての気

物理的影響力としてはっきり感じられ、見える気～ゲルの気

●

火葬場で泣いても遅い、とわたしは言う。

グルジェフの母親の死

神との対話の神はわたしがあなた方の方であったなら、という。

7月6日、17日 2006年

●ヒーリング～神の姿

某所に治療に行き、多くの方が駅まで見送りに来てくさった。

お見送りいただいたことはわたしにとって過分なお礼であり、これはお返しすることが不可能なことである。

なぜなら、お見送りいただいたこと、これは神だからである。

(7月17日掲示板)

●ヒーリング～遠隔

絶対に避けることは、遠隔で手を抜くことである。

●ヒーリング

笑いのあるヒーリング

7月7日 2006年

禁酒、元に戻ったか。

神と人間

7月9日、10日、15日、16日 2006年、11月11日 2010年、2月11日、12日 2011年

●ヒーリング～弔意

忘れてはならないことは、亡くなられた時に感じた悲しい気持ちでない。

忘れてはならないことは、亡くなられた方の分まで有益に生きようと思ったその気持ちである。

(7月9日 2006年掲示板)

●ヒーリング～OTさんへのメール

本来ならば絶対に買わない題名の本であるが、手にとらされて買わされてしまう、という本が時々あります。この「癌が消えた」(新潮文庫)という本もそのような本です。確か現在は絶版になり、中古でしか手に入らなくなっていますが、名著のひとつと思っています。

この本を読んでみての感想というか、わたくしとの一致点というか、それは、癌の治り方はひとりひとり異なる、というものです。まあ、癌細胞もそれぞれの癌人生を生きて、その終末もまた固有の終末であるということです。

ひとりひとり異なる治り方、あるいは、治らない道、それらをどのように見極めるか、これはとても困難を極めます。小生、最近トント耳が遠くなってしまいましたが、どの道を進めば治るかとのアドバイスはあってもその声はとても小さいので聞き取ることはなかなか難しい作業なのです。

その意味で、お宅様の場合、癌細胞の攻撃の意識を持つということがかならずいいとは言いがたいのです。とはいえ、確かなことがひとつあり、これまでとは異なった<存在>になれるかどうか、このことがキーポイントと思っています。(何もしなくて治ったという人の話もありますが、実は本人が気づかない別の力が作用している(※)のではないかとわたくしは思っていますし、そのような例も知っています。)ただ、この<存在>の在り方は本人とはかぎらず、周囲の人であったりすることが更に問題を複雑にしているのです。

人生は一本の線で結び付けられる原因、結果というのはめったにあることではなく、お宅様の現在の半治癒状態というものも多くの原因があるはずで、会社のこともあるかもし

れませんが、他にもあるのではないかとわたしは考えます。

では、それが何か、ということも難しい問題ですし、

その問題をクリアする（別の〈存在〉になる）ということも難しい問題です。

では、どうすればよいか？

まあ、方法はいろいろあるのですが、ひとつには、

〈今を受け容れて、喜びを感じる〉

このことがとても有効な方法としてあげられます。

この喜びとは、そんじょそこらの喜びとは違う喜びです。でも、

今を受け容れることができれば、

今を〈見る〉ことができれば、

今を〈知る〉ことができれば、

必然的に生じてくる感情であり、その感情は神（仏・創造主・SOMETHING）と交流できたしるしですし、治癒への本道です。

（※）すべての出来事には原因と結果という法則の上に生じているからである。

▲最善の機会

さらに付け加えると、そのような喜びを感じられれば、いかなる治療も望まれないかもしれません。

なぜなら、今が最善の機会と気づくからからです。

■意識のある人生

仏陀の最後の言葉

「修行を怠らないように」

というのは、実は意識を保つことをいっているのではないだろうか。

喜びの感覚が一ヶ月しか続かなかったこと。

■ヒーリング

こころと病気のつながりを見極めるようにする。

●ヒーリング

病気の子どもの母親がわたしの能力を持っていたら、毎日どのくらいの時間子どもに手をかざしているだろうか。

（7月10日掲示板）

わたしは母親ではないので、そんなに長く手をかざすことはできない、というであろうか。

あるいは、現実問題として母親のようにいつも子どものそばにはいられないので長くはできない、というであろうか。

だが、＜できないといったとき＞、それは実はできることなのではないだろうか。

(7月16日掲示板)

■うさぎとかめ (時空)

母親のヒーリングがカメのヒーリングで、わたしのヒーリングがウサギのヒーリングだとすると、

▲グルジェフの「狼と羊とキャベツ」の法則

グルジェフはしばしば、一種のパズルを引用した。子羊と狼とキャベツという、三つの互いに敵対する有機体を連れた男が川辺に到着し、一度に二人だけ——その男ともう一人の「乗客」——を乗せることができる船で川を渡らなければならない。彼らの一人が他の「仲間」を襲ったり、殺したりすることができない方法で、彼自身と「仲間」を対岸へ運ぶ必要がある。この話の重要な要素は、人間に共通する一般的な傾向が、「近道」を見つけようとするということであり、この話が教えていることは、近道はないということである。乗客全員の安全と幸福を確保するには、必要な回数だけ往復することが、常に、絶対必要であるということなのだ。グルジェフは、初めは、たとえ貴重な時間の浪費と思えても、起り得る危険をおかすよりは、かえって余分の回数を往復することが、往々にして必要なのだと言った。しかしながら、彼の訓練と方法に慣れるにつれて、行く行くは、正確に必要な回数だけ往復できるようになれ、しかも、どの乗客も危険に陥らないようになるということであった。男と子羊と狼とキャベツの場合は、時間の浪費に思えても、返り道には、乗客のだれかを連れて来ることが必要であるという事実も認めなければならなかった。

(フリッツ・ピーターズ著「魁偉の残像」263ページ)

7月10日2006年、2月11日、12日2011年

●呼吸法

スッキリしない時に深い呼吸をすると楽になる。

常に意識のある呼吸をこころみる。

■ハトホルの太陽

「ハトホルの書」で薦めているように、太陽の光を目から取り入れてみること。

7月17日、19日、23日2006年、11月11日2010年、2月11日、12日、23日2011年

●

自分で自分を治すマッサージ

人を恨むこと

●時空・因果

ビッグバンのあとに土くれができ、人間ができたのではない。

どう考えてもビッグバンの前に人間がいたのでないとつじつまが合わない。

(7月18日 2006年掲示板)

■確率

カメでもウサギでもよいのだが、新宿ゴールデン街から千葉のわが家までたどりつくには何年かかるだろうか、もしかしたらこの宇宙の年齢 150 億年間さまよい歩いてもたどりつけないかもしれない。

だが、わたしはまず間違えなくたどり着く。確率は1分の1で、1時間半である。わたしの視野にはゴールデン街から自宅への道筋があるからである。わたしはゴールデン街から帰宅するのでなく、帰宅するゴールがまずあるのである。

(7月20日 2006年掲示板)

■時空・創造・ベクトル

阿波研造師範は、暗闇の中二本の矢を放ち、二本とも的に当てるが、二本目は一本目の矢を引き裂くような形で当てる。

これは偶然ではない。結果が先にあったのである。型ばかり教えられ、辟易としていた弟子のオイゲン・ヘリゲルが阿波師範の力量を疑った時から決まっていたことである。偶然に見えるのは、カメやウサギと同様に知らないだけだからである。

だから、

知ることであり。

知り、長さを生きることである。

結果が先である人生を生きることである。

(2月23日 2011年掲示板) (草稿要転記)

(→→→5月7日、8日、13日 2007年)

■

ヒーリングもまた、同様でありたいし、また、この世の生活すべてがそのようでありたい。

●わたし（加筆して再掲）

サーカス小屋の猿や都会のペットは人間のようにはなれないのだが、人間のようにさせられている。

人間は猿真似の猿や従順なペットのようにはなれないのだが、猿やペットのようにして生きている。

どちらもともに悲しい話しである。

（※）ただし、別の意味では動物もまた人間のようなものである。動物の目をのぞきこめば、わたしと同じものがあることをその目が語っている。

（7月19日2006年掲示板）（2月25日2011年）（草稿1要転記）

●願望

うまく進んでいく願望をおのれの師とする。

なぜなら、うまく実現していくこと、それが<本当のわたし>の望んでいることだからである。

（2月13日2011年掲示板）

7月19日2006年、6月3日2007年、11月11日、12月28日2010年

●除夜の鐘～因果・所有

人生に時効はない。

行いの償いは来世までさえ持ち越す。

同様に、行いの報酬の時効もない。来世、来々世までも持ち越されていく。

どちらもその人の所有であり、その人の存在ということである。

（12月31日2010年掲示板）

●身体・ヒーリング

レントゲン→「手当て療法」の触診の訓練

この世にあるモノはすべて身体化（身体で実現）できるのではないだろうか。

7月21日2006年、2月11日、12日、25日、26日、27日2011年

●質問74～キャラメルとおまけ

昔あったグリコキャラメルにはおまけのおもちやがいていた。その頃は貧乏な時代であったから、本体のキャラメル抜きで、おもちやだけを求めるということはなかったにしろ、おもちやは大きな魅力であった。ただ、もし子どもの頃の自分に「おまけのおもちやとお菓子のキャラメルとどちらが欲しいか」と聞けば、おもちやと答えたに違いない。能力を求めるというのもこのおもちやを求めるようなもので、特殊な能力というのはおもしろいのはおもしろいが、やはりおまけはおまけにすぎないという側面をもっている。もしおまけだけを求めるのであれば人生の本体であるキャラメルが空っぽということになりかねない。

では、ヒーリングにおけるキャラメルとは何であろうか。

あるいはまた、人生におけるキャラメルとは何であろうか。
人生におけるおもちやとは何であろうか。

今日はもしかしておもちやのおまけではなかっただろうか。
あるいは、本体のキャラメルであつただろうか。

あなたの人生におけるおまけとキャラメルを書き出してみてください。
(7月21日2006年掲示板)(2月27日2011年掲示板)

ヒーリングにおいては、「イエスのヒーリング」
「イエスは、そのひとたちの条件が完璧でないと思ったから癒したのではない。そのひとたちの魂がプロセスの一環として癒されることを求めていると気づいたから、癒したのだ。」
(「神との対話」1巻068ページ～イエスのヒーリング)

人生においては、条件を求めることはおまけを求めることと同じである。

7月22日、23日、8月8日2006年、5月21日2007年

●内なる神殿

この世界という外の家作りに腐心するのではなく、内なる神殿造りにこころを配るようになる。

では、この内なる神殿造りとはいかなることをいっているのでしょうか。
内なる神殿とはどのような神殿なのであろうか。

(7月23日掲示板)

■錬金術

錬金術とは本来は現実の金を作り出すことではなく、内なる金を作り出すことではないだろうか。

この内なる金は、「金を錬る」ことによって出来上がってくる。

「金を錬る」の、この金がわれわれの創造主のことである。創造主を錬ること、創造主を使うこと、このことが錬金術ではなかろうか。

金を錬ることがわれわれ人間存在であり、これが人間は神の身体であるという所以である。金を錬ることによって生じるものこれが内なる神殿であり、これが「神との対話」で<存在>と呼ばれているものである。

もうひとつの錬金術～中性子星の爆発による金の生成

黄金の身体

(世界1)

肉体 生じるもの

病気／力 \ ⇒ 内なる神殿・黄金の身体

私 — 魂 錬金

(世界2) (世界3)

所有物と呼ばれている「私の持ち物」が<内なる神殿造りに役立つかどうか>で、その持ち物を持ち続けるか、手放すかを定める。

(何が目的で持っているのか?)

<内なる神殿造りに役立つかどうか>、この基準は他のことを選択についても同様である。

遊行僧の持ち物

遊行僧の身体、形は将来の黄金の身体のもととなっているのではないだろうか。

裸でいること。

■グルジェフの狙撃手と僧侶の話し

●自他

ジグゾーパズルのひとつひとつのピースに同じ形はない。

ひとつひとつのピースからは全体の絵柄は想像もつかない。

しかし、わたしというピースと隣のピースがひとつになる瞬間があれば、それは全体の形にひとつ近づいたことになる。

■ふたつの異なった形を合わせると、ひとつの異なった形になる。

■ピースの形に優劣があるのではない。

■ひとつひとつのピースには全体の一部分としての情報が組み込まれている。だが、その情報はひとつひとつのピースが合わさって全体となるまでは明らかではない。

■一体になろうとするピースと離れようとするピースと。

7月23日、24日、25日 2006年、5月21日、6月3日 2007年、11月11日、12月28日
2010年

●神

ヨガナンダのいう<神と共にいる>ということはどういうことだろうか。

ベクトルの方向と長さ

神は超弩級の存在ではないということを鑑みること。

神に命令せよという話しを鑑みること。

すなわち、プロセスとしての神について思い至ること。

■今だけを生きること。

■ある対話～神

「君はもっと気功をきちんと学ぶべきだ。もったいないじゃないか。習えば靈感も強くなるし、気の力も半端でなくなるぞ。」

「わたしは基本的には気功法を学ぼうとする気持ちは薄いのです。気功治療はわたしにとってには方便にすぎません。神への道の方便なのです。」

「君、神を求めるものは神を得ず、神は己自身にあり、というではないか。」

「神を求めるなどという人にお目にかかったことはありません。そのような人はとても稀にしか存在しません。神を求めるとは、一日中、四六時中、神を求めることをいいます。そのような人にはお会いしたことはありません。」

「まあ、そうかもしれん。」

（「その言葉の本来の意味はこうです。神を外に求めても決して得ることはできない。神は己自身の内なるところを通じて交わることができる。なぜなら、内なるところこそが神の子であるからです。」これはさすがに言わなかった。）

「ただ、おっしゃることはよく分かるので、御著書で勉強させていただきます。」
「その本じゃあだめだ。一子相伝というじゃないか。わたしが直に教えなければだめだ。」
「では、考えさせていただきます。」
(う～ん、超能力気功家になる機会を逃してしまったのだろうか。)

7月24日、10月5日 2006年、5月21日、6月3日 2007年、11月11日、12月28日 2010年

●誰だろう瞑想

わたしとは、人生の人形ではなく、
人生の観客、人生の行為者であることを常に思い起こすこと。

└印象 └表現

■意識のある人生

身体を用いること。

心を用いること。

これまで使ったことのないような使い方で用いること、すなわち、

「反応する自動人形の身体」

「反応する自動人形の心」

が用いるのではなく、

<わたし>が用いること。

<わたし>が身体と心を用いること。

(掲示板記入予定)

■主人・機会

私の人生に使われるのではなく、他人の人生に使われるのではなく、<わたし>の人生を使うことである。

今日の前にある出来事に使われるのではなく、それを<わたし>のために使ってみようとすることである。

その使い方はいろいろある。

私と<わたし>の違いは何であろうか。

●呼吸法

患者さんにすすめたことは、自分でもやってみること。

●仕事

「労働～錬金」と喜び

どのような仕事であれ、それが内なる身体をつくる仕事であること。
それは職種によるのではなく、行為者の人間の仕事の仕方によって決まるものである。

内なる身体

内なる神殿

神の身体

錬金術

嫌で進化する道

著作か、 ←エネルギーを注ぐこと

瞑想、遠隔、治療、教室 ←エネルギーを注ぐこと

●忘却から変容へ～ヒーリング

相手の方がくださった感動。

これは忘れてしまうものである。では覚えておくべきなのか。

否、新たに仕事をして、新たな感動を得ることである。

前とは異なる感動を。

(掲示板記入予定)

■バックミンスター・フロー

人間とは動詞である。

■

相手の方がくださった感動にはふたつある。

ひとつは治った喜び。

もうひとつは、治らなかったが、感謝の気持ち。

■善悪

善も悪も身体となる。

善も悪も愛である。

できるが、しない。

そのようなものがある。

それは、大昔わたしがしていたことであるが、いまはしない。

それを大昔は何と呼んでいたのでしょうか。

そして、いまは何と呼ぶのでしょうか。

7月25日、27日、8月1日、18日、19日、20日2006年、7月1日2007年、10月11日、12月28日2010年、2月11日、12日、13日2011年

●ワークとしての瞑想

瞑想をする前と瞑想をした後とは異なった人間になっている、そのような瞑想を一回、一回行なうようにする。これこそがグルジェフのいうワークであり、このことは瞑想に限らず、あらゆる人間行為についていえることである。

(7月28日掲示板)

■意識のある人生～錬金術・ワーク・貯金

今日一日生きて、

夜には朝とはまるで異なる人間になっていること。

(2月13日2011年掲示板)

このことは意識して行なうことによって加速される。

●ヒーリング～お礼～所有・行為への愛

「先生、ありがとうございました」

と頭を下げる。ここまでは、相手の行為であり、見方である。これは相手の持ち物である。

ここで、先生がありがとうございますに値するかどうかは全く別問題である。そのお礼に対してどのように考えるか、どのような行為をするかは先生の問題である。その行為、考えが先生の持ち物であり、お礼の言葉は先生の持ち物ではない。

(7月26日掲示板) (草稿要転記)

6月27日2007年「NOTE」参照。

■弓と禅

患者さんは先生に対して頭を下げているように思うかもしれない。現実にはそうであろう。だが、もしかしたら、そうではないのかもしれない。＜それ＞に対して頭を下げているだけなのかもしれない。

また、私も人に頭を下げるのではなく、＜それ＞に対して頭を下げるべきなのかもしれない。

＜それ＞とは何か。

<それ>とは動詞である。

師範の<それ>に対する礼

(要引用)

(加筆して掲示板記入予定)

先生の中にある<それ>

先生の中にある<おかげさま>

先生の中にある<お世話>

<それ>も<おかげさま>もわたしである。わたしであるが、わたしではない。



くそみそにお辞儀をする。

●機会

今日与えられた機会、今日出会う人、今日出会う出来事には、

その一瞬の意味と（何を選択するかという）、

今日一日の短期的意味と、

10年、100年、200年の長期的意味とがある。

どの意味も聞き取るとはとても困難ではあるのだが、こころを澄ませて受け取るようにしてみる。

(加筆して掲示板記入予定)

■エネルギー

今日与えられた機会——今日出会う人、今日出会う出来事——には今日一日の短期的意味と、10年、100年、200年の長期的意味とがある。どちらの意味も聞き取るとはとても困難である。

だから、わたしにできることは、意味を聞き取ろうとするのではなく、真摯に出来事と向き合うことだけである。注ぎこんだきれいなエネルギーだけが人生を変容させ、意味を生じさせるからである。

(8月20日掲示板)

●仕事

どのような仕事もお金だけのために働くのであれば、それは売春婦のような仕事である。

だが、多くの人は大なり小なり、売春婦のようにして働いている。まあ、わたしもそうで

ある。では、そのような仕事の中で、どのようにしたら春を売ることから離れていくことができるのだろうか。

(7月30日掲示板)

わたしがしたいことをする。しかも、これまでしたことがなかったことをする。それが仕事であり、この世界でのワークであり、内なる神殿と外なる神殿を作り出すことである。

■仕事

お金が手に入ればよい。確かにそうである。そうではあるが、違うような気がする。

●遠隔ヒーリング

御坊に身体をトランスする。

御坊に霊体をトランスする。

7月26日、27日2006年、5月21日、7月1日、2日2007年、2月11日、12日2011年

●質問73～善

人間ほどとんでもない動物はいないというが、犬や猫のような善がほしければ、来世は犬や猫になりたいといえよ。

いや、やはり私は人間でいたいというのであれば、人間のような善を求めねばならない。

では、人間のような善とは、一体どのような善であろうか。

(2月26日2011年掲示板)(草稿要転記)

プロセスに貢献すること。

他者に貢献すること。

意識的に人生を創り出すこと。

他人を生きるのではなく、自分を生きること。(7月31日2006年ノート参照)

犬や猫以下から天神菩薩に至るのが人間の善である。それはもう善というような範疇を超えている。

犬や猫以下であっても、犬や猫以上になれるのが人間である。

●クリア

毎晩、毎晩睡眠をとり、ご破算にする。最初からやり直す。前日のかすかな善行だけが、前日のかすかな自由意志だけが、今日進むための蓄えである。

その他のものは体と精神と魂をいためる。その他のものは多大な労力を費やして灰としなければならない。

だが、かすかな善行、かすかな自由意志によってなされたことはそのままでひとつの灰となる。

(12月30日 2010年掲示板)

睡眠によるご破算ができなくなるとき、もっと大きなご破算を行なう。それは肉体の死である。

マージャンのシーパイによるご破算でつきが動かせなくなったときのように（この場合、日を変えてやるしかないように）

7月27日、8月18日、19日 2006年、5月24日、25日、27日、7月2日 2007年、12月28日 2010年

●ヒーリング～価値

わたしが病気を治すことよりも、患者さんがわたしに感謝することの方が価値あることかもしれない。

(5月24日 2007年掲示板)

病気が治ることではなく、患者さんが感謝することの方がこの世で為すこととしては、価値あることかもしれない。

■ヒーリング～わたしの価値

わたしにとっては、病気を治したかどうかということではなく、手をかざすことをしたかどうか、手をかざすときにわたしがどのような気持ちでいたか、そのことの方がはるかに意味がある。

だから、わたしにとっては病気が治っても無価値であったり、病気が治らなくとも価値があったりする。

(5月26日 2007年掲示板)

■質問69～貯金・ワーク・行為への愛（加筆して再掲）

わたしが手をかざすと病気はいつでも必ず治るかということ、そんなことはない。病気は治ったり治らなかつたりする（治ることも治らないこともわたしのものではない）。

だが、わたしが手をかざすことは<いつでもできる>——とても難しいことではあるが——いつでもできる。

とても難しいことではあっても、<いつでもできる>ことだけが人が求めること、人が進む道、人が愛することなのかもしれない。

ヒーリングにまつわることでいつでもできることは、

手をかざすこと
感謝すること
慢心しないこと
一生懸命に行うこと

がある。これらはどれも難しいが、いつでもできることである。

そのほか、日常生活で、あるいは精神世界の生活において

<いつでもできることで、いつもしていないこと>

に気づいてみることである。

あなたの<できること>は何であろうか。

その<できることを実際に行ってみること>——考えてみること・言葉にすること・行為
すること——が人生を大きく変えていくきっかけになるかもしれない。

(7月2日2007年掲示板)(12月29日2010年掲示板)(教室資料要転記)

いつでもそうなるかどうか分からない結果をわたしが求め、愛することは見当違いなの
かもしれない。

(5月28日2007年掲示板)

だが、感謝することはいつでもできる——とても難しいが。

病気は治ったり治らなかつたりするが、だが、手をかざすことはいつでもできる——いつ
でもすることはとても難しいが。

とても難しいが、いつでもわたしができることだけが愛することなのかもしれない。

いつでもできるかどうかは分からない行為をわたしが求め、愛することは見当違いなの
かもしれない。

感謝すること、手をかざすこと、他にどのような愛すべき行為があるのだろうか。

(加筆して掲示板記入予定)

●内なる神・内なる身体

求めるのは、お金ではなく、ものではなく、名誉ではなく、内なる神であること。

その内なる神こそがわたしの動かし手であるからだ。

その動かし手は、もしかしたら、お金も、ものも、名誉も作り出さないかもしれないが、わたしを創り出し、わたしを動くようにしてくれる。

わたしのしたいように動かしてくれる。

(掲示板記入予定)

7月28日、31日 2006年

●ヒーリング

瞑想してから遠隔で送るようにする。

●ヒーリング

今できないことを試みるのではなく、今なら必ずできることを最大限に行なう。

(7月30日掲示板)

7月29日、31日、8月8日 2006年、7月2日 2007年、2月12日、16日 2011年

●時空～未来

毎日がタイムトラベルであり、わたしはタイムマシンの存在である。

未来は今変えることができる

という意味である。

過去もまた、今変えることができる

という意味である。

今日、今、どのような運転をするのか。

タイムマシンの目的地、時間は設定してあるのか。

設定は一定であるのか。

設定はわたしが本当に望んでいることであるのか。

(加筆して草稿要転記)

■時空～過去

過去をさかのぼることはできる。思い出すことができるということはさかのぼることができることと同じである。あとはリアル感の問題である。

あるいは、こうもいえる。

過去がないように、今から見た過去もない。

7月31日、8月1日 2006年

●空爆～行為への愛

あなたが××であるから、わたしも××をする。
あなたが○○であれば、わたしも○○である。

あなたは××であっても、わたしは○○をする。

前者は相手がわたしの行為の原因となる。
後者はわたしがわたしの行為の原因となる。
二千年前から言われていることである。

(7月31日掲示板) (草稿要転記)

■善と悪

よく、この世界での生き物で人間だけが無意味な殺戮をするという人がいる。
先日お会いした方もそのようなことをおっしゃっていた。
だが、本当に犬や猫のような善が欲しいのなら、来世は犬や猫に生まれたいと願えばよい。
確かに犬や猫は人ほど悪さをしない。
しかし、人間の善を望むのであれば、時には過ちを犯すこともあることを知るべきである。
それは、
「相手が××だから、わたしも××をする」
という論理が正しいと思うことである。

この論理を覆して生きるとはとても難しいが、できないことではない。

あなたはわたしを傷つけるが、わたしはあなたを傷つけない。

これは、人間イエスがしたことであり、人間ガンジーがしたことである。
そして、これこそが人間の善の道であり、自由の本来の意味である。
自由とは、自らが原因（由）である、ということであり、自らが始まりである、ということである。わたしが始まりとなるときに、人を殺すこともできるし、人をゆるすこともできる。そして、人を助けることもできる。相手がどのような人であるかは、ここでは無関係である。わたしがどのような人であるかだけが実はいつも問われている。そして、自分がどのような人であるかはあらゆる瞬間に表現できる。

今、わたしは何を考えているのだろうか、何を話しているのだろうか、何をしているのだろうか。
ほかの事はできないのであろうか。
これがわたしなのだろうか。

これが本当のわたしなのだろうか。

そして、本当のわたしなら今何をするのだろうか。

(8月1日掲示板) (草稿要転記)

★8月2006年

8月1日、8日2006年、2月26日2011年

●ヒーリング～時空

病気がよくなっても、悪くなってもできないことがある。

それは今のように親子で話すことができないということである。

だから、今はよく話すこと、よく交わることに努めることである。

今できることにすべてを費やすことが時をむだにしない生き方である。

そしてまた、どのような時も、今できることにすべてを費やすことである。

(加筆して掲示板記入予定)

8月2日、19日2006年

●名人戦移管問題～毎日、右の頬をひっぱたかれて…

わたくしは結構短気で、感情的になる人間デス。

毎日新聞案が将棋連盟の棋士に拒否されてまず思ったこと…

毎日は「王将戦」から手を引き、新たに「優勝賞金1億円のオープン棋戦」を立ち上げたらどうだろうか。プロアマ参加自由、対局料なし。賞金だけ出る棋戦で、ベスト16から賞金が出るシステム。今より経費は少なくすむし、話題を呼ぶだろうし、将棋連盟には一銭も入らない仕組みである。ただし、羽生さん、森内さん、佐藤さん、渡辺さん（もちろん、シード）等の一流棋士が参加されなくては意味がないが…。もっとも、今回毎日案をかけた三流棋士が優勝したら、毎日新聞、「こりゃあタマラン」ということになってしまいますけどね(^o^);

しかし、もうちょっと冷静になって考えてみた。へぼ塚に百分の一ある博愛精神では…

「王将戦」の契約料を値上げして主催紙として継続する（指し込みは復活してもらいたいが）。

まあ、これがベストではないだろうか。これがひっぱたい相手の望むことではあろうが、

毎日新聞は内側も外側も損をしない（ちょっといやな言い方だが）。毎日新聞らしい三男坊的なおおろかさが出て、こころある人は拍手喝采するであろう。名人戦、欲しい人にはあげればいい。

（8月2日掲示板）

●成長

脱皮のように、成長とは古い自分とは全く異なった細胞になることである。

7歳、17歳、27歳と手術し続けた右股関節が治癒したように。

そして、内なる身体、内なる神殿もまたまるで異なったものから形作られる。

それが錬金である。

●不幸

不幸という出来事を変えようとするのではなく、受け止め方を変えようとする。

それが出発点である。

出来事はベストと知ることである。

●不安

不安のもぐらがもたげてきたら、ひとつ、ひとつ、丁寧にたたいて滅する。

●条件

条件を外に求めるのではなく、内から条件の結果を引き出すこと。

●創造

1 原因と結果が分かること

2 自分に役立つことに変じる、このことを認めること。

8月3日、5日、10日 2006年、2月13日、16日 2011年

●意識のある人生

この世界の出来事で変わらないものはない。

病気はよくなる。

健康であっても病気になる。

不安が杞憂に終わり、安心する。

幸福な日々が、ある日不幸のどん底に陥る。

この世界のものはすべて変わる。

この変わるのは<わたし>が原因であるが、<わたし>を知らなければ、この世は諸行無常と思うかもしれない。変わることに自分に関われないと思うかもしれない。

だが、「この世界で変わるもの」は、<<わたし>>が変えることのできる>>ものである。
では、<わたし>とは何であろうか。

(8月3日掲示板)

●創造

創造は時空の秘密と関係しているのではないだろうか。

時空のコントロールまでいっての創造、その創造での時空とは。

■創造力

真の創造力は、この世でも、あの世でも、今生でも、来世でも使える。

そのような創造力を身につけること。

■内なる神殿～創造力としてのわたし、何も必要としない存在としてのわたし
わたし自身が始まりとなること、そのような神殿をつくること、

●神と人間

お守りはお金なんかといっしょにしておかない方がよいという話がある。

だが、お守りは金銭と引き換えで渡される。

神様とは神棚の前だけでいっしょにいるのではなく、便所の中でも神様といることが大切である。

(加筆して掲示板記入予定)

●ヒーリング

なぜ治らないのだろう？

では、なぜ治るのだろう？

(掲示板記入可)

■ヒーリング

気が出ているから治る。

では、出ているもなぜ治らないのだろう。

難しい病気だからだろうか。

8月4日、5日、6日、8日、10日、18日、19日 2006年、11月24日、12月28日 2010年

●時空～創造力

時間が過ぎ去っていくように時を生きるのではなく、時をつくりだすように時を生きる。

時は形のない粘土のようである。

時は創造されることを待つ粘土のようである。

時を触感してみることである。

(8月18日掲示板) (草稿「時空」要転記)

●瞑想

わたしの創造の出発点は7歳の入院生活での神への祈りであった。

そのような祈り方をヨガナンダはすすめているのかもしれない。

純粋な希求と継続する希求

大乘の道と小乗の道

●わたし

今の私と関わりのある人はすべて今のわたしである。

今のわたしになれるわたしである。

●意識のある人生～瞑想

雑念のコントロールのためにすべてをそそぐ。

これは瞑想以外の日常生活すべてにいえることである。

雑念とは本来すべきこと以外にこころがいつていることである。

いつも今何をしているかを知っていること。

忘れた時には忘れていたことを思い出すこと。

思い出したら、今何をするのかを思い出し、そのことだけにこころをかけること。

(8月13日掲示板)

●わたし・所有・創造力

昨日まで自分であった自分を今日変えれば、この変えた力は死んだ後も永遠に働き続ける。

この力は<わたし>だからである。

そして、この力は<神>である。

(8月4日掲示板) (草稿要転記) (要再掲加筆済)

参考～グルジェフのワーク

●誰だろ う瞑想

「誰だろう瞑想」をすれば、自分に使われるのではなく、自分を使うようにできるようになる。

(加筆して掲示板記入予定)

■誰だろう瞑想～景色

周囲の景色と自分を一体化し、景色と化した自分を見ることができる。

景色も自分もある意味では同じであるが、異なる点は、最も自由になるのは自分であるということである。

(掲示板記入予定)

●ヒーリング～気功治療と西洋医学とイエスのヒーリング

今のわたしの気功治療は西洋医学と相互補完関係にある。西洋医学が得意な分野には弱い。だが、西洋医学が弱い部分には強い。

科学と宗教との関係における近似と相違。

気功治療と西洋医学との近似と相違。

今現在はそのような見通しがある。これは何を意味するのか。

(将来的にはイエスのヒーリング。このイエスのヒーリングをわたしのヒーリングとの違い、あるいは一致点とは？ イエスのヒーリングは気功治療とはまったく異なるものであろうか。あるいは、レベルの問題だけであろうか)

●所有～ゴミ

事務所の本やら荷物を整理しようと思い、本棚を買おうかどうか迷っていた…。迷いながらふと思ったこと…。

ゴミのために人生を費やさないこと。

ゴミとはわたしにとって不要となったものである。

(8月5日2006年掲示板)(草稿要転記)

■<わたし>～遊行

ゴミを手放していくと何が残るのであろうか…。

最近、ほのかに感じつつあること…、

<わたし>以外には何も残らないし、

<わたし>以外には何もいない。

このことをいつも思い出し、感じること。

そして、いつも、〈わたし〉でいること。

そして、いつも、〈わたし〉を新たにつくりだすこと。

(8月10日 2006年掲示板)

■イエスの言葉 (トマス福音書)

イエスが言った、「過ぎ去り行く者となりなさい」

(参考) イエス——汝に祝福あれ——が言った、

「この世は橋である。渡って行きなさい。しかし、そこに棲家を建ててはならない」

(北インドファテプル・シークリーの城門アーチ)

(「トマス福音書」講談社学術文庫 42 ページ)

(8月8日 2006年掲示板)

●身体

身体が疲れるのであれば、わたしは身体の使い方を間違えているのである。

中学の陸上時に全力疾走をしても疲れなかった経験。

身体の使い方を考えてみること。

他方、グルジェフの超努力、シュタイナーの献身的活動力を思い起こしてみること。

あと、こころの使い方についても考慮すること。

└集中すること・ぶれないこと

沈黙の力

●ヒーリング～遠隔治療

本来の〈わたし〉のいる処に戻り (瞑想)、それから、患者さんのところ、あるいは病巣に行くようにしてみる。

●「お盆」考

迷信のような、マユツバのような話しにも真理は含まれているものである。

死者はお盆に帰ってくる。そうかもしれない。呼べば、残された者が希望すれば、帰ってくる。その意味では正しい。ただし、それはお盆のときだけではない。遺族が死者を呼べば、死者はいつでも帰ってくる。だから、亡くなっても時間がたてば亡くなった気がしなくなるものである。

ただし、戻って来れない者もいるかもしれない。遺族のことよりも死者にとって大切なことがあれば、その大切なことに執着し、縛りつけられて、生者の声は聞こえないかもしれない。では、そのような死者は比丘を供養することにより、執着から目覚めるであろうか、執着から放たれるであろうか。

わたしの考えでは否である。功德を積んでまで助けたいという遺族の思いが生者の声を聞く助けにはなっても、死者は縛られたものから離れることはできないであろう。離れることができるのは本人だけだからである。何度も引用したように、グルジェフは次のようなことを言っている。

わたし、高塚が迷妄に苦しんで倒れこんでいるとき、あなたはそばに来て、わたしを助け起こしてくれるかもしれない。だが、そこから歩いていくことはあなたにはできない。わたしだけができるのである。一步踏み出すことが空気を吸うよりも大切であっても、あなたにはその身代わりはできないのである。歩くことができるのは、わたしだけであり、それはあなたにも、神様にも、仏様にもできないことである。

(8月6日掲示板)

■ 仏事

仏となる機縁、この世が仮の世であることをはっきりと分かることの機縁、その縁のために仏事はあるのである。

仏陀の教えはこの世に生きている者が悟りを得るために説かれた教えであり、亡くなった者を供養するために、亡くなった者を救うために説いた教えではない。

だから、お盆の日には亡くなった者に手を合わせるのではなく、生きている自分自身の身を振り返ってみることこそ、肝要である。

(8月14日掲示板)

● 教室

某氏がもしみえられたら、敵対的な行為でなく、シュタイナーの言葉を思い起こして話すこと。

「徹底的に考えぬいたのではない事柄を口に出すことも、神秘修行の道につまずきの石を置くことになる。この点で特に注意する必要があるのは、たとえば誰かが私に何かを語り、私がそれに返事をする場合である。そのような場合、私はその話題に対して自分が言おうとする事柄よりもむしろ相手の意見や感情、さらにはその偏見にさえもより以上の敬意を払わねばならない。こう言うことによって、神秘学徒が細心の注意を払って努力すべき繊細な配慮が暗示されている。神秘学徒は他人の意見に対して自分の別の意見を出して見せ

るとき、それが当の相手にとってどんな意味があるか、見通すことができなければならない。とはいえ自分の意見を差し控えろと言うのではない。決してそんなことを言うつもりはない。けれども人は可能な限り正確に他人の言うことを理解し、そこから得た事柄に則って自分の返事をまとめなければならない。このような場合、もし神秘学徒の心中に、その都度次のような想念が生じるなら、そしてこの想念が自分の性質の一部になっているなら、彼は正しい道の上にいるといえる。この想念は以下のような言葉で表現することができよう。「私が他人と異なる意見をもっているかどうかはどちらでもよい。大切なのは、私の方から何をつけ加えたら、その人が自分で正しい事柄を見出せるようになるか、ということだ」。このような想念、思考を通して、神秘学徒の性格と行為とは、一切の神秘修行の主要手段の一つである**温和**さを獲得する。**厳格**であることは霊眼を目覚めさせるべき魂的構成体を彼の周囲から追い払う。温和であることは彼のために障害を取り除き、彼の器官を外へ向って開かせる。」

(シュタイナー著「いかにして超感覚的世界の認識を獲得するか」104 ページ イザラ書房)

8月6日2006年、7月2日2007年

●意識のある人生～選択・身体（加筆して再掲）

病気で身体が不自由である。

だが、身体がどのような状態であろうと、その状態で、身体を使うことができる。

健康で身体がはつらつとしている。

だが、身体がどのような状態であろうと、その状態で、身体を使わないことができる。

では、今、身体はどのような状態であるのか。

そして、今、何のために身体を使うのか、あるいは、何のために身体を使わないのか。

(8月7日掲示板) (7月3日2007年)

8月8日、12日、14日、20日、21日2006年、2月13日、16日2011年

●意識のある人生～呼吸というマントラ

いつもきれいな呼吸で身体を満たしている。

いつもきれいな呼吸でこころを満たしている。

呼吸は酸素と二酸化炭素の交換である。

だが呼吸は、それ以外にもわたしの身体とこころをまったく異なったやり方で養う。

要諦は意識してきれいで、やわらかな呼吸をすることである。

あとは、実際にやってみることである。たった今。

(8月21日2006年掲示板)

いつもきれいな言葉、きれいな思いで身体を満たしているようにする。

いつもきれいな言葉、きれいな思いで時空を満たしているようにする。

身体はきれいな言葉で一杯になるであろうか。

時空はきれいな思いで一杯になるであろうか。

(掲示板記入予定)

ただしこれは善悪の善ではない。

善悪にはきれいな悪もあれば、きたない善もあるからである。

●沈黙

錬金術の沈黙は金

沈黙と情報 (ユーザーイリュージョン)

スプーン曲げの情報 (信じること・雑念がない状態・疑いがない状態)

■何もないということではない。

不所有 瞑想

8月9日、14日 2006年、11月28日 2010年

●長崎

長崎市長が長崎原爆被爆から61年も経つのに、この地球上に原爆が増え続けていることに怒りのメッセージを世界に向け語っていた。

何を怒って、何を怒らないのか、この世界の人間は怒りの対象を間違えているのではないだろうか。もちろん、長崎市長の怒りは正しい。だが、私も含め多くの方はそんなことに怒りを感じたり、怒りをぶついたりはしない。

また、別の来賓氏は原稿を棒読みしていた。昼ごはんのことも考えながら読んでいたのだろうか。何にこころを動かすのか、何にこころを動かさないのか。こころの無駄遣いといわれても仕方のないメッセージであった。

(8月9日掲示板)

■怒り

ミサイルを打ち込まれたり、爆弾を落とされたりすると怒り狂うが、その仕返しに打ち込んだり、落としたりすることには怒り狂わない。

それは、当然である、という。

そう、今は当然かもしれない。だが、いつか、当然ではないといえるようになりたい。

(8月15日掲示板)

昼ごはんについては真剣に考えることができるが、被爆者については真剣に考えることが

できない。

このようなことは、わが身にはかならずある。

今考えていることをふりかえってみることである。

8月10日、17日、20日 2006年、7月2日 2007年、2月13日、16日 2011年

●神の实在

セックス教団にだまされる人が存在すること。

これは神の不在を証明することになるのだろうか？

あるいは、神の实在を証明することになるのだろうか？

(掲示板記入予定)

両面ある。

唾棄すべき行為があったこと、不自由があったこと、このことは神の不在を証明する。

唾棄すべき行為の自由があったこと、このことは自由の实在を証明する。そして、もし自由＝神であるなら、神の实在を証明する。

前者は人間が大きなたしである神を使わずに、小なたしである我(が)を使ったということを語り、↳小さな自由

後者は使っている当人がなかなか気づくことない与えられた自由が行使されているということをお話している。与えられた神が行使されているということをお話している。

(掲示板記入予定)

これは神の不在、悪人の存在を証明することではなく、神の实在、自由意志の存在を証明する。

●わたし

地球が一からやり直さざるをえないとしても、わたし自身は一からやり直さなくてもすむ、そのような内なる身体を今日一日、この一瞬にひとつでも形作ること。

●自他～わたし

もしこの世界が「あんな奴」がいる世界ではなく、皆「あなたのような人」がいる世界であったなら、あなたは幸せだろうか？

あるいはまた、もしこの世界が「あんな奴」がいる世界ではなく、皆「あなたのような人」がいる世界であったなら、この世界はあんな奴がいる世界よりもよい世界になるのだろうか？

(8月11日掲示板)

もしかしたら、皆「あなたのような人」であっても、今のこの世界とたいして違いはないかもしれない。

もしかしたら、あんな奴はあなたかもしれない。

■ 自他～異星の客

もし、この世界にいる人がイエスやブツダのような人ばかりであったなら、あなたはどのような世界に住みたいと思うだろうか？

あるいは、イエスやブツダのような存在ばかりの星に生まれ変わりたいと思うだろうか？

(8月12日掲示板)

あなたは这个世界での最低の劣等生である。

これはたまらん。

あなたは信じがたいほど恵まれて成長できる。

これはありがたい。

▲ 質問

質問に意味があり、わたしの答えにはほとんど意味はない。

質問は同じ質問であっても、発するひとりひとりによって異なるものである。

だから、ひとりひとりの質問をして、ひとりひとりが自分自身を答えることである。

8月11日、18日 2006年

● 時空

もしわたしが過去で異なる生き方をしたいと思い、その過去に戻り、その人生を生き直すとしたら、わたしはすべての記憶を消し去ってもう一度その人生を生きるであろう。そして、そのことが何度も可能であれば、何度も何度も生き直すであろう。

そして、わたしはそのことが繰り返されることを決して気づかないであろう。

(加筆して掲示板記入予定)

8月12日 2006年

● ヒーリング～創造力

なぜこころをしずめるかというと、白板にいろいろな落書きがされては、「病気よ、治れ」と書いても読み取ることができないように、まずは、こころの白板をきれいにしてお

かなければ何も読み取ることができないからである。

誰が読み取るのか、それは創造者である、この言葉が嫌いであるなら、宇宙の仕組みである。

(加筆して掲示板記入予定)

8月13日2006年

●ヒーリング～教室資料

人間性の低い人間であっても手をかざすと治るのはなぜであろうか。

人間性の高い人間であっても手をかざしても治らないのはなぜであろうか。

この世界には意識を持たずに生きている人間と意識を持って生きている人間とがいる。前者が現在の地球上の大部分を占める。

もともとは同じ人間であり、将来もまた同じ人間であるが、両者の現在は大きく異なる。意識のない人間には与えられた道具がある。ひとりひとり異なる。あるものにはバットを上手に振る身体、あるものには人を説得する話術、あるものには味を見分ける舌、そして、あるものには病気を治す気が出る手のひらが与えられる。これは与えられたのであり、その所有者が手に入れたものではない。だから、病気を治す手のひらを人間性の低いものが持つこともある。その人にはその手が人間性の向上に役に立つからである。だからまた、何も持たずに、あるいは、ときには病人といわれる存在となって生まれる人間性の高いものもいる。

以上は、意識を持たずに生きてきた人間に与えられる道具のことであり、意識を持って生きてきた人間が獲得する能力については異なる。イエスが行なった奇跡のようなヒーリングは人間性と比例する、意識の高さと意識の持続に比例し、信仰心に比例する。

(12月22日掲示板)

8月14日、21日2006年、2月13日、16日2011年

●意識のある人生～誰だろう瞑想

今日、棺桶から出てこられたと思うこと。

今日一日、何に費やすのであろうか。

そのためには出てこられたことを知っていること。

また入って行くような愚を犯さぬこと。

おそらく今日一日は手に入るかどうか分からぬ36色の色鉛筆を得るためにあるのではない。

■質問73?

おのこの年齢のときに欲し、求めた道具は何であろうか。

36色の色鉛筆を持っているからといって、上手な絵を描けるわけではない。

(小学生時代)

(中学生時代)

(高校生時代)

●ヒーリング～患者心得

病気を治そうとするのでなく、人生を生きようとする事。

8月15日、10月5日 2006年

●手を離れる

最も大切だと思っていたものを手放す機会が与えられる。

喜んで手放すこともある。

悲しんで手放すこともある。

この機会は何度も何度も与えられる。

それを祝福と呼ぶか。

あるいは、不運と呼ぶか。

あるいは、偶然と呼ぶのか。

あるいはまた、愛と呼ばれ、神と呼ばれるのか。

(加筆して掲示板記入予定)

■知識・感情

知ることができれば、手放せる。知事はタバコが悪いことと知っている知識ではない。

知事は感情を伴う気づきである。

あるいは…、決意、意志、意識のある人生。

▲知識

知っていてやらないのであれば、いっそのこと知らない方がよい。

いつか出会う知に感情を吹き込むことができるかもしれないからだ。

▲(参照) (9月26日 2010年掲示板)

●セキュリティ～愛

この世界での最大のセキュリティは傷つかないことを知ることである。

(11月26日掲示板)

●時空

途中であって楽しめるもの、そうでないもの。

8月16日、17日、18日、19日 2006年、7月2日 2007年、11月29日 2010年、2月13日、16日 2011年

●ヒーリング～手をかざさない方法

諸事情で自分でやるしかない方のためへのアドバイス。

できれば、軽く目を閉じる。

無理のない深い呼吸をする。この世界のことは何も考えずに、ただ深い呼吸をする。

そして額のあたりを見る。

見ているだけである。

自分自身がやわらかな気持ちになれたなら、その額のあたりに病気になった患者さんの（あるいは自分自身の）臓器、または身体をイメージする。

そして、その臓器、身体が完全であり、若く、きれいであることをイメージする。

これを起きている間すべての時間について行なう。

（8月17日掲示板）

よくなること以外何も考えないこと。

不安は気づいたときにすべて除去すること。

このことを起きている時間すべてについて行う。

（8月19日掲示板）

一年前と今は違うこと、今のよいことを神に感謝すること。

●機会

一年前にはできなかったこと、一年前にはしなかったこと、このことを今していること、このことは病気になって初めてできること、このことに感謝すること。

あなた以外のすべての人は逆のことにエネルギーを使っていることを知っていること。

■ヒーリング～心得

どのような過酷な条件の中でも常に完全治癒する道があることを知っておくこと。

ただし、当然治癒への方法も過酷となる。

患者さんにとっても、私にとってもである。

だから、あなたも私も昨日までは歩かなかった道に踏み出してみることである。

(8月18日掲示板)(加筆済み記入可)

■自他・自由・善悪・知識

どのような人にも悪いところなどはない。

知らないことがあるということ、

知らないことがあるゆえに、今はそのように生きるしかないということ、

そして、このことはまた、

違うことを知ればこれまでとは別の生き方ができるということ、

このことだけがあり、悪いことがあるのではない。

だから、どのような人にも大切なことは<気づいて知る>ということだけであり、非難されることや攻撃されることや矯正されることではない。

(11月29日2010年掲示板)

■ヒーリング～手をかざす方法

来週、自分でも気功治療をされたいという方おふたりと別々にお会いする。

どのようにすれば手から病気を治す気が出てくるのか？

みもふたもない言い方であるが、手をかざすだけである。

アドバイスをひとつするならば、緊張しないこと、不安にならないことである。

まあ、このひとつのアドバイスのために長年気功教室、啓発講座をやっているようなものである。わたし自身はどうか？ もちろん、緊張、不安がひとかけらもなく手をかざせることはめったにない。そして、たとえこれらがなくときにも、あるのは慢心である。

(8月18日掲示板)(加筆済み掲示板記入予定)

その人の存在から気が出てくる。

あとは個人個人の特質というものもある。

さらにまた、あえて能力を封じ込めた人生というものもある。

(教室資料要転記)

8月16日、18日、22日2006年

●ヒーリング～<生きる>

どのような病気であっても、それを治そうと思うのでなく——そのことも、もちろん大切であるが——、今、この状況で、どのように<生きる>か、このことがすべてに優先することである。

病気は結果であり、条件である。

結果であるというのは、今まで生きてきた、今まで考えてきた、そのことの変えがたい結果であり、それしかない結果である、

条件であるというのは、これから生きるための、他にはない条件であり、最高の条件である、ということである。

病気は、結果を知り、条件を知り、それを元<生きる>ことができれば、変わる。だが、あくまでも<生きる>ことに付随して治ることに他ならない。

(8月22日掲示板)

8月17日、18日、19日 2006年

●ヒーリング～掃除

20年間ほったらかしでゴミだらけの家を一日できれいに片付けてもらいたいと依頼すること。

もし、そう頼んでくる人間がいたら、どこか違っているという感じがしないだろうか？

(8月19日掲示板～ヒーリングの単語ははずす)

■欲望の成就

20年間ほったらかしでゴミだらけの家を一日できれいに片付けるようになりたいという。

おまけに、今までどおり、ゴミをちらかし、ほったらかしにしたいともいう。

この人は何をしたいのであろうか？

(8月20日掲示板)

また、このことは普通ひとりではできるものではない。

もし一日でしようとするなら多くの人の協力が必要となる。

(掲示板記入予定～ヒーリングの単語ははずす)

20年間で作り上げた病気を一日で治そうとすること。

●意識のある人生～話すこと・書くこと・聞くこと

どのような思いが言葉にのっているか。
どのような思いがペン先にのっているか。
どのような思いが耳をおおっているか。
この思いに、慢心、虚勢ほどはびこっているものはない。
常に自戒すること。
(掲示板記入予定)

8月18日、19日、27日 2006年

●誰だろ う瞑想

自分がこの身体におさまっているだけの存在でないことに気づくことができる。

●自他 (教室)

単に否定したり、肯定したりするのではなく、そのイエスでもノーでもないものから生じてくるものを大切にする。

●意識のある人生

大きな自分が出てくることが意識のある人生を送るための条件かもしれない。
(加筆して草稿要転記)

●ヒーリング

ぶどうの木にりんごを実らせることはできるであろうか？
わたしにはできないが、できる人はいると思っている。
ではできたとして、そのことにどのような意味があるのでしょうか？
(8月20日掲示板)

●自他

困ったときの神頼みと揶揄する人がいるが、悪いことではない。
困ったときに神を求めるのは自然といえるし、もし、本当に神が助けてくれれば、これほど力強い味方はない。
だが現実には、困ったときにも神を求めない人はとても多い。
そんなことは神にはできっこないと思っているからである。
このことは人間関係にもいえることである。
(8月27日掲示板)

神を信じることができない。
他人を信じることができない。

なぜなら、自分を信じていることができないからである。
だから、まず自分を信じていることから始めよう。
そして、そのためには、まず自分を認めることである。

わたしを知れば、神への通路に気づくかもしれない。
わたしを知れば、他人の悪行にわたしを見ることが出来るかもしれない。

■神聖なる矛盾

神とはいつも一緒にいることである。
そして、人間とも。
だが、同時にいつもわたしひとりだけでいることである。
(掲示板記入予定)

●方便

方便を使ってみること。いつも直球勝負でなく。
ところで、この世界で神様の方便となっていることはないだろうか。

8月20日2006年

●

モノを渡して金銭を得ることには抵抗がないが、
精神を渡して金銭を得ることには抵抗がある。
非営利団体

8月21日、22日2006年

●時空

人生は深刻になるべきでないところがあり、逆にまた、真剣に取り組むべきところがある。

人生が小説や映画のように決められているものだとしたら、どうも大きな筋書きは決まっているとの話もあり、もしそうだとしたら、そのことをリアルにイメージできたなら、そういう大きな筋書きの是非についてはあまりこだわらない方がよいのかもしれない。

8月22日2006年

●基礎体力

張栩夫妻が囲碁で行なっている基礎体力養成に匹敵する精神世界での基礎体力養成法とは何であろうか。

■ 仮想空間瞑想会 1785 日目

21 日（月曜日）は朝から気力が湧かず。瞑想も集中できず。天ぷらソーメンを食べてから夜勤の仕事に出かけるが、車中ではずっと居眠りをしていた。いつもは出勤前に喫茶店に寄るが、その元気もなく、本屋にぶらりと入る。買った本は

張栩著「張栩の詰碁」（毎日コミュニケーションズ 1800 円）

ブライアン・L・ワイス著「ワイス博士の前世療法」（PHP 研究所 1400 円）

「詰碁」の 22 ページに張栩さんの奥さんである小林泉美さんがなりそめについて書かれているが、これがスゴイお話し。初めてのデートでの張栩さんの話が「地合いの正しい計算方法」とその問題、それが解けると、難問の詰碁を作ることで有名な張さんが作った詰碁 100 問の出題！ まあ、これも泉美さんにもっと強くなってもらいたいとの気持ちからのこと。しかし、それをしっかりと受けとめて結婚までゴールインした泉美さんは本当に魅力的な人である。以前にも書いたが、張さんの碁は一度か二度 NHK 杯で見ただけであるが、打ち方に「一途」な感じがしてとてもひきつけられた。本書もそんな一途さが伝わってくる本である。

張さんが考えている囲碁の〈基礎体力づくり〉は「詰碁」が一番ということだが、精神世界でいうと何にあたるのであろうか。少なくとも本を読むことだけは違うというのははっきりしている。

ヨガナンダは瞑想というだろうか。

シュタイナーは畏敬というだろうか。

グルジェフだと自己想起であろうか。

「神との対話」の神であれば、意識を持つことであろうか。

「前世医療法」シリーズはさんざん読んだので、あまり気乗りがしなかったが、ワイス博士が患者さんに自宅ですすめている瞑想や退行睡眠の方法が入っている CD 付きで、立ち読みすると、いろいろシンクロするところがあり、購入する。

仕事はベテランのパート氏と。25 年の付き合いで、ツーカー。仕事もツーカーで終了。

（2006 年 8 月 22 日 HP 日記より）

8 月 23 日、10 月 5 日 2006 年、5 月 25 日 2007 年

● ヒーリング

悲しみを喜びに変える術。

入院生活を思い出すと、悲しいけれど悲しくない。ふたつの感情がある。→誰だろう瞑想

幸や不幸はもういい
どちらにも等しく価値がある
人生には明らかに
意味がある
(自虐の詩)

●意識のある人生～変容

他人に言われたことしか言わない。
他人が今認めることしか言わない。
そして、今まで自分が言ったことしか言わない。
これはロボットである。

では、人間とは何であろうか。

(8月23日掲示板)(改変済み・掲示板記入予定)

参考～ペンローズの人間とロボット

●操体法

よいところを動かす。
やわらかく。
呼吸とともに、意識とともに。
そして、こころも同じようにしてみる。
(加筆して掲示板記入予定)

8月24日、26日2006年

●意識のある人生～身体

多くの病気、一日の疲労は寝ている時にいやされる。
だが、寝ている時でなく、起きている時に身体を健康にできるようにする。
このことを試みる。
では、どうすればよいのだろうか。

まず、疲労をためないようにすること。

病気にならないようにすること。

これが第一である。疲れなければ、病気にならないければ、健康にするも何もない。四六時中健康だからである。

「神との対話」で、「あなたがたの体をたった 70 年とか 80 年しか使えないような体にわたしが創ったと思っているのか。あなたがたの体は永遠に使えるように創ってある」というような話が出てくる。そこで、ニールは確か「そんなことを言うところの対話を神様がおっしゃっている話だと誰も信じなくなりますよ」と言っている。そこで、神はババジという人間を例としてあげるのだが、残念ながら、ババジに関する情報はあまりにも少なく彼がどのような身体コントロールをしているのかは不明である。

ババジは人類を指導する人だけを指導しているので、通常の人間の前に姿を現すことはないのである。「あるヨギの自叙伝」で著者のヨガナンダがババジと出会った話しを書いているが、具体的な方法の参考になるようなものは何もならない。ただし、わたしのような凡夫には何百年も生きていて死人をもよみがえらせるババジの身体のコントロールを知るよりも前に、まず実行しなければならない身近な方法がある。

その方法は、二つあり、まずは、体に悪いものは体に入れないということである。火をつければ紙は燃え尽きるように、毒薬を飲めば体はやられて、死に至る。

お店で、お金を取って青酸カリを飲ませる店はない。
鳥インフルエンザを出す店もない。
だが、アルコールを飲ませる店はある。
死んだ動物を出す店もある。
有害物質が出る紙を売る店もある。

わたしは紙はやらないが、アルコールと動物の死体は好きである。体の健康と嗜好とどちらを取るかというと、これまでずっと嗜好を選んできた。

1 毒は体に入れない

そのことを実行する

酒やタバコをやめられないのにヒーリング能力を求める人、超能力を求める人がいるが笑止千万である。

2 ところを痛めない

3 意識のある人生を送る

(8月24日掲示板、8月26日掲示板、掲示板記入予定)

食べなければ生きていけない。

8時間眠らなければ、疲れが残る。
等の思い込みを変えてしまう。

休むことではなく、働くことにより疲労をとる。

意識のある人生により疲労をためない。

グルジェフの言葉

「つらい仕事はよい収益をもたらす精力（エネルギー）の投資である。精力（エネルギー）の意識的使用は割の合う投資であり、機械的使用は浪費である。」

（プリーオーレ 1923年6月12日）

不完全燃焼による一酸化炭素を出さないエネルギーの使用

●二冊目の題名

人間使用マニュアル

●教室

最も大きいもの、最も小さいもの

瞑想・イエスの幼子・いわゆる子ども・いわゆる悪人・小銭・ゴミ箱・トイレ・下水道・腐敗菌・無念無想・舌切りすずめのつづら・病人・病気・

8月25日、26日、27日、28日、9月1日、10月5日、11月27日 2006年

●誰だろう瞑想

小さい頃には小説を読むよりも絵本の方が簡単に感情移入ができた。小説の世界の中に入り込むには、やはりある訓練が必要となる。

今の私かというと、私自身に入り込むことにすっかり慣れきっていて、私自身をわたしであると思い込んでいる。私自身に入り込むのと同じようにして、風景や他者の中に入り込むことはまずない。

だが、もしかしたら、小説を読むようにして風景や他者の中にも入り込めるのではないだろうか。

そのためにはまず、わたしだと思っている私がわたしでないことを知る必要がある。それが鏡を見て「誰だろう」と問う瞑想である。

以下は「明日の神」（ニール・ドナルド・ウォルシュ著 68ページ サンマーク出版）からの引用である。

「人間が意識を拡大するいちばん手っとり早い方法は、自分が「意識」をもっているとい

う事実を意識的にすることだ。

意識をもっていることに、あなたがたは意識的に気づかなければいけない。それを**自己認識**という。

自己意識を育てることはべつに難しいことではない。

これから鏡や何かに自分を映すとき、100回「誰だろう（who）瞑想」をしてごらん。」

「誰だろう（who）瞑想」ですか？」

「誰だろう（who）？」と、誰だろうと（whoのooの音を）長く伸ばして、一度に10秒ずつ三度、自分に言うのだ。声に出してもいいし、心のなかで言ってもいい。どちらにしても、鏡のなかの自分の目を見つめ、大きく深呼吸ひと呼吸でゆっくりと、三度言う――。

だあれ（whooooooooo）？

あなたが自分に聞いているのは、「これは誰だろう？ わたしの前に立っているこのひとは誰？ わたしが自分だと思っているこの存在は誰なのか？ 誰？ 誰？」ということだ。

今日から30日、一日に100回これを実践すると、あなたは自分自身を意識するようになる。

自分が誰なのか完全には理解できないかもしれないが、自分というものがあることには気づく。つまり、自己を認識するようになる。」

（8月25日掲示板、8月28日掲示板）

■誰だろう瞑想～ブッダの瞑想

ブッダは瞑想する際に腐乱した死体をイメージするようにすすめたということを読んだことがある。人生ははかないものであることを自覚するためであるというが、ブッダが本当に人生のはかなさを強調したかどうかは疑問であると思っている。

腐乱した死体のイメージは現代の日本にはふさわしくない。ほとんどの人は腐乱した死体などは見たことがないであろう。わたしがすすめるのは、火葬場での釜に入れられる死体である。自分が棺桶に入れられ、最後に釜に入れられるイメージをしっかりと持つことをおすすめする。

肉体はわたしではない。

同時に肉体はわたしである。

わたしではない、ということは、肉体がなくなってもわたしは存在するという意味である。

わたしである、ということは、肉体をわたしの自由に使えるという意味である。

人生がはかないというのは、肉体がはかないのではなく、肉体にしばられて生きることがはかないということであり、腐乱した死体や火葬場の釜をイメージすれば肉体にしばられずに生きることができるかもしれない。自由に肉体を使って生き生きとした人生を送ること

ができるかもしれない。

(8月29日掲示板)

いつも棺桶に入っているイメージを持つこと。

毎朝、毎瞬、棺桶から出て生きていることをまざまざとイメージすること。

そして、毎朝、毎瞬、新しく生きること。

生き返ること。

わたしは私と呼んでいる肉体の使用者であり、使用人でないことをいかなる瞬間にも知っていること。

■誰だろー瞑想～わたし

ある高齢者の方はリハビリで歩くことを求められている。ところが、歩くことはできるのだが、ころぶのが怖ろしくてなかなか歩こうとしない。

まあ、わたしもヘルペスで胃が痛くなった時に、胃癌ではないかとびびっていたので、あまり大きな声で非難がましいことを言うことはできないが、この地球上の人はわたしが何であるのかよく知らない。わたしは傷つきそうな足であるのか、傷つきそうな胃であるのか、老化して火葬場に送られる肉体であるのか、あるいは、別のものなのか、よく知らない。

もし、足や、胃や、肉体でないとすると、そのことを本当に感じることに、そのことを本当に知ることができたなら、人生は全く違ったものになるであろう。怖れなくてよいものと怖れなくてはいけないものが変わってくる。

では、日常生活で怖れずにいるが、実は怖れなくてはいけないものとは何であろうか。

(9月1日掲示板)

■意識のある人生～選択

あなたの人生の決定を他人が行うこと。

他人の人生の決定をあなたが行うこと。

これがこの地球上で行われている選択であり、だから、誰もが苦しむ。

(11月27日掲示板)

●DVDをとるための訓練

ある身体段階のための訓練

動きそのものための訓練

●意識のある人生

今日は昨日と違った朝を迎えられたであろうか。

■意識のある人生～癖

今日は昨日までとは何か違う反応をしたであろうか。

なおかつ、意識をして。

(加筆して掲示板記入予定)

●創造

他人の作ったものを使っているだけなのでなく、創り出している人生であること。

8月27日、29日2006年

●時空～化石の発掘

これまた何回目かの引用になるが、ステイブン・キングが「小説作法」の中で「

と書いていて、この感覚はとてもよく分かる。問題はこの発掘のコツである。

ひとつは、化石か石ころか分からなくとも、とにかく掘り出してみるということである。

もうひとつは、時間と関係している。化石か石ころか分からぬにせよ、発掘はただちに行なうということである。この化石の発掘が一ヵ月かかるか、一年かかるか分からずとも、とりあえず今日から始める必要がある。

(加筆して掲示板記入予定)

化石の発掘は時も関係する。われわれはフィルムの上を歩いている。

グルジェフ

羽生の鮮度

病気の治癒

神と対話をすることである。神は小さな声で語るの、最初は化石のように感じられるのかもしれない。

化石を掘り出して元の形に復元する（これは元の生き物ではない）ことがこの世の人間の仕事である。

●ヒーリング～選択・自由・所有

呼ばれなければ、わたしは行かない。求められなければ、わたしは手をかざさない。

呼ばないということ、求めないということ、このことは相手の自由であり、相手の選択であるからだ。

死ぬと分かっているけど、あなたは手を差し伸べない。手を差し伸べることはあなたの自由であるからだ。

死ぬと分かっているけど、これまで通り、あなたは手を差し伸べない。手を差し伸べることはこれまでの選択を変えるということであり、これはある段階では天と地をひっくり返すことよりも難しいからである。

誰をも非難できない。選択は喜びの使用もあるが、これは選択の悲しい選択の使用である。

選択は自由であり、束縛ではない。だが、選択は束縛という側面も同時に持つ。ひとつしか選べないからだ。だが、そのひとつは命よりも重いひとつであり、それだけがあなたの持ち物である。あなたの持っているものをよく見ることである。それがあなただからである。

知らないということ。

わたしがあなたのことを好きであっても、あなたはわたしのことを好きであるとは限らない。

■ 自他

呼ばれなくとも、わたしは行く。求められなくとも、わたしは手をかざす。

行くということ、手をかざすということ、このことはわたしの自由であり、わたしの選択であるからだ。

わたしが何をするか、
これはいつもわたしが問われていることであり、
これはいつもわたしの自由になることであり、
だからこそ、何をするかという選択こそ、
これがわたしである
というものである。

● 自己観察

初期のヒーリングで何も感じないで行い、結果的に自己観察のヒーリングを行っていたのかもしれない。

8月29日、11月27日 2006年、3月17日 2011年

● ヒーリング～信念・言葉

皮膚の「かさぶた」は、新しい皮膚ができて、はがれるというやり方で治り、「かさぶた」

そのものがきれいな皮膚になるということはない。

ということで、

わたしの欠けた歯が治らないように、あなたの「かさぶた」も治るということはない、
こう言ったとしたら、納得できる話しである。

では、

わたしの欠けた歯が治るように、あなたの「かさぶた」もきれいな皮膚に変わる、
これはどうであろうか。

こう言ったら、わたしはうそつきになるのであろうか。

(8月30日 2006年掲示板)

うそつきであるし、うそつきではない。

うそつきだというのは、今のわたしにはできないことであり、

うそついではないというのは、将来のわたしにはできることだからである。

(掲示板記入予定)

うそつきではない。

うそつきだということであれば、わたし自身を小さく貶めることであり、

わたし自身の本当の大きさを偽るからである。

(掲示板記入予定)

●愛・分を知る・

体操の先生～必要以上のものをもらっている

あげるものだけを受け取ることができる。

ただし、ギブアンドテイクを念頭にギブをしても何も得ることができない。

なぜなら、得ることしか考えていないギブだからである。

行為への愛

●ヒーリング

これでいいという寿命まで健康に生き、行為することがヒーリングの目的なのであり、
寿命をのばすことがヒーリングの目的ではない。

だから、その人がどのように生きるのか、というところまで踏み込まなければ、ヒーリン
グではない。

もちろん、この踏み込みは他者を支配する踏み込みではなく、他者を自由にする踏み込み
である。

(11月27日 2006年掲示板) (加筆済み記入可)

8月30日、12月12日 2006年

●ヒーリング

今までと同じやり方では芸がないし、意味がない。

日々のヒーリングを工夫して行なうこと。

今はともあれ、ベクトルの方向を一定にすること、すなわち、同じ意識を持ち続けること。

(参考) 当初手をかざすだけであったことは、意識しない分だけ、逆にベクトルの方向が一定であったのかもしれない。

●ヒーリング

病気がなくなる日を目指してがんばる。もし、こう言ったとしたら、これは何を指していることになるのだろうか。

病気であるということは何に置き換えられるのであろうか。

もし、病気の人がひとりもいなくなったら、わたしの手から出る気は何ものでもないのであろうか。

●ヒーリング

できないときには、神様に代打を頼むこと。

●ヒーリング

ご家族の方が本気になって治してもらいたいと頼みにこられ、その気持ちに動かされて初めてこちらが本気を出すというのでは、あまりになさけない。

ご家族の方が感謝の気持ちをあらわされて、その気持ちに動かされて一生懸命にやるというのではあまりになさけない。

今のわたしにはおそろしく難しいことではあるが、まず懸命に気を送ることができること。何事にも関係なく。

それを行為への愛と呼ぶ。

ただし、今のわたしには行為への愛はなかなかできない。だから、感謝の言葉が行為への愛という自転車をこぐための補助輪の役目をしているのである。

頼まれるから手をかざすのではない。

感謝されるから手をかざすのではない。

いつか、補助輪をはずして、このようにはっきりと宣言できるようになりたい。

●シンクロ

シンクロには二種類ある。神からのシンクロとわたしからのシンクロである。

★9月 2006年

9月1日 2006年

●内なる神殿

一体性、全体性をもっている。

それは、神の身体である。

ここでは直接の関係はないが、その神もまたある神の身体であるという筆舌に尽くしがたいコメント。

■意識のある人生

全体性、一体性への奉仕

他者ではなく、あくまでも全体、一体が優先すること。

常にこの全体性、一体性を顧慮すること。

●知識

全てを知ることにはできないが、神を知ることにはできる。

全てを知ろうとすることよりも、神を知ろうとすることの方が正しいのかもしれない。

あるいは、神を通じて知ろうとすること。

ただし、どのようにしても、やはり全てを知ることにはできないのかもしれない。神を知ることにはできないのかもしれない。神はつねに我々人間のひとつ手前、ふたつ手前、一兆歩手前を歩いて、我々に見せるものを用意しているからである。

■知識

あるいは、神は知識とは全く別の知識を用意しているのかもしれない。

ちょうど、神が我々に話しかけるときの方法のように。

あるいは、この知識と内なる神殿。

この知識と神の身体。

●ヒーリング～難病

治らないことと治ることとは同居する。

同居するというか、同居しなければ治らないかもしれない。

治らないというのは、現実をしっかりと見つめることであり、
治るというのは、治ることへの道筋の上にいるということである。

(加筆して掲示板記入予定)

●ヒーリング～沈黙

真の集中力⇒沈黙・平安⇒真の力

●ヒーリング～理屈

患者さんのご家族の方からこころ温まるお手紙をいただいた。

ありがたいことではあるのだが、なぜ治るのか、わたしには全く分からない。なぜ治るのか、皆目見当がつかない。

そして、同様に、なぜ治らないのか、これまたまるで分からない。

両者の不明度はまるで同じである。要するに、気功治療に関して、わたしは信じがたいほど何も知らないということである。

(9月3日掲示板)

●ヒーリング～選択

末期がんの兄に手をかざして、よく効いていたが、ある時点から、

「ありがとう。ツン（わたしのこと）もういいよ、ありがとう。」

と言って、手かざしは終わりになった。結局、兄はほどなく亡くなったが、

兄は間違えたのであろうか？

どうなのだろうか？

生きるとはどういうことなのだろうか？

失敗とはどういうことで、成功とはどういうことなのだろうか？

(9月1日掲示板)

9月2日、5日 2006年

●苦しみ

あなたがわたしの望むようなことをしてくれれば、わたしは上がる。

あなたがわたしの望むようなことをしてくれなければ、わたしは下がる。

だから、わたしが今落ち込んでいるのは、あなたの責任である。

わたしは、あなたを変えたい。

(9月2日掲示板)

あなたは、

「わたしはわたしである。」

わたしはわたしだけで生きていく。」
そういうが、お前は何様であるのか。
お前は××なしでは生きていけない。よくよく考えてみることだ。
(掲示板記入予定)

この世界で変えられないことがある。それは、そのように創られたこと、そのことは変えられない。

あなたはどのように創られているか。
神の子である。神の子であることは変えられない。
神は別の言葉でも言い換えられる。

それは、自由である。
わたしが始まりである、という意味での自由である。

自らが理由である、という意味での自由である。

あなたは自由の子であることは変えられない。

だから、わたしがあなたを自由の子として対しないとき、あなたは苦しむし、わたしも苦しむ。

変えられないことを変えようとするからである。

自由であることを自由でないようにするからである。

(9月3日掲示板)

■不自由

では、あなたとわたしが自由の子として創られたのに、なかなか自由にふるまえないのはなぜであろうか。なぜ、そんな存在に人間を創り、この世界で不自由と苦悩がまかり通るのであるか。

(9月4日掲示板)

■

小学校1年生のとき7ヶ月間入院していたので、退院できた時の喜び、自由に外で遊べることの喜びは人一倍分かる。

また、小学校5年生のとき、腎炎で1ヶ月間自宅療養をして、塩分ゼロの生活をしていた。

1ヶ月後初めておしょうゆをつけたおかずを食べられたときの喜び、塩分を取ることができる喜びはとても表現できるものではない。わたしは塩分のおいしさを人一倍分かっている。

わたしは、不自由を通じて自由の本当の意味を知る。

わたしは、ないものを通じてあることを知る。

これが<神の子>としての<まだ神でない人間>が存在する意味である。

<自由の子>としての<まだ自由でない人間>が存在する意味である。

神は人が存在する前にも神であり、「人が存在して、人が神の子から神になった」あとも神であるが、人が神になる前と後とは異なる神である。入院前のわたしと入院後のわたしが違うようにである。これが不自由と苦しみが存在する理由である。

だが、もう不自由も苦しみもたくさんである。

(9月5日掲示板)

■意識のある人生

もうたくさんであるので、わたしは新しい生き方をしたいというのがこの HP を開設した目的であるし、そのような目的のもとにこの掲示板に書き込んできたつもりである。

では、どうすれば、この苦しみから立ち上がれるのであろうか。この閉塞感から解き放たれるのであろうか。もし、わたしのように自由に生きたいと思うのであれば、どうすればよいと、あなたは考えるのか。

(掲示板記入予定)

■神の利己主義

この人間が偶然生じたかどうかの議論はここではしない。してもよいが、それは「気」が存在するかどうかの議論と同様にわたしにとって全く興味がないことだからである。(ただし、議論自体には興味深いところがひとつある——それは偶然性の問題であり、掲示板の××で提起した話しである)

上述の話しと重なるが…、

この世界の創造者である神は無駄はしない。したかもしれないが、しているかもしれないが、人間がしている無駄、人間が思い浮かべるような無駄とは皆無と想像する。

花火を打ち上げて、爆発すると、きれいな模様を描く。単に火薬を爆発させただけでは、こうはいかない。花火は人間が意図して作ったものであるから、見るものが歓声をあげるような模様を描いて爆発する。火薬を恣意的に混ぜあわせて花火のような模様ができるのはどのぐらいの確率で生じるのであろうか？ このことを宇宙で考えた人がいる。なぜ、そんな数字がはじきだされるのかは不明であるが、著名な(という形で信じるしかないが)ロジャー・ペンローズは10の10乗の123乗分の1の確率であると言っている。何と美しい数字であるか!!! それはさておき、この確率の意味合いは、

××

という想像しがたい数字である。数学でいちばん苦手であったのが確率統計であったので、もしかしたら、トンチンカンな話しをしているのかもしれないが、こういう確率というの

は、ある観点からすると2分の1の確率と同じなのである。もっと言うと、1分の1の確率と同じなのである。

掲示板××引用

亀にとっては10の10乗の123乗分の1の確率（本当はどれだけの確率なのか）でしかたどりつけない我が家であっても、「知っていれば」絶対にたどりつける確率なのである。「知っていれば」である。

もちろん、宇宙が10の10乗の123乗回爆発して、その1回にわれわれがいるとしてもナンセンスな話ではない。そういうことも可能性としてはある。

●神の声

最近めっきり耳が遠くなってしまった。

毎日白昼夢という映画を見ては他のものを見ることはできない。

●ミス・ユニバース

あなたの顔の中にふたつの顔が同居している。

神が創られた顔と

あなた自身が創られた顔とである。

()のある本

9月4日、5日、13日、14日、18日 2006年、5月24日 2012年

●生一本～意識のある人生

とにかく背骨だけをしっかりとのばす（車中の夢の中で）

●無色映画

この世界で、無声映画ならぬ無色映画を見るようにすること。

無色とは姿かたちのないことである。

●意識のある人生～ヒーリング～気をためる

眠れば気はたまる。それがはっきり分かるのは夜中にトイレに立つときである。手のひらにしっかりと気が充満しているのが分かるからである。

だが、眠らずに気をためる方法はないものであろうか。

●意識のある人生

太陽系の中の地球のイメージ

150 億年の中の 55 年間のイメージ

★★★

●会話

会話の中に他人を見ること、感じること。

●24 色の色鉛筆～条件

もしも気功治療についてもっと多くの方の理解が得られれば、わたしは気功治療だけで食べていけるようになり、また、もっと多くの人のお役に立てるのではないかと……と思うが……そういう問題ではないよ……という内なる声も聞こえてくる。

(9月6日掲示板)

頰椎損傷の方がいて意識不明の重体。呼ばれて、

「とにかく意識を取り戻せれば、それだけでいいです。あとは何も望みません」

その方は意識を取り戻したが（私の気だけでよくなったのかどうかは別、そして、他の病気の場合も常に不明）、今度は、

「歩けるようにしてください」

もちろん、もちろん、よく分かる。そりゃあ、そうだ、それが人間のすばらしいところである。すばらしいが、時にして、とどまらなければならない時もあるのではないだろうか。

歩くことが重要なのか——重要だ——、だが、ある人にとっては歩くことより重要なことがある。それはひとりひとり違うが、歩くことより大切なことがある。それを本人だけでなく、ご家族の方にも知ってもらいたい。

もしかしたら、その大切なことを知るために今の状態があるのかもしれないのだから。

(9月7日掲示板)

小学校の時に 12 色の色鉛筆を持っていった。ほとんどすべての

昔は貧乏な家というのは結構あったものである。色鉛筆で絵をかくときにあなたは貧乏で色鉛筆を買えなかった。先生はなぜ忘れてのかという。あなたは恥ずかしくて買えなかったとはいえない。あなたは隣の人に色鉛筆を借りてかくが、恥ずかしくて気もそぞろ、絵をかくのに熱中できない。クラスのほとんどの子も持っている色鉛筆は 12 色である。でも、ひとりだけお金持ちの子がいて、その子は 24 色の色鉛筆もっている。あなたは、わたしはあの子の家のようなお金持ちの家に生まれればよかったと思う。

だが、今のわたしであればそうは思わないであろう。はっきりとうちには買うお金がないので、黒でかきますとって、黒鉛筆で書くであろう。色鉛筆でしかかけないものなどない。黒でもかける。何かがなくでできないことなどない。もしできないとしたら、それはあってもできないことである。あるいは、もしできないとしたら、そして、したいと本当に願うなら、いまその道にいる

- 1 ほしがる～人間
- 2 ほしがらないころ～人間を創る前の神
- 3 黒を使う→内なる神殿～人間を創ったあとの神
(加筆して草稿要転記)

■

■AIの願い

■

今のあなたの黒鉛筆とは何か。
また、今のあなたの色鉛筆とは何か。

■ヨガナンダ

最初に神を見つけた人間の環境

■高見順

高見順の妻は前世の業でこのようなつらい目にあっている、という。

高見順は地獄に落ちるといふ。

高見順は天国の中に地獄を見る。

読者は地獄を見た高見順を通して天国を見る。

→■不自由

●ヒーリング～無

無になって送ってみる。

弓と禪における灰とする考え～クリア

●ヒーリング

ありがとうといいながら気を送ってみる。

黒住宗忠のありがとう一万回

■言葉は補助であり、あくまでも送っているときの実感を大切にす。

●ヒーリング～意識のある人生

同情は嫌いではないが、同情だけでは治せない。

強い意志とその継続だけが力となる。

(9月12日掲示板)

■なみこさん

「強い意志」があり「継続」してもどうにもならないケースは意識ある人生と考えられるのでしょうか？

それとも「継続は力なり」は事実その通りなのでしょうか？

私の場合、継続はしているものの何の形にもなっておらず、結果も残せず・・・になっているモノが周りにたくさん転がっているのですが。プロジェクト×(ペケ)に成り果てた事象が多数・・・。

まず、「強い意志」と「継続」とを持ち合わせているという人には直接的にも間接的にもお会いしたことはほとんどありません。わたしが知りうるかぎりでは、それを持っている(持っていた)のはブッダとイエスとババジの三人だけです。

まあ、そのような理想の人の「強い意志」と「継続」はおくとして、「強い意志」と「継続」があっても、それが実現しないということはあります。どうして実現しないかという、<人間の本性>に反することを望むからです。<人間の神性>に反することを望むからです。あるいは、<ひとりひとりがこの世で成し遂げたいこと>に反することを望むからです。もちろんこれら反することも実現しないわけではありません。この世に戦争、殺人、盗み、嘘、ねたみ、そねみが現実に存在します。ただし、これらはとても実現しにくいことです。多くの人は、倒れている人に手を貸すことの方が無抵抗の人にナイフで突き刺すことより簡単であり、また気持ちよく感じるものです。問題は「手を貸したことがないので、ナイフを突き刺すようなことばかりをしている」という現実があり、ナイフを突き刺すことをもっと望むことです。たとえば、ただのような値段で有益な商品を手に入れると、もっと安く手に入らないかと思うことです。その商品を作った人はただのような値段でそ

れを手に入れることはできないと知っていても忘れてしまうことです。大なり小なり、多くの人が他人を突き刺すナイフを持っています。

もし、このナイフを使わないですむような願望があれば、それは信じがたいほどの奇跡を巻き起こして実現します。なぜなら、この世界はそのようにできているからです。この世界は<愛>（～苦手な言葉ですが）を実現するようにできているからです。これはわたしにとっても真理です。ですから、見えない人には見えないし、そのことは争いません。わたしにもナイフをほとんど使わなかった時期があり、そのことを体験しているからいうのです。

では今のわたしはどうか。わたしのナイフを捨てるようにと多くの機会が与えられている状態です。だが、ナイフはなかなか捨てきれずにいます。そのナイフはもちろん、他人を刺すだけでなく、自分をも刺します。そのたびに、ナイフを持つのをやめようと思います。だが、本当に持つのをやめるためには、いつも何を持っているのか知っている必要があります。このことが<意識のある人生を送る>ということです。

なみこさんが×（ペケ）人生を送られているかどうかは分かりませんが、私は人後に落ちないペケペケ人生を送ってきましたし、現在進行形で継続中でもあります。でも、この世界を創った存在はそのようなペケペケを実にたくみに生かすのです。昨日、手塚治虫の「きりひと讃歌」を読みました。犬のような顔になる奇病にかかった「きりひと」という医者のお話です。漫画のあるページでは不幸としかいいようのないことが、全篇の中では不幸ではなかったのだということが明らかになるお話です。まあ、創造主は手塚治虫よりもっと上手にペケを花丸にしてくれますから、あまり過去を責めないことです。因果応報などといって傷口に塩をぬるのは人間だけです。

（9月13日掲示板）

ひとつには、同じ意志を持ち続けられないということです。今なみこさんの言葉に神を見て、神について、すなわち、力について何かを伝えようとしていても、次の瞬間、駄犬の寝姿を見て

■ グルジェフの二つの苦しみ

意志とその継続に関して、もっとも考え、努力し、そして苦しんだのはグルジェフではないかとわたしは思っています。彼はその重要性を知っていたので、何とか手に入れようとするのですが、はたしてそのことが叶ったかどうかは定かではありません。彼は意志の継続のことを<意識>と呼んでいて、このことについて様々な意味深い指摘をしています。

「苦しみはいろいろな種類であり得る。初めに、二つの種類に分類しよう。第一は、無意

識の苦しみ、第二は、意識した苦しみである。第一の苦しみからは何も生じない。たとえば、パンを買う金がないので飢えに苦しむ。パンはあるが食べないで苦しむ。この方がよい。」（「グルジェフ・弟子たちに語る」140ページ めるくまー社）

お金がなくてパンを食べられない苦しみの方がある意味で完全である。

食べられないことが完遂されるからである。

断食のように、パンがあるが食べないで苦しむ方がある意味で不完全である。

食べられないことが完遂されない可能性があるからである。

私は食欲に負けて食べてしまうかもしれないからである。

だが、たとえ食欲に負けて食べてしまっても、食べるのを控えようとする意識的行為は多くのものを産み出す。何を産み出すかという内なる身体を作り出す力である。グルジェフの言葉でいうと、＜為すことができるようになる＞ということである。ほとんどの人がしていることは「なる」ことであり、＜為す＞ことができる人はとても少なく、その＜為す＞ことができるような人になるということである。

多く人はパンを買う金がない時にパンを食べられずに苦しみ、パンがある時にはパンを食べて喜ぶ。だが、このような生き方からは何も得られないというのがグルジェフの人生観であり、わたしの人生観でもある（ただし、もうひとつの道があると思っているのであるが）。パンを買う金がないで飢えに苦しんでも、無意識に流されて苦しむのではなく、意識を持てば、飢えを変えることはできなくとも苦しまずにすむ。苦しみがあっても、その苦しみは以前とは異なる苦しみとなり、内なる身体を作り上げる力となる。

そして、この力を用いて内なる身体、内なる神殿ができれば、この物質世界で多くのことが実現していく。物質世界はこの内なる身体とシンクロするからである。

（9月18日掲示板）

内なる身体、物質世界、どちらもが原因となりうる。

無意識にしていたことを意識的にすると多くのことがその色合いを変える。姿を変える。

最も残酷な刑罰は穴を掘らせて、また埋めさせるという刑罰であるというが、この無意味な作業でさえ、意識を用いれば刑罰とならない。無意識に掘っていれば

■グルジェフの苦楽

弟子310～食物

「……

現在のあなたは、無数の「私」を持っている。あなたのそれぞれの「私」の弱点は、いつでもあなたの主人となる、それぞれの「私」である。あなた自身の「私」を持つため、「私」

が生まれなければならない。あなたは仕事（ワーク）があなたの中に入ることを許したので、「私」を受胎した。だが、「私」はひとりでは成長しない。「私」が物質を蓄積し、ある日、めでたくも形をとることができるように、食物を与えなければならない。そうすれば「私」が発達し、生まれることができる。

「私」のこの物質は、意図した苦しみによってのみもたらされる。たとえば、タバコが欲しくてしょうがないとき、それを我慢すると、あなたは内面で苦しむ。そのとき、「この内面の力を、自己の力にしよう。自分自身の『私』のために、この意図的な苦しみによって生ずる物質を受け取るのだ」と言いなさい。この方法によって、あなたは「個人」になり、完成された人への道を歩むことができる。

完成された人のしるしと、その人の日常的な特徴は、外面的には、外側に発生するあらゆることについて、すぐれた演技者として与えられた状況にふさわしい役割を完璧に演じることができるが、内面ではけっしてそれと同一化したり、同意したりしないということである。若かりし日、私もまた、あなたがたが多少とも理解するように、これを真実と確信し、天の定めた運命と考える祝福を得るために、自己について限りなく仕事（ワーク）をした。厩大な努力をし、人生で当然受けるに値するほとんどいっさいのものを拒否し続けて、遂に、外的な何ものも私の内面にまったく触れないという点に到達した。演技に関するかぎり、私は自分の役柄を、古代バビロンの識者たちが演技者として舞台上で演じていたときに夢想もしなかったほどの、理想的な完成の域に高めた。

あなた方が現在の喜びに執着しつづれば、このような祝福に到達することができないということを、警告せざるを得ない。あなた方の人生をふり返って、過去の喜びから、どのような善いものが得られたかを考察しなさい。それは今では、去年の雪のように、溶けて跡形もなく、何であったかを思い出すこともできないほど、はかないものである。意識した骨折りと意図した苦しみの強い印象、そして真実のみが、将来において善きものを得るために役立つ。

■グルジェフの儲けること（グルジェフ伝606ページ）

●ヒーリング

JOさんがこの一年の看病でよく変わったことは何か、
悪く変わったことは何か？

他方、YOさんがJOさんのお世話になってよかったことは何か。
悪かったことは何か。

参考 高見順の看護 どちらが変わったのか どちらが得たのか

得たのではなく、役に立ったこと。

●生き死に

この薬を飲めば助かる。

神様に祈れば助かる。

ありがとうと一万回言ったら助かる。

T塚に手をかざしてもらえば助かる。

仮にそうだとすると、では、それを無理強いできるかという、多くの人にその資格はない。

多く人は知っていても体に悪いものを食べ、飲み、吸い、体に悪い考えをし、言葉にし、行為しているからである。

9月5日2006年

●職業～貴賤・自覚

以前、先輩に

「高塚ちゃん、友人として持つべきものに、検事、弁護士、医者がいるんだよ。こういう職業に知り合いがいるというのはいろいろ便宜が図られてもらえていいことなんだよ」といわれた。当時、わたしはいい年をして医学部に再チャレンジをされていて、それを意識しての話であった。

まあ、当時はなるほどと思ったが、今は当然違う。それって、みんな人間の「身から出たさび」で成り立っている職業なんじゃないの、という思いである。ある言い方をすると、エロ雑誌で食べている人と同じでないの。そして、エロ雑誌の人はそれなりに身分をわかまえている分だけ立派でないの～という気持ちである。

(加筆して掲示板記入予定)

9月6日2006年

●質問

知らないことがあるのではなく、知っていることがある。

知らないのに、知ることが不思議なのではなく、知らないということはそもそも存在しなかったことであり、これは0の発見のようなものである。

9月7日、8日2006年、5月24日2012年

●作家

作家は物語を作るのではなく、人間を作るのではないだろうか。

作中の登場人物は生きているといえるのか。

他方、この世界の登場人物のわたしは生きているといえるのか。

■人間の本质は生命賦与かもしれない。

●意識のある人生

いま、この行為は、
神様の手伝いとなっていることであるか。
神様の顕現となっていることであろうか。

9月8日、10日、20日 2006年、2月3日 2009年

●わたし

何をしたいのか問われることは少ない。
答えられることも少ない。
どうしたらうまくいくか、
このことがいつも問われ、いつも答えられる。
(9月8日 2006年掲示板)

どうすれば体が生きることができるのか。
どのように体を使うのか。

●ヒーリング

初回の方法で二回目以降も行なえるようにすること。
そのために必要なことは何か。
感情が主人でなく、意志が主人となり、やる気をコントロールできるようにすること。

●自他

ご存じない方のために。
オ ワ ダ マ サ コ
カ ワ シ マ キ コ
という名前のお二人の女性がいらっしやいます。

オ ワ ダ マ サ コ

カ　ワ　シ　マ　キ　コ

オ　ワ　ダ　マ　サ　コ
カ　ワ　シ　マ　キ　コ

この偶然、あるいは、この必然を何と読み取るか。お遊びととるか、他の意味を感じ取るか、これは読者の方におまかせします。

(9月10日 2006年掲示板)

●所有

手放すという片付け方もある。

どちらが手放すのか。

モノか私か。

他者か私か。

手放すと関係がなくなるのか。

手放すことにより新たな関係が出てくるのか。

9月9日 2006年

●ヒーリング

たとえ一回であれ、手をかざしたご病気の方、あるいはそのご家族の方には、何らかの意味でわたしはお渡ししているものがある。ただし、今回の中二の女の子には何をお渡ししてきたのか、皆目分からない。

ところが、受け取ったものはたくさんある。信じがたいほどたくさんある。精魂使い果たさなくとも、人生はわたしに多くのものを与えてくれる。行為を愛すれば——これは好きであることとは異なる。実際、わたしはヒーリングをすることはさほど好きではない——人生はわたしに多くのものを与えてくれる。

(9月10日 2006年掲示板)

9月10日 2006年、2月3日 2009年

●条件

プロになれなかった人生、プロになれた人生

●草稿

Yさんに送っていた時間を草稿の完成に費やすこと。

●ヨガナンダのいう神の応え方は本当にそうなのであろうか？

●ヒーリング

ヘンデルとグレーテルのお菓子の家のようなヒーリングを望んでいること。

ヒーリングをする方もされる方も。

テレポテーションできるヒマラヤ聖者の徒歩行路。

9月11日2006年

●ヒーリング

手と足があるのなら、それを使うこと。

●意識のある人生

意識した苦しみ〜火葬場の釜を常に思い浮かべること。

9月14日、29日2006年、5月24日2012年

●わたし〜うそ

昔知人にすすめられて、Nさんという自称ヒーラーの一日講座を受けたことがある。

Nさんはタバコがいかにかに体に悪いかをオーリングテストのようなものを使って説明していた。それはよいのだが、最後に

「実は私もタバコを吸うが、私のタバコは無害にしてあるからいいんだ」

とおっしゃられていた。いかにも胡散臭そうな話しである。「無害にしてあるからいいんだ」
こういう言葉のナイフは自分自身を傷つける。

ただ、Nさんだけでなく、このよううそは日常茶飯事なので、自分自身をよく見ることが肝心である。

(9月14日2006年掲示板)(草稿要転記)

●ヒーリング

言葉を発する。

そして、その言葉を大切にす。

保持し、実現する。

言葉を大切にする。

約束を大切にする。

■グルジェフの約束

返された指輪

●苦と楽

グルジェフのいう楽しみからは何も得なれなかった、苦しみからだけ得ることができるという話し。

他方、「神との対話」の話し、本来の生き方をすれば苦しまないという話し。

9月16日、17日、18日 2006年、5月24日、25日 2012年

●掲示板返信～オプトさん

こんばんわ、初めて書き込みさせていただきます。

十数年前に高塚光さんのテレビを観ていて能力を発現しました。

気恥ずかしいのと、たいして能力があるわけじゃないのでヒーリング活動はおおっぴらにしていません。

それでもプチヒーラーとして時々「痛い飛んでけ～」をしている者です。

あのテレビを観て能力を持った人は相当数いるように思いますが、なかなかお目にかかりません。

ボランティアでヒーリング（気功？）行ってる人達が集まれば何か世の中の役に立てそうですね。

などとアホなことを考えるときがあります^^；

これからもときどき参加させてください、よろしく願いいたします。

オプトさん、はじめまして。

書き込みいただき、ありがとうございます。

高塚光さんにはひとりひとりの内にある能力を触発する力があるのかもしれませんが、最近はお会いしていないので、どのような活動をされているのかは定かではありませんが、わたしがお会いした平成元年当時はその能力は相当なものでした。その後もいろいろな能力者の方にお会いしましたが、正直なところ彼にお会いしたほどのインパクトはありませんでした。

ヒーリングをやり始めた当初は体だけの治療にとどめ、メンタルなことには一切ふれずにおこうと決めていたのが、途中中断期間をはさんだ今現在は逆に、メンタルなことのため

の方便としての肉体治療をあえて行なう、というように心境の変化があります。ですから、もしヒーリングをされている方達と集まるとしても、わたしとしてはそのような目的のためということになります。

ただこれまた微妙なところで、メンタルなことの成長のためにはヒーリング活動をされている方とお会いするよりもごく普通の方とお会いする方がわたし個人にとっては役立つことが多かったという皮肉な事実もあり、立派な人とはあまりお会いしたくないという気持ちもあります。(ただし、オプトさんとお会いしたくないということではありませんので、誤解なきようお願いいたします。) もちろん、ブッダやイエスやババジのような方であればお会いしたいですが、今のわたしの成長段階ではご縁が得られないかもしれません。

では、わたし個人に役立たなくても、世の中のために役立てば、それはそれでよいことなのですが、わたしが目指しているスタンスからはヒーラーが集まることよりも、まずわたし自身が成長することの方が世の中の役に立つ、というように考えています。ひとりのブッダ、ひとりのイエスの触発する力は膨大です。ちょうど、もしそうだったのであれば、ひとりの超能力者が多くのヒーラーを作り出したようにです。空間的に遠く離れていても、時間的に遠く離れていても、ブッダやイエスは多くの人を感化してきました。別に競争するわけではありませんが、まずはわたしがブッダの弟子、イエスの弟子、ババジの弟子たる資格を得ることが何より世の中のためになると考えています。そして、そのような志をもった者がひとりでも多く現われ、

この世界に、

わたしはわたしである

わたしは自由である

わたしは始まりである

わたしは神の子である

等々

宣言していくこと、このことが世の中のために役立つことと思っています。

よろしければ、また書き込んでください。また、よろしければ、いつでも喜んでお会いします。ただし、わたしは普通の人です。そして、全ての人と同じように、信じがたいほど特別な存在です。

(9月16日 2006年掲示板)



あ、長文のお返事ありがとうございます。

【高塚 光】、このお名前を最近ほとんど目にするがありません。

高塚光さんに感謝し続けてる者として非常に寂しいものがあります。

「タカツカヒカル」さんに関してはネット上ではいろいろ批判も多いようですが、個人的には無料でヒーリングを続けていたあの高塚光さんの行為を忘れることはできません。

じっさいにヒーリングを受けて効果のなかった人の批判はまだしも、効果があった人の高塚さん擁護の意見をネット上でほとんど見かけません。

ましてや私と同じように能力を引き出された人は少なくないはずなのに、です。

それを思うと残念でなりません。

> もしヒーリングをされている方達と集まるとしても

いえいえ、それはあくまでも私の夢です。

そうなったらいなー... と、ただそれだけでして^^ ;

勘違いさせたら申し訳ありません。

> まずわたし自身が成長することの方が世の中の役に立つ、というように考えています。

> まずはわたしがブッダの弟子、イエスの弟子、ババジの弟子たる資格を得ることが何より世の中のためになると考えています。

すばらしいお考えですね。

ですが私のような俗人には無理のようです^^ ;

日頃、悟れないことをやっとな悟ったなどと嬉々として口にする。

そんな俗どっぷりの私には管理人さんのような心境にはなかなかたれません。

高尚なご意見ありがとうございました。



ご返信いただき、ありがとうございます。

わたしはシュタイナーという方のある著述を念頭において書いたもので、そのあたりのことをご賛同いただけるのであれば、悟り云々ではなく、ごく日常的な個々人の精神の在り方について示唆されるものがあるのではないかと考えています。

ルドルフ・シュタイナー著 高橋巖訳「いかにして超感覚的世界の認識を獲得するか」114ページ イザラ書房 からの引用です。

「神秘修行の第三の条件はこのことと直接関係している。修行者は自分の思考と感情が世界に対して自分の行為と同じ意味を持つ、という立場に立てなければならない。誰かを憎

むなら、すでにそれだけで、なぐるのと同じ被害をその人に与えている。

このことが認識できるなら、＜私が自分自身を完成させようという努力が、私ひとりのためではなく、世界のためでもある＞、という認識に到るであろう。世界は私の純粋な感情や思考から、私の善行からと同じ利益を受けとるだろう。個人の内面世界の、この世界的意味を信じることができぬ間は、神秘修行者となる資格がない。」

こころの闇の影響について語り、おどす人は多いですが、＜その影響は逆方向についても働きうる＞ということに思い至ったシュタイナーの言には、目が覚める思いがして、書いた次第です。

日常生活の場面でわたしが何を考えているか、これを省みると実に不安だらけの考え、思いに支配されており、この考え、思いが他人にも自分にも世界にも悪影響を与えているというのがわたしの世界観です。この意味で、いつも省みる自分を育てるということをこの4年間試みてきたのですが、とても難しく、いまだになすことができずにいます。ですから、あらゆる瞬間に自分自身をチェックし、ひとつひとつの思いを変えていくということにはなされずにいます。それでも、気づいた時間だけでも自分の不安を変えて、＜裸で立てる自分である＞よう試みています。

まあ、わたしは自分自身を大きく書きすぎているのかもしれませんが、多くの方は人間の可能性の大きさについてあまりに小さく見積もりすぎていることがわたしには残念でありません。

わたしは普通の人です。そして、全ての人と同じように、信じがたいほど特別な存在です。この信じがたいほど特別な存在であることをご縁のある方にお伝えするのが、わたしのここ数年間の人生の最大の願望です。ひとりひとりの方がブッダの道、イエスの道、ババジの道を歩んでいただけることを願っています。

ヒーリングはそのための方便であり、気功教室の気功の実践もそうです。そして、このネット上の活字もそうです。でも、この方便を通じないとわたし自身が何も変わらないという不可思議な事実もあります。

なお、高塚光さんは、平成元年に父が危篤のときに初めてお会いしたのですが、病院に泊り込みでヒーリングしていただき、能力そのもの以上にそのような献身的な姿勢が今もここに残っています。ただし、それ以降については、お会いしていないので、コメントは控えさせていただきます。

(9月17日 2006年掲示板)

■オプトさんへの返信

こちらこそ何度もご返信いただき感謝いたします。

> わたしはシュタイナーという方のある著述を念頭において書いたもので、

シュタイナー？

そ、そうですか、わたしは学がないので理解できませんでした^^；

ヒーリングも単純に「相手が楽になれば良い」としか考えてないものでして。

超常現象的なものや超感覚的なもの、また神秘主義的なものにもさほどの必要性を感じたことはありません。

管理人さんのように深遠な方向性を求めたことはない私は面白味のない人間かもしれませんね。

> 日常生活の場面でわたしが何を考えているか、

なんかすごく深い考えのもとに人生を営んでいらっしゃるのですね。

しいていうなら私の場合、行住坐臥著衣喫飯のうちに執着する心を薄め、自由闊達な心を保てればいーなど、そのていどの生き方しか望んでおりません。

そんな甚だ単純、恥ずかしい生き方をしております^^；

(この単純さがあるいみとても難しいのですが)

ともあれ、なんかお邪魔をしたみたいで申し訳ありませんでした。

高塚光さんのことを少し伺いできるかと、

また高塚光さんのことをお話できるかと思ったものでして。

どーもお邪魔いたしました。

季節の変わりめ、体調くずさぬようご自愛ください。

オプト様、ご返信いただき、ありがとうございます。

残念ですが、話しがなかなかかみ合わなかったようです。

15年前に高塚光さんに初めてお会いしてから、鍼灸学校に通い、代々木でボランティアの気功治療院を開くまでの間、光さんとの深いご縁を感じましたが、現在はそれらがとてつもなく遠い過去の出来事のように感じられ、正直なところ今はそのようなお話しする意欲を全くなくしてしまっていて、申し訳なく思います。

最後になりましたが、オプト様のヒーリング活動が皆さまのお役に立たれることを願って

います。

また、それ以上に自由闊達な心が保たれるようお祈り申し上げます。

●＜わたし＞

一回は無償で手をかざすことができるが、

百回無償ですることは難しい。

一回はひどいことをされてもゆるせるが、

百回ゆるすことは難しい。

知るべきことは、「仏の顔も三度まで」でなく、

＜一回がわたしの大きさである＞

ということである。

(5月24日2012年新掲示板)

●条件

仏壇の購入

■意識のある人生～条件と意識

呼吸に意識をのせると呼吸が変わるように、条件に意識をのせて条件を変えてみること。

(考慮して新掲示板記入予定)(意識のある人生転記済み)

●ユーザーイリュージョン

呼吸～意識的呼吸と無意識的呼吸とガイアの呼吸

鏡

いろいろな呼吸を実感する。そのひとつひとつの呼吸が瞑想にどのような影響を持つか。

あるいは、ヒーリングにどのような影響を持つか。

9月17日、18日、20日、25日2006年、2月3日2009年、5月24日、7月7日2012年

●創造力

実現へのつまずきの石となるもの。

その道を歩まないこと。

つまずきの石とは、

得ようとする事

慢心である事

考える事

(新掲示板記入可)

●意識のある人生～行為への愛

何をするにしても、相手に条件を要求しない事。

無条件に行なう事。

その発心は何か自分の意志か、相手がしてもらいたいことをしてあげることか。

どちらにしる、無条件に行える、そのようなコンディションの自分である事。

(掲示板記入予定)

●意識のある人生～日常・非日常

どのような時であれ、今のこの一瞬に完全だけを置く事。

(4月19日2011年掲示板)(加筆して7月7日2012年新掲示板)(20060917)(20110410)

9月18日2006年、2月1日2009年

●意識のある人生～仕事

一過性とする事。

このことは仕事以外のどのようなことに関してもいえる。

そしてまた、多面性を有するものとする事。

これは神聖なる矛盾である。

(参考) 仕事に生命を吹き込む事。

9月20日2006年、2月1日、2日、3日2009年、4月14日、18日、19日2011年、5月24日2012年

●条件

「気・人間・宇宙」の発信、自分自身の成長、両方とも今でできることがある。

今は骨しかない魚ではない。

●実践・ワーク・日常 (加筆して再掲)

将棋や囲碁の戦術書ばかりを読んで実際に対局をしなければ、そのような本を読む意味はほとんどない。将棋や囲碁をやる人でそんな人はいないが、精神世界に関心のある人にはさらにみられる光景である。たとえば、わたしが推薦し、また多くの人が読まれている「神

との対話」シリーズ、グルジェフ、シュタイナー、ヨガナンダの本、「ヒマラヤ聖者の生活探求」等々はみな戦術書なのである。

だが、多くの人と同様にわたしも本ばかりを読んで実践する時間はとても短い。以下は、「グルジェフ伝」（ジェイムズ・ムア著 平河出版社 212 ページ）を読んでいるうちに出てきた手痛い言葉——貴族出身の若き母親であり、舞踏家を志していたオルギヴァンナとグルジェフとの会話——である。

オベリンスキー王女からアベン・セアマン・チェコヴィッチにいたるまで、あらゆる種類の人々がやってきた。その中の二人、外交官夫人のエリザベータ・ガルムニアンと「オルギヴァンナ」は才能ある舞踏家だった。

有望そうな弟子たちを前にしたグルジェフは、お決まりの質問をした。君たちがこれまで送ってきたお仕着せの生活は本当に耐えがたいものだったのか？ 君たちは真の欲求をもっているのか？（オルギヴァンナの正式な名前である）オルガ・イオヴォノヴナ・ラゾヴィッチ・ミラノフ・ヒンツェンベルクとの対話は典型的なものであった。

G 君は何を望んでいるのか？

O 不死です。

G 今は何をしているのかね？

O 家と召使いの管理をしています。

G 自分で家事労働をしているのかね？ 料理や子供の世話は？

O 召使いにやらせています。

G 君は何もしないで、それで不死を得たいと望んでいるんだね！ 不死は望めば得られるというものではない。特殊な労働によってのみ獲得できるのだ。働き、努力しなければならぬ。どうすればいいか教えよう。まず召使いをすべて解雇し、家事を全部自分でやることから始めなさい。

「私は家事は全部やっている」と答える人がいるかもしれない。

だが、どのような人も<していない家事>というものがある。

<していない日常>というものがある。

(9月21日2006年掲示板)(4月18日2011年掲示板加筆して再掲)(20060910)(20110410)

■意識のある人生～<見えざる援助者><為すこと（行為）>

当然であると思っていることは、見えても見ることはできないし、指摘されても気づくことはない。

以下は、「グルジェフ伝」(ジェイムズ・ムア著 平河出版社 212 ページ) に出てくる貴族出身の若き母親であり、舞踏家を志していたオルギヴァンナとグルジェフとグルジェフとの会話である。

オベリンスキー王女からアベン・セアマン・チェコヴィッチにいたるまで、あらゆる種類の人々がやってきた。その中の二人、外交官夫人のエリザベータ・ガルムニアンと「オルギヴァンナ」は才能ある舞踏家だった。

有望そうな弟子たちを前にしたグルジェフは、お決まりの質問をした。君たちがこれまで送ってきたお仕着せの生活は本当に耐えがたいものだったのか？ 君たちは真の欲求を持っているのか？ (オルギヴァンナの正式な名前である) オルガ・イオヴォノヴナ・ラゾヴィッチ・ミラノフ・ヒンツェンベルクとの対話は典型的なものであった。

G 君は何を望んでいるのか？

O 不死です。

G 今は何をしているのかね？

O 家と召使いの管理をしています。

G 自分で家事労働をしているのかね？ 料理や子供の世話は？

O 召使いにやらせています。

G 君は何もしないで、それで不死を得たいと望んでいるんだね！ 不死は望めば得られるというものではない。特殊な労働によってのみ獲得できるのだ。働き、努力しなければならぬ。どうすればいいか教えよう。まず召使いをすべて解雇し、家事を全部自分でやることから始めなさい。

「私は家事は全部やっている」と答える人がいるかもしれない。

だが、どのような人も<していない家事>というものがある。

<していない日常>というものがある。

これがひとりひとりの最大の課題なのである。

まずはひとりひとりの召使いを見つけることである。

見つければ、召使いは神の様に思えるであろう。そして、実際、それが神なのである。これは比喩ではない。

(5月24日2012年新掲示板)(草稿要転記)

●意識のある人生～「喪失」<時空><見ること>

とても多くのものを失ったと思うかもしれない。

だが失ったのちに、いつか、

実はとても多くのものを得た、

このことに気づく。

この<時>はかならず来る。

そして、<この時>は前にもってくることもできる。「失ったと思う」前にもってくる
ことができる。

すなわち、いつも実はとても多くのものを得ているのであり、このことに気づくこと
ができる。

だから、今の喪失に浸るのでなく、喪失に包含されている豊かさ、喪失の本質である成長
を<あらかじめ>見ようとすることである。

(2月1日2009年掲示板)(加筆済み5月25日2012年新掲示板)(草稿要転記)

(参考)

「では、まさかと思うようなことを、もうひとつ教えてあげよう。

わたしはつねに、あなたにとって最善のものを与えている——ただし、あなたは必ずしも
それに気づいていない。」

(ニール・ドナルド・ウォルツシュ著「神との対話」3巻26ページ(文庫本34ページ)
サンマーク出版)

■所有

> そして、<この時>は何と前にもってくることもできる。「失ったと思う」前にもって
くることができる。

> すなわち、いつも実はとても多くのものを得ているのである。

> だから、今の喪失に浸るのでなく、喪失に包含されている豊かさ、喪失の本質である成
長を<あらかじめ>見ようとすることである。

そんなことはできないという。

他人に対しては

「そんなことはできる」

というが、自分に対しては

「そんなことはできない」

という。

「他人ができる、できない」は他人のものであり、自分のものではないが、それは変えようとする。

「自分ができる、できない」は自分のものであるが、それは変えようとしない。

何たる不誠実さであろうか。

(2月3日 2009年掲示板)

■ダヴィンチ・「神との対話」の神

「ダヴィンチはまた、「われわれが出来ない」という言葉を使った時、その時に実はわれわれは内なるキリスト<実相、無限の能力者なる神我>を裏切ったのである、とまで言っています。」

(「ヒマラヤ聖者の生活探求」第5巻 27ページ 霞ヶ関書房)

「いますぐに、自分自身を受け入れ、それを実証すること。

イエスはそれをした。それがブッダの道であり、クリシュナの道、地球上に現れたすべての<マスター>の道だ。そして、すべての<マスター>は同じメッセージを送ってきた。あなたもわたしと同じだ。わたしにできることは、あなたにもできる。それ以上のことができる、と。なのに、あなたがたは耳をかさない。もっと難しい道、自分は悪魔だと考える道、自分は悪魔だと想像する道を選んだ。

あなたがたは、キリストの道を歩くのはむずかしい、ブッダの教えに従うのはむずかしい、クリシュナの明かりを掲げるのはむずかしい。<マスター>になるのはむずかしいと言う。ところが、**真の自分を受け入れるよりも否定する方が、はるかにむずかしいのだよ。**

あなたがたは善であり、慈悲であり、同情であり、理解だ。あなたがたは平和であり、喜びであり、光だ。あなたがたは赦しであり、忍耐であり、力であり、勇気であり、苦しいときの援助者であり、悲しいときの慰め手であり、傷ついたときの癒し手であり、迷ったときの教師だ。あなたがたは最も深い智慧と真実、最も偉大な平和と愛だ。あなたがたはそういう者なのだ。そして、たまには、自分がそういう者だと気づくことがあった。

これからは、いつも、自分はそういう者だと理解しなさい。」

（「神との対話」1巻117ページ サンマーク出版）
（2月3日2009年掲示板）

■＜知識＞

嘆くべきは喪失でなく、
ただ、ただ、知らないということだけである。

同情すべきは喪失した人でなく、
ただ、ただ、知らないということだけである。

＜知識＞がいつも、あなたの前にありますように。
そしていつも、あなたがそれに手をふれますように。
（2月3日2009年掲示板）

●神事・神殿～神と人間

あらゆる＜しるし＞と共に生きること、
それが神と共に生きることである。

この＜しるし＞は無意識のうちにも現れるし、意識の結果としても現れる。
要はこの世界の全てが神の＜しるし＞である。
わたしの思い、言葉、行いの結果としての神の＜しるし＞である。

さて、今日はどのような＜しるし＞があるだろうか。
ゆっくり＜しるし＞を見てみよう。
ゆっくり＜しるし＞を感じてみよう。

そして、できうれば、＜しるし＞を創ってみよう。
＜これがわたしである＞という＜しるし＞をである。
（4月19日2011年掲示板）

■「神との対話」

「あなたの意志はわたしの意志だよ。第一に、わたしはあなたの意志を知っている。第二に、受け入れている。第三に、ほめたたえている。第四に、愛している。第五に、わたしはそれをわがものとし、**自分の意志だと言う。**」

（「神との対話」2巻23ページ）

●条件・所有

全てを捨てても困りはしない。

あるいは、困った方がよいのかもしれない。

困ったと思うことの方がよいのかもしれない。

(4月21日 2011年掲示板)

■条件・所有～意識

無くなれば困るが、捨てれば困らない、手放せば困らない。

(4月23日 2011年掲示板)

■意識のある人生～不安の離脱

不安に浸るのではなく、不安であることを意識する、全体を見る。

頭でだけでもよい。何も困らぬことを知ること。

そして、

不安に神を注いでみること

不安に呼吸を注いでみること

さらにまた、

不安というしるしに自分自身をを見ること

(4月26日 2011年掲示板)

▲ヒーリング～死病・命

三十年前には十分あった。

十年前にも十分あった。

一年前にも十分あった。

だが、今だけどういうわけか不十分である。

こういうことはありえないことである。

今もまた十分である。

これは第三者の言葉である。当事者であれば受け入れがたい。受け入れがたいが、当事者であるからこそ、そこに至っていただきたいと願うばかりである。

(JOさんへのメール) (2009年2月1日) (4月15日 2011年掲示板) (草稿要転記)

9月22日、26日、27日、28日、29日 2006年

●利己主義～ワーク

相手の慢心を打ち砕くのはわたしの仕事ではない。

私の慢心を打ち砕くのはわたしの仕事である。

自業自得と相手に指摘するのはわたしの仕事ではない。

自業自得と私自身に指摘することがわたしの仕事である。

(9月22日 2006年掲示板)

■利他を通じての利己主義

私は己を利することしか考えていないので、わざわざ相手の慢心を打ち砕いたり、それは自業自得ですよ、などと言ったりはしない。

ただし、まるっきり他人に関わらないかという点、もちろんそんなことはない。

以下は、試みていることであるが、なかなか簡単ではない。

シュタイナーの言である。

「私が他人と異なる意見をもっているかどうかはどちらでもよい。大切なのは、私の方から何をつけ加えたら、その人が自分で正しい事柄を見出せるようになるか、ということだ。」

これはとても難しいが、他者に対して批判的な態度でない、ということだけでも人間関係を大きく変えることとなる。

(9月24日掲示板)

■利他主義への前の利己主義

精神世界の書物でよく書かれていることで、「自分自身を愛せない人は他人を愛することはできない。だから、まず、自分自身を愛しなさい」という話がある。他方、世間に流布している話しは自分を犠牲にしても他人に尽くしなさいという話しであり、こちらの話しの方が納得しやすいし、耳障りもよい。

では、この「まず、自分自身を愛しなさい」ということはどういうことなのだろうか？

グルジェフは次のような話しをしている。

「すべての人が同じなのだが、誰もが他人のちょっとした落ち度にすぐ目をつける。われわれはみな、自分自身の最大の欠点に盲目である。自分自身に誠実であれば、自分を他人の立場に置き、自分が相手よりもよくないことに気づく。向上したければ、他人を助けるように努力しなさい。ところが現状では、人々は互いに妨害し合い、けなし合っている。その上、人を助けたり高めたりすることができないのは、自分自身さえ助けることができないからである。

何よりもまず、自分自身について考え、自分自身を高める努力をしなければならない。利

己主義者であらねばならない。利己主義が、利他主義、すなわち、キリストの教えにいたる道の最初の段階である。だが、この利己主義は、よい目的を持つ利己主義でなければならないが、これはむずかしい。」

(「グルジェフ・弟子たちに語る」 179 ページ)

(9月26日掲示板)

■他者を自己に引き込まない主義・利己しか利他になれない・利己を超えて利他にはなれない

なぜ<利他主義の前に利己主義でなければならない>のか。これは何も奇をてらった言い方ではない。利己主義とはまず己を知ることであり、己を知ることを通じて己を愛することである。

己を知らなければなぜ他人を助けることはできないのか。それはあなたの世界で相手を救うしかできないからである。

あなたの世界が小さければ、その大きさを相手に救うことになるからである。

あなたの世界がある偏見で固まっていれば、その固まりの固さで相手を救うことになるからである。

このような救いの典型例は、わたしの言うことを聞きなさい、という救いである。

わたしはあなたを助けてあげる、ただし、わたしの言うことを聞きなさい、という救いである。

そのように言うことができる己について何も知らなければ、このような救いの手を平然と差しのべることとなろう。

(この典型例の是非についてはここではふれない。)

どのような人も自分自身を知らなければ、すなわち、利己主義の利己が未熟であれば、未熟な量だけの救い、未熟な量だけの愛しか与えることはできない。そのような救い、そのような愛がどれだけ多くの人を傷つけてきたかは個人史でも人類史でも枚挙にいとまがない。

だから、まず、自分のことを知る必要があるのである。あらゆることを自分を知ることを使う必要があるのである。グルジェフが次のように言っているのはそういう意味であるとわたしは考えている。

「プリーオーレで意識した利己主義者になれる人は、人生において利己主義者でなくなれる。ここで、利己主義者というのは、わたしを含め、誰のことも気にかけない、誰もかも、何もかも自分を助けると考えることである。何についても、誰についても、気にかける必要はない。誰かが気遣いで、誰が利口であるかは問題ではない。狂人も、研究や仕事のためのよい題材であり、利口についても同様である。言いかえれば、狂人も利口も、どちらも必要である。下劣な人物も、高尚な人物も必要であり、利口者も馬鹿者も、高尚な人も下

劣な人も、一様に自己を映す鏡であり、ショックであり、自己の仕事（ワーク）における観察や研究に有用である。

その上、ある特定な現象は、個人の指針として理解すべきである。」

（「グルジェフ・弟子たちに語る」158 ページ めるくまー社）

少々不愉快さを感じる書き方になっているが、その不愉快さを越える、意味ある指摘である。

そしてまた、この世界のある相は、＜世界はわたしを知るためにある＞という一面を持っている。自分自身を知ろうとするならば、世界ははっきりそのような一面を持っていることを知るであろう。あなたの今日の人生はあなた過去の鏡となっている。そして、未来の道しるべとなっている。このことを知るであろう。

だから、今日の人生をよく見ることである。

（9月27日掲示板）

そして、よく見るためには、シュタイナーのいう神秘修行者の第一条件が必要となる。

■己の大きさ

利己主義というのは幼い頃から悪しき言葉として用いられているので、利己が利他の前に来るということ、他人を助けるためには自分を助けることが第一条件であるということ、このことはなかなか受け入れがたいことかもしれない。

だが、利己の己は必ずしも個人の個とは限らない。ブッダやキリストの己は他者をも含んだ己である。もともとそうであったかというとなんなことはない。ブッダになる前のゴータマ、そしてアジャータ物語に象徴的に書かれているその前世があつてブッダがある。イエス・キリストにしる、布教前の放浪生活があつてイエス・キリストがある。己は変わるということであり、ブッダやキリストに変わってこそ初めて数千年間人類に影響を与える己となる。この己は他者をも含んだ己であり、この己に至って初めて、

あなたのためにする、

ということが可能となる。それ以前は、

わたしのためにしている、

のである。

（9月28日掲示板）

■利他による利己～ヒーリング

あなたはころんだお年寄りのそばに行き、「だいじょうぶですか」と声をかけ、手を差しのべる。そのお年寄り「ご親切にありがとうございます」ところろのこもった感謝の言葉

をあなたに返す。あなたのところは豊かになる。あなたはあなたの知らなかった自分のところを知ったからである。

あなたが、お年寄りを助けたのだろうか。
それとも、お年寄りが、あなたを助けたのだろうか。

あなたがお年寄りに手を差しのべたのは事実である。
だが、もしかすると、その手は自分自身に差しのべたのかもしれない。
あなたは、これまでとは違った新しい自分に気づいたのかもしれない。
このお年寄りはひょっとしたらわたしかもしれない、と。

(9月29日掲示板) (草稿要転記)

あなたはわたしであったかもしれない、と。

■神との対話

この部屋にいるのはわたしだけである。

「神との対話」における自他の考えは自分を愛することが基盤にあり、そのもとにあるのは、この部屋にいるのはわたしだけであるということである。

■行為への愛～お礼

あの人のためにしてあげたというが、本当にそうなのだろうか。
実は、私のためにしてあげたのではないだろうか。
だから、私にお礼を言わないと人は怒る。

(再考)

あるいは、あなたとわたしがいるから、わたしがしたことあなたがお礼をいわないと怒る。

もしも、この世界にわたししかいないのであれば、
あなたとあたしというわたししかいないのであれば、わたしにお礼など不要である。

あるいは、行為そのものを愛することが出来れば、
あなたのためにするのでなく、行為そのものを愛すれば、その行為で完結しているのだから、お礼は不要である。

■利他主義により自己を知る

最も手短な私を愛し、私を育てることなくして、他者を真に愛することはできないし、愛することの本当の意味、一体の本当の意味を実感することはできない。

神との対話の鏡の話し、感情移入の話し

9月23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日 2006年、4月14日、19日、5月13日、14日、15日、16日 2011年

●呼吸

呼吸・意識・身体の相互関係を感じ取ること。

(9月25日 2006年掲示板)

気功体操で考慮すべきこと。

●意識のある人生～呼吸

呼吸に意識をのせると、呼吸が全く別のものとなる。

呼吸が透明になったり、

寒天のようになり、

物質に影響を及ぼしたり、

そのように感じとれるようになる。

(9月26日 2006年掲示板)

■質問〇〇～身体と意識

無意識の身体の動きに意識をのせてみること。

無意識の神の動きに意識をのせてみること。

この意識は第二の神である。

それゆえ、ぎこちないところもあるが、これまで無意識で過ごしてきたすべてに意識をのせてみる。

ほかに意識をのせてみるどのような行いがあるだろうか。

意識をのせてみた結果を書いてみてください。

(加筆して掲示板記入予定)

■動きから気へ

首を少しやわらかくゆっくりと動かしてみること、肩を少しやわらかくゆっくりと動かしてみること。

身体の動きが気に与える影響が分かる。

ふだんしていないことが分かる。

ふだんしていることが分かる。

違うようにして生きることができることが分かる。

(5月13日 2011年掲示板)

■生理学的呼吸から気の呼吸へ

息をやわらかくゆっくりと動かしてみること。体全体でゆっくりと呼吸してみること。体が呼吸であるように。

呼吸の動きが気に与える影響が分かるかもしれない。

ふだんしていないことが分かるかもしれない。

ふだんしていることが分かるかもしれない。

そして、違うようにして生きることができるかもしれない。

(5月14日 2011年掲示板)

いつも気の呼吸をしてみること。ただし、気の呼吸には意識がいる(?)ので、常に意識を持ち続けることが不可欠になる。

■遠隔治療(意識した呼吸・身体)

わたしの遠隔治療はイメージと呼吸が元となっている。

イメージといったからといって、こころの世界だけの話しではない。実感はある。実感はあるがもちろん、五官の実感とは少々異なる。

遠隔治療の成否にはイメージだけでなく、実は呼吸法が大きな要素となっている。

呼吸法はどのような呼吸をしているのか。

それは、気の呼吸である——気の呼吸とは、前日書いたような体全体で呼吸するというよ

うな呼吸である。生理学的な呼吸と重なる部分はあるが、それだけではない

気の呼吸をすれば、いつかは無呼吸ということも可能かもしれない。

この無呼吸とは生理学的に無ということであるが、気の呼吸、エネルギーの呼吸はしているのではないかと考えている。

(5月15日 2011年掲示板)

遠隔治療←呼吸

↑

イメージ

■呼吸と意識

わたしの呼吸、そのような呼吸をした経験はほとんどの人は持たない。している呼吸は無意識の呼吸である。無意識以外では、体操で深呼吸をするぐらいである。この深呼吸でさえも他人から言われてする以上はわたしの呼吸ではない。

わたしの呼吸は、遠い昔にわたしたちが海から陸に上がった時と同じように、意識という陸上に上がった時にのみ可能となる。意識がなければ、わたしの呼吸は眠ったままである。

この意識は多くの人の場合、たまたま無意識の世界に、夢遊病の世界に、ブリキのロボットの世界に、習慣の世界に浮上してくる。それはそれで今は仕方ない。その時にどのような呼吸をするかという、

皮膚呼吸をするように、体全体で呼吸を試みる。体全体を満たしている気を呼吸と共に感じられるように呼吸を試みる。これは誰にでもできることである。できないとしたら、この私の文章表現のつたなさゆえに体全体の呼吸の意味が伝わっていないことにある。

これが十分に感じられるようになったら、次は部屋全体で呼吸を試みることである。あるいは、直径30メートルの世界でもいいし、昨日私行った庭園美術館全体で呼吸してみるとかする。要は私を拡張して呼吸することである。

(5月16日 2011年掲示板)

1 意識がなければ呼吸は変わらない。呼吸は眠ったままである。呼吸は自動的である。だから、いま、意識してゆっくり呼吸を試みる。その意識のある呼吸が産み出すものを感じてみる。

(9月28日 2006年掲示板)

2 意識をのせることで変わること。

■マントラとしての呼吸（神との対話）

無意識に呼吸するのではなく、意識して呼吸しなさい。

無意識に連想するのではなく、ただ呼吸していることだけに意識を向けなさい、呼吸だけに
こころをとどめておきなさい。

そういうことを言っているものと思われる。

「明日の神」の言葉か？

■完全

呼吸・完全な身体のイメージ

9月25日、26日2006年

●ヒーリング～グルジェフ

グルジェフがヒーリングと関わる話としては数ヶ所の記述があるだけである。

「引用」

プラスとマイナス～紙を動かす気 サンドイッチで行なう気功治療

メスマルの水の話し

9月27日2006年、4月14日2011年

●想起

もって行くことができるもの、選択、そのような自分とそのような選択を持っていった来
世にいる自分を思い浮かべてみること。

（加筆して掲示板記入予定）

■エネルギーのある選択

9月28日、10月9日2006年、4月14日、19日2011年

●条件・行為への愛

他人のためにすると条件がつくが、自分が始まりであれば条件はつかない。

相手のために席をゆずるのであれば、お礼という条件がつくが、自分自身が席をゆずりた
いという気持ちからゆずるのであれば、礼は不要である。

前者は、お金を入れないと品物を出さないという自動販売機のようなロボットであり、後者はわたしがやりたいことをするという行為を愛する人間である。

(記入可)

●ヒーリング～病気

分からないことは、自分で自分を傷つけていることである。

(記入可)

9月29日、30日 2006年、4月14日、19日 2011年

●意識のある人生

他人から世界を見ない。

他人からわたしの行為を規制しない。

小さな自分から世界を見ない。

小さな自分からわたしの行為を規制しない。

■小さな自分

小さな自分は消そうとするのではなく、育てること、教育すること、学習させること。

参考～グルジェフ

●意識のある人生～意識→身体→こころ

気づいたら、常に体をゆるめること。

ただし、背筋はのばしておく。

(掲示板記入予定)

●意識のある人生・所有

死ぬまでもっていけるもの、今日はそれをたずさえていただろうか。

誰かにそれを手渡してあげただろうか。

(記入可)

9月30日、10月1日、2日 2006年、4月19日 2011年

●仕事

今日仕事をしたと思ったらえらい違いだ。

わたしの体が動いただけ、わたしの頭が動いただけにすぎない。

そんなものは何もわたしの身につかないし、この世界をつくりだすことはできないし、また、あの世に持っていけるわけではない。

三つの世界——物質・個人の精神世界・世界全体の知識——で同時に動かしたものの、それが存在することが、今日生きたということである。

(加筆して掲示板記入予定)

●瞑想

時間をかけること

波立ったたらいの水をしずめること

●意識のある人生～善悪

あらゆる瞬間に、あらゆる出来事に、悪魔と神とがいる。

悪魔を見て、神を引き出すこと。

(掲示板記入可)

●なみこさんへの返信～死を願う二人

入院中の2人の病人がいて、一人は「自分は生まれたときから体に障害を持ち、中学もろくに行けず入退院を繰り返し、自分のやりたい事は何も出来ず生きていても仕方が無いので、点滴に毒でも入れて死なせてくれ」と言い、もう一人は「自分は今まで好きな所に行き好きな事をして生きてきた、もう思い残す事は何もないのでこのまま病院にいるよりはいいそのこと死にたい、点滴に毒を入れてしなせてくれ」と言っただけらしい。死にたいという結末は同じでも、その背景にあるものは正反対のようです。

これは、哲学的な問答なのでしょうか？

なみこさん、書き込みいただきありがとうございます。

お聞きいただいていることの答えになっているかどうかは分かりませんが、いくつか思うところをしるします。なお、あくまでも掲示板でのことであり、現実にもそのような場面に遭遇してどのように答えるかは全く別の話しです。

どのような選択であれ、選択そのものは尊いものであり、「死なせてくれ」という選択もわたしは尊重します。ただし、その選択が翌日変わるような選択であれば、「死なせてくれ」という選択に積極的に関わることは愚かしいということになります。でも、五年も十年も変わる事のない選択であれば、おしとどめることの方が理不尽に思えます。

そして、前者の場合、

「自分は生まれたときから体に障害を持ち、中学もろくに行けず入退院を繰り返し、」
から、次の考え

「自分のやりたい事は何も出来ず」

がつながるかどうか…、実は変えることもできるのではないか。要するに、翌日になったら変わるような考えではないかと思うわけです。ですからその人には、やりたいことで今できることを一緒に考えてみます。

後者の場合、

「自分は今まで好きな所に行き好きな事をして生きてきた、もう思い残す事は何もない」というのは、まことにうらやましいかぎり、この人生はこれでよいというのであれば、万歳三唱をしてお見送りしてあげればよいと思っています。

ところで、なみこさんでしたら、どのようなことをしたら、

「もう思い残すことは何もない」

といえるのでしょうか？

あるいは、

「…」から「自分のやりたい事は何も出来ず」

だとしたら、

「…」は変えられなくとも「自分のやりたい事ができる」と変えられないでしょうか。

わたしなどはしょっちゅう、

「…」だから「十分なヒーリングができない」

「…」だから「書きたい時間がとれない」

などとぼやいています…。

(10月1日掲示板)

■なみこさんへの返信～二つの自由

私も人は生きる権利もある反面、死を選ぶ権利もあると考えていますので、決意が決して変わらないのであればそれは誰も止める事はできないと考えています。「尊厳死」が早く合法化されることを望んでいます。

全くその通りです。

そして、人間が本気になって自らの意志を行使することなどめったにないことなので、尊厳死のような決意をされた方には敬意を表します。

ただし、人の体はとてもよくできていて、簡単に手放すのはもったいないとも思っていますので、わたし個人は少々のことでは自分の体を火葬場送りにしたいとは思いませんけどね。

私の場合、自分は何かに縛られず（例えば組織だとか家庭等々）生きるべき人間だっと思っています。とにかく誰かに何かを命令される事、強要される事、寄りかかれる事は「3大嫌いな事」ですからね〜。仮に後者と同じく好きな所に行き、好きな事をして暮らせるならばあと10年も生きれば十分かな〜と。

私から見ると「悟りを開いた」と思える高塚さんでもぼやくことってあるんですねー。不思議です。

すばらしい考えですね。羽生さんの将棋を見るようなお話しです。

最近佐藤棋聖が自由奔放な指しまわしをされていますが、強い人に意見を求めると、頭ごなしにそんな手はありえっこないという言い方はされません。中途半端に強い人ほどいろいろ口出しをして型にはめようとするようです。その意味で強い人の方が自由です。

ただ、また逆の面で強い人は自由でないところがあります。選ぶ手の幅が極端に少ないからです。羽生さんが解説のとき、聞き手のプロに対して「えっ？（そんなありえっこない手を考えているんですか）」というようなあきれた表情をするのを何度も見えています。

<強い人は自由ですが、ひとつ、ふたつの選択しかしない>ということです。このことは人生についてもいえます。一日に十も、二十も、三十も違った選択、違った考えをすることは人生にならないとわたしは思っています。わたしの人生は「一手しか読まない人生です」、もっと的確には「一手、駒を進めるだけの人生です」。読みはありません。仮に読んだとしても、次の瞬間違う手を指すからです。たとえば、「よし、これから一時間瞑想しよう」と思うと、次の瞬間、「よし、よし、立派なものや」「ところで、今日の夕食は何なんだろう」云々と出来の悪い連想ゲームに終始するからです。もちろん、こんなのは瞑想ではありません。

駒の動かし方を知っていても「一手ずつ動かしているだけの将棋」は将棋でないのと同様、わたしの人生も人生ではないと考えています。

左様に、自由にはふたつあります。

ひとつは、束縛されないこと。

もうひとつは、自らが原因・理由となって生きるということです。

このふたつがあって人間の本当の自由な生き方であるといえるということです。

では、束縛されなければ自分が原因になれるのか、これは相当難しい問題です。

そして、わたしを縛っている束縛は本当に束縛なのだろうか？

もしかすると、これはわたしを自由にするための束縛なのではないだろうか？

わたしが原因となって生きるために敢えて用意されている束縛なのではないだろうか？

などと思い、結構悶えています(^o^);

ですから、冒頭のなみこさんのお話しの、障害をもって生まれてくることが自らが原因と
なって生きることの足かせになるとは全く思いません。

また、逆に束縛されない自由な条件を与えられていても、自らが理由となって生きること
がしやすいとも思いません。

まあ、とにかくも悩ましい問題です。

なお、この掲示板では偉そうなこと書いてますが、わたしは普通の五十男です。

すべての人と同じように普通の人です。

そして、すべての人と同じように特別な人です。

特別な存在であるから、信じがたいほど不思議な存在であるから、

わたしと全ての人に、

その特別さ、その不思議さを伝えたいだけです。

ということで、これから気功治療、そして、今晚は飲み会です～～～ やっぱ、将棋にな
ってないかなあ～～～。

(10月1日掲示板)

★10月2006年

10月1日、3日、17日2006年、4月17日、21日2011年

●神と人間～錬金術

創造主にとってこの世界を「真善美」の完璧な世界にすることなどはお茶の子さいさいで
あろう。だが、創造主はそうはしない。なぜであろうか。

わたしが考えている理由はふたつある。

ひとつは神が人間の自由を尊重するからである。神が創るのでなく人間が自らの意志と労
力によって「真善美」の世界を創ってもらいたいと思うからである。もちろん、人間には
その能力があるから神は助けることはあっても指図はしない。人間の自由を尊重して見守
っている。

もうひとつは、人間が「真善美」の世界を創り出すこと、このことを通じて生じるものが

あることを創造主はご存知だからである。というよりも、この生じるものこそが神がわれわれ人間を神の子として創造したことの目的である。それは神には創れないものであり、人間であって初めて創れるものである。神のように知っていることによってではなく、人間のように知らないことによって初めて創り出せるものである。知らなかったが、この世界での体験を通じて知る、このことが人間が人間であることの意味である。この知り方は千差万別である、この宇宙に存在する宇宙人の数だけの知り方がある。だから、どのような知り方も非難することはない。

では、人間は何を創り出すのか、それは内なる身体、内なる神殿、神の身体である。これを創ることこそ、真の錬金術とでも呼ぶべきかもしれない。この金を錬るやり方にはいろいろあるが、基本は、見たことがないものを見る、聞いたことがないものを聞く、言ったことがないことを言う、すなわち、したことがないことをすることによって生じる。だから、もし、今日どんな些細なことであれ、あなたにとって意味のない習慣、有害な習慣を変えたとしたら、これは神の身体を創造したことになるのである。

(10月6日、17日掲示板)

■ 自他・批判

だからまた、どのような人の、どのような行為であれ、批判をしてはならないということが言えるのである。

■ 「神との対話」3巻

「あなたがたはみな自分のうちにある神性を否定する」

というような言 (要引用)

■ ワーク

たとえば、グルジェフがいうワークと呼ぶものによって生じる。

10月3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、21日、11月19日 2006年、5月28日 2007年、4月21日 2011年

● 柴田さんへの返信 (掲示板) ~ 仮想空間瞑想会

こんばんは、以前御世話になりました。柴田です。
呼吸法も、段々と楽に出来る様になってきましたので、
仮想空間瞑想会に参加開始したいと思います。
自分の時間でコツコツとやらせていただきます。
宜しくお願い致します。

ありがたい書き込みいただき、感謝しています。

仮想空間での瞑想、ぜひご自分のペースでお続けください。

瞑想は、続けること、本気でやること、この二点が大切です。

あとは、白昼夢の連想を断ち切ることです。

わたしは最近、本気さに欠けているのではないかと反省しています。

柴田様のご参加を機にわたくしもこころを入れかえて励みたいと思っています。

わたしが考える呼吸法の要諦は、＜呼吸に意識をのせること＞です。

意識をして呼吸をすれば、どのような呼吸が自分にとってよい呼吸であるのかが分かってきます。

また、意識をして呼吸をすれば、生理学的呼吸以外の呼吸が人間をコントロールできるのが分かってきます。

呼吸と瞑想に関して敬愛する「神との対話」の神様の言葉を記しておきます。瞑想のときのご参考になればありがたいです。(ニール・ドナルド・ウォルツシュ著「明日の神」68ページ サンマーク出版 ～「神との対話」全三巻、「神との友情」上下巻、「新しき啓示」につづく対話シリーズの七冊目の本です)

「つぎに毎日時間をつくって、自分自身のなかの世界に入っていくなさい。この内なる世界を通るときには、外の世界のあらゆる考えやイメージを捨てなさい。心をからっぽにしなさい。深呼吸をして、自分の呼吸に意識を集中しなさい。呼吸をマントラに——自分を自分自身のなかに連れていくマントラにしなさい。

つぎに両目のすぐ上の、額の中心部分に意識を集中しなさい。内なる目でそこを「見つめ」なさい。何も無い暗い場所を見つけていると何か「見えて」くるから、呼吸に意識を集中しながら。それを見つめなさい。深く見つめなさい。そこに何かを「置いて」はいけない。すでにそこにあるものがあなたの意識に見えてくるのを待ちなさい。

ふいに何か表れる。多くの人は踊る炎のように見える。その炎が見えるだけでなく感じられる。その感じが身体全体にひろがる。その感じをあなたは「愛」と呼ぶかもしれない。あなたは優しく、穏やかな涙にくれるかもしれない。それなら涙があふれるままにしておきなさい。そして——あなたの魂に「こんにちは」と言いなさい。」

では、仮想空間でお待ちしています。

(10月4日掲示板)

■意識のある人生

人生の要諦は、＜人生に意識をのせること＞である。

(記入可)

▲「マグダラの書」

099～錬金術の三要素

錬金術を成功させるために必要不可欠な三つの要素がある。

- 1 変化させる物質
- 2 錬金術反応を起こさせるための容器
- 3 エネルギー

である。

100～容器

内なる錬金術の容器は意識そのものである。

(トム・ケニオン、ジュディ・シオン共著「マグダラの書」ナチュラルスピリット刊)

■意識のある人生～一体

高塚さんこんにちは。

ご丁寧な返信感謝します。ありがとうございます。呼吸に意識を乗せる。と言うのはとても分かりやすいです。以前教えて頂いた呼吸法である一定の呼吸に入ったとき、ご紹介頂いた本で言うところの踊る炎が見えてきます。その時意識が乗ったのでしょうか？ 自分では来た来たって感じているのですが、それをあまり意識し過ぎるとすう～っと消えてしまいます。(笑) 向こうの意識とこっちの意識がある感じです。楽しいです。

この瞑想が私にとって何を感じ、分かり、与え、気づかせてくれるのか。楽しみながら続けて行けたらと思います。

世の中に偶然はないと言う人がいます。それなら、高塚さんに会わせてくれた、必然に心から感謝しています。

毎日ホームページ、楽しく拝見しています。

お忙しい中、本当にありがとうございました。

柴田さん、おはようございます。

<踊る炎>は<魂>であり、魂とはこの場合、ひとりひとりの内にある<神の子>、<神と同質の存在>、ということのようです。この神と同質の存在を通じて神を体験することが神を知る近道であると「神との対話」では語られています。わたしは<この炎>の中に入っていった経験をしていないので、残念ながら愛を感じるほど涙が出たりはしません。

気持ちいいなあ～、きれいだなあ～という感じを抱く程度です。

確かに炎は求めると消えてしまいますね。求めるところはざわざわしていて<踊る炎>にとっては居心地が悪いのかもしれませんが。

わたしが意識を重視するのはここをコントロールできる唯一の力が意識であると思っていますからです。意識は呼吸だけでなく、ここに意識をのせることもできます。とても難しいので、わたしにはまだできないのですが、できるようにささやかな努力は続けています。

また、呼吸、ここだけでなく、身体の動きに意識をのせるとこれまた不思議な感覚が得られます。この場合も、呼吸と同様やわらかさが基本です。ぜひ試してみてください。

世の中に偶然はないとわたしの敬愛する存在も語っていらっしゃいます。してみると、何でこないやな奴に会ったのだというときにもまた、その必然性に思い至るべきなのかもしれません。まあそうはいつでも、わたし自身、その嫌なご縁の必然性はいくら考えてもなかなか納得できませんが（笑）。

実は、昨日の引用文の前の話しも捨てがたい話しで、わたしがいくら考えても分からないことの解決法が書かれてあります。

「…（この省略してある話しも引用はしたいのですが、さすがにそこまでは版元に申し訳ないので、関心がおありであれば、購入なさってください。）…

ここで偉大な秘密をひとつ教えてあげよう。あなたは自分の外に見ないかぎり、自分のなかの何かに気づくことはできないし、自分のなかに見ないかぎり、自分の外の何かに気づくこともできない。」

「それじゃ、にっちもさっちもいかないじゃないですか。」

「そんなことはないさ。両方をいっぺんにやり遂げる方法があるし、つねに両方いっぺんになし遂げられる。

外の世界に自分を開くとき、まわりのすべてに気づきの目を向けなさい。ものごとをはじめて見る目で見なさい。一瞬一瞬を瞑想にきなさい。道端の割れ目、木々の葉、花びら、人びとの顔を見なさい。そのすべてを自分として見る訓練をきなさい。

「これは「子どもの時の目線である」

そこに、自分自身を見るのだ。自分はある所で何をしているのだろうかとか、どうしてあそこにいるのだろうかとか、どうしてあそこにいることが可能なのだろうかなどと自問せず、ただそこに自分を見る。それを自分自身と呼ぶ。

「ほら、神の恵みがなければ、あれが自分だった」と思うのではなく、「ほら、神の恵みのおかげで、あそこにわたしがいる」と考えなさい。

「ほら、あそこに一文無しの路上生活者であるわたしがいる。あそこの野原に花のわたしがいる。あそこに威張りんぼの配偶者であるわたしがいる。あそこに国民を弾圧している外国の独裁者であるわたしがいる。あそこに草の葉であるわたしがいる。」

あらゆるところにただ、自分を見なさい。そしてそこに自分を見たら、自分がそこにいる、そこにいるのは自分だと知って、微笑みなさい。

…（以下昨日の引用文につながります。内と外を同時に生きる人生の方法が書かれているわけです。）」

高級なこころの使い方です。わたしはガンジーがテロリストに撃たれたときに、その狙撃者に微笑んだという話を思い起こします。

（10月5日掲示板）

■ヒーリング

高塚さんこんにちは。

<確かに炎は求めると消えてしまいますね。求めるころはざわざわして<踊る炎>にとっては居心地が悪いのかもしれない>

そうだとおもいます。私の額にある、蟻走感というかもやもやと、手の痺れは相変わらずありますが、炎を感じる時、それらはもっと柔らかな感じになっているような気がします。

呼吸・意識・動き。少しずつ連動できる様にしていきたいと思います。

日々生活していると、色んな事や色々な人と接する機会があります。患者さんにしても本当に色々です。本当に治りたいのかな？

この状況に酔っているのではないのか？などと思ってしまう事もあつたりします。

ですが、良きにしろ悪きにしろ何かの為にこの人は私の前にわざわざ現れた。となるべく思えるようにしています。

まだまだ修行の旅は続きそうですね。今生がだめなら、来世がありますからね。楽しい修行にしたいと思っています。

おすすめ頂いた本、さっそく買って読んでみようと思います。

色々教えて下さって、感謝しています。ありがとうございます。

柴田さん、おはようございます。

柴田さんは治療に専念して生活されていらっしゃるの、その点、わたしは無条件に敬意を払っています。この業界の厳しさはある程度知っているので…、そしてまた、わたし自

身も専念できずに落ちこぼれたようなものなので。

東洋医を訪れる患者さんには本当にいろいろな方がいらっしゃいます。西洋医が盲腸を手術するような典型例の病気というものは少なく、どこかにその人の人生を背負っての病の方が東洋医を求めているらしいようです。「小医は病気を治し、中医は人を治し、大医は国を治す」という言葉を読んだことがあります、ありがたいことに中医としての役割を果さずしてこの職責は全うできないのかもしれませんが。

わたしの場合、十年前に気功治療はやめにしましたが、不思議なご縁でまた再開するに至っています。この一年半、生と死の境にいる方々に手をかざさせていただき、思ったことは<世界（SOMETHING、神、仏）はわたしにあるメッセージを伝えようとしている>ということです。もちろん、手をかざすことは患者さんのために行なうのですが、どうもそれ以上のもの（メッセージ）をわたしは受け取っているように思うのです。実はまだそのメッセージが何であるかは自分自身解き明かせずにいるのですが、この手かざしは誰のために行なっているのだろうか、と不思議な感覚におそわれることもあります。そうはいつでも、相変わらず闇雲の世界にいて、一回一回惰性に陥らず、真剣に取り組むしか方策はないのですが…。

なお、おすすめの本は「神との対話」（サンマーク文庫）から読まれるのがよいかもしれません。ヒーリングについてもいろいろ書かれてあります（といっても、わたしの考えるヒーリングですが）。

本当に治りたいのか、この状況に酔っているのではないか、という疑問へのひとつの答えをしつこいですが引用させていただきます。「神との対話」2巻 207 ページ（ページはハードカバー本のページです）< >はわたしが参考になるところです。

「<イエスがもっていた最大の資質は、万人のほんとうの姿を見ていたことだった。>彼は見かけにはごまかさず、たとえ本人が自分はこういう人間だと思っても、それを信じなかった。イエスはつねにより高い考えをもっていて、ひともしやと勧めていた。それでいて、彼はひとの選択を尊重した。より高い考えを受け入れろとは言わず、ひとつの提案として示しただけだった。

また、イエスは憐れみを持ち——ひとが自分は援助が必要なのだと思っていれば、その間違った考えを否定しようともせず、当人なりの現実を愛するがままにして——愛情をこめて、ひとが自分の選択肢を生きる助けをしてあげた。<ひとによっては、自分ではない自分を生きるのがほんとうの自分への近道だと、イエスは知っていた。イエスはその道は不完全だと言わず、非難もしなかった。それもまた「完璧な」道であると言い、そうしたい

ひとを助けた。>

だから、助けを求める者は誰でもイエスに助けられた。彼は誰も拒絶しなかった。<ただ、自分の助けが当人の正直な欲望を実現する支えになるように、いつも気をつけていた。>ひとが心から悟りたいと望み、つぎのレベルに進む用意ができていることを正直に言いあわせれば、イエスは力と勇気と智恵を与えた。<イエスは自分自身を手本として差し出し>——このやり方は正しかった——ほかの何ができなくても、イエスを信じなさいと励ました。自分は決してあなたを迷わせはしないとやった。」

(10月6日掲示板)

■返信

高塚さん、こんにちは。

今はこの仕事が私のいる位置だと思っています。高塚さんは、落ちこぼれたなんておっしゃいますが、また仕事に（治療に）よばれて再開していらしゃいます。その高塚さんの姿勢に私も無条件の敬意を払わずにられません。

ある人が、仕事は選んでるんじゃないよ。仕事によばれるの、呼ばれたら一生懸命やる。そしたらまた次に呼ばれるんだよ。なんて教えてくれました。その通りかもしれません。これでよし！が、ないから日々前進し、感動や感謝に出会えるのかもしれないね。

本当に治りたいのか、この状況に酔っているのではないか、という疑問で、思い出した言葉があります。人は自己重要感を渴望している。って聞いたことです。これはイエスの行いの話に当てはまるかなあ～と思いました。

あなたは、あなたのままでいいんだよ。そのまま完璧なあなたなんだから。と言ってあげられる。そして、どんな些細な事でもその人を認めてほめてあげられる。渴きをみたくてあげられる。

そんな自分の心を少しずつ育てていけると、答えに近づけるのかもしれないね。でも、これがなかなか難しいです。たまに、テメえ～とか思ってしまいます。(笑)

当たり前の様に過ぎてゆく日常に、もう少し目を向け、感謝して行けたらと思います。

柴田さん、こんにちは。

仕事に呼ばれるというのは、なるほどですね。それは今回の職（四度目の職）に就くときにしみじみ感じたことでしたが、すっかり忘れていました。前職がタコ部屋のようなとこ

ろで、朝から深夜までサービス残業をしながら働いていたのですが、不満を抱かずに逆に満足度 100 パーセントに達したときに、現在の時間がたっぷりある、逆バージョンの職業（夜勤の仕事）に就くことができたのでした。別に余暇時間がある職を望んでいたわけではないのですが、＜こころがある状態を 100 パーセント受け容れると（わたしの場合は時間）、現実の状況も大きく変わる＞という体験でした。

今現在この職に感謝し、もっと本分を尽くし、満足すべきなのでしょうが、現実にはなかなかできずにいます。もうしばらくは時間が必要なようです。

自己重要感の渴望というのは確かに誰もがもっているようです。小は井戸端会議での他人を貶めることによる自己満足から、大はブッダが求めた悟りのようにです。自己重要感における問題は、

現実の自分を大きく見積もりすぎる（正しく見ることができない）

未来の自分を小さく見積もりすぎる（人間を知らなさすぎる）

の二点であると思っています。どちらも重要な問題で、この二点は相互に助け合い、また、相互に足を引っ張り合います。このことはわたしがこの人生で伝えたいことなのですが、まあ、本人が本人なので（笑）、限度はあります。

わたしなどは電車に乗るたびにコノヤローと思っています。ただ、思わないときもあり、それは自分が満足している状態のときです。別の言い方をすれば、静かな湖面のようになっているときです（もちろん稀ですが）。よくいうことですが、宝くじに当たった日はどんな不愉快なことがあっても笑って、相手の立場に立つことができます。ただ、毎日宝くじに当たることは至難の技なので、宝くじに当たったような喜びに満ちた状態に自分をしておくことが一番であると思っています。これは意図すればある程度できます。ただし、いまのわたしにとってはある程度なので、通常ハリネズミのようなところでいます。

（10月7日掲示板）

●意味と無意味～アーミッシュ

昨日、アメリカの学校でまた銃の発砲があり、4人の方が亡くなられた。犯人の動機は不明であるが、わたしが記事で関心を持ったのは、絶対的平和主義を唱えているという「アーミッシュ」というキリスト教の一派の考え方である。ネットでざっと調べたところ、

電気を使用しない（従って、電話も使用しない）

服装は質素

成人は決められた色のものしか着ない。

自動車は運転しない

ただし、旅行の際は、車や飛行機を利用するのも可

風車・水車により蓄電池にためた電気を使うことは可
写真はとることとられることも原則不可
政治には積極的に有権者として関わらない
共同体外部の異性と交際することはまずない
ただし、これらの宗教上の制限は成人になるまでは猶予される
幼児洗礼を認めず、成人して自らの意志で洗礼を受ける

これらをナンセンスと斥けることはことはたやすい。わたしにとっては、意味あることも無意味に思えることもある。どちらとも言いがたいこともある。ひとつひとつについて改めて考えてみるのもよいかもしれない。また、他にも「わたし自身にあるアーミッシュの規制」、あるいは「わたし自身に課すべきアーミッシュの規制」を考えてみるのもよいかもしれない。

(10月4日 2006年掲示板)

■アーミッシュ～ゆるし

10月7日の朝日新聞の夕刊の記事によると、子どもの中で最年長であった13歳の少女は小さな子どもを助きたい一心で「わたしから撃ってください」と言ったという。また、アーミッシュの人たちは容疑者の家族を事件の夜から訪ねてゆるしを表明し、手をさしのべたという。

だから、宗教はおそろしいという人がいるかもしれない。

だから、信仰はすばらしいという人がいるかもしれない。

(10月9日掲示板)

■慈悲

おそろしいという人は、わが身をも怖れない洗脳の結果であろうと言うかもしれない。

すばらしいという人は、この世でないものの存在を信じることの深さに驚くかもしれない。

わたしは、ブッダが前世で飢えた虎の子に身を投げたという話を思い起こす。

(10月10日掲示板)

■自由という愛

親子の愛がある、恋愛の愛がある、友情の愛がある、他人に親切にする愛がある、わが身を犠牲にする愛がある、…、では、その先の愛とはどのような愛であろうか。

その先の愛かどうかは別として、「神との対話」の神はこのように言っている。

愛・自由・真実・喜び・神・魂

これらは入れ替えることができるし、互いにつながりあっているという（「神との対話」第1巻 14 ページ、他）。神が何であるか、魂が何であるか、これはわたしにはさっぱり分からない。真実、喜び、これも分かっているようで、分かっていない。

ここでは、自由＝愛という自由、愛＝自由という愛について、「神との対話」の神が語っている文章を引用する。

「誰かを必要としなければいけないほど、そのひとたちを愛せるようになるよ。」

「愛する者の何も必要としないなんてことができますか？」

「相手が与えてくれるものゆえではなく、相手そのものを愛すればいい。」

「そんなことをしたら、踏みつけにされますよ！」

「誰かを愛することは、自分を愛さなくなることではない。相手に全面的な自由を認めることは、あなたを虐待する権利を与えることではないし、相手に好きな人生を送らせるために、いやな人生という牢獄に自分自身を閉じこめることでもない。

全面的な自由を認めるということは、相手にどんな制約も課さないという意味だよ。」

「ちょっと待ってください。相手に何の制約も課さないで、踏みつけにされずにすみませんか？」

「相手に制約を課すのではなく、自分自身に制約を課すのだ。自分がどんな経験を選ぶかを制限するのであって、相手に認める経験を制限するのではない。この制限は自発的なものだから、本来の意味では制限ではない。それは、自分が何者であるかという宣言だ。創造だ。定義だよ。」

神の王国ではいっさい制約がない。愛は自由以外何も知らない。魂もそうだ。神もそうだ。これらの言葉は入れ替えることができる。

愛——自由——魂——神。

どれもがほかの面をもっている。どれもすべてである。あなたは現在というすべての瞬間に、自由に自分を宣言できる。実際にそうしているのに、気づいていないだけだ。だが、誰かが何者であるか、何者であるべきかを宣言する自由はない。愛は決してそんなことはしない。愛のエッセンスである神もしない。」

（「神との友情」上巻 217 ページ）

相手に制約を課さない、相手が自らの原因（由）で行為する自由を認める、自分自身に制約を課す、自分が自らの原因（由）で行為する自由を認める、このような自由がある。

この自由は愛という自由である。

この自由は喜びであり、相手が思い通りにならないという悲しみや怒りではない。

この自由はわたしの自由であり、他者の願う自由ではない。——だが、ときには、他者の願いをかなえるために、他者の願うようにわたしはふるまうかもしれないし、ときには、犠牲になるかもしれない、しかし、これもまた、わたしの自由である。

神の愛、魂（神の子としての人間の部分）の愛は自由という愛である。

自らが原因であるという愛である。

だから、まずは、すべてのことを、〈わたし〉のために使い、

〈わたし〉が自らの原因となることである。

この〈わたし〉が原因となった行為が愛である。

だから、この愛はこの〈わたし〉の大きさとともに変わっていく。

だから、悪と呼ばれる行為も、もしその人が〈わたし〉のためにするのであれば、愛である。

だから、善と呼ばれる行為も、もしその人が〈神の教え〉と呼ばれるもののためにするのであれば、愛ではない。

愛は〈わたし〉があって初めて愛となる。

だから、〈わたし〉のことを知り、〈わたし〉を愛することによって愛は始まる。

（10月12日掲示板）（10月21日掲示板）（草稿要転記）

■わたし

悪行を見たわたしがすることはただひとつ、自分がそれをしているかどうかをみることができること。そして、それを自分がしているのであればしなくなるようにすること。それが悪行をなくすための唯一の手段である。

わたしは原子爆弾を使わないか？

自分をよく見ること。

もし、使うような人間であれば、使わないようになること。

この人間存在がなければ、原子爆弾を使いたがる人間に相対することはできない。

■アーミッシュ～善と悪・神と人

善だけが神ではない、悪もまた神である。

善も、悪も、ともに、神の手のひらの上にある。

どのような善もそれを超える愛があり、

どのような悪もそれをゆるす愛がある。

だから、悪が神の手のひらの上のると、それはまったく別のものになる。

そして、それを行なうのは、神ではなく、人間である。

神がゆるして悪が変容するのではなく、人間がゆるして悪が変容する。

これを錬金術と呼び、あるいは内なる神殿をつくることと呼び、あるいは神の身体をつくることと呼ぶ。

このことが、神と人との関係であり、なぜ、私たちがいるか——これは、奇跡としかいいようがない全く不可解、不可思議なことである——という理由でもある。

(10月16日掲示板)

■グルジェフの信仰

グルジェフは信仰について次のように言った。

「意識した信仰は自由である。感情的な信仰は隷属である。機械的な信仰は愚かさである。」

13歳の少女、マリアン・フィッシャーさんが

「わたしから撃ってください」

と言ったその信仰をグルジェフはどの信仰であるというのであろうか。

少女趣味のヒロイン的な感情的信仰と呼ぶであらうか。

両親、アーミッシュの地域社会から教え込まれて、機械的に思い込み、ロボットのように反応した信仰と呼ぶであらうか。

あるいは、彼女自身の自由意志を通じて得た神とのつながりからの、意識した信仰と呼ぶであらうか。

事実はどうであったかはわたしには分からない。

だが、三つの信仰のうちどのような信仰であったか、これは彼女自身の問題である。

では、この事件に対するわたしの問題とは何であらうか。

あなたの問題とは何であらうか。

(10月11日掲示板)

そして、三つの信仰のどれも神であり、どれも神への信仰である。

(掲示板記入予定)

■善悪

犯罪者の行為は私には関係がない。

自分はそんなことはやりっこない。

マリアン・フィッシャーさんの行為は私には関係がない。

自分にはそんなことはできっこない。

自分はやりっこない、自分にはできっこない、そう思い込んでいるから、彼と彼女がいたのかもしれない。

わたしはアタマがおかしいか？ そうおかしいことを言っているのかもしれない。おかしいかもしれないが、少しは真実もある。

(10月14日掲示板)

■教育

人を見たら泥棒と思え、と教えられて育てられること。

人を見たら神様と思え、と教えられて育てられること。

どうせ自分で思慮することなく、教えられたままに生きざるをえないのなら、後者のような育て方こそ人間的な教育であるといえないだろうか。

しかし、そんな教えはひどい目にあうといわれるかもしれない。

そんな教えを受けなかったから、わたしは長生き出来たのか。

そしてまた、だから、アーミッシュの子どもはひどい目にあったのか。

ところで、彼らは本当にひどい目にあったのだろうか。

確かにそうだ。

確かにそうだが、そう言い切れないところがこころの奥深くにある。

そして、わたしはひどい目にあっていないのだろうか。

傷ついていないのだろうか。

(10月13日掲示板)

□意志

ところで、これは自分で本当に決めたことか。

自分で本当に決めたことはどの程度あるのか。

色水の入ったビンがある。

馬の形の透明なビンにその色水を注ぐと、馬の形が見えてくる。

花の形の

■知識・自他・一体・神の身体

銃撃犯はマリアン・フィッシャーさんの思いがけぬ行為を見て、どのように感じただろうか。彼女をどのような人であると思っただろうか。

もし彼が彼女のことを知りたいと思ったときには、どのような方法があるだろうか。

(10月22日掲示板)

不可解な行動をとる彼女について知るためには、彼が彼女となって彼女の13年間の人生を生きてみることである。とても素朴な方法である。ただし、この方法では彼はマリアンさんそのものなので、彼の意識はない。彼の意識があれば、彼女の体験はできないからである。彼はマリアンさんの人生を体験できるが、外から彼女を見ることができない。もし見ることができたら、それは彼女の人生ではなくなるからである。彼女の人生を生きるとはそういうことである。そして、この方法では<彼は>彼女を知ることはできない。

次善の策として、彼が映画を見るように彼女の13年間の観察するということも考えられる。この方法を用いれば、彼はマリアンさんのことをとてもよく理解でき、もしかしたら、殺人を犯すことがなかったかもしれない。ただし、この方法はあくまでも彼の目から彼女を見るので、彼女に偽善者の烙印を押すことになるかもしれない。第一番目の方法とは逆の意味でマリアンさんのことを本当に知ることはできない。彼女の外に出てしまっただけでは彼女を本当に知ることはできない。

そこで、第三の方法が出てくる。彼はマリアンさんのことを理解できず、不愉快になる、あるいは、驚く、あるいは、真っ白になる、あるいは、感動する、等々の反応をし、自分のこれまでの人生では知りえなかったことを体験することである。そう、これは<この地球上での知り方>である。この地球上では、理解できない他人の行動が多い。何も分からない、知るための一点の手がかりさえなさそうな出来事もある。しかし、知ることができない不可解な状態が長く、長く続いて、ある時に知る。これが地球上の知り方である。これは一番目とも二番目とも異なる知り方で、また、とても<よく知る>ことができる方法である。安易に他者の人生に入り込まずに、<異なる人間が会うこと>により、より深く理解できるという方法である。最初は無理解という理解かもしれないが、理解できたときには第一、第二の方法とは比較にならない知り方ができる（そして、この知り方がおそらく「神との対話」での一体という言葉の意味であり、いつかすべての存在がひとつになり（数千の星があるという、宇宙人もその中に含まれるのであろう）、ブラボーという瞬間が来るという話しのことであらう）。この方法での注意点はただひとつ、知ったかぶりをしないで、常識でひとくくりにししないで、相手とわたしに関心を持つことである。

付言すると、第四の方法がある。ただし、これは<自分自身を知る>方法である。それは第一の方法のように生き（この生き方は自分自身に関してはすべてのひとが行っていることである）、なおかつ、第二のように自分自身を客観的に観察する方法である。グルジェフが、シュタイナーが、「神との対話」の神が推奨する知り方である。もちろん、この方法は第三の要素も含んでいる。すなわち、誰も自分自身のことを何も知らないからである。他者を三つの方法全てによって現在進行形で知ることはできないが、自分自身であればこれが可能である。だから、他者を知ろうとするよりも自分自身を知ろうとすることの方がよ

く知ることに関しては理にかなっている。

さらに第五の方法がある。これはこの世界の方法ではない。あの世での方法である。それは、死後間もなく、あなたのすべての行為を相手の立場に立って追体験することである。何とも恐るべき合理性である。相手の立場に立てば、相手への小賢しい愛をふりかざすことになるのではなく、自分自身を真に知ることができるのである。相手の立場に立つとは、まさしく自分自身のためなのである。それも当然である。そこに立っているのはあなた自身で相手ではないのだから。人間にとっては悪魔のような方法ではあるが、まさしく恐るべき計らいにより、第四の方法で抜け落ちていた知識（主観でも、客観でもなく、他者の立場）に陽があたる。多く人は被害者としての自分によく覚えているが、加害者としての自分に思いあたることは少ないからである。

この方法が悪魔のように感じられるところは、意図的にせよ、無意識にせよ、傷つけてしまった相手と同じつらい体験を追体験しなくてはならないことだ。しかし、この方法が天使のように感じられるところは、もし、あなたがひどい目に合わされたのに、相手を赦した時、相手も死後にあなたの赦しと同じ体験ができるということである。そして、相手は小さな自分以上の自分をそこに見ることができるということである。

銃撃犯は死後、マリアンさんの「わたしを先に撃ってください」という彼女自身の体験をして、何を思っているであろうか。

（10月23日掲示板）

▲原文

ただし、あなたが知りたいのは不可解な行動をとる相手のことを知りたいということであろうから、この点で「知る」ということを考えてみる。

不可解な行動をとる40歳の女性A氏のことを知るためには、あなたがA氏となって40年間の人生を生きてみるのがいちばん手っ取り早い。ただし、この方法ではあなたはA氏そのものであるので、A氏以上にA氏のことを知ることができない。あなたがA氏であるということは、「A氏というあなた」の外からあなたを見ることができないということだ。見ることができたら、それはA氏と異なる体験となってしまう。

次善の策として、映画を見るようにA氏の40年間を観察するということも考えられる。この方法を用いれば、あなたはA氏のことをとてもよく理解でき、A氏の不愉快な態度も寛大な精神でもって赦すことができるようになるかもしれない。ただし、この方法では、あなたはA氏になることができないので、第一番目の方法のようにしてA氏のことを知ることとはできない。

そこで、第三の方法が出てくる。あなたはA氏のことを何も知ることができず、不愉快な行動が理解できずに、悶々とする、という方法である。そう、<この地球上での知り方>

である。この地球上では、理解できない他人の行動が多い。何も分からない、知るための一点の手がかりさえなさそうな出来事もある。しかし、知ることができない不可解な状態が長く、長く続いて、ある時に知る。これが地球上の知り方である。これは一番目とも二番目とも異なる知り方で、また、とても<よく知る>ことができる方法である。この方法での注意点はただひとつ、知ったかぶりをしないで、常識でひとくくりにししないで、相手に関心を持つことである。

付言すると、第四の方法があり、それは<進化した星での知り方>である。ただし、これは<自分自身を知る>方法である。それは第一の方法のように生き（この生き方は自分自身に関してはすべてのひとが行っていることである）、なおかつ、第二のように自分自身を客観的に観察する方法である。グルジェフが、シュタイナーが、「神との対話」の神が推奨する知り方である。わたしは、身体を用い、感情で表現し、思考をめぐらせ、直観で神を表現する。そして、そのような自分を常に観察している。もっとも、よく自分自身を知ることができる方法である。

さらに第五の方法がある。これはこの世界の方法ではない。あの世での方法である。それは、死後間もなく、あなたのすべての行為を相手の立場に立って追体験することである。何とも恐るべき合理性である。相手の立場に立てば、相手への小賢しい愛をふりかざすことになるのではなく、自分自身を真に知ることができるのである。相手の立場に立つとは、まさしく自分自身のためなのである。それも当然である。そこに立っているのはあなた自身で相手ではないのだから。人間にとっては悪魔のような方法ではあるが、まさしく恐るべき計らいにより、第四の方法で抜け落ちていた知識（主観でも、客観でもなく、他者の立場）に陽があたる。多くの人は被害者としての自分はよく覚えているが、加害者としての自分に思いあたることは少ないからである。

この方法が悪魔のように感じられるところは、意図的にせよ、無意識にせよ、傷つけてしまった相手と同じつらい体験を追体験しなくてはならないことだ。しかし、この方法が天使のように感じられるところは、もし、あなたがひどい目に合わされたのに、相手を赦した時、相手も死後にあなたの赦しと同じ体験ができるということである。そして、相手は小さな自分以上の自分をそこに見ることができる。

（「続三つの願い」千葉教室 2003年9月から引用）

■ゆるし

人を殺した人間を神が罰するか、ゆるすか。

それはどちらでもよい。

問題は、

人を殺した人間を人が罰するか、ゆるすか、

あなたが罰するか、ゆるすか、
このことだけが問題である。

(11月19日掲示板)

(参考)「ヒマラヤ聖者の生活探求第2巻」168ページ

「イエスは大胆にも、無智こそはすべての罪のもとであると宣言しました。赦しを行う為には、言いかえれば、罪を赦す知識を修めるためには、人は本来すべての罪と不協和と不調和を赦す権利がある。罪を赦すのは神ではない、何故ならば、神は人の罪、病、不調和とは何等の関係もないからである——という事実には人は蒙を啓かれなければならないことを、イエスは悟りました。聖心こそが創造原理であること、及び、この原理と人間自身との関係について無関心であるか、或は理解を欠くことが即ち無智である、このことを人は学ばなければならない。人はたとえ一切の頭脳知識を持ち、俗事に精通していても、キリストが実は己が内に在ます神という活気凛々たる神髄であることを見失うならば、自分の一生を支配する最重要な要因に甚だしき無智を冒すことになるのである、——このような真理をイエスはお悟りになったのであります。完(まった)きまでに公正にして愛なる父にまします神に病や罪の癒しを求めることの矛盾に、いちはやくイエスは気づかれました。病は罪の結果であって罪の赦しが癒しの重要な一要素であること、病とは多くの人が信じているような神罰ではなく、自己の実存についての誤った考え方の結果である、人を自由ならしめるのは真理である。イエスはこのように教えられたのであります、イエスの教えがその師匠達の教え以上に連綿と続いているのは実にその教えの純粹さが然らしめているのであります。」

■意識のある人生～神様の思し召し・それ以前

与えられた機会は宇宙の法則であり、神様の思し召しである(どちらも同じことであり、好みの問題である)。

だが、宇宙の法則を呼び出すもの、神様の思し召しを呼び出すものは、その人個人の意識・無意識である。

だから、いつも何を考えているのかを知っておく必要がある。

(掲示板記入予定)

■意識のある人生～宇宙の法則

今与えられている機会、これは宇宙の法則に則っている。原因と結果の法則に則っている。この宇宙の法則、因果の法則を呼び出すものは、わたし自身の考え、言葉、行いである。

だから、

何を考えているのか、
何を言葉にしているのか、
何を行っているのか、
このことを知っておく必要がある。

このことはわたし自身の未来の原因だからである。

今与えられている機会、これは宇宙の法則である。原因と結果の法則である。
この宇宙の法則、因果の法則を呼び出したものは、わたし自身の考え、言葉、行いである。

だから、

何を考えていたのか、
何を言葉にしていたのか、
何を行っていたのか、
このことを思い出す必要がある。

一瞬前、昨日、一ヶ月前、一年前のわたし自身の考え、言葉、行いを思い出すことができれば、今日あった出来事を受け容れることができる。

思い出すことができなければ、これからは一瞬一瞬、考えと言葉と行いをいつも見ているようにしてみよう。そのことが明日の今日のわたしの人生を作り出すのだから。

(掲示板記入予定)

10月6日 2006年

●台風

わたしにとってきつい試練は避けてください。
ただ、その試練がわたしに最善の機会であるなら、その機会を与えてください。
その機会を最大限に利用できるよう努めます。

10月7日、8日、10日 2006年

●意識のある人生～善悪と愛（自由）と為すこと
してはいけないことがあるのではなく、
いつかなくなることがあるだけである。
できるけれど、しなくなるだけである。

そのときには、他のことをするからである。

いつも聞いてみること。

これが本当のわたしだろうか。

いま、本当のわたしであるなら何をするだろうか。

変わるのではなく、変えること。

してはいけないことがあるのではなく、

いつかしなくなることがあるだけである。

できるけれど、しなくなるがあるだけである。

いつかしなくなること。

このことを知っていて、今しなくなれば、それは為すことになる。

その為すことが<内なる身体>を創ることになる。<内なる神殿>を創ることになり、それが<神の身体>である。

だから、ひとりひとりの善、ひとりひとりの悪よりも尊いものがあり、それは変容であり、<自由>である。意識をした変容、すなわち、<自由>こそが何よりも尊い。そして、この<自由>は神のひとつの相でもあり、善悪を手のひらにのせている愛である。

(10月10日掲示板) (加筆して草稿要転記)

■姿・形

見えなかった風景が見えてくる。

見ようとしなかった風景が見えてくる。

見るのは<わたし>である。

10月8日、11日、14日2006年、5月28日、29日、6月6日、7日2007年

●意識のある人生・仕事 (教室資料) (草稿要転記)

何か小学校の授業のようで気がひけなくもないが、まあ、わたしはこういうタイプなので。

永遠の目標

十年後の目標

明日の夜までの目標

30 分後、1 時間後の目標

一瞬後の目標

漫然と人生を過ごすのではなく、これらを書き出して、毎日過ごされてみてはどうだろうか。要するに意識のある人生である。

わたしのコメントは順次書き込みますが、とりあえず昨日寝る前に書いた二点。

明日の夜までの目標～完璧な遠隔治療・集中した瞑想・1 時間のノートの整理・寝るまでエネルギーを注ぎ込むこと

一瞬後の目標～意識を持っていること。

(5 月 29 日 2007 年掲示板)

■永遠の目標

わたしの永遠の目標は全てを知ることである。これは 40 年前から変わらない。変わらないが、全てを知るにふさわしい努力をしたかは別である。

この「全てを知ること」というのはこの掲示板の最初のコメントにもなっている。

また、この「全てを知ること」について思い起こすのは、フリッツ・ピーターズがグルジェフに出会ったときに交わした対話である。フリッツは複雑な事情で、11 歳の身でアメリカからフランスにきて、私設の学校のような施設である「人間の調和的発展のためのグルジェフ研究所」に入所するためにグルジェフから面接を受ける。そのときの会話である。(なお、このグルジェフ研究所はほとんどが大人のための施設であり、当時 150 人ぐらいの大人と 10 人ぐらいの子供が衣食住を共にする共同生活を送っていた。

「…それから、グルジェフはさらに二つの質問を出した。

1 人生はいかなるものとするか？

2 何を知りたいか？

第一の問いには、次のように答えた。「人生とは銀の皿に盛られて手渡された何かであり、それをどのように扱うかは本人次第です。」

この答えがきっかけで、「銀の皿に」という語句についての長い問答が交わされ、グルジェフは、洗礼者ヨハネの首についても言及した。問答の結果、私は退却し——退却という感じであった——、「銀の皿」という語句は、人生とは「授けられたもの」ということを意味

する、と訂正すると、グルジェフは満足したようだった。

第二の質問（何を知りたいか？）に答えるのは易しかった。「あらゆることを知りたい」と回答した。

グルジェフは即座に、「あらゆることを知ることはできない。何についてのあらゆることなのか？」と聞き直した。私は、「人生についてのあらゆることです」と言い、そのあとで言い足した。「英語では心理学と呼ばれています。あるいは哲学かもしれません。」

グルジェフは溜め息をつき、おもむろに言った。「滞在してよろしい。だが、そういう回答は、私にとっては骨の折れる仕事となる。そういうことを教えるのは、私の他にはだれもいない。仕事がまた増えた。」

（フリッツ・ピーターズ著「魁偉の残像」（メルクマール社）

11歳の子供とは思えぬ回答である。

それはさておき、グルジェフは「そういうことを教えるのは、私の他にはだれもいない」と答えているが、グルジェフはすでに故人である。わたしの全てを知りたいという願望をかなえてくれる人はもういないのであろうか。

（6月6日2007年掲示板）

■道～明日の夜までの目標～意識のある人生・行為への愛

成し遂げることを考えること。無意識に、自然になされることでなく。

たとえ明日の夜までの命であっても、成し遂げようとすることは自身に対して大きな力となる。この力はおそらくは千年後にわたしが用いる力と同じ力である。

だから、一日、一日を明日の夜までのいのちと思ってこの力を行使することである。

この力は大きく用いることも小さく用いることもできる。

大きく用いるためには何に用いるのかということを決めることが必須の条件である。

また、決めれば、思いが湧けば、言葉にすれば、力は大きくなり、この世界での行為となる。

——この行為はどのような行為であれ、あなたの芸術である。そして、もしかしたら、人類の芸術になるかもしれない。あるいは、宇宙の芸術になるかもしれない——

だから、明日までの目標を決めてみてはいかがだろうか。

この掲示板に書かれてもかまわないし、ご自身のブログ、パソコン、ノートに書かれても構わない。大切なことは言葉にすることである。

ということで、わたしの明日の夜までの目標。

明日の夜までのすべての時、すべての場に、わたしの進む道に、清流のような気を通し続けること。

日常些事、不要なものはひとつでも多く手放すこと。

日常些事、必要なことはひとつでも多く成し遂げること。

(6月7日 2007年掲示板) (4月21日 2011年掲示板加筆して再掲) (新掲示板記入予定)
(20061003) (20110410) (加筆して草稿要転記)

内と外の目標

仕事中は仕事だけの目標としないこと

●成長 (教室資料)

変わっていくもの～若さ～大から小へ

小から大へと変わっていったものは何か

それは、あの世へ持っていけるものであるか。

10月9日、10日、11日、14日、18日 2006年

●意識のある人生～エネルギー

もしも、わたしだけにより生きていこうとするのであれば、

人生にエネルギーを注ぎ込まなければ人生を生きるエネルギーは生じない。

(掲示板記入予定)

10月10日、14日 2006年、5月28日 2007年、2月27日、4月18日、21日 2011年

●条件～わたし

お金があるときの仕事に対する姿勢。

お金があるときのモノに対する姿勢。

もしお金がやまほどあったら、

仕事の何を放棄し、

モノの何を放棄するのか。

そして、

仕事の何を手に入れ、

モノの何を手に入れるか。

それを、今、行なうこと。

できる範囲でよいから行なうこと。

できる範囲を超えて行なうこと。

(掲示板記入可)

■条件～わたし

わたしが変わるための全てがあればよい。

その他はいらない。

■条件

お金がないがゆえにできること(=せざるをえないこと)とは何か。

それが最善の条件であり、そのことに精を尽くすべきである。

▲デミアン

■行為への愛

行為の前に条件をつける

行為の後にも条件をつける

そうではない行為への愛とは。

(加筆して掲示板記入予定)

■

いやな条件を変えるためにはとことん準備をする。

■条件～グルジェフ(愛の条件)

「各人が自己に対して、すべての人を愛せるかどうかを、率直に正直に問いただしてみよう。コーヒーを飲んでからなら愛せる、そうでなければ愛せない。いかにこれをキリスト教徒と呼ぶことができようか？」

(「グルジェフ・弟子たちに語る」219ページ)

●沈黙

絵を描くのが上手な人と下手な人の違いについては分かるが、

神の話しの上手な人と下手な人の違いについては認めることはなかなかできない。

神の話しが上手な人は沈黙しているので、認めることがなかなかできないのである。

沈黙の微細な色合いを感じ取れるようにすることである。

(記入可)

■ ババジの足洗い

● 身体操縦マニュアル——自分自身を上手に使うための方法

三つの身体～千葉教室資料要転記

まず、意識があること。グルジェフの為すことがあること。トム・ケニオンの容器があること。

では、意識があったときに、どの身体を使っているのか、確認し、確認し続ける。

食べ物の問題～身体1～「病気にならない生き方」

身体2～呼吸・印象・気功体操

身体3～印象

↳プロセス全体への関与

運動

身体1～少し動かしてみることに

グルジェフ弟子たちに語る 222 ページ

動かしながら微細な身体全体を意識の器に入れてみることに。

身体2の運動～これも少し動かしてみることに

矛盾するが、少しも動かさないこと～五官の遮断

身体3の運動～神の身体の創造・内なる神殿・内なる神の創造～錬金術

身体の疲れ～エネルギーの不完全燃焼

食の取りすぎ

不必要な緊張

社会・時代に束縛されている独特の動き (グルジェフ弟子たちに語る)

弟子 222 ～停止訓練 (ストップ・エクササイズ)

「概してわれわれは、ある姿勢から他の姿勢へ非常な速さで移るので、移行中にとっている態度に気づかない。停止訓練 (ストップ・エクササイズ) は、われわれの身体にとってまったく不慣れで不自然な姿勢や態度を感覚と感情で知る可能性を与える。

あらゆる民族、あらゆる国民、あらゆる時代、あらゆる国家、あらゆる階級、あらゆる職業は、それ自体の一定数の姿勢を持っていて、それを変えることは決してできず、こう

した姿勢はある一定の時代、民族、職業に固有の様式（スタイル）を表わす。誰でも個性に従って、その人が受けた様式の中なら一定数の姿勢を採り入れるにすぎないから、個々の人の持つ姿勢のレパートリーはきわめて限られている。このことは容易に理解できる。たとえば、へたな美術作品をみると、ある階級の様式と動作を機械的に表わすことに慣れている芸術家が、他の民族や階級を描こうとしている。

この点に関しては、挿し絵入りに新聞が豊富な材料を提供してくれ、英国兵の動作と態度を持つ東洋人とか、オペラ歌手の動作と態度を持つ農民とかをしばしば見かけることができる。

あらゆる時代、あらゆる民族、あらゆる階級の動作と姿勢の様式は、固有の思考と感情の型に不可分に結合している。そしてこの二つは、人がその人の持つ姿勢のレパートリーを変えなければ、思考の型も感情の型も変えることができないほど、固く結びついている。思考と感情の型は、思考と感情の「姿勢」と呼べる。人は一定数の運動の姿勢を持っているように、「一定数の

身体2の疲れ

身体3の疲れ

10月11日、22日 2006年

●条件～デミアン～利己主義

「…一投…」(引用)

すべてのことを、すべての時間を自分だけのために費やすこと。

このことはできる。

自分を知ればできる。

そして、そのようにして自分は変わる。

●実在性

白昼夢、連想にふけるぐらいなら、高校生のときの自分のところにふれていることの方が有益である。

白昼夢はわたしになることができないが、過去はわたしに。

●意識のある人生

明朝9時までの目標

一年後の目標

十年後の目標

百年後の目標

内なる目標と外なる目標の同居

●神の機会（神の力）

前後無関係に思われる出来事に関連性を見る。

意志、ベクトルの長さと方向

●勤務

勤務中、身体イメージを持つこと（力を抜くこと、少し動かすこと、観察すること）

●見る

内を見るべき時には外を見ている。

外を見るべき時には内を見ている。

だから、何も見てはいないのだ。

（10月22日掲示板）

●

本気になってしないのなら、

エネルギーを注がないのなら、

横になって寝ていた方がよい。

10月12日、13日、26日、27日2006年、2月25日、3月21日2011年

●慢心～利己主義～ヒーリング

隠しても、隠しても、見えるのが慢心である。

ない、ない、と言ってもあるのが慢心である。

わたしは、あなたのために、気を送る。

こういう慢心は四六時中ある。

だから、少々謙虚になって、

わたしは、わたしのために、気を送る。

このように思っているが、あまり理解されないようなので、普通は言わない。

（10月26日掲示板）

■ 自他・一体

手をかざす。

感謝の言葉、お礼、駅までの送迎をいただき、

気の出具合を工夫できるようになり、

己の集中力の欠如を知る機会となる。

わたしは実に多くのものを手にする。

わたしのヒーリングはわたしのためになった。

他方、患者さんかというと、

最大限、病気が治ったということだけである。

わたしは、相手のために手をかざしたと思っているが、実は、わたしのために手をかざしたのかもしれない。

(10月27日掲示板)

世に言う

「わたしが一生懸命やったから、わたしは多くの報酬を得た」

などということは、とてもでないと言えない。

そうではなくて、一生懸命かどうかは別として、

<わたしがする>

ということの行為がわたしをつくっているということだけである。

10月13日、14日 2006年、2月25日、27日 2011年

● ヒーリング

二日酔い対策はもっぱら寝ることだけであったが、

自分自身に対して意識して気の出し入れを試みる。

意識を伴った呼吸を日常的とすること。

● 柴田さんへの返信～神とのコミュニケーション

高塚さん、こんにちは。

神との対話と、神との対話 365 日の言葉。注文しました。成城学園駅ビル完成にともない、三省堂が入ったので買いに行ったら注文ですとのこと。それが水曜、入荷しましたの電話が次の日です。

なので、今度の水曜日まで、手に入りません。トホホ。。。。

でも、おいしい物は後で食べる性格なので、まあいいかあ～～。
じっくり読んで、またお便りします。

パソコンのご健康を心よりお祈り申しあげます。

柴田 勲

柴田さん、おはようございます。

神との対話シリーズご注文いただき、ありがとうございます。

このホームページがご縁となり、お読みいただく方がひとりでも増えていただけることはありがたいことと思っています。ただひとりひとりの方の相性のようなものもあり、「神との対話」の語り口が気に召されない場合は他の〈神とのコミュニケーション〉に耳を傾けることもよいと思います。

「神との対話」の冒頭の話です。

「……神はどんなふうに、誰に語りかけるのか。そう聞いたときの、神の答えはこうだった。」

「わたしはすべての者に語りかけている。問題は、誰に語りかけるかではなく、誰が聞こうとするか、ではないか？」

「興味をそそられたわたしは、もっと詳しく説明してくれと頼んだ。すると、神はこう言った。」

「第一に、「語る」ではなく、「コミュニケーションする」ということにしよう。神とのコミュニケーションは、言葉よりもすぐれた、言葉よりずっと豊かで正確なものだからだ。言葉で語りあおうとすると、とたんに言葉のもつ制約にしばられることになる。だからこそ、わたしは言葉以外でもコミュニケーションする。それどころか、言葉はめったに使わない。いちばん多いのは、感情を通じたコミュニケーションだ。

感情は魂の言語だ。

何かについて。自分にとっての真実を知りたいと思ったときには、自分がどう感じるかを探ってみればいい。

感情というものは、なかなか見つからない。自覚するのはさらにむずかしい。だが、最も深い感情のなかに、最も高い真実が隠されている。要はこの感情をつかむことだ。……」

……

「……感情と思考と経験のすべてが失敗したとき、最後に言葉が使われる。言葉はじつは、

最も非効率的なコミュニケーション手段だ。最も曲解されやすいし、誤解されやすい。…
…」

(「神との対話」1巻 14ページ サンマーク出版)

神とのコミュニケーションは、感情、思考、体験、が使われ、そして、それらがうまくいかなかったときに言葉が使われるということです。その意味で、この「神との対話」という言葉のコミュニケーションは最後の手段ということです。感情、思考、体験に神の声を聞くことのできないわれわれに対する非常手段ともいえる方法です。ですから、本をすすめておいて言うのも気がひけるのですが、大切にするのは感情や思考や体験です（なお、別の箇所でこれら三つのうちで最も大切にすべきは体験であると言っています。）感情・思考・体験を通して神はコミュニケーションしてきます。その意味で、この著書は自転車の補助輪のようなものです。

そしてまた、補助輪の著書は他にもあるわけで、「神との対話」の神は他にもわたしの言葉がしるされている著書はいくらでもある、と語っています。この著書のぬるま湯のような語り口が気に入らない場合は、他の著書を求めることもよいかもしれません。まあ、しかし、ぬるま湯ながら、わたしにとっては目がさめるような冷たさ、そして、暖かさでした。感想などまた書き込んでいただければ幸いです。

なお、パソコンは友人にリカバリーしていただく予定です。最悪の場合は入院もありえるとのことですが、通院で直ればよいと願っています。

(10月14日掲示板)

■感情

>感情は魂の言語だ。

ロボットは感情を持つか。

羽生の対談。

ロビタ

A I

■体験というコミュニケーション・体験により造成される存在

> (なお、別の箇所でこれら三つのうちで最も大切にすべきは体験であると言っています。)

なぜなら、体験こそが人間の存在理由だからである。

その体験を通じて、神は存在になるからである。

あるいは、グルジェフであれば、体験の葛藤を通じてできるものこそ永遠不滅のものである

と言うかもしれない。

▲感情

>いちばん多いのは、感情を通じたコミュニケーションだ。

感情を生きること。

10月18日、19日2006年、5月28日2007年、2月25日、27日2011年

●善と悪

金某人を悪しざまに言うが、わたしとは全く異なる人間だと言うが、もしも私が金某人と同じ環境で生まれ育ったとしたら、今私が持っている考え、感情、倫理観、度量、等々をどれほど持てるか、どれほど某国を（私が考える）立派な国に出来ているか、これは相当に分らないことである。

しかも、全世界65億の人間の多くの人にいなくなればいいと思われている。これまた相当なハンデキャップである。

もしも「生まれる前に人生のアウトラインを決めてからこの世に生まれてくる」というのが本当であれば、私などは間違えなく、この役回りをご勘弁願いたい。

…などをいろいろ思い巡らすと、この人のやっていることはもちろん許しがたいことではあるが、人間として考えると、そんなにとんでもない人間とは思えなくなる。もしかすると、逆なのかもしれないと思えてくる。

そして、この世界に無意味なことなど何もないのなら、この某国の行いは一体何であるのか、ということ改めて自分自身に問いかけざるをえない。

(10月18日掲示板)

●意識のある人生

ババジの道にのってみること。

彼によって踏み固められた道があるのを知っていること。

ババジが行なった身体蘇生時の、意識の集中度、これに思い至ること。

あるいはまた、彼が行ったところと身体のコントロール、これに思い至ること。

どのようなことであれ、死ぬ気になってやること。

しかし、リラックスしていること。

(ババジに関して加筆して掲示板記入予定)

■ヒーリング

時間を短くすること。量から質への転換。

そのためには何が必要か。

常に真剣であること。

●目的と結果、行為への愛

マッチが「男は結果だ」とジン君に言ったというが、

結果は一年後の結果も、十年後の結果も、百年後の結果もある。

そして、

一年後の結果は一年後に出すこと。

十年後の結果は十年後に出し、百年後の結果は百年後に出すこと。

(加筆して掲示板記入予定)

10月19日、20日、21日、11月2日 2006年、2月25日、27日、3月2日 2011年

●意識のある人生

無意識に生きれば、今日はたまたま良い日であったり、今日はたまたまついてない日であったりする。

しかし、意識のある人生を送れば、今日のすべてを受け入れ、昨日とは違った反応をすれば、ついてない出来事もその意味を変えることができる。そのように生きれば、今日という日はいつも良い日である。

(10月19日掲示板)(3月2日2011年掲示板)

●エネルギー

一生懸命にやっけて疲れるということがある。

他方、一生懸命にやらなくて疲れるということもある。

前者は完全燃焼の疲れであるが、後者は不完全燃焼の疲れである。

もちろん、前者の疲れの方があとをひかない。

だから、どのようなことであれ、エネルギーを最大限に注いでみることである。

(10月20日掲示板)

ところで、完全燃焼した時とは、わたしの人生にどれだけあっただろうか。

とりあえずは、今日一日、気づいた時に、エネルギーを最大限に注いでみよう。

(3月2日2011年掲示板)

不完全燃焼は人生にエネルギーを注ぎ込まないことによって生じる。

■エネルギー

実は、エネルギーの完全使用はまったく疲れないと考えている。

否、疲れないのみならず、<もしかしたら新たなエネルギーを作り出すのではないかと
さえ考えている。

まあ、妄想かもしれないが、少なくとも日々の生活にとっては、
疲れないためにエネルギーの完全使用を目指すより、
新たなエネルギー（＝創造物）を生み出すために、エネルギーの完全使用を目指すことの
方が、おそらくは有用であろう。

（3月3日 2011年掲示板）

無呼吸・不食



>いな、疲れないのみならず、新たなエネルギーを作り出すとさえ考えている。

必ずしもこういうエネルギーだけとは限らないが、、
グルジェフの山賊と僧侶の話し

■身体とわたし

身体が疲れている～完全燃焼

わたしが疲れている～不完全燃焼

もしかすると、身体はいつも完全燃焼するが、わたしがいつも完全燃焼しないことに問題
があるのかもしれない。

■マニュアル

身体1の休め方～①力をぬくこと

②一酸化炭素をためないこと

身体2～高塚への奉仕???

身体3～神の力だけにのること

Or 身体3は実は常に健やかである？

プロセスへの奉仕

■ハトホルのいう人間はエネルギーの存在であるという話し。

●自他

ブッダが悟りを開いたあとに、自ら昇天しようとしたこと。

ババジがこの世界から立ち去ろうとしたこと。

(参考) ヘッセの「クヌルプ」～高橋巖著「神秘学入門」66 ページ

×× (ヘッセの友人) の沈黙

■指導者

他者を気にかけなかったが、結果的に他者を気にかけている。

行為への愛

神の仕事・人の仕事

●ババジの蘇生術

ババジが行なった蘇生の仕方の要諦は不明であるが、思うに、死ぬ気になってやること、しかし同時に、リラックスしていること、ということが思い浮かぶ。

そして、このことはどのようなことであれ、いえることである。

10月20日、21日、24日、27日 2006年、2月25日、27日 2011年

●パラレルワールド (夢で話したこと) ～意識のある人生

朝起きると、三つの扉が目の前にある。

赤色の扉と青色の扉と黄色の扉である。

どの扉を開けていくかは、あなたの自由である。

今日も昨日と同じように、青い色の扉を開けるだろうか。

明日も、明後日も同じ扉を開けるだろうか。

赤い扉や黄色の扉を見たことはないだろうか。

開けてみれば、人生は変わる。

人生にはいつもひとつの扉しかないと思っているかもしれないが、

または、扉などないと思っているかもしれないが、

人生には毎朝、三つの扉が目の前にあるのである。

どの扉を開けてもあなたの人生であるし、

場合によっては、

三つの扉のすべての人生を生きることだってできるのである。

(10月24日掲示板)

■意識のある人生 (加筆して再掲)

いつも意識があること。そうすれば、

いつも通らない道も通ることが<できる>。

この選択肢があることを知ること、行なうこと。

これは、意識がないとできない。

いつもイライラする場面でも、イライラしないようにすることが<できる>。

この選択肢があることを知ること、行なうこと。

これは、意識がないとできない。

もし錬金術を行なおうとするなら、もし内なる身体を作り出そうとするなら、まず、この意識を常に持っていることが必要となる。

もしかすると、それは意識を持つというよりも、いまだ姿を現していない自分自身を登場させることなのかもしれない。

(10月27日掲示板) (草稿要転記) (3月4日2011年掲示板)

●意識のある人生～NOTE

どのような小さなしるしも見逃さないようにする。

その<小さなしるしを見ることは>はもしかしたら、遠く離れたチョウの羽ばたきが嵐を引き起こすという「バタフライ効果」の蝶の羽ばたきのように、わたしの人生を大きく変えることになるかもしれないからである。

(加筆して掲示板記入予定) (草稿要転記)

●意識のある人生

この世界は、まずあなたがいて、まずあなたが意志して、世界がまわるようにできている。

だが、あなたがいない間は、意識がない間は、世界が先にあって、わたしとは無関係に世界がまわっているように感じられるかもしれない。

(10月20日掲示板)

●ブログ～教室のご案内

あなたと同じように、わたしも普通の人である。

そして、

あなたと同じように、わたしも特別な人である。

普通とはどういうことであるのか。

特別とはどういうことであるのか。

人生の師であるルドルフ・シュタイナー、G.I.グルジェフ、パラマンハサ・ヨガナンダ、ベアード・T・スポールディング、ニール・ドナルド・ウォルシュ、各氏の著作、及び、主宰者の資料を通じてともに学んでいく教室です。

宗教団体とは無関係の非営利の会です。

12月の予定

12月7日（木）19時～21時 市ヶ谷「南海記念診療所」1階

12月17日（日）14時～16時 銀座画廊「ギャラリーポート」

12月24日（日）14時～17時 千葉「西小中台団地事務所」

12月26日（火）19時～21時 市ヶ谷「南海記念診療所」1階

いずれも会費は1000円です。

気功体操、瞑想も行います。

お問い合わせは、下記の高塚宛メールまたは携帯電話へお願いいたします。

ki_healing_room@hotmail.com

080-1017-5079

T.高塚の「気の哲学教室」

T.高塚「気ヒーリングルーム」

日常生活から学ぶ。

気のヒーリングから学ぶ。

神との対話・シュタイナー・グルジェフ・ヨガナンダから学ぶ。

宗教団体とは無関係の非営利の会です。

一ヶ月に一回、千葉と東京で教室を開いています。

10月21日2006年、2月25日2011年

●遊園地の楽しみ

この世の楽しみは、作りだされたもので楽しむ楽しみ方と

自らがつくりだすことによる楽しみ方とふたつの楽しみ方がある。

●宇宙人

清掃に価値をおいている星とは、最初から清掃に価値をおいていたのか。それとも、もとは地球のようであって、変わっていった、そのようになったのか。

もともとそう～宇宙人には千の道がある。

10月24日、25日、28日、29日、30日、31日 2006年、2月27日、3月8日 2011年

●神頼み

昨日、昼食で入ったお店で持ってきてくれた「週刊朝日」に、

「新興宗教ビデオ入手 安部晋三 北朝鮮も神頼み」

という見出し。

記事はほとんど読んでいないが、まあ、よくある話しである。

だがわたしは、困ったときに神頼みをすることはいいことだと思っている。神様が本当にいるのなら一番頼りになる存在であろう。問題は、神様でなく、神様だという人間、神様と通じているという人間に頼んでしまうところが一番の問題である。

神様に頼んで、話をよく聞いて進路を決めるのは結構であるが、これは自分でやることなのである。

では、どうすれば神と通じることができるのだろうか。

(10月25日 2006年掲示板) (加筆して質問へ)

■スコット・カニンガムの魔術が成立する三つの条件

感情・必要性・法則

■グルジェフ～わたしの神をつくること

ファキール

僧侶

ヨーギ

そして、第四の道

(参考～ウスペンスキー「奇蹟を求めて」80ページ)

■本気か否か

まず、頼むこと。通じようとする事。

これができるかどうか。

次に、聞くこと。

これができるかどうか。

そして、その関係を利用すること。

これができるかどうか。

その意志があるかどうか。

(10月26日 2006年掲示板)

この本気はカニンガムの感情である。



ヨガナンダの神を使うこと。

シュタイナーの神秘修行者の第一条件

「神との対話」の感情

■頼むこと

まず、頼むことができるかどうかという問題がある。頼み方には二つの方法があると思っている。大乘の手法と小乗の手法である。大乘の手法とは、親鸞が悪人正機説で説いたように、自らを放擲し、自らの小ささを骨の髄まで知り、すなわち、悪人であることを知り、仏の手にすくい取ってもらう方法である。このことは、自分のうちにある慢心を取ることによって可能となることであり、慢心を取るというのは、それこそ「悪と呼ばれていることを為す」ことによってしか、なかなか可能となるものではない。誰からも後ろ指指されず、いい人だとは言われないまでも、普通の人と思われていては、なかなか己のうちにある慢心に気づくことは出来ない。だから、親鸞は善人が往生するのであれば、悪人が往生するのは当然である、と言っているのである。

「南無阿弥陀仏」と称えていれば、極楽浄土に生まれ変わるなどと、一般には非常にぬるま湯的なイメージがある浄土真宗であるが、実は内観法なる厳しい修行を内包している宗教であり、それは上述の常識人が慢心を取ることの難しさを物語っていることでもある。内観法とは、一週間朝5時から夜9時まで、食事とトイレ・睡眠以外は屏風で仕切られた一坪もない畳の上でじっと「母、父、兄弟、友人、恩師にさせていただいたこと」を幼少時から思い出してみるという行であり、滝行に勝るとも劣らないすさまじい修行法である。しかも、それによって必ずしも慢心が取れるとは限らないところに、常識人、あるいは良識人の慢心の業の深さというべきものである。

しかし、なぜこのような慢心を取ることが仏と通じる条件となるのであろうか。

(10月31日掲示板)

■聞くこと (大乘)

それは慢心がある限り、仏を見ることができないからである。神を見ることができないからである。見ることができないものに、どうやってお願いする気になれるのであろうか。

わたしは足元にいる虫けらよりもえらい存在であるという者に、虫の中にいる神、仏を見ることはできないからである。

「南無阿弥陀仏」にこういう記述がある。

また、黒住宗忠に関してこういう逸話がある。黒住教が新興宗教として信者の数を増やしていったとき、あらぬ誹謗が流されたときの話しである。

「このような非難中傷が生じた原因はわたしのこころの内にある。これまでわたしの修行はとても修行と呼べるものではなかった。」

018～暁の修行

そのような外部からの相次ぐ中傷の中にあつて宗忠は、

「その本(もと)は小子(しょうし)心の内に御座候。只今までとても、皆人見られ候ところは余透も御座なく候えども、今考え見候えば執行甚だたるくお座候。」

と、きびしくおのれをかえりみ、決然として

「毎朝七ツ過ぎ(四時過ぎ)には起き、水を浴び、それより中仙道の宮(白鬚宮のこと)・今村宮へ参詣仕り、それより罷り帰り、小子神前にて執行仕り、日の出待ち、御拝仕り候。」
というような、暁の修業を開始するのである。そして、

「これも先達でも申上げ候通りの悪人出で、色々の噂仕り候間、これ天の我に執行仕るべしともうすこと御教えと存じ奉り候ゆえ、かように相始め候。かの流言もそのままに消え候やと相聞え候。たとえ人は何と申し候とも、我をすてて本をよくつとめ候えば、心いよいよすずしく御座候。」(書簡336)

と覚悟のほどを示している。

これは、他人からのそしりに仏を見た話しであり、神を見た話しである。何だ、神、仏と通じることはそういうことか、と非難がましい気持ちをもたれる方がいらっしゃるかもしれないが、そういうことである。善行も悪行も、喜びも悲しみも、それがわたしと関係がないように思えても、すべてはわたしのためにあり、それは神からのわたしへの問いかけであり、わたしの所業への返信である。

(加筆して掲示板記入予定)

太陽との出会いも入れる

■神とのコミュニケーション

一生に一回、神の声を聞く人がいる。

十年に一回、神の声を聞く人がいる。

一年に一回、神の声を聞く人がいる。

このような人は、神の声がどのようなものであるかを知らないであろう。

だが、もし、

毎日、神の声を聞くことができれば、

毎瞬、神の声を聞くことができれば、

神の声が決して霊能者を通じて話すような仕方で話しているのではないと知るであろう。

(掲示板記入予定)

■聞くことにある「結果から見る原因」

大乘的手法・小乗的手法

グルジェフの手法

親鸞の悪人正機説・妻帯

■小さな声

気功教室でいろいろな話をするとき、わたしはしばし沈黙する。

10月25日、11月2日 2006年、3月15日 2011年

●気の作り方

太極拳や武道によって機をつくることができるようになる。これは身体1の使用である。

何かを一生懸命にやれば、誰でもある程度は気を作れるようになる。これは身体2の使用である。

他方、このような使い方をしているかどうかは分からぬが、身体3の使用による気の作り方もあるはずである。

10月27日 2006年

●ヒーリング（遠隔治療）

小さな望みなど持たない。

そのかわり、全精力を費やし、集中する。

■遠隔

紫の炎を出すことだけに専念し、その炎を相手に送る。

それと旧来の方法との併用。

10月28日、31日 2006年、3月15日、21日 2011年

●意識のある人生

何を目に入れ、何を目に入れないか。

このことにこころを配ることである。

なぜなら、目に入れたところにわたしはいるからである。

無駄に人生を過ごさないことである。

(3月21日 2011年掲示板)

■意識のある人生～尾を引くもの

何にふれるか、何にふれないか。

週刊誌のゴシップ記事にふれるか、ふれないか。

ふれれば、必ず影響される。

その影響を観察してみること。

神との対話の言葉、シュタイナー、グルジェフ、ヨガナンダの言葉にふれるか、ふれないか。

ふれれば、必ず影響される。

その影響を観察してみること。

(11月2日掲示板)

心象風景に浸る。

どのような心象風景にしておくか。

いつも何を見ているか、知っていること、知らなければ、気づくようにすること。

気づいて、好ましくないと思えば変えてみること。

(加筆して掲示板記入予定)

●意識のある人生～身体

身体は楽しませるのでなく、使うこと。

甘やかすこともなく、酷使することもなく、

太らせることもなく、やせ細らせることもなく、

適切に使うこと。

(掲示板記入可)

私という名詞が使うのではなく、わたしという動詞が使うこと。

10月30日、31日、11月2日、4日 2006年

●感情

あらゆる感情には喜びと悲しみが含まれる。

喜びはあなたであり、悲しみはあなたでない。

ただ、どちらも楽しむことができるかもしれない。

●喪失

小さな子どもの頃、動物の絵がかいてある風船があって、その風船をとっても大切にしていた。だが、あるときに近所の子どもが誤って割ってしまった。わたしはひどく怒り、そして、ひどく落胆した。

だが今では、仮にお気に入りの風船を持っていて、その風船を割られたとしても、決して怒らないし、落胆はしないであろう。

今ではどのようなものを失っても落胆しないかという、そんなことはない。現金を落とせば気が滅入るであろうし、カードを失くせば不安に陥るであろう。そして、身近な人を失えば悲しむであろう。

だが、子どもから大人になって変わったように、今のわたしが変われば、そのような事態と遭遇しても別のこころの働かせ方をするであろう。

今わたしは大人だと思っているが、もしかしたら、風船が割れてひどく落胆する幼児のような存在かもしれない。

(11月11日 2006年掲示板)

●労働

昨日の朝日新聞にトヨタと郵便局の話が出ていた。郵便局の体質を改めるためにトヨタの出向社員が指導しているという話である。仕分けられる量を15分毎にひとまとめしてそれを基準量にして作業の適正化を試みたり、局内を最短時間で移動するために床に線を引き、その線の上を歩かせるようにさせたり、立ったり座ったりするのは非能率的だということによって仕分け作業を立ったまま行なわせたりする、という記事である。

その記事に続いて、

「何とかかわいそうな連中であろうか」

というような話が出ていて、斜め読みしていたので、一瞬、郵便局員側からみたトヨタ社

員への見方だろうかと思ったが、どうも逆のようで、よく読むと、郵便局員の反発もあるようで、その身についたぬるま湯体質について非難している。

わたしの知り合いにもさぼることしか知らない人間もいて、彼に対しては、腹立たしいというよりも憐憫の情を思い起こすこともあり、トヨタの出向社員の気持ちも分からないではない。だが同時に、そこまでやるのか、という指導の仕方に、それが正しいと思う指導の仕方に「トヨタ社員、かわいそうだなあ」という気持ちもわいてくる。

また、こうも思う。このような仕事の仕方をして何年健康的に過ごせるのであろうか。それは、ロボットのように仕事をするにしても、さぼって仕事をするにしても両方に対していえることである。

(10月30日 2006年掲示板)

■不完全燃焼

ロボットのように仕事をして、たらたら仕事をして、エネルギーは完全燃焼しない。一酸化炭素がオリのように身体に蓄積する。

■時空

時間を止める労働、ワーク。

■労働

では、お前はロボットのように仕事をしているのか、さぼって仕事をしているのか、という話が出てくる。

■労働

受けとめ方を変える。

付け加えて労働する。

10月31日、11月4日、10日、13日 2006年

●ヒーリング～意識のある人生（再掲）

腫瘍ができる。

不完全であるからできたのではなく、完全であるからできたのである。

何が完全であるか。

原因と結果が完全である、ということである。

腫瘍に目を向けるのでなく、完全性にところを向けることである。

そうすれば、元に戻ることはできなくとも、今の意味は変わる。

腫瘍のできる前の自分と違う自分になれる。

悲しい目に合う。

不完全であるから悲しいことに合ったのではなく、完全であるから合ったのである。

何が完全であるか。

原因と結果が完全である、ということである。

悲しい出来事に目を向けるのではなく、完全性にこころを向けることである。

そうすれば、元に戻ることはできなくとも、今の意味は変わる。

悲しい目に合う前の自分と違う自分になれる。

(11月1日掲示板) (3月16日2011年掲示板) (草稿要転記)

●意識のある人生

自分をコントロールするようにする。

他人をコントロールしようとするのではなく。

自分を生きる。

他人を生きるのではなく。

現在をコントロールするようにする。

過去をコントロールしようとするのではなく。

現在を生きる。

過去を生きるのではなく。

(11月4日掲示板)

■コントロール

では、どうすれば現在をコントロールすることができるだろうか。

それは、あらかじめどのような態度を取るのか決めておくことによって可能になる。ことが生じてからコントロールはできない。生じる前にあらかじめ態度を決めておくことである。

●教室

参加者のキャラが立つようにすること。

■教室

予定以外のことへと進むこと。これがベスト。

鍋を煮込むことである。煮込むだけでなく、煮込む中に自分を入れることである。

そして、できるだけ多くの人を入れることである。

この鍋は錬金術の錬金の鍋である。

└─ 体

●意識のある人生

意識を持続するために、呼吸を止めてみる。

これを繰り返してみる。

長い呼吸と同じである。

文字通り気が短い「短気」の逆

●意識のある人生～わたし

人は他人に対して嘘をつけるが、自分に対しては嘘をつけないとよくいわれる。だが、そんなことはない。自分に対しては巧妙に嘘をつくので、そのことに気づかないだけだ。この嘘を嘘と見破るためのよい方法がある。それは「神との対話」に出てくる次のような言葉である。

「個人や社会がどれほど進化しているかは、何を「喜ぶ」かで、測られる。さらに言うておくが、何が自分の役に立つと言明するかでも測られるのだよ。」

（「神との対話」第3巻 309 ページ サンマーク出版）

あなたは何を喜ぶだろうか。

あなたは何が自分の役に立つと言明するだろうか。

私が今喜ぶことが、十年後、百年後、千年後も私が喜ぶことではない。

私が今自分の役に立つと言明していることが、十年後、百年後、千年後も私の役に立つことではない。

もちろん、今自分が喜ぶことは自分に嘘をついて喜んでいることではない。

また、これが自分の役に立つと自分に嘘をついて言明しているわけでもない。

だが、それらは変わってしまうものである、ということをよくよく考えてみることである。

そうすれば、わたしについて、もう少し、本当のことを、話せるようになるかもしれない。

わたしは、これを、喜ぶ。

これは、わたしの、役に立つ。

これとわたしについてよく考えて、よく感じてみることである。

そうすれば、

今日、他人を殺さなくてもすむかもしれないし、

今日、他人に腹を立てずにすむかもしれない。

今日、自分を殺さなくてもすむかもしれないし、

今日、自分を傷つけずにすむかもしれない。

そして、

昨日までわたしとっていたわたしと異なるわたしが今日いるかもしれない。

(11月13日掲示板) (教室資料要転記)

●三つの身体

第二の身体が内なる身体、内なる神殿、神の身体であろうか。

これを創造することが、錬金術であろうか。

(身体要転記)

●外に出すこと

オリは外に出すこと

疲れたことを文字にしたこと

もしかして、瞑想がうまくいかない場合にも使えるかもしれない。

どうやって？

●自立

薬の力を借りない。

他人の行動に左右されない。

★11月2006年

11月1日、2日 2006年

●意識のある人生～身体の場所

身体1、2、3が存在し、歩く道がある。

身体2を白昼夢の世界にしかおかない使い方。

身体3を存在しないかのようにしか使わない人がいる。

わたしがこころを身体3と呼ぶのはそれが五感のような触感で感じられるからである。

11月2日2006年

●身体

文字の身体化

パソコンに本を写本、または、スキャナーすることを超えての身体化

■ヒーリング～わたし

病人に手をあてる。

自分の体のようにして手をあてないと自分が傷つくかもしれない。

(11月11日掲示板)

●JOさんへのメール

>私は、薬ナシで病が改善されている画像を見て（本人の意識と
>気功の成果と思われますが）、薬ナシでいく選択肢もあるなあ
>と。というか、これ、本当は薬アリでもナシでもどちらでもい
>いのかも知れませんね。
>いずれにしろ本人の直感が当事者だけに一番当たっているであ
>らうと思いますので、本人の判断に拠ろうとは思っています。

わたしは人生で一番大切なことは選択であると考えています。別言すると、「人間にとって一番大切なことは、選択であり、それは、すなわち、自由である、自らが原因（由）である、自らが始まりである」ということでもあります。そして、それは一番大切というよりも、<人間存在が実は選択である>とさえ考えています。

ですから、どのような選択であれ、もし、自らが始まりとなった選択は常に尊重し、また、敬意をはらいます。その選択がわたしの選択と異なるかどうかは二次的な問題に過ぎません。その意味で、重要な選択を迫られるということは、すばらしい機会であり、また、もしかすると、そのような選択の機会をこれまでは無視してきたことの結果、生死に関わる選択を迫られたといえるかもしれません。ご主人と同様、多くの人は選択の機会を見逃してしまっています。選択の決定は、他人の教えや惰性が行い、自らが行なうことは、夕飯の決定だけであったりします。

順子さんは準当事者ではありますが、「普通の人」が教訓とすべきは、日常

生活の中で選択の機会を活かすことである、と思っています。

>ところで、先日、〇〇の頭のがんちゃんに交渉してみまし
>た！「悪い細胞なんだから良い細胞になって」と。そしたらツ
>ーンと冷たい感触が手に伝わってきました。なるほど、本人、
>自分が悪い細胞なんて思ってない。ボクは悪くないのに何なん
>だよと怒っているわけです。交渉決裂(´_`;)！で、あまり余計
>な事言わず、とにかく前のように「治った、治った」と心で唱
>えつつ気功をやることにしました。

わたしは与えられたものだけでやっているんで、自分で努力して
やっているわけではないので、なかなか適切なアドバイスができ
ないのですが、以前お話したとは思いますが、冷感に関してのコ
メントを二、三しておきます。

東洋医学の見解と一致することですが、一般に重い病気は気を受
けている人は患部に冷感を感じます。ただし、気を送り続けると、
温感に変わるので、心配しないようにいうことにしています。

また、鍼灸学校では、強い気は冷たく感じられるという話を聞き
ました。

Jさんの場合は、ご自分が感じられたことで、後者にあたるか
もしれません。あるいは、がん君の反応としては前者なのかもし
れません。そのことがよいかどうかはにわかには判断はしかねま
す。

なお、どのように送るかということについては、わたしはオース
トラリアのヒーラーのジュディス・カーペンターと同じ立場です。
彼女は「太陽との出会い」（ヴォイス出版）の中で確か、「よくな
れと思わずにヒーリングをしている」といっていたと思います。
わたしも同じ立場ですが、妻は「治れ」と思ってやるようにとアド
バイスしてくれます(^o^;

まあ、どちらがよいのかは本当のところは分かりません。…おそら
くは、雑念が入らずに、慢心が入らずに送れば、どちらでもよいよ
うにも思います。

>それと、「呼吸法」、やってみましたが、Σ(´◇`*)エェッ!?
>というほど効きます。昨日、眼精疲労から来る頭痛がひどかつ
>たのですが、吐く時に一旦止めてもう一度手足の先へ吐き下ろ

>すように息を吐くだけなのに、頭痛が一気に軽くなりました。

まったく自己流の呼吸法ですが、お役に立ててよかったです。
呼吸について、「神との対話」の中ではこういう話しもあります。

「つぎに毎日時間をつくって、自分自身のなかの世界に入っていくなさい。
この内なる世界を通るときには、外の世界のあらゆる考えやイメージを捨てなさい。心をからっぽにしなさい。深呼吸をして、自分の呼吸に意識を集中しなさい。呼吸をマントラに——自分を自分自身のなかに連れていくマントラにしなさい。

つぎに両目のすぐ上の、額の中心部分に意識を集中しなさい。内なる目でそこを「見つめ」なさい。何もない暗い場所を見つづけていると何かが「見えて」くるから、呼吸に意識を集中しながら。それを見つめなさい。深く見つめなさい。そこに何かを「置いて」はいけない。すでにそこにあるものがあなたの意識に見えてくるのを待ちなさい。

ふいに何かが表れる。多くの人は踊る炎のように見える。その炎が見えるだけでなく感じられる。その感じが身体全体にひろがる。その感じをあなたは「愛」と呼ぶかもしれない。あなたは優しく、穏やかな涙にくれるかもしれない。それなら涙があふれるままにしておきなさい。そして——あなたの魂に「こんにちは」と言いなさい。」

高塚恒夫

11月4日2006年、6月7日、8日2007年

●選択～為すこと（加筆して再掲）

右にある山を左に移すことはできないが、右にあるあなたの考えを左に移すことはできると思うかもしれない。

だが、山と同じように、あなたの考えもまた移すことができないことを知るべきである。

もちろん右にある考えは左に移すことができ、右にある山も左に移すことはできるが、あなたは移したことがないことを知るべきである。

そしてまた、実は、この移すことができる、ということが<あなた自身>であり、これができないということは、すなわち、<あなた自身>がない、ということを知るべきである。

また、あなたは右にいることが自分であり、左にいることが他人である、と思っているかもしれないが、右を左に移すことが自分自身であり、そのような自分を存在させたことがないことを知るべきである。

(11月6日掲示板) (6月7日2007年掲示板) (加筆して草稿要転記)

●意識のある人生

相手のことを痛めないようにすること。

相手のことを育てようとする事。

(参考) 黒住宗忠のこころ観

(参考) シュタイナー「何を話せば相手が一步前に進めるか」

●神棚

今日は朝、神棚に手を合わせずに出てきたが、神棚はこの世界全体である。だから、いつでも、どこでも世界に向けて手を合わせればよい。

(11月9日掲示板)

●柴田さんへの返信

高塚さん、おはようございます。

ご丁寧な返信内容、感謝しています。

私は小さい頃から、何をやるにも人の3倍時間がかかると、自分でも思っていますから、やはりじっくり読み込む方がよいみたいです。

「神との対話。365日の言葉」で11月のはじめには、

「誰でも、自分がなぜ、何をしているかを理解すれば、何でも愛することが出来る。」とあり。

Nov4には、

「あなたが最も不安に思い、恐れるものが、あなたをいちばん苦しめる。不安は磁石のように対象を引き寄せる。」

とあります。たまに開いてみると、関心と反省、そして感謝で頭が下がる様な事が書いてあります。依存するのではなく、自分を表現出来たらと思います。

ご紹介頂いている著者の本も読んでみます。読んでいる本の一文でも自分の心に響いたら、その本はいい本だよ。って教わった事があります。これはいい考え方だと私も思います。

いつもいつも、ご丁寧に接して頂いて感謝しています。
ありがとうございます。

柴田。

■蛇足ですが

「神との対話」の神は人間とのコミュニケーションの道具として言葉を用いることはめったにないと言っています。それは言葉が誤解してとられることが多いからだといいます。そうはいつでも、やはり創造主の言葉はそれだけの響きをもって伝わってきます。

「誰でも、自分がなぜ、何をしているかを理解すれば、何でも愛することができる。」

この言葉はうさんくさい教祖が言ってもおかしくはないのですが、同じ言葉であっても「神との対話」の神と似非教祖が言うのとではやはり胸にひびくものが違います。ここでは、

自分がしているか
なぜしているか
何をしているか

このことを理解すれば、何でも愛することができる、と言っています。

<わたし>、<自己研究>というテーマで時々この掲示板にも書き込んでいますが、わたしは自分自身を観察することはとても大切なことだと思っています。シュタイナーは神秘修行者の第一条件は「畏敬の念を持つこと」と言っていますが、それは批判や裁きを行なう人には真の知識は入ってこないからです。自己という門を批判や裁きにより閉ざしている人には真の知識は入り込む余地がないのです。このことは自己を見る場合にも言えることです。

自分がしているか
なぜしているか
何をしているか

これらについて嘘をつくのが人間です。この嘘はなかなか巧妙なので気づかずに通り過ぎてしまいます。

自分がしているか？

そんなことは当たり前であると言います。

自分がしたことなどないのにはです。

なぜしているか？

相手のために思っていることだと言います。

本当は自分のためにしているのにはです。

何をしているか？

相手を助けることをしていると言います。

本当は殺しているのにはです。

ただし、わたしの理解はここまでです。

ここから、

何でも愛することができる

というところまでは、とてもとてもいきません。愛は私の最も理解しがたい言葉なのです。ところで、次の愛の反対語である「不安」は私にとってはなじみあるところの状態なので、分かりやすいです。

「あなたが最も不安に思い、恐れるものが、あなたをいちばん苦しめる。不安は磁石のように対象を引き寄せる。」

1巻の34ページには、愛と不安について次のように語っています。

「人間の行動のすべては、愛か不安に根ざしている。……」

不安はちぢこまり、閉ざし、引きこもり、走り、隠れ、蓄え、傷つけるエネルギーである。

愛は広がり、解放し、送り出し、とどまり、明るみに出し、分け合い、癒すエネルギーである。

不安だから身体を衣服で包むのであって、愛があれば裸で立つことができる。不安があるから、もっているものすべてにしがみつき、かじりつくが、愛があれば、もっているものすべてをあたえることができる。不安はしっかりと抱えこみ、愛は優しく抱きとる。不安はつかみ、愛は解放する。不安はいらだたせ、愛はなだめる。不安は攻撃し、愛は育む。

人間の考え、言葉、行為のすべては、どちらかの感情がもとになっている。ほかに選択の余地はない。

これ以外の選択肢はないからだ。だが、どちらを選ぶかは自由に決められる。」

＜どちらを選ぶかは自由に決められる＞というのがすごい話しです。ブッダやイエスやクリシュナだけにしかできない決定でなく、誰にでも決められる、と言っています。今、愛を取るのか、不安を取るのかは。

ただし、愛を取るの簡単ではない。その方法もいろいろ書かれています。そのうちのひとつは、「新しき啓示」(374 ページ サンマーク出版)に書かれています。

「いま、あなたがたは、つぎの瞬間を迎えようとするとき、前もってどんな状態でいようかと決めておくことは、めったにない。その瞬間に何があり何が提供されるかを見てから、それに反応して自分の状態が決まる。

結果として、悲しくなるかもしれない。幸せになるかもしれない。失望するかもしれないし、高揚するかもしれない。

だが、ある瞬間を迎える前に、自分のあり方を決めておいたとしよう。その瞬間がどんなものであっても、安らかでいようと決める。そうしたら、その瞬間の体験には違いが生じると思わないか？ もちろん、違いは生じるよ。

教えてあげよう。ある瞬間が現れる前にあなたがたがそれをどんな瞬間にするかを決めるとき、あなたがたは＜マスター＞への道を歩み出す。**瞬間をマスターすることを覚えることが、生きることをマスターするはじまりなのだ。**

外からの瞬間が何をもたらそうとも、自分の内なる状態を平和や愛や理解、共感、分かち合い、赦しにすると前もって決めておけば、外の世界はあなたに対する力を失う。」

現実にできる方法です。気づいたときにしか、この話しを思い出したときにしかできないことですが、そのときに、試みることはできる方法です。つづいて、愛という言葉は使っていませんが、＜自由という人間存在=愛＞を語っている美しい言葉です。

「世界が平和でもなんでもないとき、どうすれば平和でいられるか？

世界が愛でもなんでもないとき、どうすれば愛でいられるか？

世界が赦しでもなんでもないとき、どうすれば赦しでいられるか？

残る世界がどうであろうと、自分は自分でいると主張することだ。

そうすれば、あなたがふれる世界はゆっくりと変わるだろう。

みんながそうしたらどんなことが起こるか、想像してみるといい。

しかし、自分が何者であるかを知らなければ、自分は自分でいると主張することはできない。

だから、**その決断は前もってしなければならぬ。**

このことをいつも忘れないように。

あなたとは、あなたの存在なのだ。

あなたとは、あなたの行動（doing）ではない。
あなたとは、人間という存在（being）なのだ。」

長々と引用しましたが、「神との対話」シリーズは、柴田さんのみならず、この掲示板を読まれている方、おひとりでも多くの方に読んでいただき、日常という実生活に生かされるようころから願っています。

（11月5日掲示板）

●ヒーリング～条件

今の話ではないし、最近の話でもない。わたしにとっては大昔の話である。こういう人がいた。

胃癌でご両親とみえられた方がいた。成人した会社員である。週一回気功治療を受けられていたが、宗教関係のところでは無料でやってくれるので、そちらで受けたいという。理由は家のローンで一回の治療費 2 千円が苦しいというのである。家と肉体とどちらが大切なのかと言いたかったが、

肺癌の人

■ヒーリング～条件

誤解でヒーリングをやめられた方がいる。どうするか。

受けたくない人に送る必要はない…か、あるいは、誤解が解ければ受けたいに違いないし、受ければ効果があるのは容易に想像できる。諸般の事情で、説得するような状況にはない、一度はご縁のあった方である、せめて遠隔で送ってみるべきか…。

以下は、思い起こした「神との対話」篇の話しである。

「愛とは何なのですか？」

「愛とは、無条件、無際限で、何も必要としない。

無条件だから、表現するために何も求めない。何の見返りも要求しない。仕返しに出し惜しみすることもない。

無際限だから、他人に何の制約も与えない。終わりがなく、いつまでも続く。愛の経験には、境界も障壁もない。

何も必要としないから、自由に与えられるもの以外は何もとらない。もってほしいと思われるもの以外は、何ももたない。喜んで歓迎されるもの以外は何も与えない。

そして、愛は自由だ。愛とは自由であるものだ。自由こそ神のエッセンスであり、愛とは

表現された神だから。」

(「神との友情」上巻 186 ページ サンマーク出版)

想像を絶する定義である。そしてまた、美しい定義である。

愛については何も知らないし、その言葉にうさんくささを感じ、ノーコメントを通す私であるが、この愛の定義は私の無知をすべてとりはらってくれる。

この定義を読んだからには上記の問題の結論は明確である。

しかし、この定義はすごい。蛇足となるが、

「無条件だから、表現するために何も求めない。」

何々がないからできない、とはいわない。何々がないからできないことは確かにある。だが、愛を表現するために求めなければならないものは何もない。今あるものがどれほど貧弱であろうとも、貧弱にみえようとも、愛を表現するための差しさわりにはならない。なぜならかという、愛は無条件だからである。どのような条件でも愛は発揮できるからである。そして不思議なことに、その貧弱にみえる今が愛を表現するための最善の機会なのである。

「無際限だから、他人に何の制約も与えない。終わりがなく、いつまでも続く。」

相手がよい人である場合だけに愛を与えるというのがどれほどゆがんだ愛であるかが分かる。愛には際限が無いから、あらかじめ愛を与える人を選別したりはしない。私の吐いた息は一週間後には地球の裏側の人にも届くように、わたしから発する愛というものがあれば、それはその愛を受けないという人はありえない。愛は吐く息よりも無際限だからである。吐く息を与えられる人が選別できないように、愛を与えられる人も選別できない。

また、愛を受け取らなかったとって、愛を受け取って感謝しなかったかといって、愛を送ることをやめたりはしない。愛は無際限であるから、やめることなどできないからだ。愛であるなら、愛でなくなるようになるということはできないからだ。

「何も必要としないから、自由に与えられるもの以外は何もとらない。もってほしいと思われるもの以外は、何ももたない。喜んで歓迎されるもの以外は何も与えない。」

わたしが愛であれば——そして、人の本性は愛であると「神との対話」の神は言う——、わたしは何も必要としないから、わたしの手元にあるものはいつでも欲しい人に手渡すことができる。そして、手渡すことができるもの以外のものは何もとらない(手渡すことができないものとは何だろうかという問いは残る)。わたしがとろうとするものは、それをあなたに与えるためにとるからであり、それはあなたが喜んで受けとるものだからである。わたしは理不尽にももちたくないものを与えられることがあったとしても、わたしはそれ

をもちつづけたりはしないし、それを他人に押しつづけたりはしない。

「そして、愛は自由だ。愛とは自由であるものだ。自由こそ神のエッセンスであり、愛とは表現された神だから。」

自由であるとは、すべてでありうるということだ。無際限であるということだ。

自由であるとは、自らが原因（由）であるということだ。自らが原因であるので、無条件で、何も必要としない。

私は善にもなりえるし、悪にもなりえる。

そして、その善と悪とをいつでも選ぶことができる。このできることに条件はない。

これこそが愛であり、自由であり、このことをこの世界で体験し、ひとりひとりの自由を表現することが錬金術であり、その錬金術によってできた黄金の身体が神のエッセンス、神の身体である。

この愛の定義は私の今の蛇足を越えて何度も何度も私に働きかけてくることであろう。

（6月8日2007年掲示板）（HP「神との対話私見」に加筆して要転記）

●自他

他人にマッサージをしてもらうのは気持ちがよいが、いくら自分が上手でも自分でやるのは気持ちがよくない。

ただ、人の気持ちに分け入るのは気持ちがよくない。

11月6日、8日、12月9日2006年

●自他

この仮想世界に住んでいる人たちについて「神との対話」の神は次のように語っている。

「人生には、知らないし、自分が知らないことを知らないように見えるひとがいる。彼らは子供と同じだ。育ててやりなさい。

つぎに、知らないが、自分が知らないことを知っているように見えるひとがいる。そういうひとたちには教えてやりなさい。

つぎに、知らないが、自分は知っていると思っているように見えるひとがいる。彼らは危険だ。近づかないようにしなさい。

つぎに、知っていて、自分が知っていることを知らないように見えるひとがいる。彼らは役者だ。楽しめばいい。

つぎに、知っていて、**自分が知っていることを知っている**ように見えるひとがいる。彼らについていくのはやめなさい。知っていることを知っているなら、自分についてこさせようとはしないはずだ。だが、彼らの言葉を注意深く聞きなさい。あなたが知っていることを思い出させてくれるから。

そのために、彼らはあなたがたのもとへ送られてきたのだ。

だから、あなたがたは彼らを呼び寄せたのだ。」

(ニール・ドナルド・ウォルシュ著「神との友情」下巻 74 ページ サンマーク出版)

第一番目の人はこの世界が仮想であると完全に忘れてしまっている（「神との対話」の神は人はこの世界に生まれてくる前にすべてを忘れ去って生まれてくるという。それは忘れていいるからできることがあるからであり、この世界は忘れていいることをひとつひとつ思い出すことによって成り立つという）。このように精神世界に全く関心が向かない人、そのような人には、教えるのでなく、子供のように育ててあげなさい、という。なかなか意味深く、また、慢心のかたまりの私のようなものにはとても難しいことである。つつい教えてあげたくなるからである。

第二番目の人は、知らなければならぬことがある、知っていて当然のことがあるが、それが何だか分からない、という人である。知らないことを自覚している人である。まあ、わたしもこの二番目の人である。だが時々勘違いをして、聞くのでなくベラベラしゃべりすぎるので要注意である。

第三番目の人は、知らないのに知っていると思っ込んでいいる人である。俗にいう似非教祖は典型的な例である。このような御仁にはずいぶんお会いした。幸いなことに深入りせずに離れていったが、「彼らは危険だ。近づかないようにしなさい」とはっきり言っている。要注意人物である。ただ、わが身に皆無とはいいがたいところがあるので、自戒の言葉としたい。

第四番目の人は、この世界で楽しむことに喜びを見出している。一番目の人と違うところは人生に翻弄されないところであろうか。どこか腹がすわっているところがある。そばにいて楽しい人である。

第五番目の人には、なかなかお目にかかれぬ。現代では、お目にかかれても見過ごしてしまうかもしれない。ブッダやイエスやクリシュナ、ババジのような人である。

ヨガナンダの師の師の師であるババジは何百年も生き、地球人の指導者を指導する役目を神から授かっている。ヨガナンダはババジを信奉して、生涯何度かババジと会っている。ある時出会って、簡単なアドバイスをババジから受け、去ろうとするババジを追おうとするが、ババジの霊力により身動きができなくなってしまう。

「知っていることを知っているなら、自分についてこさせようとはしないはずだ」

というのは、まさしくこのことをいっている。ついてこないような人さえついてこさせようとする第三番目の人とはえらい違いである。

なぜついてこさせないようにするのだから？ それは人間の偉大な特質、自由を阻害しないためである。様々な手助けはするが、たとえババジのような偉大な存在であれ、その存在に弟子がとりこまれてしまうような愚は避けるのである。

あなたは何番目の人だろうか？
まわりにいる人は何番目の人だろうか？

育ててあげているだろうか？
教えてあげているだろうか？
近づかないようにしているだろうか？
楽しんでいるだろうか？
ついていかず、言葉を注意深く聞いているだろうか？

(11月8日 2006年) (「神との対話」HP要転記)

■教えること

■シュタイナー

シュタイナーがあげている神秘修行者の第一条件である謙譲はこの第三の人に陥ることを戒めているといえよう。

「神との対話」の人間関係

■第1番目の人

エドガー・ケーシーが子どもを一生懸命育てることは、それだけで霊的価値があるといっているのはこういうことなのだろう。

●意識のある人生

ベクトル～1 治療の気

1巻126～「…人生を「上向させる」には、まず人生についての考えを明確にしなければならぬ。どうなりたいのか、何をしたいか、何が欲しいのか、よく考えなさい。はっきりするまで、考えなさい。そして、はっきりしたら、今度はほかのことは考えず、ほかの可能性を想像しないことだ。
否定的な考えは頭から追い出さなさい。悲観主義を一掃しなさい。疑いを捨てなさい。不安を拒否しなさい。最初の創造的な考えをしっかりとつかんで放

さないように心を鍛えなさい。

あなたの考えがはっきりした確かなものになったら、それを真実として語りなさい。はっきり声に出しなさい。創造の力を呼び出す偉大な号令を使いなさい。「これがわたしである」という号令を。ほかのひとに、「これがわたしである」と宣言しなさい。「これがわたしである」というのは、宇宙で最も力強い宣言だ。あなたが何を考え、何を語るにしても、「これがわたしである」という言葉をきっかけにものごとが動き、体験できるようになる。

宇宙が動く仕組みはそれだけだ。ほかに道はない。宇宙は「これがわたしである」という言葉に応える。瓶から現れる魔法使いが指示に従うように。」

＝＜意識のある生活＞＜選択・創造力＞

11月7日、8日2006年、6月7日2007年、3月25日2011年

●意識のある人生～錬金術

本をどうやって読むかではなく、身体をどうやって読むかである。

NOTEにどうやって書くかではなく、身体にどうやって書くかである。

わたしという身体からすべてが読み解け、

わたしという身体にしかすべては表現できない。

(3月25日2011年掲示板)(草稿要転記)

■「あるヨギの自叙伝」

先生はまた別の機会に、単なる読書のみの無益さを強調された。

「聖典の言葉をたくさん覚えることと理解することとは全く別だ。聖典は、一句一句じっくりと味わって身に着けるならば、靈的悟りを得るための意欲を刺激するうえに役立つが、単なる物知りになるための研究はいくら積み重ねても、なまはんかな知識と偽りの満足が得られるだけで、悟りを得るための役には立たない」

スリ・ユクテスワは、聖典の教え方に関する彼自身の体験談を語ってくれた。所は東ベンガルの森の中の僧院で、彼はそこで著名な教師ダブル・バラヴの教授法を見学した。それは一見単純ではあるがむずかしい方法で、古代のインドではふつうに行なわれていた教授法である。

ダブル・バラヴは、生徒たちを森の静かな場所に集めてすわっていた。彼らの前には、聖典バガヴァッド・ギーターが開かれていた。彼らは約三十分間、一つのページにじっと目を注いでいた。それから目を閉じた。こうしてまた三十分が過ぎた。すると先生は短い注釈をほどこした。彼らは身動きもせず、また一時間瞑想した。そして最後に先生が言った。

「どうだ、この一節の意味がわかったかね？」

「はい、わかりました、先生」生徒の一人が答えた。

「いやいや、まだ十分にはわかっていない。これらの言葉の中には、幾世紀にもわたってインドをたえず若返らせてきた霊的活力が秘められている。それを探みなさい」沈黙のうちにまた一時間が過ぎた。ダブル・バラヴは生徒たちを解散させると、スリ・ユクテスワに向かって尋ねた。

「あなたはバガヴァッド・ギーターをご存知ですか？」

「いいえ、まだほんとうには……。目と心では何度も読んだことがあります」

「この問いに対して、わたしは十人十色の答えを聞きました」

偉大な賢者は、スリ・ユクテスワを祝福しながらほほえんだ。

「聖典の表面的な言葉をただ数多く覚え込むことのみ熱中していると、内なる真の宝を瞑想の静寂の中に探り出す余裕がなくなってしまう」

スリ・ユクテスワも自分の弟子たちを指導するにあたって、これと同様の精神集中による方法を用いた。

「英知は目によって理解されるものではなく、全身の原子に同化されるべきものだ」

先生は言われた。

「一つの真理に対する確信が、単に頭脳だけでなく自分の全存在の中に浸透したとき、はじめてその真理は自分のものになったといえる」。

先生はまた、霊的悟りを得るためにはまず多くの本を読まなければならないという一部の弟子たちの考え方を否定して言われた。」

「いにしへの聖賢たちは、一つの文章の中に、後世の学者たちが何代かかっても注釈しきれないほどの深遠な意味を含ませた。表面的な言葉だけを取り上げて、切りのない議論を続けることは鈍物のすることで、このような方法から得られる進歩は遅々たるものだ。それよりも、“神が存在する”という確信、また、単純な、『神よ』とたえず語りかける気持ちこそ、よりすみやかに解脱をもたらすものだ」

しかし、このような単純さは、ひとたびそれを失った人間にとってはなかなか取り戻しがたいものである。理知偏重主義者たちは聖典を学んでも、ほとんど神とは無縁で、ただ学識がるといふ尊大さを身に着けるだけである。そのような学問的理解に満足を覚えるのは、彼の自我意識なのである。

(パラマンハサ・ヨガナンダ著「あるヨギの自叙伝」136 ページ 森北出版)

■南方熊楠

写本

11月8日、10日、12日 2006年、6月13日 2007年、4月3日 2011年

●意識のある人生

苦悩に取り込まれず、苦悩に意識をのせると、無意識の苦悩とは全く異なった苦悩となる。

ただ呼吸しているのではなく、呼吸に意識をのせると、無意識の呼吸とは全く異なった呼吸となる。

人生に取り込まれず、人生に意識をのせると、無意識の人生とは全く異なった人生となる。

この苦悩、この呼吸、この人生、
これらは、内なる身体を作り、これが錬金術である。

(11月12日掲示板) (草稿要転記)

■意識のある人生

苦悩に取り込まれず、苦悩に意識をのせると、無意識の苦悩とは全く異なった苦悩となる。

この苦悩はわたしの食料となり、内なる身体を作る。

呼吸に取り込まれず、呼吸に意識をのせると、無意識の呼吸とは全く異なった呼吸となる。

この呼吸はわたしの力となり、内なる黄金を作る。

人生に取り込まれず、人生に意識をのせると、無意識の人生とは全く異なった人生となる。

この人生はわたしの自由となり、そこは内なる神殿である。

日常のひとつひとつに意識をのせてみることに、このことが二本足で歩くことである。

生かされているのではなく、生きること、このことが二本足で歩くことである。

二本足で歩き、内なる身体、内なる黄金、内なる神殿を作ることである。

(6月13日2007年掲示板)

▲アセンション

無意識に苦しむのは意味がない。

無意識に呼吸するのは意味がない。

無意識に人生を送るのは意味がない。

もう、そういう時が訪れているのであろう。

卒啄の機

人生に意識をのせると完全なる機会が与えられていることが分かる。

無意識にしかできなかったことがすべて意識的にできることが分かる。

■呼吸

無呼吸へ至る気の呼吸

●わたし～選択

「自分が遊んでちらかしたおもちゃは自分で片づけなさい」と母親からいわれ、子どもはしぶしぶ片づけ始めるが、やはりめんどくさい、と思ってやめて、外に遊びに出る。大人であればこういうかもしれない。片づけるのはストレスになって体に悪いからやらない。

違っているか？ 屁理屈か？ 違っているし、屁理屈ではあるが、正しい。どのように正しいかという、今はそうである、という意味で正しい。「片づけるのはめんどくさい」「片づけるのはストレスになる」というのは、今はそうである、という意味で正しい。ただし、違っているし、屁理屈なのは、ずっとそうではない、ということである。そして、ずっとそうではないことは、今のこの瞬間に変えることができる。変えてみれば、新しい人生を知ることができる。

だが、知るためには選択しなければならない。

なお、選択には二つの選択がある。

ひとつは、これまでとは異なった選択をする、という選択である。

もうひとつは、いちど決めた選択をいつまでも続ける、という選択である。

両方とも、地球人にとってはなかなか難しい。難しいが、意味ある選択であり、しかも、それはできる、という選択である。

(11月10日掲示板)

■

なお、選択には二つの選択がある。

ひとつは、これまでとは異なった選択をする、という選択である。

もうひとつは、いちど決めた選択をいつまでも続ける、という選択である。

この逆は、

いつも同じ反応をする。

いつもその反応を変える。

(参考) 矢印の方向と長さ

11月11日、12月1日 2006年

●ヒーリング～遠隔

頭だけでなく、

身体で呼吸しながら送ってみる。

宇宙で呼吸しながら送ってみる。

●身体

空中浮揚への呼吸。

差別でなく、一体としての呼吸。

足を治す気、呼吸。

虫歯を治す気、呼吸。

■瞑想

一体としての瞑想。

仮想空間での瞑想。

違いとしての一人でなく、

一体としてのひとり

11月12日、14日2006年、6月7日2007年、4月3日2011年

●自他～意識のある人生（加筆して再掲）

患者にならなければ、患者のことは分からない。

相手にならなければ、相手のことは分からない。

分からないから別の人生で——生まれ変わって——なってみる、ということもある。

また、分からないから相手の立場に立ってみる、ということもある。

前者は無意識の人生である。

後者は意識のある人生であり、この世で今できる人生である。

（6月9日2007年掲示板）（記入可）

●ヒーリング

もし仮にわたしの気を受ければどんな病気も治るとしよう。

そうした時にわたしは、病気の人にわたしの気を受ければ治りますよ、といえるであろうか。

いえるとしたら、どのような気持ちでいうのであろうか。

おぼれている人に手を差しのべることに躊躇する人はいないであろう。

だが、病気の人に気功を薦めることには躊躇してしまうというのはどういうことであろう

か。

(12月1日 2006年掲示板)

11月14日、15日、16日、17日、23日 2006年、6月13日、25日、7月12日 2007年

●ヒーリング～無明(原因と結果)・自他

公園で迷子になった子どもが泣いている。

どこから来たのか、分からない。

病気になり、余命一ヶ月と告知される。

なぜ病気になったのか、分からない。

胸が痛くなるような困った状況に陥っている。

なぜこんな目にあうのか、分からない。

迷う、死病、不運、これらの結果は明白であるが、この結果だけからは原因は分からない。

(11月14日 2006年掲示板)

もっと分からないことがある。

公園で遊んでいられること、

日々健康に過ごせること、

何のひっかかりもない人生、

これらはもっと無明である。なぜなら、そのような結果は当たり前のように感じられる、あるいは、感じる以前として過ぎ去っていくので、すなわち、結果を結果としてとらえることさえできないので、もっと原因は分からない。分からない、というより原因を求めない。

(11月15日 2006年掲示板)

では、普通であれば、幸福であれば、結果を見ることができず、もちろん、その原因も求めないかという、かならずしもそうではない。釈迦は王家に生まれたが、自分自身でなく、まわりの人を見て、生老病死の虚しさを感じ取り、出家する。生老病死の原因を求め、その原因を滅するべく修行に出る。

要は、わたしを何と思うかである。

50年後、死病に臥す自分をわたしとすることができるか。

五百キロ離れたところで飢え死にしている子どもをわたしとすることができるか。

生老病死が人間でなく、それを超えた生き方ができるのがわたしであると思うことができるか。

思っていること、感じていること、信じていること、知っていること、すなわち、いま存

在していること、このことだけからしか人生は変わらない。これは凡人も聖人も覚者も同じである。

(11月16日 2006年掲示板)

今現在を見ること、すなわち、結果を見ることは左様に難しい。なぜ難しいかという、わたしを見ていないからである。

いつも何を見ているかという、他人のことを見ている、しかも自分と比較した他人を見ている。他人が自分より不幸であれば、幸福である。幸福とはいわないまでも、こころ穏やかでいられる。こころ穏やかとはいわないまでも、わがこととは感じられない。

いつも何を見ているかという、モノを見ている、自分が持つことができると思うモノを見ている。もしお金があったなら自分が持つことができると思うモノを見ている。持てば、持っていることが当たり前となり、決して手放そうとはしないものを見ている。それは自分のモノとは決してならないモノをいつも見ている。

いつも何を見ているかという、不安だらけの未来を見ている。それは十年後であったり、明日のことであったり、一瞬後の相手の表情であったりする。その不安は平穏と置き換えられる不安をいつも見ている。

私はわたしでないものをいつも見ているので、

今の自分が何であるか知らない。

今という結果が何であるか知らない。

今という原因が何であるか知らない。

今が何であるかを知らずに、幸運であるとか、不運であるとか、たまたまそうであるとか、私がしたことであるとか、人様のおかげであるとか、あるいは、これをしないと不幸になるとか、これをすれば幸福になるとか、いろいろいうが、今という自分が何であるかを知り、今というわたしを用いる人は少ない。

(11月18日 2006年掲示板・改変) (草稿・所有・わたし要転記)

私は原因と結果を知らない。私は原因となることができるのだが、そのように考えたことがないので、原因と結果については私以外の要素の帰する。あるいは、考えたことさえない。だが、もし、わたしが原因となることができるとするなら、今の私の結果はわたしの不在、あるいは、わたしの誤用であるとするなら、私の人生は

わたしを見ることができれば、わたしにふれることができれば、人生は変わる。

←自己研究 あるいは 絶頂体験

わたしを見るときはどのようなことであろうか。

結果が見られないということではない。

結果がなぜ見られないか。

無意識に生きているから。

わたしの人生の意図を知らないから。

結果の感じ取ったものだけが新しい人生、すなわち、原因の滅却

私が幸せのようにみえても幸せと感じられない人がいる。

原因と結果の一本の線。

まずは、原因が分からない人生を歩いているということを知ることである。

原因を作り、その結果が得られれば、結果から原因も類推できるようになるかもしれない。

病気で気づくのではなく、喜びで気づく。

■ 諸行無常

諸々の出来事は常ではない。

もし、わたしがなければ、外の出来事はわたしとは無関係に生じ、翻弄され、むなしい世界に生きているように感じるかもしれない。

だが、もし、わたしがあれば、わたしがいつも何を選択するかを知っていれば、外の出来事はわたしとシンクロして生じることを知るであろう。

諸々の出来事はわたしと一致して常ではないことを知るであろう。

(加筆して掲示板記入予定)

● 身体～意識のある人生

背骨を伸ばす。

足底を地面につく。

力を抜く（緊張を取る）（特に顔面、肩）。

両手は自由に動く。

どのような状態であれ、気を送れる姿勢であること（あるいは、不安でなく愛であること）。

頭で呼吸する、身体全体で呼吸する、宇宙全体で呼吸をする。

宇宙のわたしでいる。

これがわたしであると立っている。

（6月25日掲示板）（7月12日2007年掲示板）

11月15日、12月1日、12月15日2006年

●意識のある人生～食べ物

物質、

今日は何を入れたらろうか。

空気、

今日は何を入れたらろうか。

印象、

今日は何を入れたらろうか。

穏やかなエネルギーもつ物質、

穏やかな気を出し入れする呼吸、

穏やかな気持ちが残る印象、

そのようなものを今日わたしは食べたろうか。

そのようなものを明日わたしは食べるだろうか。

そのようなものを、今この瞬間、わたしは食べるだろうか。

意識があれば、そのようなものをいつも食べることができる、

なければ、食べたり食べなかったりする、

意識があれば、わたしが決めるが、

なければ、わたしの外が決めるからである。

（12月15日掲示板）

■与えれば受け取れるという印象・・・印象の「発現と受け取り」の性格

（参考）「神との対話」3巻196ページ

「あなたは、『身体と一緒にだと魂がそんなに不幸なら、どうしてさっさと離れてしまわないのだろう？』と言った。」

「ああ、はい、言いました。」

「魂は、離れるのだよ。それも、前に説明した『死』の場合だけではない。だが、不幸だから離れるのではなく再生したいから、若返りたいから、身体から離れる。」

「すると、しょっちゅう離れるわけですか。」

「毎日。」

「魂は毎日、身体から離れているんですか？ いつですか？」

「魂がもっと大きな経験をしたと思ったとき。その経験で若返る。」

「ただ、離れるんですか？」

「そう。魂はいつでも身体から離れる。一生を通じて何度でも。だから、眠りというものを編み出したのだ。」

11月16日、17日 2006年、6月10日 2007年、4月3日、4日 2011年

●意識のある人生～印象

何にふれたことがあるか。

何年かに一回、イエスのような行為をしたことがある。

すなわち、何年かに一回、イエスの行為にふれたことがある。

この行為はわたしを変えた。

いつも何にふれているか。

では今からあらゆる瞬間に、イエスのような行為をしてみたらどのようになるだろうか。

いつもいつもイエスのような行為にふれていたらどうなるだろうか。

(4月4日 2011年掲示板)

●自他

他人によって被害を受けたことはない、受けたと思ったことはあるが、その被害は見方を変えれば、わたしが成長していく糧となる。

見方を変えなければ、憎しみとなり、相手と私と世界を傷つけることになる。

●神との対話

アンチョコであることを重々承知しておくこと。

アンチョコの利用法は答えを書き写すことではない。

11月17日、23日、27日 2006年、6月10日、13日 2007年、4月3日、4日 2011年

●行為への愛

見返りを要求しない行為、これは分かる。

だが、結果を要求しない行為～～これがよう分からん

●沈黙（再掲）

誰にも決して話そうとは思わないことこと、

誰にも決して話さないと決めたこと、

それは語ることが恥ずかしいからでなく、それを語ると、自分から何かが欠け落ちてしま
うからである。

そういう沈黙もある。

（11月23日2006年掲示板）（4月8日2011年掲示板再掲）

■沈黙のウォーキング

■ゲスト・グレーザー

たとえば、ゲスト・グレーザーが

■グルジェフワークのおしゃべりの項

■ユングの石

■合唱

ひとりひとりが異なるから沈黙する

それは同じにすることがかなわないところがあるからである。

ただし、合唱する分には異なる方がよい。

沈黙の合唱というものがもしかしたらあるのかもしれない。

（加筆して掲示板記入予定）

■「神との対話」

3巻196ページ

「…日常の瞑想は、そこへ到達する方法のひとつだ。しかし、努力し、献身しなければな
らない。外的な報酬ではなく、内的経験を求めようという決意が必要だ。

このことも、覚えておくといい。沈黙は秘密を蔵している。だから、最も美しいのは、沈
黙の音だ。それが魂の歌だ。魂の沈黙ではなく世界の騒音を信じると、迷ってしまうよ。」

「それでは、毎日瞑想するというのは、良い考えなんですね。」

「良い考え？ そうだな。だが、いま、言っただろう。魂には、さまざまな歌い方がある。

沈黙の美しい音は、あちこちで聞こえるかもしれない。」

祈りのなかに沈黙を聞く者もいる。仕事の歌を歌う者もいる。静かな瞑想に秘密を求める者もいれば、もっとにぎやかな環境を選ぶ者もいる。…」

■ 「ヒマラヤ聖者の生活探求」

059～沈黙の力・

遙は大へん美しくその土地一帯を見廟かす高台に建っている。建築してから三千年たっており白大理石で造られているが、修理などの必要がないというのである。というのは。建物のどこかが欠け落ちたりしても、ひとりでに直ってしまうからである。このことはわたしたちの隊員も証明する。

エミール氏はいう。

「これは沈黙の廟、『力の場』と言われています。沈黙は力である。わたしたちが心の中にある沈黙の場に達したとき、わたしたちは力の場——そこではすべては一つの力である——即ち、神に達するのです。集中された力は神である。『**黙せよ、しかして自らの神なることを知れ**』とある通りです。散乱した力は騒音となり、集中した力は沈黙となります。沈黙の中において神につながるのです。神と一つになるのです。わたしたちは、集中によってすべての力と一つになるのです。これは人間が神より受けついで遺産であります。『**われと神とは一つである**』。神の力と一つになるには、**只一つの道があるだけです。それは神と意識的につながることです。**それは我（われ）の外で為しうるものではない。なぜなら、神は我が内から現われるものであるからです。『**主はその聖なる宮居にいます。全地よ主のみ前に沈黙せよ**』であります。

我が外より我が内なる沈黙（しじま）に向かったとき、われは神との意識的な融合を望みうるのです。神は人間に活用される為にあるのであり、人間は常に神を活用することになることを、何時かは悟るときが来るでしょう。」

■ 逆の力

宇宙に向かって宣言することによって生じる力

「神との対話」 1巻 126 ページ

「…人生を「上向させる」には、まず人生についての考えを明確にしなければならない。どうなりたいのか、何をしたいか、何が欲しいのか、よく考えなさい。はっきりするまで、考えなさい。そして、**はっきりしたら、今度はほかのことは考えず、ほかの可能性を想像しないことだ。**

否定的な考えは頭から追い出さなさい。悲観主義を一掃しなさい。疑いを捨てなさい。不安を拒否しなさい。最初の創造的な考えをしっかりとつかんで放さないように心を鍛えなさい

い。あなたの考えがはっきりした確かなものになったら、それを真実として語りなさい。はっきりと声に出しなさい。創造の力を呼び出す偉大な号令を使いなさい。「これがわたしである」という号令を。ほかのひとに、「これがわたしである」と宣言しなさい。「これがわたしである」というのは、宇宙で最も力強い宣言だ。あなたが何を考え、何を語るにしても、「これがわたしである」という言葉をきっかけにものごとが動き、体験できるようになる。宇宙が動く仕組みはそれだけだ。ほかに道はない。宇宙は「これがわたしである」という言葉に応える。瓶から現れる魔法使いが指示に従うように。」

▲（神との対話 3 巻 12 章）

■「あるヨギの自叙伝」

1 3 6～読書

先生はまた別の機会に、単なる読書のみの無益さを強調された。

「聖典の言葉をたくさん覚えることと理解することとは全く別だ。聖典は、一句一句じっくりと味わって身に着けるならば、靈的悟りを得るための意欲を刺激するうえに役立つが、単なる物知りになるための研究はいくら積み重ねても、なまはんかな知識と偽りの満足が得られるだけで、悟りを得るための役には立たない」

スリ・ユクテスワは、聖典の教え方に関する彼自身の体験談を語ってくれた。所は東ベンガルの森の中の僧院で、彼はそこで著名な教師ダブル・バラヴの教授法を見学した。それは一見単純ではあるがむずかしい方法で、古代のインドではふつうに行なわれていた教授法である。

ダブル・バラヴは、生徒たちを森の静かな場所に集めてすわっていた。彼らの前には、聖典バガヴァッド・ギーターが開かれていた。彼らは約三十分間、一つのページにじっと目を注いでいた。それから目を閉じた。こうしてまた三十分が過ぎた。すると先生は短い注釈をほどこした。彼らは身動きもせずに、また一時間瞑想した。そして最後に先生が言った。

「どうだ、この一節の意味がわかったかね？」

「はい、わかりました、先生」生徒の一人が答えた。

「いやいや、まだ十分にはわかっていない。これらの言葉の中には、幾世紀にもわたってインドをたえず若返らせてきた靈的活力が秘められている。それを探しなさい」

沈黙のうちにまた一時間が過ぎた。ダブル・バラヴは生徒たちを解散させると、スリ・ユクテスワに向かって尋ねた。

「あなたはバガヴァッド・ギーターをご存知ですか？」

「いいえ、まだほんとうには……。目と心では何度も読んだことがありますが」

「この問いに対して、わたしは十人十色の答えを聞きました」

偉大な賢者は、スリ・ユクテスワを祝福しながらほほえんだ。

「聖典の表面的な言葉をただ数多く覚え込むことにのみ熱中していると、内なる真の宝を瞑想の静寂の中に探り出す余裕がなくなってしまう」

スリ・ユクテスワも自分の弟子たちを指導するにあたって、これと同様の精神集中による方法を用いた。

「英知は目によって理解されるものではなく、全身の原子に同化されるべきものだ」
先生は言われた。

「一つの真理に対する確信が、単に頭脳だけでなく自分の全存在の中に浸透したとき、はじめてその真理は自分のものになったといえる」。

先生はまた、靈的悟りを得るためにはまず多くの本を読まなければならないという一部の弟子たちの考え方を否定して言われた。」

「いにしへの聖賢たちは、一つの文章の中に、後世の学者たちが何代かかっても注釈しきれないほどの深遠な意味を含ませた。表面的な言葉だけを取り上げて、切りのない議論を続けることは鈍物のすること、このような方法から得られる進歩は遅々たるものだ。それよりも、“神が存在する”という確信、また、単純な、『神よ』とたえず語りかける気持ちこそ、よりすみやかに解脱をもたらすものだ」

しかし、このような単純さは、ひとたびそれを失った人間にとってはなかなか取り戻しがたいものである。理知偏重主義者たちは聖典を学んでも、ほとんど神とは無縁で、ただ学識がるという尊大さを身に着けるだけである。そのような学問的理解に満足を感じるのは、彼の自我意識なのである。

(パラマンハサ・ヨガナンダ著「あるヨギの自叙伝」136 ページ 森北出版)

■鉛の沈黙～労働

今日はこれから朝から朝までの夜勤の仕事である。

人生往々にして、食べるための追い立てられるような労働、不安に駆られた鉛のような沈黙の時間というものがあるが、

人生は片時であれ、決して鉛のようにしてはならない。

(6月10日2007年掲示板)

人生に全てのエネルギーを注いでみることに。

一瞬、一瞬に精魂を傾けることに。

すり切れるまで、精と魂とを働かせてみることに。

ただし、その精と魂には必ず意識がのっていること。

●結果

結果が偶然ではないことを知れば、怒ることも落胆することもないであろう。

このことと関連するのか？

行為への愛

● 読書

読書により本はわたしを所有する。

わたしが本を所有するためには生きるしかない。

(注)

今日、たまたま出会ったふたつの言葉。

「誰かが叱ると、気分を害する。何か新しいものに関心をとらえると、即座に、一瞬前に興味をもったものを忘れる。あなたの関心は、次第にあなたをその新しいものに頭から足まで全身溺れるほど執着する。突然あなたは、それを所有せず、あなたは消え失せ、逆に、あなたはそれに縛られ、その中に消失してしまった。実のところ、それがあなたを所有し、とりこにしてしまう。夢中になる、心を奪われるという性質は、多くの異なる外観を装っているが、われわれ一人一人にみられる属性である。」

(グルジェフ著「グルジェフ弟子たちに語る」75 ページ めるくまー社)

「真理は教えられず、ただ生きられるのみ。」

——スイス国立図書館にある落書き 1983年6月

(マーティン・グリーン著「真理の山」扉 平凡社)

(11月17日2006年掲示板)(3月9日2011年掲示板再掲)

11月19日、20日2006年、3月3日、8日2011年

● わたし

記録魔高塚は毎日、日記だけでなく、実は、毎時間、毎時間どのように過ごしたかという「時記」もつけている。「時記」の最後にはその日の自己採点をするが、満点の日はもちろんまだない。

ではいつか叶えられるであろう、満点の日とはどういう日かということ、それは一日24時間、一度もこころを痛めなかったという日であれば、それは満点、最高の日であろうと思っている。

ところで、こころを痛めるとはどういうことだろうか。

(11月20日2006年掲示板)(加筆して質問として再掲)

「黒住教」の教祖である黒住宗忠はこのように言っている。

「宗忠自身は腹を立て物を苦にするという程度のところは無論卒業していたにちがいないが、それでもなお、心をいためぬという一事については、人知れぬ努力を絶えず積み重ねていたようである。或る時、河本村の森丈八郎の家へ宗忠が講釈に行く途中、雨あがりで濁流の渦巻いている川を眼下に見ながら橋を渡ったが、その時に

「はからずも胸元を驚かした。」

と言って、その日の講釈には、

「わが魂をいたましむることなかれとある天照大神の御神宣に背きたる段、取かえしもならぬ勿体なく恐れ多きことを仕れり。おのおの方にもどうぞ油断なく御神宣の御趣意をあつく御守りありたし。」(時尾講録 5)

と述べた。」

(原敬吾著「黒住宗忠」51 ページ 吉川弘文館)

「神との対話」風にいうと、不安になるということだろうか。ただ、こころを痛めることはこれだけにとどまらなないと考えている。

(11月22日 2006年)

どんなことでも一生懸命にやる。一生懸命にできることであれば、どんなことでもよい。そして、どんなことでも一生懸命できるわけではないのが人間である。各人なりの一生懸命できるものをすればよいと思う。

- 1 こころを尽くさない時には、こころを傷めている。
エネルギーの不完全使用はこころを傷める。
- 2 高いところにいる時、見捨てる時、自暴自棄になる時。

■はだか

裸で立つこと

神との対話では、このこころを

「ほんとうは、愛し方を変えないほうがひどい目にあうのだ。」

「人間の行動のすべては、愛か不安に根ざしている。……」

不安はちぢこまり、閉ざし、引きこもり、走り、隠れ、蓄え、傷つけるエネルギーである。愛は広がり、解放し、送り出し、とどまり、明るみに出し、分け合い、癒すエネルギーである。

不安だから身体を衣服で包むのであって、愛があれば裸で立つことができる。不安があるから、もっているものすべてにしがみつきの、かじりつくが、愛があれば、もっているものすべてをあたえることができる。不安はしっかりと抱えこみ、愛は優しく抱きとる。不安

はつかみ、愛は解放する。不安はいらだたせ、愛はなだめる。不安は攻撃し、愛は育む。
人間の考え、言葉、行為のすべては、どちらかの感情がもとになっている。ほかに選択の
余地はない。

これ以外の選択肢はないからだ。だが、どちらを選ぶかは自由に決められる。」

(「神との対話」第1巻 34 ページ サンマーク出版)

■怒り

■「ヒマラヤ聖者の生活探求」では
第2巻 59 ページ後ろから3行目

11月20日 2006年

●意識のある人生

緊張をぬくこと、身体1も身体2も。そこで、初めて身体3を活かすことができる。身体
3に寄与することができる。

●意識のある人生～能力

思いは実現する。だが、イエスのようにすべての思いがすべてすぐに実現するのであれば、
この世の中ははちゃめちやになる。お菓子の家のような世界になるか、少数の人だけしか
残らぬ廃墟の世界となってしまうであろう(まあ、実際に両方の世界が実現しつつあるが)。
その意味で、われわれの「思いを実現する能力」はゆっくりと発揮されるというあたりで、
ちょうどよいのかもしれない。

また、テレパシーの能力についてもそうである。昨日携帯電話を忘れて、「こんなとき、人
間にテレパシー能力があれば、携帯電話などまるっきりいらないのだが」と思ったが、こ
ちらの考えていることが全て伝わってしまったのは、言行不一致どころが言言不一致である
ことをあつという間に見破られてしまう。すべての人がそのような能力を持ってしまっ
ては、誰も信頼できない世界であるということになってしまうかもしれない(ただし、自分
は例外であるという身勝手な注釈つきであるが)。

まあ、そういう意味で人間の能力というのは五官による能力を主としていることでちょう
どよいのかもしれない。

だが、ひょっとしてこういう特殊能力があつて、思いの実現化、思いの開陳がある方がよ
り早く<わたしは何であるか>ということに気づかされて、それはそれでよい方向に向う
のではないかと思ったりもする。ということで、とりあえずは、<今のわたしの思いがた
だちに実現したら、どうなるか>、<わたしの思いをすべての人に見られることになっ
たら、どうなるか>、このことを重々自分自身省みるのが肝要であると思っている。

(11月21日掲示板)

●瞑想と自己観察

11月21日 2006年

●時空

忘れれば、記憶がなくなれば、時空を超えたことになる。

前世はそうにしてあるのか？

11月22日、12月11日、15日、16日 2006年、5月29日、30日 2007年

●意識のある人生～原因と結果・わたし

知っておくべきこと。

結果は最善である。何に関して最善であるかという、自分が成長するためにである。

結果を通じて原因を知ることができるからである。

そして、さらに知るべきことは、原因を知り、原因を変えれば、結果は変えることができるということである。

すなわち、結果を主人公とするのではなく、原因を主人公とすることができるということである。

すなわち、結果は主人公ではなく、＜原因であるわたし＞が人生の主人公になれるということである。

それゆえ、

結果を変えようとするのではなく、原因を変えようとするのである。

わたしを変えようとするのである。

わたしを創り出そうとするのである。

(5月30日 2007年掲示板)

原因とは何か。

わたしの考えであり、言葉であり、行為である。

(加筆して掲示板記入予定)

11月23日、12月11日 2006年、3月3日、8日 2011年

●善と悪

20年前であれば、お金に困っている人がいれば、何の躊躇もなくウン十万円貸すことも、あげることもできた。だが、今は同じようにはできない。同じように貸すかもしれない、同じようにあげるかもしれないが、躊躇はある。20年前と今とではわたし自身をとりまく

状況が変わってしまったからである。

以前できた同じことをまた異なった状況で行うために今があるのかもしれないとふと思ったりする。

同じことが同じ気持ちでできなくなる。

同じことをまったく違う気持ちになったためにできなくなり、

そして、

まわりまわって、また、同じことを同じ気持ちでできるようになる。

ただ、この新たな行為は以前の行為とは全く異なる。

これは成長である。

だから、今できることにはたいした意味はない。

これからできるようになることにだけ意味がある。

だから、きっと、できないこととは、非難されることではないし、

できないことに追いやられている環境というものも本当は最善の環境であるといえる。

なぜなら、＜できなくなり、そして、できるようになるからである＞。

(11月24日 2006年掲示板)

●条件～勤務・エネルギー

今の仕事でしかできないことがあり、今の仕事の方がわたしにとってよいことがある。

その今の仕事を持つ側面が何であるかについて考えてみる。

電話を通じて多くの人に接することができる。

普通ではお会いできない人、そして、その人の特殊な側面に接することができる。

今の七倍の仕事をする事。

今の七倍の前向きな気持ちを持つこと。

何事も嫌だとは言えない。

嫌だと思えることは、変えることができる。

エネルギーを注ぎ込むと、相手の姿は変わる。

▲スコット・カニンガムの感情

>多くの人に接することができる

ただし、グルジェフのように、エネルギーを注ぎこまなければ意味はない。

■わたし～エネルギー

今、あなたの能力を出し惜しみしていること、そのことに10倍のエネルギーを注いでみる。
そうすれば、あなたが出し惜しみしていた「たいしたことがないこと」の姿が変わる。

(12月12日 2006年掲示板)

11月24日、27日、28日 2006年、3月22日 2011年

●意識のある人生

今何を考えていたか、意識する。

このことは、すればできるし、しなければできない。

今考えていた過去の悔恨を逆の考えにする。

今考えていた未来の不安を逆の考えにする。

今考えていた他人の思惑を逆の考えにする。

このことは、すればできる。

しなければできない。

このことは飛行機に乗るのか乗らないのか、というのと同じ問題である。

乗れば、海の向こうに行くことができるし、乗らなければ、行くことができない。

行きたければ乗るし、行きたくなければ乗らない、ただそれだけである。

では、海の向こうに何があるのか。

わたしはまだ飛行中であるので、何があるかは分からない。ただ、今までの私にあきあきしているだけである。今までの地にあきあきしているだけである。新しい地に飛び立ちただけである。

操縦桿を握っているのがわたしなのかどうなのかも分からない。目的地もはっきりしない。

しかし、海の向こうに新たな地があるはずである。

(11月28日 2006年掲示板) (3月22日 2011年掲示板加筆して再掲)

■一意専心

今は何の時であるのか。

今どのような気持ちでいるか、これを意識する。

このことは、すればできるし、しなければできない。

どのようなことがあっても、それに反応するのはわたしである。

どのようなことがあっても、その反応は昨日までの反応と異なる反応にできる。
どのようなことがあっても、わたしはあなたと路傍の石と道端の草花と青空の雲にいる。
どのようなことがあっても、おそれずに相手と私と世界と出来事を見てられる。

このことは、すればできる。
しなければできない。

わたしはする。
(掲示板記入可)

■愛

逆とは何か、愛である。その方法は。
深呼吸
静寂

●意識のある人生

内なる感覚を第一義にして人生を送る。

11月27日 2006年

●教室

わたしの勧めることがあり、それを勧める。
参加者のしたいことがあり、その実現の手助けをする。

11月28日、12月11日、15日 2006年、4月13日 011年

●ヒーリング～OJさんへのメール

昨日はお礼いただき、ありがとうございました。おまけのマックサービス券も有効に利用させていただきます(^o^)/

心と体の因果関係はなかなか正比例するような関係ではないようです。もちろん、ある程度までは関係はあるのですが…、他人には見えない隠れた美点（あるいは、＜他人A＞が見ることの＜できない＞美点）とか、他者への大きな役割を背負っていて（正邪は無関係）簡単には死ねないとか、いろいろあるようですね…。

心と体の長寿の因果関係については、自由に生きるということが何より重要なファクターと考えています。ただし、地球人の場合、このような方は体に入れる食物、飲み物、煙に関して無頓着で、こちらの影響でダメージを受けてしまうようです。

●一日

今日食べるものは今日食べ、明日には食べない。

これは当たり前である。

同じように、今日片づけることは今日片づけ、明日には片づけない。

これも当たり前であるはずだ。

食べ物だけが今日あるのではない。

(12月15日掲示板)

■時空

今日食べるものを明日に二食分食べるできない。

体をこわすだけである。

同じように、今日片付けることは明日に二回分片付けることはできない。

体をこわすだけである。

(記入可)

ただ、人生で優先すべきことがある。

多く人は、食べることが優先して、片づけることは優先しない。

あるいは、スティーブン・キングは

●夢

夢にも固定観念が出てくる。

8でなく7であったこと。

狂女、インド、ケーキ

●自他

不当だと怒る前に、

その不当がゆえにわたしに何かがもたらされたのではないかと

自省してみる。

(記入可)

●神と私

感じること

体験の流れに気づくこと

NOTE

●自己観察

自己を想起したときに、宇宙の呼吸を10回してみる。

呼吸をしながら自己を観察してみる。

立ち止まること。

●ヒーリング

FN 君への遠隔治療でのシンクロ（わたしが送るのを終わると、目覚めること）は、自分の力に拠るものではない…？…自分か？…神を使ったヒーリング

●ヒーリング

大切な人が体を入れかえたのであれば、あなたはせめてところを入れかえた方がよい。だが、実際は、体を入れかえることより、ところを入れかえることの方が難しい。

（12月15日 2006年掲示板）

11月29日、12月1日、2日 2006年

●ヒーリング

「気で病気を治すのはわたしではない」と謙虚になれるなら、
「指を動かすのもわたしではないかもしれない」と気づくべきである。
「指を動かすのはわたしである」というのなら、
「気で病気を治すのもわたしである」といえるようになるべきである。

（12月2日掲示板）

もし、気で病気を治すのはわたしによってではない、と謙虚になれるなら、
わたしが体を動かすことができるのはわたしによってではない、と謙虚になるべきである。
もし、体を動かすことができるのはわたしによってである、といえるなら、
気で病気を治すのはわたしによってである、というべきである。

★12月 2006年

12月3日 2006年

●高塚「気」ヒーリングルームのご案内

当ルームは、常識と良識をもって学ぶ「気」の教室です。「気」とは何か、「人間」とは何か、「宇宙」とは何か、主宰者の資料をもとに様々な観点から考えていきます。営利を目的としておりません。また、宗教団体ともいっさい関係はありません。

■「教室」のご案内

人間とは何であるか。

あなたとは何であるか。

このことを主宰者の資料をもとにしてともに考えていく勉強会です。

営利は目的としておりません。また、宗教団体ともいっさい関係はありません。

■教室のご案内

あなたに何ができて何ができないか。

どのようにすれば、あなたのしたいことができるようになるのか。

どのようにすれば、あなたができないでいることの原因を取り除くことができるのか。

このことを主宰者の資料をもとにして、一緒に考えていこうという勉強会です。

営利は目的としておりません。また、宗教団体とも関係はありません。

■教室のご案内

あなたがしたいことが開き、広がっていく、そのような人生、

それは、あなた自身が決めることですが、決めることができるように一緒に考えてみます。

営利は目的としておりません。また、宗教団体とも関係はありません。

2月の予定

2月6日（火） 19時～21時 市ヶ谷「南海記念診療所」1階

2月13日（火） 19時～21時 市ヶ谷「南海記念診療所」1階

2月18日（日） 14時～17時 千葉「西小中台団地事務所」

2月27日（火） 19時～21時 市ヶ谷「南海記念診療所」1階

いずれも会費は各回 1000 円です。

気功体操、呼吸法、瞑想も行います。

（以上、日程は予定ですので、変更になる場合もあります。）

お問い合わせは、下記の高塚宛メールまたは携帯電話へお願いいたします。

ki_healing_room@hotmail.com

080-1017-5079

主宰者紹介

高塚恒夫

昭和26年生まれ。東京都立大学哲学科卒業後、東京医療専門学校入学、針灸師、マッサージ師免許取得。文理シナジー学会会員。平成元年にいとこの高塚光氏にスプーン曲げを指導してもらった後、ヒーリング能力に目覚め、以来、夜間働きながら、昼間は「気」の啓

蒙活動とヒーリング活動に従事する。

趣味は将棋と囲碁。

(掲示板記入予定)

12月4日、11日 2006年

●エネルギー

精魂を使い果たすのでなく、

精と魂をうまく流れにのせることである。

参考～ひとつには、無用な力を抜くこと

12月5日、6日、9日、11日、20日 2006年、1月25日 2007年

●教室～一体

気功治療のオーバーワークはいいかどうかは別として、命がかかっているのなら、相当なところまでやる場合はやる覚悟はある。

教室はどうか。12月は4回ある。正直なところ、しんどい回数である。

そう思ったときに、こころに湧き上がったイメージは、<これからは多くの人がこころを一にして、他者のために尽くす、そういううねりがやってくるように、力をそそぐことである>…、わたしが一貫して主張していることは、「まずは、意識のある人生を送る」ということであり、教室もそれを主眼において開いてきたが、もしかすると、何か大きなものが抜け落ちていたかもしれない。

(12月5日掲示板)

■一体～意識のある人生

全てのものとの一体感

子どもの頃の思い～全てが生きている

●わたし～存在

この世の時空・映画・小説…、われわれはいろいろな世界に存在可能な存在である。

病気になるような世界にもいられるし、

ヒーリングができるという世界にもいられるし、

怒るという世界にもいられるし、

ほほえんで、ゆるすという世界にもいられる。

イライラした世界にもいられるし、

静寂な瞑想空間にいることもできる。

映画・小説の世界にいることもできるし、
羽生と佐藤が織りなす将棋の世界にもいることができる。
そして、無意識の世界にもいることができるし、
意識のある世界にいることもできる。

文字通り、いることができる。
わたしとはそういう存在である。
そして、どのような世界にいるかはわたしが選ぶことができる。
わたしとはそういう存在である。

だが、もしあなたが存在したい世界があるなら、
映画を見るときに映画館に行くように、
あなたが望む世界、そこに行く必要がある。
それは、映画館に行くほど簡単ではないにせよ。

(12月6日 2006年掲示板)

■時空

風邪をひきそうな環境にいるときには、
絶対に風邪をひかない
と決めることである。
これは暗示とは違う。＜風邪をひかない時空に自分を置く＞ことである。
このことは＜できる＞。
＜わたしがどこにいるか＞
このことを決めることは＜できる＞。

(12月10日 2006年掲示板)

●時空・わたし

エントロピー増大の毎日、一日のことが一日で終わらない。
外も内もやりかけのことがたまっていく。
一日で完結する仕事をする事。
今のこの時に完結する仕事をする事。
次の時間、次の日に何事をも持ち越さないこと。
そうするためには、手放さざるをえないことはいろいろ出てくる。

(12月11日 2006年掲示板)

毎日、毎日やり残しのことがたまっていく。

何かを削らなくては、一日が完結しない。

食べるための仕事が削れるのが最高であるのだが、そうもいかない（という自我がいる）。
あとは、やらなければならないことと思っているものが実はやらなくてもよいことであると視点を変えるしかない。

それは何であろうか??

（12月20日2006年掲示板）

あるいは、こんなことも考えている。

食事の量を減らして、睡眠時間を減らす。一石二鳥。

こんなことも考えている。

すべてが終わったときが睡眠時である、とする。

日野原先生のように。

あるいは、また、こんなことも考えている。

人生を義務で埋めない。

権利で埋める。

権利とはわたしのしたいことができるという権利である。

（1月31日2007年掲示板）

12月7日、12日2006年、4月13日2011年

●意識のある人生～自他

私の道を知り、他者の道を知る。

私の道を肯定し、他者の道を肯定する。

私の道の歩みを手助けし、他者の道の歩みを手助けする。

このことを他者との関係で、常に意識していること。

（加筆して掲示板記入予定）

相反するときには、

他者を肯定するのが、イエスの道、神の道である。

私は。。。

今は、ただ離れていくということしか思い浮かばない。

どうするのがいいのだろうか。

■シュタイナーの自他

シュタイナー著「いかにして超感覚的世界の認識を獲得するか」104ページ

「徹底的に考えぬいたのではない事柄を口に出すことも、神秘修行の道につまずきの石を置くことになる。この点で特に注意する必要があるのは、たとえば誰かが私に何かを語り、私がそれに返事をする場合である。そのような場合、私はその話題に対して自分が言おうとする事柄よりもむしろ相手の意見や感情、さらにはその偏見にさえもより以上の敬意を払わねばならない。こう言うことによって、神秘学徒が細心の注意を払って努力すべき繊細な配慮が暗示されている。神秘学徒は他人の意見に対して自分の別の意見を出して見せるとき、それが当の相手にとってどんな意味があるか、見通すことができなければならない。とはいえ自分の意見を差し控えろと言うのではない。決してそんなことを言うつもりはない。けれども人は可能な限り正確に他人の言うことを理解し、そこから得た事柄に則って自分の返事をまとめなければならない。このような場合、もし神秘学徒の心中に、その都度次のような想念が生じるなら、そしてこの想念が自分の性質の一部になっているなら、彼は正しい道の上にいるといえる。この想念は以下のような言葉で表現することができよう。「私が他人と異なる意見をもっているかどうかはどちらでもよい。大切なのは、私の方から何をつけ加えたら、その人が自分で正しい事柄を見出せるようになれるか、ということだ」。このような想念、思考を通して、神秘学徒の性格と行為とは、一切の神秘修行の主要手段の一つである**温和**さを獲得する。**厳格**であることは霊眼を目覚めさせるべき魂的構成体を彼の周囲から追い払う。温和であることは彼のために障害を取り除き、彼の器官を外へ向って開かせる。」

12月8日、10日2006年、4月13日、21日2011年

●呼吸法

頭で呼吸してみる。10回呼吸してみる。

生理学的には鼻で呼吸しているが、

頭で呼吸しているように、イメージする。

頭といっても、眉毛から上の部分の半球状の部分である。

ここで、呼吸をする。

呼吸といっても、気の出し入れをするのであるが、

ここで気の出し入れをしていると、鼻での呼吸よりリアルに呼吸しているように感じられる。

次に、身体で呼吸してみる。10回呼吸してみる。

要領は同じである。

最後に、宇宙全体で呼吸してみる。

これも要領は同じであり、イメージできるだけの宇宙全体を感じながら呼吸できるはずである。

(12月8日 2006年掲示板)

■意識のある人生～呼吸

ブリキのロボットのように反応するのではなく、ワテンポ待つようにする。

ワテンポの中身は

<深い呼吸をする>

ということである。

このような人生はブリキのロボットの人生の半分しか生きることができないかもしれない。

しかし、その半分はブリキのロボットとは全く異なる人生となるであろう。

(12月9日 2006年掲示板) (加筆済み記入可)

■スローモーション

タルコフスキーの宇宙船の人物の動きのように。

■なみこさん

なるほど！参考にさせていただきます。実は16日(土)にカウンセラーの実技試験があります。相手の言葉に対しての「共感」「反応」の仕方が問われますので「ワテンポ」は大切です(^_^)。

ただし、ロボットの自分を知るためには、「どのように反応する自分があるか」をまずはチェックしておくことは大切と思われます。あとは、そのロボットに別の生き方ができることを教えてあげることです。その際、深い呼吸はロボットに別の生き方があることを気づかせてくれます。

もっとも、実技試験で今現在の「ロボット」の反応の仕方を調べるのが目的であれば、ワテンポおかずに反応する方がよいかもしれませんが～(^o^;

(12月10日掲示板)

12月9日、12日、12月17日 2006年、1月25日、26日 2007年

●瞑想

瞑想の敵は、慢心とロボットである。

●意識のある人生～わたし

他人の目を天の眼に変える。

天の眼から見たら自分がどのように見えるか。

だが、自分の中に天の眼を見ることができなければ、かなわぬ夢である。

他人の目をわたしの眼に変える。

わたしの眼から見たら自分がどのように見えるか。

だが、自分の中にわたしの眼を見ることができなければ、かなわぬ夢である。

だから、わが内に天とわたしとを育てることである。

(1月26日 2007年掲示板)

■意識のある人生～わたし

人生をおとしめないこと。

他人の目からどのようにみえるか、

という低い視点から自分の人生を過ごしたりはしないこと。

天の眼からどのようにみえるか、

わたしの理想からどのようにみえるか、

という高い視点から今日の人生を送ること。

(12月25日掲示板)

●魂

動物に魂はあるのか。

犬のぬいぐるみに魂はあるのか。

感情移入とは何か。

A.I.の感情とは何か。

■モノ

モノに宿る神性～刀鍛冶の刀の錬成、白装束での仕事

シュタイナーのゲーテアヌムのすばらしさは、建物の形状からくる感動か、シュタイナーのエネルギーが伝わってくる感動か。

12月10日 2006年

●意識のある人生

明日は今日よりも落ちないこと。

12月11日、12日、15日 2006年

●ヒーリング～気・エネルギー～沈黙

気というか、エネルギーというか、力（フォース）というか、
沈黙が作り出すモノがある。

沈黙の中で動き出すモノがある。

沈黙の中で実感できるモノがある。

そのモノはある作用を及ぼす、このことは確かである。

わたしはこのモノを意図的には気功治療にしか用いたことはなかったが、他のことにもその力は働くのかもしれない。

まず、つくること、

そして、よく錬ること。

沈黙しながら、よく錬ること。

（12月25日掲示板）

実感のある気をつくり、その作用を知ること。

12月12日、18日 2006年、4月13日 2011年

●わたし～身体

グルジェフのムーブメントの研究

ムーブメントとは、体について知ること

この体とは、創造主が＜秘した体＞のことである。

●火の鳥

火の鳥の羽はどこにあるのだろうか？

創造力、フォースはどこにあるのだろうか。

この世界を支配する力はどこにあるのだろうか。

●わたし

しなければいけないことでなく、

したいことをその日の最初に行う。

Or

この世界で、わたしが最初にならなければいけないことをする。

この世界で、わたしが最初にしなければいけないこととは何か？

それは、わたしが何をするかを決めることである。

(加筆して掲示板記入予定)

●コミュニケーション

言葉に

インスピレーションをのせる

感情をのせる

テレパシーをのせる

神が言葉に足りないといったものをのせる。

■グルジェフ

196～意識

ある日、われわれに必要な家としてまたとない、家具付きの美しい家が、パリから40マイルのフォンテーヌブローにあるのを妻が見つけた、という知らせが伝わった。だが、持ち主の言う値段がべらぼうに高く、買えるだろうとはだれも思っていなかった。ところが、グルジェフはその物件——アヴォンのプリオーレと呼ばれる屋敷——をまだ見ぬうちに買うことに決めてしまった。彼は、私の妻に持ち主と条件を交渉する仕事（タスク）を与えた。妻はベルリン時代から彼の秘書兼補佐として訓練され、同時に内面の仕事（インナー・ワーク）や彼の知識体系についても教えを受けていた。たとえば、いかにして機敏な注意力を保ち続けるか、いかにして記憶力を発達させるか、いかなる状況においても自己を忘れずにいるにはいかにすべきかなど、精神集中の手法を授けられていた。そして今度はプリオーレの持ち主、マダム・ラボリーを相手にいかに行動したらよいか——**相手から入手したいと願うものを意識から離さず、たとえ話題が他のことに移っても、片時もこの願いを忘れずにいるにはいかにすべきかを教えられたのである。**グルジェフから受けるこうしたアドバイスは、彼と共に本気になって仕事（ワーク）してきた人たちにとっては、まさに黄金のアドバイスだった。

プリオーレを買うには百万フランを都合しなければならない。この不動産はドレフュス事件で活躍した名弁護士、ラボリーの未亡人のものだった。ラボリーへの報酬として、ドレフュス家はプリオーレを渡したのである。プリオーレは、17、8世紀の大邸宅を改築したもので、一時期には修道会の役員の僧院として使われた。修道院分院（プリオーレ）と呼ばれるのはこのためである。噂によると、別の一時期にはマダム・ド・メンテノンの邸宅だったこともあるという。

それはさておき、妻は、購入のオプション付きでプリオーレを一年間借りるという条件をマダム・ラボリーに同意させなければならなかった。そして、同意させてしまったのであ

る。

窓から見える大庭園には噴水と池があり、庭園の向こうにはライムの並木が続き、その先には池に囲まれた二つ目の噴水があります。回りは全部で 40 エーカーほどの美しい松林です。

ゲートわきには小さなしゃれたガーデン・ハウスがあり、そこに住む庭師は残しておくという条件さえなければ、申し分のない交渉内容でしたが、グルジェフは庭師が残ることを好まず、庭師を出すようにもう一度交渉してくれと言いました。こちらは家を借りるだけですし、古美術品や非常に値打ちのある家具を置いたまま、マダム・ラボリーが庭師を去らせるようなことはまずあるまい、と私には思えました。グルジェフはこう言いました。「交渉相手とたとえ雑談を交わしているときでも、庭師は去らなければならない、ということ

を念じていなさい。相手はそうしますよ。」彼のこの言葉を義務づけられた訓練（エクササイズ）だと考えて、言われてようにしました。あまりにも意外でしたが、マダム・ラボリーと三十分ほど雑談しておりますと、「ええ、いいですよ、庭師を出て行かせましょう。あなたのような方でしたら、家にあるものは何一つ壊すことはありませんまい」と言ったのです。私は庭師のことなど一言も言わなかったのですが！

（トーマス・ド・ハートマン オルガ・ド・ハートマン共著「グルジェフと共に」196 ページ めるくまー社）

■デミアン

「デミアンがかつて宗教の授業の際私に言ったことが、どんなに正しいかという経験を、私はもうたびたび味わっていた。それは、十分強く欲することはうまくいく、ということだった。授業中自分自身の考えに非常に強く没頭していれば、先生は自分にはあてないものと、私は安心していられた。実際ぼんやりしていたり、眠そうにしていたりすると、先生はいきなりそばにやって来た。私もそういう目にあったことがあった。それに反し、ほんとに考え、ほんとに没頭していれば、安全だった。じっと目を見すえることもためしてみ、ききめのあるのを発見した。デミアン時代にはうまくいかなかったが、いまはまなざしと考えとで非常に多くのことをなしとげうることを、いくども感じた。」

（ヘルマン・ヘッセ著高橋健二訳「デミアン」122 ページ 新潮文庫）

●力み・緊張・不安

力をぬくこと。

肉体だけでなく、ノートを書くときにも。

力を抜いて出てくるものとは何か???

力が入っているとは何か???

●自他～一体

他と異なることを知ろうとするのではなく、
他と一体であることを知ろうとする。
他と異なることを示そうとするのではなく、
他と一体であることを示そうとする。

では、そのような行いにはどのような行いがあるのだろうか。
(加筆して掲示板記入予定)

12月15日、18日 2006年、4月13日 2011年

●身体

体調がすっきりしないときには、呼吸に意識をのせ、
深く、小さな呼吸、やわらかく、静かな呼吸、霧のような気を感じられる呼吸をすると、
不思議と元気になる。

(12月18日掲示板)

夜勤明けの体調の悪さは呼吸法でよくする。

■太陽

太陽エネルギーを意識的に入れる。
一日に10分間の日光浴。(「人間の永遠の探求」)

12月16日、18日 2006年、4月13日、5月3日 2011年

●能力

わたしが聞く世界でなく、わたしが見る世界でなく、
聞こえる世界であり、見させられる世界である。
もしかしたら、能力とは常にそのようなものであるのかもしれない。
小乗でなく、大乘であるのかもしれない。

●身体使用

関節をゆるめること。

■経穴

鍼灸治療のツボが関節周辺に多いこと。

●わたし・生命

生命を他人に取られることはないが、生命を自分自身が知らず知らずに奪ってしまっている

ということはある。

自由に生きないこと、わたしを生きないこと、他者を生きないこと

●沈黙

いついかなる時でも沈黙していること。

そうすれば、こころという静かな湖面に天使の羽が落ちてきたときに、そのさざなみに天使のこころを知ることができるからである。

12月17日、18日、24日 2006年、4月13日 2011年

●意識のある人生～天性

天性には生かすべき天性と克服すべき天性とがあるが、生かすべきものを育てず、克服すべきものを育てて大きくしてしまうのが凡夫の生業である。

だから、日々、大きくすべきものと小さくすべきものとを観察することが肝要である。

観察すれば、育ててはいけないものが日常の心を占めていることに愕然とするかも知れない。

(12月24日掲示板) (加筆済み)

●わたし

精神世界に関心がある人は「あなたとは何であるか」と問われて、

「わたしは肉体ではなく、本当のわたしとは魂である、霊である、真我である、…」
とか答える。

だが、現実には、

<わたしがその肉体でないかのように生きる>

そのような人はとても少ない。

(12月18日掲示板) (草稿要転記)

■変えること

パンツの色が分かるようになること (そういう人がいるようである)、スプーンが曲がるようになること、空中に浮揚するようになること、これらのことよりも、これまでは肉体が主人であったのを肉体をわたしでないように扱えるようになること、このことの方が難しい、わたしにとっては価値がある。

(12月19日掲示板)

参考～ヨガナンダが「あるヨギの自叙伝」で示した奇跡と内的意味との関連。

●価値あるもの

昭和初期の写真を見ていると、広い空き地、広い空の中に人がいて、家がある。当時はその土地、その空に高い値段がつくとは思ってもよらなかったであろう。

同じように、今から50年後に何に価値があるかは思いもよらないかもしれない。……まあ、わたしはその価値を<選択すること>というのであるが、この価値は不当に陥れられているように思える。

●自慢

自慢の根源は他者との違いを強調することにある。その根源が愚かなることといえるのであろう。

逆～一体

12月18日2006年、4月22日、5月3日2011年

●沈黙の力

沈黙の力とは現場の力であり、それは将棋の場合でいうと、「棋譜と観戦記」からは何も得られないという話と結びつく（ネット引用）。

対局場の現場

気功教室の現場

Djedの現場

●わたし

わたしはわたしである。

このことは、

わたしは原因に向かうということである。

わたしはわたしという原因に向かうということである。

だから、

他者がどのようなであれ、わたしはわたしであることに変わりはない、

ということであり、本来他者と自分との行為の違いに方向をとられてしまうことはないはずである。…はずであるが、ともすると、わたしが原因であることを忘れてしまう。

（加筆して掲示板記入予定）

ただし、このこととは別に自他の問題がある。

鏡としての他者の問題もある。

また、行為への愛の問題もある。

●スピリチュアルな目標

一ヶ月前の千葉の気功教室では「変える」ということをテーマに考えてみたが、これがなかなか難しい。瞬く間に1ヶ月が過ぎようとしている。今週の教室まであと5日、泥縄のようなやり方であるが、やらないよりかはよいので…。

毎日、スピリチュアルなことの目標をかかげ、実行する。

毎瞬、スピリチュアルなことの目標をかかげ、実行する。

今日は忘年会である。だが、明日は急遽気功治療が入ってしまった。正気を保って、酔う演技をすること。

肉体に支配されないこと、肉体を支配すること。

飲酒に支配されないこと、飲酒を支配すること。

う〜む、こんなことを書いてしまって、大丈夫だろうか。

ところで、前回の千葉の教室のテーマは —————

末期癌を治すことより考え方を变えることの方が簡単であると思っている人が多いが、実は、まるで逆である。

しかも、後者が前者の原因となっていることが多々ある。

つまり、考え方は癌を作る。

そして、不思議なことに、

癌は考え方を变える。

健康であれば変えることができない考えが、癌になることによって変えることが容易になる。

こうなると、もし癌になることに<意志というもの>があるとしたら、この意志は悪意ではなく善意の意志と呼べるかもしれない。

この善意の意志に神を見るかもしれない。

だが、考えよりも体の方が大切だと思っている人は悪意の意志を見るであろう。

そう、この世には神も仏もないと思うかもしれない。

神はいるのか、いないのか。

ある人は言う。

わたしには神はいる。

ある人は言う。

わたしには神はいない。

両方真理である。つねにわたしが見るように世界は見えるからである。

神が実際にいるか、いないか、このことは、重い病になってもならなくても同じである。

だが、重い病は今までとは違うように世界を見せてくれる。

兄が癌になったとき、わたしの気を受けていたことがある。よくなる症状がはっきりと現われ、自覚症状もあった。しかし、途中から兄は気を受けることをやめてしまった。自然の成り行きにまかせるということだったのか…、詳しく聞いたわけではないので、亡くなった今では知る由もない。

もしかすると、こころが体を作るのかもしれない。

そうだとしたら、この体はいま誰のこころが作っているのでしょうか。

末期癌を治すことより考え方を变えることの方が簡単であると思っている人が多いが、実は、両方とも難しい。

考え方は変わることがある。

癌細胞も変わることもある。

だが、両者とも、変えることは難しい。

変わることは神の仕事であり、

変えることは人の仕事である。

そして、神は働くが、人は働かないからである。

変えることは難しい。

道端に落ちているゴミくずを拾い、ゴミ箱まで運んで捨ててみる。

そうすれば、多くの人にとってそのことは、今日一日の中でのもっとも人間的な行為といえるであろう。あるいは、この一年の中でのもっとも人間的な行為といえるであろう。

それは、よいことをしたからでなく、これまではできなかったことをしたからである。

このような小さなことであれ、＜変える＞ということはとても難しいことである。

難しいが、＜変える＞ということはできる。

ところで、この<変える>ことをしてみる気があるならば、
あなたは、明日の朝までに何を変えてみたいだろうか。
一年後の朝までに何を変えてみたいだろうか。
百年後の朝までに何を変えてみたいだろうか。
そして、その変えるように、今日を生きることである。

———まあ、前後つながらないところもあるが、大目に見ていただきたい。
わたしの回答は、

明日の朝まで～一分間の自己観察ができるようになること。
一年後の朝まで～一時間の自己観察ができるようになること。
百年後の朝まで～不安が一片たりともなくなること。

で、おまけに、他の人に回答につられれ、毎朝 6 時半起き、までついているが、これは頓挫で、ギブアップ。
さらに、

次回に変えることを実践したことの報告。
その具体的な内容。
実践するにあたって工夫したこと。

とある。えらいことを言ってしまったものである。
(12月19日掲示板) (草稿要転記)

■ 自他・創造

どのような卑劣な相手もわたしをつくることはできない。
どのような卑劣な相手もわたしに責任を負う必要はない。
(記入可)

● 質問～原因・行為への愛

不眠・無呼吸・不死を願うのであれば、それらに到達しようとするのではなく、<原因であるもの>に到達しようとするのである。

では、あなたの願いとその願いをかなえる原因であるものとは何であろうか。

(記入可)

では、S氏が望むスプーン曲げの原因とは何であろうか？

●自由と選択
(草稿要転記)

●ヒーリング

患者さんを見て行うのではなく、第一原因を見て手をかざすこと。

ヒーリングの視線、思いの方向。ベクトルの方向

「ヒマラヤ聖者の生活探求」第2巻58ページ

「二ヶ月というもの、わたしたちはこの老人を師匠にして、文字、符号、両者の位置、図表および意味を取り扱った一連の書板に全注意を傾倒した。三月中旬の或る朝、何時ものように廟の部屋に入っていくと、例の老人が寝ているのか、長椅子の上に横になっていた。一行の一人がツカツカと歩み寄って起こそうとして、老人の腕に手をやった途端に、びっくりして飛びずさり、

「息をしていない、死んでいるに違いない」

と声を立てた。それを見て一同が長椅子の周りに集まり、めいめいが死の思いに耽っていたので、部屋の中に入ってくる音に誰も気がつかなかった。

「お早う」

という声で物思いから呼び覚まされ、戸口の方を振り返ってみると、そこにエミール師が立っているので、皆んなびっくりして口も聞けずに棒立ちになってしまった。数千哩も離れたところにいるとばかり思っていただけに、こうして突然現われてきたのでびっくりしたのである。わたしたちが漸く落ち着きを取り戻した頃に、師は歩み寄ってきて一同と握手を交わした。

やや暫くしてから、師は老人が横たわっている長椅子に寄ってきて、老人の頭に片手を置いて語った。

「わたしたちとの協同の事業をまだ果たし終わらないままに地上から身まかった愛する同胞がここにいる。貴国の或る詩人が歌ったように『マントもて己を包み、楽しき夢を見んとて、横たわりぬ』。それをあなた方は『死んだ』と言い換える。そこであなた方が第一に考えたのは、まず葬儀屋を呼び、棺桶を取り寄せ、墓を造って、その崩れ去る肉体の部分を隠すということです。

親愛なる皆さんどうか暫く考えてみて頂きたい。イエスが『父なる神よ、吾れに聞き給えるを感謝す』と言われたのは、誰に対してであったか。彼は外なる我、即ち、自我に語りかけたのではない。内なる我、無限の一者、すべてを聴く者、すべてを知る者、すべてを

見る者、偉大にして強力なる、遍在者である神を認め讃えたのです。ラザロの墓に立っていた時のイエスの目は、一体どこを向いていたのでしょうか。墓穴をのぞき込み、常人がやるように、既に死んで朽ちゆくラザロを見たのでしょうか。常人が死体を見ている間、イエスは神の一人子、生ける者を考えていたのです。彼の想いは久遠にして不変、遍在の生命、一切に超越するかの生命に向けられていたのです。わたしたちにしても、想いを常住の实在者である神にのみ向けて他に逸らさぬようにすれば、神のみ業の成就を見ることができるのです。」

● 日常性にある神性

現実世界に神を見ること、あるいは、極楽とは西方浄土にあるのではなく、いまここにあるということ、このことと 20 代の光に包まれた体験、30 のときのありがたさの体験。

● グルジェフの愛

「ヒマラヤ聖者の生活探求」第 2 巻 64 ページ

12 月 19 日、31 日 2006 年、4 月 22 日、5 月 4 日 2011 年

● 大小

この世界で一番大きなものは、実はこの世界で一番小さなものであったりする。
この世界では往々にして逆に見ていることが多いので、よくよくこころすることである。

■ 見ることができないもの・聞くことができないもの

逆さメガネ

大船が見れない

高層ビルの写真

…聞く耳を持たない

■

視点の問題・知識の問題

(20110503)

■ 「神との対話」3 巻？

「理解できないことがあったら……」(要引用)

● 創造力

一体の力

●ブレスレット

12月20日2006年、1月26日2007年、4月22日、5月4日2011年

●ヒーリング

汚れた塀がある。

塀へのいたずら書きとしてのヒーリング

塀へのきれいなペンキ塗りとしてのヒーリング

塀へのアートを描くこととしてのヒーリング

あるいは、

汚れた塀を洗い流すヒーリング

あるいは、

もう元に戻せないとして、塀を壊してしまうヒーリング

●障害者の幸福（Y氏の話）

山下清

車中で見かける知的障害者の幸福とまわりの視線

●

台所で素手で食器を洗うお手伝いの少女。

5個入り100円のスポンジたわし1個があれば、どれほど楽に仕事ができるであろうか。

●義務

呼吸法、気功体操、瞑想を義務として行わなくなるようにできるようになること。

欲してできるようになること。

■

仕事に関しても義務であったものを行為への愛へと変じること。

■孔子

……好むものに如かず……

●創造力

ベクトルの方向を一定にする。

それを継続させる。

そのための意識。

そして、呼吸による、ある物質感覚。

12月21日、23日、24日、25日、26日、31日 2006年、1月26日 2007年

●意識のある人生～変容

わたしがわたしであることに気づいたとき、
わたしがわたしである意識をもてたとき、
それはすなわち、

わたしが別のわたしになれるときであるが、

そのようなときに、どのようなわたしになるかをあらかじめ決めておく。

そして、今日は、

相手を相手と一体であるように見る、

相手のすべての生き方を認める、

<そのように見るわたしである>ことをあらかじめ決めておく。

(12月24日掲示板)

■意識のある人生～全てを知ること

人生においてどのようなわたしであるかをあらかじめ決めておく。

今日は、

全てを知ること、

そのために、一体であるように相手を見る、

そのために、愛であるようにふるまう、

そのために、いつも気を送る。

(12月26日掲示板)

(遠隔・宝石・地域)

■意識のある人生～前と後

人生において、あらゆる瞬間に、わたしがどのようなわたしであるかを<あらかじめ決めておく>ことができる。

これは、意識をもちつづけていればできる。

人生において、あらゆる瞬間に、わたしがどのようなわたしであるかを<変えることができる>。

たまたまそのときに意識をもつことができればできる。

どちらにしる、意識がなければできない。

(1月26日 2007年掲示板)

●意識のある人生

義務に生きない、自由に生きる。

義務に感じられることがあれば、視野を広げて、俯瞰して人生を見て、人生を操っていると感じるようにする。

そのようにすれば、義務のような人生も自由なる人生として生きることができる。

●心身

二日酔いで復活は、生まれ変わりでの復活のようである。

●成長

幼少時、小学生時代、中学、高校生時代、大学生時代、二十代、三十代、四十代、五十代ですべて人生は異なってみえる。

12月22日、23日、25日 2006年、4月22日、5月4日 2011年

●身体

アタマで知った以上は、カラダもそのように動かす。

わたしがアタマで知っていることは何であろうか、

わたしがカラダを動かし、知ったことは何であろうか。

もしかしたら、アタマでっかちになってはいないだろうか。

(掲示板記入予定)

カラダの生命でなく、内なる生命があることを知っていること。

この内なる生命はアタマを通して知り、カラダを通して実る。

●意識のある人生

瞬間、瞬間、別の生き方ができないかどうか振り返ってみる。

その別の生き方の方がよくはないか振り返ってみる。

(掲示板記入予定)

■意識のある人生

瞬間、瞬間、別の生き方をする。

別の生き方をあらかじめ生きている。

すなわち、あらかじめ自分の新しい生き方を決めておく。

瞬間、瞬間、同じ生き方をする。

<これがわたしである>と宣言できる同じ生き方をあらかじめ生きている。

すなわち、あらかじめ自分の新しい生き方を決めておく。

(記入可)

■意識のある人生～選択

●エネルギー～精魂

すべてを二分の一でするようにしてみる。

これはエネルギーの節約になる。

そして、休むときには、二倍休む。

(記入可)

●エネルギー～自由・行為への愛

条件により全力を尽くすのではなく、わたしにより全力を尽くす。

(記入可)

●スピリチュアルな目標

不安を変える。

昨日の倍、きれいな気を入れる。

12月23日2006年

●超能力

スプーンを曲げられるか否かでなく、空中浮揚ができるか否かでなく、曲げられるとしたら、浮揚できるとしたら、その能力をどのように使うか、ということだけがわたしにとっての問題である。

手が動く、足が動く、その手足をどのように使うかということだけがわたしの関心事である。

(12月23日掲示板)

12月24日2006年

●意識のある人生～エネルギー

無意識のロボットが1時間かけてやっていた仕事を30分で行なう。

隙間の 10 分間を仕事にあてる。

●ヒーリング

「ヒマラヤ聖者」に出てくる死人の蘇生において、多くのマスターが集まって行なったこと、そして、イエスが出てきて行なったこと、この意味とは。

●神の姿

イエスが祈り、神が叶えたという奇跡の実現
そのような擬人化した人間関係なのだろうか、
神とは<ある技術>なのではないだろうか

●自省

過去を振り返って今に生かすこと。
その生かし方は、過去のノートを振り返ってみれば分かることである。

(参考)「神との友情」下巻 176 ページ

「狂気とは、何度も何度も同じ行動を繰り返しながら、べつの結果を期待することだよ。」

12月25日、26日、27日、28日、29日 2006年、1月26日 2007年、5月4日、11日、
12日 2011年

●意識のある人生～わたし

自分にとって充実した時間を送っていても、意識がなければ、<わたし>にとっては無意味である。

自分にとってつまらない時間を送っていても、意識があれば、<わたし>にとっては有意義である。

<わたし>とは自分が何をしているのかを知っていて、自分が何を創り出しているのかを知っている存在である。その存在が人生の舞台に出ることを望んでいる。

何十年、何百年、何千年、待ったのであろうか。

<わたし>も、そして、自分も。

(12月26日掲示板)

●意識のある人生～呼吸・身体・気

気功体操で行なっていることを、日常生活の中でも行なうようにする。

すなわち、

身体のしなやかな動き、

呼吸のおだやかな出入り、

そして、それに伴う気の流れ、
これらの関連を意識し、感じる。
動きを感じ、
呼吸を感じ、
気を感じる。

(1月26日掲示板)

●意識のある人生～創造

何を考えているのか知らないでいる、
何を話しているのか知らないでいる、
何をしているのか知らないでいる、
これで生きていけるというのだから、人間とはよくできている。
だがこれはまだ、人間が<わたし>でない状態である。主語がない状態である。

もし、
あらゆる瞬間に、
自分の考え、
自分の言葉、
自分の行動、
これらを<知っていること>ができるとしたら、

もし、
あらゆる瞬間に、
自分の考え、
自分の言葉、
自分の行動、
これらを<コントロールすること>ができるとしたら、
人生は<知っていることだけが生じ>、<コントロールしていることだけが生じる>の
はないだろうか。そして、このことこそが<わたし>が生きることではないだろうか。

(12月31日掲示板)

●ヒーリング

3円の気を送ること。
3万円の気を送ること。
3億円の気を送ること。

気はわたしのものではない。

送ることはわたしのものである。

以上、よくよく鑑みること。

(5月6日 2011年掲示板)

●意識のある人生

もし、この人生を<わたしが生きよう>と思うのならば、何も動かすことのできない映画の中の登場人物のような人間でなく、決められた人間でなく、

<わたしが生きよう>

と思うのならば、

まずは、<わたし>があって全ての始まりとなる。

ところが、この<わたし>は意識があって初めてこの世界に出てくるのである。わたしを登場人物であることを意識できることがあって初めて<わたし>が出てくるのである。だから、まず意識があることが第一条件である。

その登場人物がいることを知ったなら、その人物がこれまでとは異なる生き方が<できる>ということを実感することが第二条件である。

なお、この第二条件は、わたしがこれまでで最も好ましいと思うわたしに<あらかじめ>高めておくということを実感し続けることによっても可能である。

このふたつの条件のもで、わたしが初めて人生の登場人物となる。それまでは、どのような崇高な行いをして、ただのブリキのロボットでしかない。

(5月12日 2011年掲示板)

■ロビタ・大乘仏教

■

意識があってもわたしが出てくるとは限らない。

わたしは、多くの過去、多くの他人、多くの不安に覆われているからである。

■錬金術

器としての意識～「マグダラの書」

以上で足りないものは、エネルギーの問題である。(なお、この場合、錬金術の対象は人生であり、世界である)

●同族

あなたはわたしの友達である。

あなたはわたしと同じ人種である。

あなたはわたしの家族である。

そして、あなたをわたしは愛する。

このような同じ仲間の見方がある。

イエスは

「あなたもわたしと同じである」

と言ったが、これは誰に対して言ったのであろうか。

(掲示板記入予定)

■責任

浮世の義理をすべて放棄したわけではないが、定年を迎え、自由時間ができ、自戒すべきことがある。以下は、スリ・ユクテスワが弟子のパラマンハサ・ヨガナンダに語った言葉である。

先生はゆっくりと言われた。

「浮世の義務を放棄する者は、何か“より大きな家族”のための責任を負うことによってのみ是認されるということを忘れてはいけない。」

(パラマンハサ・ヨガナンダ著「あるヨギの自叙伝」253 ページ 森北出版)

生きている責任が誰にでもあり、最初は自分自身だけのためにその責務を負うが、いつかその自分自身は次第に大きくなる。

(掲示板記入可)

●瞑想

瞑想の意義のひとつは、わたしがわたしであることができることである。

● 知ることの分類

「知っていることを知っている人」はあなたについてこさせないようにするので、会ってもそのような人であると気づかないかもしれない。

● 教室

毎回、「わたしがなりたいもの」への達成、記録。

● 能力

人間の能力とはどこまでが可能であるのか。どこまでがわたしがしていると言えるのか。
神の手を使わずにどこまでが可能であるのか。
あるいは、この神の手を使わずに、という質問の立て方が誤っているのか。

知らないことを知っている人

人は神と一体の存在である。
問題は、そのことの自覚と、
神を使うのか使わないのか、
使うとしたらどのように使うのか、
という問題だけである。
神を使わないでは生きていけない。
わたしを使わなくては生きていけない。
それはわたしではない。

● 瞑想

瞑想は自分自身を固めるためにやっているのではなく、解きほぐすためにやっていることである。

「呼吸、身体の微細な動き、気の流れ」を瞑想中に意識する。

(1月26日 2007年掲示板)

■ 瞑想

わたしの今の状態では、
息を吐いて少し止めた状態を目指すべき状態とする。

(掲示板記入予定)

●条件

どのようなことにも条件はつけない。

条件はわたしだけである。

どのようなわたしになるかという、

発心の有無、ただそれだけである。

(掲示板記入可)

●選択

わたしがしたいことのうち、

第一に、「できること」がある、

第二に、「できないこと」がある、

第三に、「やればできるし、やらなければできないこと」がある、

できることはできるのだからこの人生では精力を注ぐことではない。

できないことはできないのだから、同じく、この人生でエネルギーを費やすことではない。

この人生では、第三のことが最も有意義なことである。

空中浮揚も、スプーン曲げも、雲消しも、光との遭遇もあった。だが、それは第二と第三の中間のことなので、関わらない。

だが、わたしが「席に座りたがっている人」を優先させて座らせてあげる、このことはやればできるし、やらなければできない。わたしにとっては、このようなことの方が重要な選択で、わたしの人生を費やす価値があることと思っている。

(12月28日示板) (草稿要転記)

■今生

第一の「いつでもできること」というのは、前の人生で成し遂げたことである。

第二の「いつでもできないこと」というのは、次の人生か次の次の人生で成し遂げることである。

第三の「やればできるし、やらなければできないこと」だけが、今のこの人生で成し遂げるべきことである。

(12月29日2006年掲示板)

●祭り

小さい頃を思い出すと、お祭りが好きであった。クリスマスもいいし、お正月もよい。それらによって非日常的な空間を味わえることができたからだ。

では、大人のお祭りとはどのようなことであろうか。

●意識のある人生

わたしのお金と、

わたしの時間と、

わたしの人生——すなわち、わたしの選択——と、

これらを何に使っているかをいつもいつも考えてみること。

お金を快樂の奴隷にしないこと、時間を習慣の奴隷にしないこと、人生を不安の奴隷にしないこと。

(12月27日2006年掲示板)(草稿要転記)

●草稿

UFOの章では、われわれ地球人がとらわれている偏見についていくつかあげてみる。

12月26日、27日、30日、31日2006年、1月7日2007年、5月11日、12日2011年

●自他～自覚

この社会の法律では、

うそをついていることを知っていてうそをつく人の方が罪が重い。

だが、人生では、

うそをついていることを知らないでうそをつく人の方がはるかにやっかいである。

(1月7日2007年掲示板)

■自他～わたし

うそをついていることを知らないでうそをつく、このような他人に関わることは多くの人にとって手に余ることである。だから、これを自分の仕事とはしないことである。これに精力を注がないことである。

するとしたら、うそをついている自分に関わることの方が簡単であるし、有益である。うそをついている自分を観察し、うそをつかなくなることを自分の仕事とすべきである。これに精力を注ぐことである。

なお、もちろんのことであるが、うそをついていることを知らない自分に関わることはできない。

(加筆して掲示板記入予定)

うそをついていることを知っていてうそをつく他人とのかかわり方。

すべてを与え、そのような人と見ないことである。

●一体

神との対話でいう<一体>とは、スペースのいう「相手の立場に立つ」ということではな

いだろうか。相手の眼で見る、そのように見たときに見えるもの、そのように見たときの相手の立場に立つこと。

これはまた別言すれば、＜わたしは相手（の立場）に立つことができる＞ということでもある。＜相手に立つ＞、＜相手になる＞、これこそ本当の相手の知識といえるものである。

（以前の（他人を知る）知識の4つの分類に加える）

■わたし

相手の立場に立つことにより、他者の自己観察というものができるようになる。

これができるようになったら、今度は自分自身に対して自己観察をするのがよい。

ただし、自分自身の立場に立つことは当たり前で、簡単なように思われるかもしれないが、実は大変難しいことなのである。

●スプーン曲げ

スプーン曲げの訓練はわたしの意図せざることではあるが、参加者が望むことであれば、できるだけその実現に力を注ぎ、自分自身にとってもスプーン曲げを生かすようにある。それは、

「エネルギーの集中」

ということに生かす。

これは瞑想の上達へ生かすことができる、否、人生のあらゆる場面で生かすことができる。

以前できたスプーン曲げを別の方法で行なう。

無意識に行なうのではなく、意識的に行なう。

●意識のある人生～ヒーリング

目の前に缶コーヒーがある。

わたしはこの缶を持って、

「右から左に動かすことができる」

と言う。わたしはできると言って、実際にできる。

病気の人がいる。わたしは手をかざして

「この病気を治すことができる」

と言うことができない。わたしはできるとは言えない。治ることもあるし、治らないこともある、と言うしかできない。気功で病気を治すことは、わたしの意識、わたしの意志の力の外にあるからである。

わたしにとっては、意識してできることだけが価値がある。だから、病気治療に関しては

治ることではなく、わたしが手をかざしに行って、手をかざす、このことだけができることである。

しかし、もちろん、目標は、
「あなたの病気は治ります」
と言って、治すことである。
(加筆して掲示板記入予定)

三種の選択のうちのどれか

<わたしのもの> (わたしができる選択) には段階がある。

三種の選択～できることだけを行なう～操体法

●所有

目の前にある買ったばかりのシャープペンシル、
これはわたしのものであるとってよい。
同様に、目の前にある宇宙すべて、
これもまた、わたしのものであるとってよい。
もしそう思うのなら。

だが、相手がこれはわたしのものであるというときにもまた、
そのことを認めてあげなければならない。
(加筆して掲示板記入予定)

●教室の目的

意識を持てるようにすること。
最も大きなものと通じること。

●選択

今日何を食べたかは来世には残らない。
今までできなかったことを今日初めてした、このことは来世に残る。

■反芻

繰り返しであっても、毎回毎回、前回とは異なるようにして繰り返すこと。
このような反復がいつか質的変換へと至る。

初めてすることと反芻。神聖なる矛盾によって錬金がなされる。

■印象

口から入れた食べ物、これは胃に入るのだろうか。

もちろん、そうである。

だが、それだけではない。

鼻から入れた空気、これは肺に入るのだろうか。

もちろん、そうである。

だが、それだけではない。

目から入った映像、耳から入った音声、皮膚で触れた触感からある印象を得るように、食べ物からも空気からもある印象を得る。

(記入可)

目から入れた映像、これはどこに入るのだろうか。

網膜から入って、脳で処理される。

■機会・錬金術

ひもじくて、今日盗んで食べたなら、それは来世にまで残る。

自業自得の罰として残るのでなく、

そのように飢えている他人が同じようなことをした時に、ゆるすことができることとして、来世、未来永劫残るものである。

(記入可)

●意識のある人生～ノートと夢日記

意識のある生活を始めようとするのは、夢日記をつけようとするのと似ている。夢日記をつけ始めれば＜大きな夢＞を見ることができるようになる。意識のある生活を始めようとするなら、＜わたしがもっとも大きなものと考えているもの＞と通じることができるようになる。

(12月31日 2006年掲示板)

●身体

身体で目指すべきこと、

中学生のときのマラソンの練習

小学生のときの空中浮揚

●ボイスレコーダー～神聖なる矛盾

聴かれているように話さない。

聴かれていないように話さない。

その話はすべての人に話すことができる話だからである。

また、

その話はわたしだけのために話す話だからである。

永久に録音されているように話さない。

今しか記録が残らないように話さない。

今話したことは実はいつでも聴くことができるからである。

また、

今話すことは明日話すことはできない。その話の価値は今日だけのものだからである。

(12月30日掲示板)

12月27日2006年、5月12日2011年

●神秘修行者の第一条件

自分自身にたがをはめずにすべてを受け入れるようにすること。

ひとりひとりの道があるが、その道を最短で行くために他者の意見に敬意をはらうということが最善の方法である。

●成長

かさぶたが自然にはがれていくように、これまでの自分の悪しき考え、言葉、習慣が自然にとれていくことがベストである。

●

ヒーラーK氏の気の作り方は、もしかしたら患者さんの必然的な治癒の後押しをしていただけなのかもしれない。

●エネルギーと身体

エネルギーを注ぐと、体の動かし方が分かってくるかもしれない。

エネルギーの注ぎ方による。

呼吸の仕方による。

12月28日、31日2006年、1月3日、1月16日2007年

●内と外

内側の道だけを歩み、内側の景色だけを見る。

そのあとで、外の道も歩み、外の景色も見ると。

●過食

知識の過食

食物の過食

空気の過食（～グルジェフ流にいうと、しかし、空気の過食というのがあるのだろうか～
誤った呼吸法か）

●意識のある人生

この10分間を振り返ってみる。

不安に基づいた考え、言葉、行為がなかったかどうかを自省する。

なければ、それはよい時間であったということである。

あれば、変える。

変えられなければ、深く、ゆるやかな深呼吸してみる。

宇宙全体、世界全体をゆったりと呼吸してみる。

（1月16日2007年掲示板）（加筆済み要再掲）

●意識のある人生～エネルギー

エネルギーの蓄積～無駄に消費しない

無駄な消費とは、ひとつには不安がある。不安により心身とも固まらせてしまうことにより、エネルギーのかすがたまる。エネルギーの不完全燃焼である。

行為により創造されるエネルギーがある。

そのように行為すること。

■エネルギー

行為により創り出されるエネルギーがある。

睡眠不足であるが、早起きして仕事に行く。車中で瞑想し、インスピレーションを紙片に

書き留める。

寝ていた方がある段階のエネルギーは蓄積される。

だが、瞑想して得たインスピレーションを紙片に書き留める方が、ある段階のエネルギーは創り出され、蓄積される。

(1月3日 2007年掲示板)

12月29日 2006年、5月12日 2011年

●内と外～自他

どのような人も内側の道は同じであるが、外の道はひとりひとり皆異なる。

その異なる外の道に同じ内側の道を見るようにすることである。

●瞑想のセンサー

瞑想のセンサーは感じることである。

これは遠隔の気功治療でも直接治療でも同じである。

このセンサーを基準にすること。

瞑想でも、気功でも、まずは、感じるようにすること。

(記入可)

12月30日、31日 2006年、1月2日、4日、5日、6日、7日、15日 2007年、5月12日
2011年

●意識のある人生～機会・視点

いかなる出来事があっても、

この出来事が「わたしにとって愉快か不愉快か」ではなく、

この出来事が「わたしが誰であるかを表現する」機会であると知ること。

そのような機会の最善の機会であると知ること。

(12月30日掲示板) (加筆済み記入可)

あらゆる機会が、わたしが誰であるかを表現する機会である。

●機会～金銭

お金がなければできないことがある。

だが、それはお金がなくともできることよりもずっと少ないことかもしれない。

(1月2日 2007年掲示板)

なぜなら、あることによって人はしばられる側面があるからである。

この逆の〈ない側面に向かうこと〉、このことが瞑想であり、遊行である。

■機会

お金がなければできないことがある。だが、お金がないからこそできないことがある。

(1月3日 2007年掲示板)

■必要性～金銭

もし、〈お金がなくてできないこと〉というのがあるのなら、それは〈わたしの仕事〉ではない。

わたしはその〈お金がなくてできないこと〉のために働こうとしなくてよい。

わたしはその〈わたしの仕事でないこと〉にこころを配らなくてよい。

(1月4日 2007年掲示板)

■一万円と一億円～所有

百万円の借金を背負って自殺を考えている人がいる。わたしは一億円の財産を持っている。

わたしがその人に百万円を与えたら、その人を救うことができる。

だが、わたしを救うことはできない。

そして、その人をも救うことができないこともある。

百万円の借金を背負って自殺を考えている人がいる。わたしは一万円しか持っていない。

わたしがその人に一万円を与えても、その人を救うことはできない。

だが、わたしを救うことはできる。

そして、そのことはその人をも救うことになるかもしれない。

(1月5日 2006年掲示板)

■所有

貧乏であって初めて分かちあえることがある。

裕福であっては分かちあえないことがある。

一千万円の借金を背負って自殺しようとしている人がいたときに、一億円あれば、自殺を救うことができる。自殺を救うことができるが、そのことによって相手と与えた自分自身を救うことができるかどうかはわからない。

一千万円の借金を背負って自殺しようとしている人がいたときに、百円しか持っていない。

しかし、借金の返済についてともに考えるのであれば、相手も自分自身も救うことができるかもしれない。

人生にはないことによって達成できることがある。

(加筆して掲示板記入予定)。

■ 寄付 (所有・錬金術)

いらない 1 円玉を寄付しても、いらないものを渡すだけである。いらないものがどこにあるかと、わたしは変わらない。

必要な 1 円玉を寄付したときに、初めて人は変わる。

わたしがこれまで必要だと思っていた 1 円玉がこれからどこにあるのか、ということで、

<わたしは本当はどこにいるのか>、

<わたしはどこにいることができるのか>、

このことを知ることができる。

(1 月 6 日 2006 年掲示板) (加筆済み記入可) (草稿要転記)

● 死刑囚の親～意識のある人生

親は子どもの立場に立つことができる。

そのようにして、今、目の前にいる人の立場に立つことである。

今、目の前にいる人の親のようにである。

親であれば、自分自身をなくして子どもの立場に立つかもしれない。

だが、あなたは親ではないので、自分自身をなくさずに、子どもの立場、相手の立場に立つことができる。

あなたはあなたであり、同時に他者でもある。

これは、多くの人がしたことのない体験である。

(掲示板記入予定)

● 自他 (Y 氏を見て)

すべての人をババジのように思え。

わたし自身を引き出してくれる他者を敬え。

どのようなわたしであるか、それはわたしの問題である。

どのようなわたしを見せてくれるか、それはわたしの問題である。

イエスは姦淫した女を芸能レポーターのようにしては見なかった、週刊誌の記事のようにしては見なかった、裁判官の裁きのようにしては見なかった。

イエスが見るようにして見ることができずとも、

わたしが見る他者はわたしである

このように気づくことはできる。

このことを肝に銘ずること。

(加筆して掲示板記入予定)

●意識のある人生～わたし

これはわたしがしたと言うが、これは習慣を教えこまれたロボットがしたのかもしれない。習慣から離れたときに、このロボットが習慣によって行動し、言葉にし、考えていた、ということが分かる。

(1月2日 2007年掲示板)

これはわたしの考えである、これはわたしの言葉である、これはわたしのしたことである、と言うが、これはわたしのものではないかもしれない。

■為すこと

習慣から離れる時とは、「それはできない」と言わずに、「それはできる」と言い、行うときである。

それがどのような些細なことであれ、その時に人は習慣から離れる。

過去から離れる。

●意識のある人生～エネルギー・身体

あらゆることに全力を尽くす。

力を抜いて全力を尽くす。

波に乗ること。

2倍の深度の仕事

2倍の深度の休憩

●意識のある人生

あらかじめ決めておく。

無限小に細かくあらゆる瞬間の前に<わたし>を決めておくことである。

無限小に細かくすれば、亀であるわたしはアキレスに抜かれずにすむ。

対人～相手の立場に立つこと

対自己～不安にならないこと

●自他～正義

自分の正義には正義感を持てても、他人の正義に正義感を持てる人は稀である。

■自他～裁き

自分の正義に正義感を持てる人は、他人の正義に対して正義感を持つことはできない。

(12月31日掲示板)

●時事～所有

情報は管理しないと国家間の信頼が成り立たなくなる、というのではなく、漏れると困るようなあなたであっては、信頼関係がなくなる、ということだ。

これはあなたの問題でも、情報管理の問題でもなく、相手の問題である。

「漏れると困るようなあなた」は変わらないというのが、多くの人の立場であるが、わたしはそうは思わない。